

多
賀
屋
敷
遺
跡
IV

多賀屋敷遺跡IV

—市道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2
0
1
1
新
潟
県
長
岡
市
教
育
委
員
会

2011

新潟県長岡市教育委員会

長岡市埋蔵文化財調査報告書

多賀屋敷遺跡Ⅳ

—市道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2011

新潟県長岡市教育委員会

例 言

1. 本書は新潟県長岡市神谷字多賀屋敷 2136 番地 2 で実施した、多賀屋敷遺跡の第 4 次発掘調査報告書である。
2. 調査の原因は長岡市による市道越路 200 号線改良工事であり、調査主体は長岡市教育委員会である。
3. 遺跡確認試掘調査に要した経費は文化財保護部局である長岡市教育委員会が負担し、国庫補助金の交付を受けた。本発掘調査に要した経費は原因者である長岡市が負担した。
4. 遺物の註記は、以下のとおりである。

遺構覆土出土（個別）	遺跡略号（TG）＋調査年度（09）＋遺構番号＋個別番号
遺構覆土出土（一括）	遺跡略号（TG）＋調査年度（09）＋遺構番号
包含層出土（個別）	遺跡略号（TG）＋調査年度（09）＋個別番号
包含層出土（一括）	遺跡略号（TG）＋調査年度（09）＋大グリット名
5. 遺構番号は、現場段階では、土坑（SK）については調査区全体の通し番号、ピット（p）については大グリット毎の通し番号を付けて管理した。遺物の註記もこれに拠っている。そして、報告に際しては、掲載遺構について新たな通し番号を付けて、これを整理し、例えば「遺構 400」というように表記した。

また、残念ながら平面では認識できなかったが、断面観察によって新たに確認した遺構については、アルファベット（b・c…）を付記してこれを分離した。（例えば、遺構 12 と遺構 12b など）
6. 焼土が確認された遺構については、必要に応じてその範囲を網掛けなどで示した。凡例はその都度示した。
7. 遺物の個別番号は、調査区全体の通し番号とした。
8. 土器における朱彩、石器における研磨痕などについては、必要に応じてその範囲を網掛けなどで示した。凡例はその都度示した。
9. 遺構平面図は航空写真測量で作成し、一部、簡易やり方実測（1：10）でこれを補った。遺構断面図は簡易遣り方実測（1：10）で作成した。
10. 本書は本文と巻末図版とで構成される。
11. 執筆分担は以下のとおりである。

第 I 章・第 III 章・第 V 章 1	新田康則（長岡市教育委員会）
第 II 章・第 IV 章・第 V 章 2	石坂圭介（株式会社シン技術コンサル）

ただし、第 IV 章中の石器に関する記載は新田が行った。
12. 本書の編集は石坂が担当し、新田が総括した。
13. 本書の内容は先行する全ての報告・記載に優先する。
14. 調査の体制は以下のとおりである。

調 査 主 体	長岡市教育委員会	教育長 加藤孝博
事 務 局	長岡市教育委員会科学博物館	（館長 山屋茂人）
調 査 担 当	長岡市教育委員会科学博物館	主 任 新田康則
調 査 員	石坂圭介（株式会社シン技術コンサル）	
土木作業管理者	森山純一（株式会社シン技術コンサル）	
調 査 補 助 員	茨木亜樹子・山賀 緑・山崎聖子	

発掘作業員 萩田正平・金子正男・小杉信二・小林 茂・駒形清治郎・近藤 實・佐藤弘二・
佐藤尚雄・関谷 宏・鈴木・アヤ子・田中啓司・田中 保・田中康夫・富田政勝・
永井邦男・中村熊雄・深井恒博・深井政由・穂刈新一・平澤新一・平澤友一郎・
丸山光男

整理作業員 茨木亜樹子・白井綾子・永井智子

15. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々より多大なるご教示・ご協力を賜った。記して厚く御礼申し上げる。(五十音順・敬称略)

阿部昭典・阿部常樹・安藤正美・小野塚直子・倉石広太・佐藤雅一・谷畑美穂・田村浩司・
寺崎裕助・富樫雅彦・長澤展生・平澤新一・深井亮一・渡辺秀男
株式会社信濃技術・永井工業株式会社・社団法人長岡シルバー人材センター・
新潟県教育庁文化行政課・見附市教育委員会

目 次

第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境	2
1 遺跡の位置と地理的環境	2
2 遺跡の範囲とこれまでの調査	2
3 周辺の遺跡	4
第Ⅲ章 調査の方法と経過	6
1 発掘調査の方法と経過	6
2 整理作業の経過	7
第Ⅳ章 調査の成果	8
1 成果の概要	8
2 基本土層	8
3 時期区分	9
4 検出遺構と遺構出土遺物	9
(1) 掘立柱建物跡	9
(2) 土坑	10
(3) フラスコ状土坑	11
(4) 埋設土器	15
(5) その他のピット	16
5 包含層出土遺物	30
(1) 縄文時代の遺物	30
A. 土器	30
B. 土製品	33
C. 石器	33
(2) 中世の遺物	33
第Ⅴ章 まとめ	34
1 遺構の分布傾向	34
2 多賀屋敷式土器の内容について	34
(1) はじめに	34
(2) 中越地方における多賀屋敷式の主要類型	36
(3) 中越地方における多賀屋敷式期の土器様相	39
註	41
参考文献	42

挿図・表目次

第1図	試掘調査トレンチ配置図	1	図版 27	遺構出土遺物実測図⑥
第2図	遺跡の位置	3	図版 28	遺構出土遺物実測図⑦
第3図	越路地域の東西地形断面と基盤の構造	3	図版 29	遺構出土遺物実測図⑧
第4図	第1次～4次の調査区位置図	4	図版 30	遺構出土遺物実測図⑨
第5図	周辺の遺跡（縄文時代中期・後期）	5	図版 31	遺構出土遺物実測図⑩
第6図	多賀屋敷式の主要類型とその系統	35	図版 32	遺構出土遺物実測図⑪
第7図	IV期からV期への系統変遷図	35	図版 33	遺構出土遺物実測図⑫
第8図	城之腰類型の一括資料	40	図版 34	遺構出土遺物実測図⑬
第1表	作業工程表	7	図版 35	遺構出土遺物実測図⑭
第2表	遺構観察表	45	図版 36	遺構出土遺物実測図⑮
第3表	遺物観察表（縄文土器・珠洲焼）	58		・包含層出土遺物実測図①
第4表	遺物観察表（土製品）	74	図版 37	包含層出土遺物実測図②
第5表	遺物観察表（石器）	74	図版 38	包含層出土遺物実測図③
			図版 39	包含層出土遺物実測図④

図版目次

図版 1	調査区全体図・土層柱状図
図版 2	調査区部分図①
図版 3	調査区部分図②
図版 4	個別遺構図①
図版 5	個別遺構図②
図版 6	個別遺構図③
図版 7	個別遺構図④
図版 8	個別遺構図⑤
図版 9	個別遺構部⑥
図版 10	個別遺構図⑦
図版 11	個別遺構図⑧
図版 12	個別遺構図⑨
図版 13	個別遺構図⑩
図版 14	個別遺構図⑪
図版 15	個別遺構図⑫
図版 16	個別遺構図⑬
図版 17	個別遺構図⑭
図版 18	個別遺構図⑮
図版 19	個別遺構図⑯
図版 20	個別遺構図⑰
図版 21	個別遺構図⑱
図版 22	遺構出土遺物実測図①
図版 23	遺構出土遺物実測図②
図版 24	遺構出土遺物実測図③
図版 25	遺構出土遺物実測図④
図版 26	遺構出土遺物実測図⑤

写真図版目次

写真図版 1	調査写真①
写真図版 2	調査写真②
写真図版 3	調査写真③
写真図版 4	調査写真④
写真図版 5	調査写真⑤
写真図版 6	調査写真⑥
写真図版 7	調査写真⑦
写真図版 8	調査写真⑧
写真図版 9	調査写真 9
写真図版 10	調査写真⑩
写真図版 11	遺構出土遺物写真①
写真図版 12	遺構出土遺物写真②
写真図版 13	遺構出土遺物写真③
写真図版 14	遺構出土遺物写真④
写真図版 15	遺構出土遺物写真⑤
写真図版 16	遺構出土遺物写真⑥
写真図版 17	遺構出土遺物写真⑦
写真図版 18	遺構出土遺物写真⑧
写真図版 19	遺構出土遺物写真⑨
写真図版 20	遺構出土遺物写真⑩
写真図版 21	遺構出土遺物写真⑪
写真図版 22	遺構出土遺物写真⑫
写真図版 23	遺構出土遺物写真⑬
	・包含層出土遺物写真①
写真図版 24	包含層出土遺物写真②
写真図版 25	包含層出土遺物写真③

第 I 章 調査に至る経緯

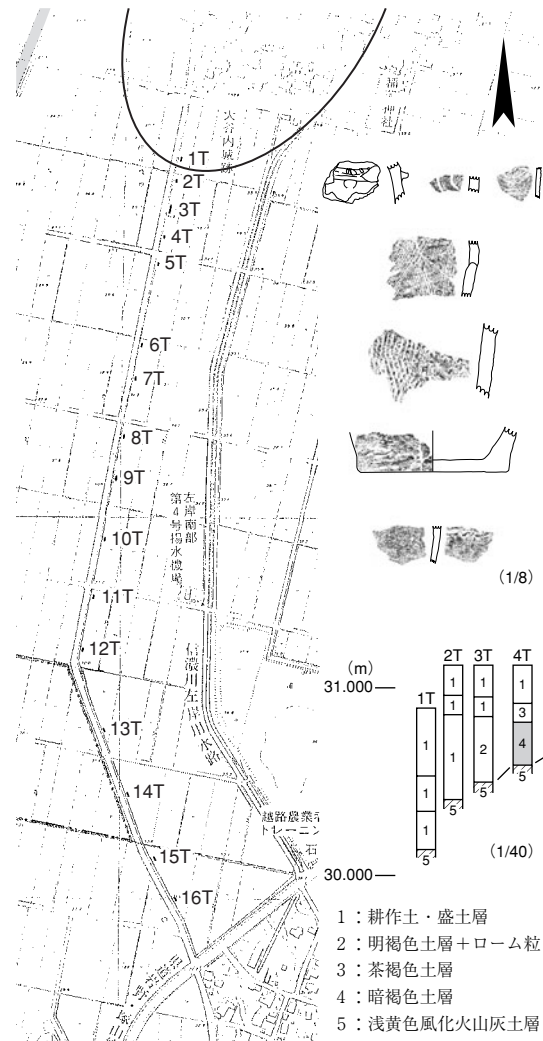
市道越路 200 号線改良事業に係る埋蔵文化財包蔵地の取扱い協議は、その予定地に多賀屋敷遺跡が含まれることから、建設計画が浮上した平成 16 年度から進めてきた。平成 19 年度に事業が具体化し、長岡市教育委員会（以下、市教委）は多賀屋敷遺跡の範囲を確認するとともに周辺における遺跡の有無を確認するため、遺跡範囲確認調査（以下、試掘調査）を実施した。

試掘調査 平成 20 年 8 月 22 日付け長教博第 306 号で県教育委員会教育長に文化財保護法第 99 条第 1 項の規定による埋蔵文化財発掘調査の着手を報告し、平成 20 年 8 月 26 日～27 日に試掘調査を実施した。事業予定地に対して合計 16 箇所のトレンチ設定し（第 1 図）、3 T・4 Tにおいて、縄文時代後期初頭～前葉の遺物（土器・石器）と遺構を検出した。さらに、4 Tからは弥生時代末～古墳時代前期の土器片が 1 点出土した。4 Tの南に設定した 5 Tでは、3 T・4 Tで遺物を包含した暗褐色土層が厚く堆積したものの遺物は出土せず、またここに谷が入ることから、4 Tと 5 Tの間が遺跡の南縁に該当すると推測した。

取扱い協議 以上の調査結果を踏まえ、長岡市越路支所建設課と市教委は多賀屋敷遺跡の取扱い協議を進めた。その結果、市道越路 200 号線は中高生の通学経路であると同時に、中心市街地へのアクセス道路として朝夕の通行車両が多く、早急な歩道整備が望まれていること、その歩道は既存道路の拡幅によって整備されることから、遺跡の現状保存に資するほどの計画変更が極めて困難であり、本発掘調査を実施し、記録として遺跡を保存することとした。

本発掘調査着手まで 協議の結果、本発掘調査対象区域は 2～4 Tを含む範囲としたが、発掘調査の発生土の処理が問題となった。調査区は、南北に細長く伸びる開発事業地の一部であるが、南に農道、北に水路が通っており、調査対象外となる事業地への廃土搬出が困難である。その一方、調査区が狭小であるが相当量の発生土が見込まれ、調査区を分割し、調査の進捗にあわせて廃土を移動させる方法も極めて非効率的であると判断された。このため、調査区の東に隣接する農地を借り受けて廃土置場とすべく地権者と協議を行い、休耕期間中の借地について承諾を得た。そして、平成 21 年度は大豆の作付けが計画されていることから、収穫後の施肥が終わる 10 月末～11 月初めに調査を開始することとした。

その後、平成 21 年 11 月 5 日付け長教博第 268 号で県教育委員会教育長に対して文化財保護法第 99 条第 1 項の規定に拠る発掘調査の着手を報告し、本発掘調査を開始した。



第 1 図 試掘調査トレンチ配置図 (1/10,000)

第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境

1 遺跡の位置と地理的環境

多賀屋敷遺跡は、長岡市の中央を南北に流れる信濃川の左岸に位置する（第2図）。南で小千谷市と接するこの付近は、現在“越路地域”と呼称されている（註1）。

越路地域は、信濃川水系の中にあつて、山地地形から平野地形への転換点に当たる。新潟平野の南端に位置すると同時に、東西を頸城丘陵東と魚沼丘陵の山並みに囲まれている。また、沖積平野と丘陵地との間には、信濃川が形成した河成段丘の発達も顕著である。

信濃川河成段丘群は、新潟県平野団体研究グループ〔1967〕以来、その段丘面区分と対比について検討が重ねられてきたが、火山灰ガラス分析を利用した渡辺秀夫の研究によって〔渡辺 2007〕、ほぼ確立したと言える。渡辺は、広域火山灰の堆積状況を検討して、越路原段丘の越路原Ⅱ面が小千谷市北部の小栗田原面と連続したものであることなどを明らかにし、新たな段丘区分を行った。これによれば、越路地域の信濃川河成段丘は、越路原Ⅰ面、越路原Ⅱ面と小栗田原面を統合した片貝面、越路原Ⅲ面、潮音寺面の4つとなる（第2図）。越路地域では潮音寺面が最も低位の段丘であり、越路原Ⅲ面と潮音寺面との間の平坦面は沖積面であると考えられている。また、これら段丘面の形成年代については、越路原Ⅰ面が13～15万年前、片貝面が10万年前頃、越路原Ⅲ面が5.5万年前頃、そして潮音寺面が3万年前頃とした。

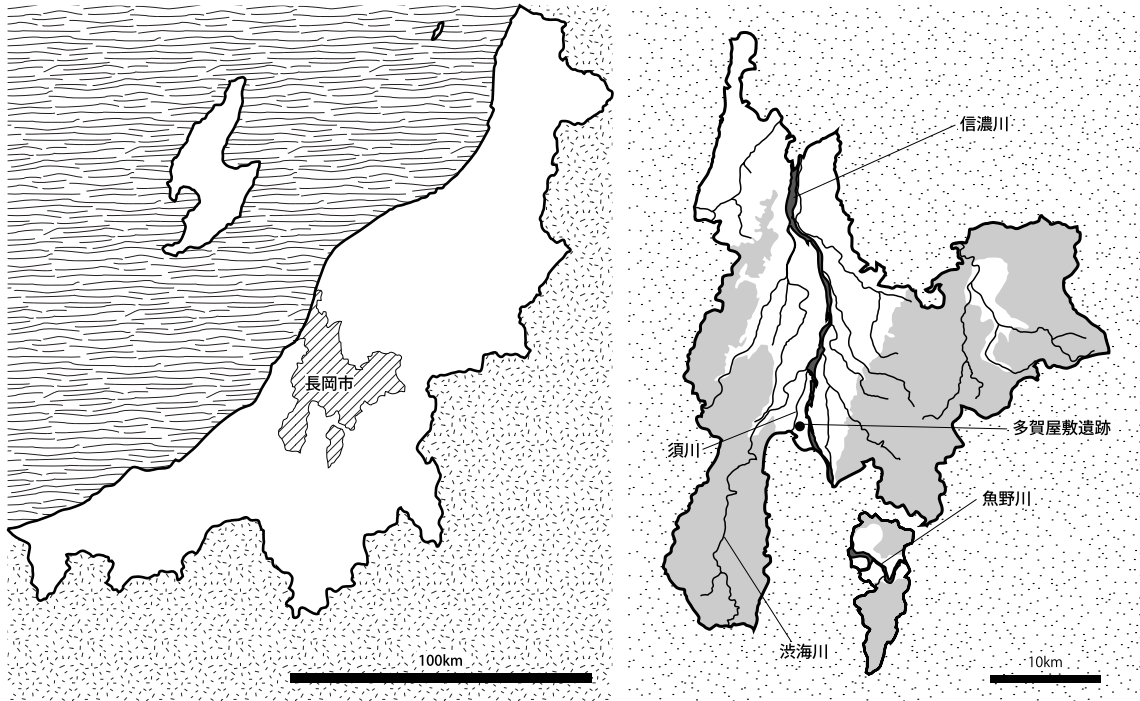
多賀屋敷遺跡は潮音寺面上に立地する。潮音寺面は小千谷市北端から浦集落までの信濃川沿いに南北に細長く分布する段丘で、現在の標高およそ50m～30m、遺跡付近では29.7m～37.6mを測る。浦集落付近の同面は、片貝一真人背斜の影響により信濃川寄りの東側で隆起し、一方、西側では小千谷向斜の運動によって沈降していくため、西向きの緩斜面となっている（遺跡付近の勾配は2.5/100mである）。更にこの潮音寺面は沖積面中へ潜り込んでいると推測されている（第3図）。

遺跡の西には須川が、東には信濃川が流れる。遺跡と両河川現河床との比高差は約10mを測るが、これは先に述べた片貝一真人背斜と小千谷向斜による影響が大きい。この比高差のため、須川近辺を除くと農地への水の供給には不足があったであろう。実際、遺跡周辺の水田化は昭和28～29年にかけて実施されたの国営第3号幹線用水路敷設を待たなければならず、それ以前はカヤ場、畑地などとして利用されていたという。他方で、この比高差は両河川の氾濫に対する障壁となり、安定した居住地を提供してきたものと考えられる。現在の浦集落、そして縄文時代の集落も、この点を好み選地されたものであろう。

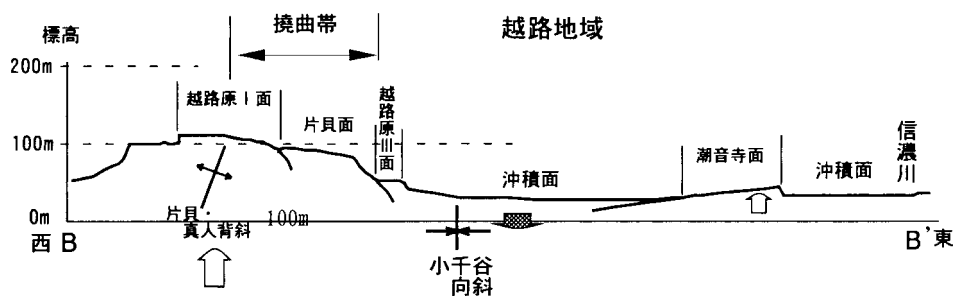
2 遺跡の範囲とこれまでの調査

多賀屋敷遺跡は、これまで3回の本発掘調査が行われている（第4図）。第1次本発掘調査に先駆けて、昭和57年4月、新潟県教育委員会によって範囲確認調査が行われた。これは県営ほ場整備事業に伴うもので、調査の結果、各水田面の谷側では遺跡の保存状況が良好で、遺跡の範囲は「東西360m、南北380mで、約130,000㎡に及ぶ」と推測された〔新潟県教育委員会 1983〕。

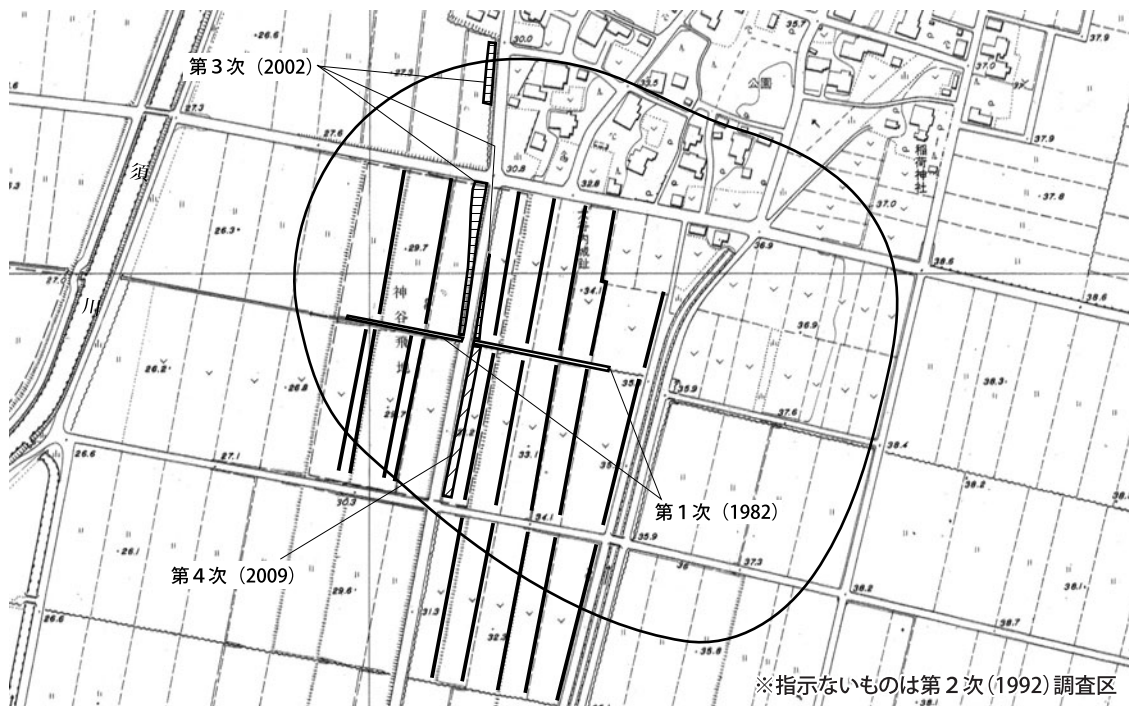
範囲確認調査の結果を受け、第1次本発掘調査が同年10月に行われた〔越路町教育委員会 1983〕。ほ場整備の排水路計画部分に対して行われ、東西に細長いものであった。第2次本発掘調査は平成4年、暗渠排水路の敷設に伴って行われたもので、遺跡範囲の各水田面についてほぼ一本ずつ計画された暗渠排水路の範囲のみ（幅約50cm）を調査したものである〔越路町教育委員会 1993〕。さらに第3次本発掘調査は、平成14



第2図 遺跡の位置



第3図 越路地域の東西地形断面と基盤の構造 (〔渡辺 2007〕より転載)



第4図 第1～4次調査区位置図(1:5,000)

年に町道 200 号線の拡幅に伴って越路町教育委員会が実施したものである (註2)。

これまでの調査や表採によって、縄文時代中期中葉から後期中葉にかけての多量の土器が得られているほか、土偶・板状土偶・土製円盤・土錘・耳栓などの土製品、そして石鏃・打製石斧・磨製石斧・石錘・石皿・磨石類などの石器、翡翠製大珠などの石製品も知られている。また、第2次本発掘調査では、吉岡編年〔吉岡 1994〕Ⅰ～Ⅱ期に帰属する珠洲焼も出土している。

検出遺構については、範囲確認調査では住居跡のプランや焼土が確認された。続く第1次本発掘調査では、貯蔵穴ないし墓坑の可能性のあるされる遺構も検出されている。第2次発掘調査では骨片を多量に出土するピットが発見されている。そして、第3次発掘調査では谷部が廃棄帯として利用されている状況が確認された。このような成果によって、多賀屋敷遺跡は縄文時代中期後葉から後期前葉にかけて営まれた大規模な集落遺跡という評価が確定的になり、また、遺跡の範囲も特定されつつある。しかし、すべての発掘調査が排水路の敷設や道路拡幅に伴って実施されたという経緯から、調査区がいずれも細長く設定されたために線的な情報しか得られず、遺跡内部の集落構造を窺うまでには至っていない。

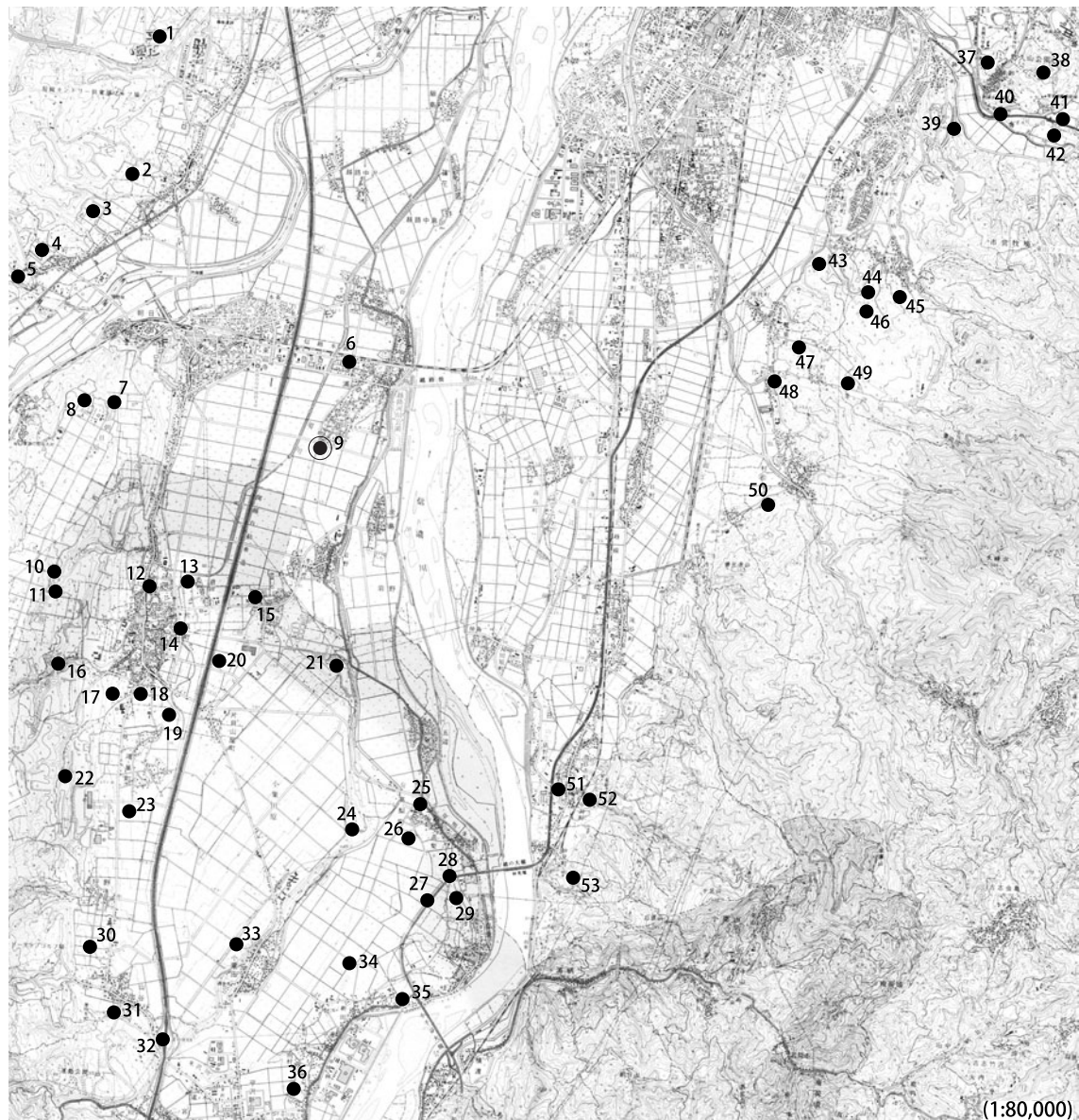
3 周辺の遺跡

多賀屋敷遺跡の周辺には数多くの縄文時代中期～後期の遺跡が知られている (第5図)。いくつかの遺跡については発掘調査が行われ、その内容が明らかにされている。

信濃川左岸の遺跡 岩野原遺跡 (第5図3) では、中期集落と後期集落とが隣接して発見されている〔長岡市教育委員会 1981〕。このような集落の在り方は、馬高・三十稲場遺跡〔長岡市教育委員会 2002〕も概ね同様であると考えられる。両者とも中期末に急激に中期集落が縮小し、後期には別地点へ移動している (註3)。これに対して城之腰遺跡 (32) は、中期末から後期初頭、さらに後期前葉まで継続的に営まれた遺跡〔新潟県教育委員会 1991〕であり、多賀屋敷遺跡と似た側面を持つ。多賀屋敷遺跡 (9) は、表採資料が中村孝三郎によって紹介され〔中村 1996〕、しばしば後期初頭の示準資料として捉えられた経緯があり〔越路

町教育委員会 1983、田中 1984)、それを踏まえて、近年「多賀屋敷式」が提唱された〔石坂 2007〕。また、上並松遺跡(7)も、後期初頭の土器群を出土したことで知られる〔越路町教育委員会 1970〕。

信濃川右岸の遺跡 中道遺跡(42)の調査事例が知られる〔長岡市教育委員会 1988〕。中道遺跡では、中期中葉～中期末、後期前葉、さらに晩期の住居跡が見つかっており、長期にわたる集落遺跡であることが明らかにされている。また、外新田遺跡(51)も狭い範囲であるが発掘調査が行われ、2基の炉跡が報告されているほか、中期前葉から後期前葉にかけての土器が出土している。〔長岡市史編集委員会 1992〕。



第5図 周辺の遺跡(縄文時代中期・後期)

信濃川左岸

1：松山 2：雉子打場 3：岩野原 4：笹山 5：山王 6：十二割架橋下 7：上並松 8：中山 9：多賀屋敷 10：股沢
 11：婆々懐 12：延命寺 13：沼田 14：前原 15：池津 16：十三畑 17：焼山 18：大屋敷 19：雨だれ 20：寺社堀
 21：前原B 22：魚無沢 23：館ノ上 24：平沢 25：三古橋 26：上野 27：百塚西C 28：堂付 29：三仏生 30：源藤六
 31：前野 32：城之腰 34：鶴ヶ丘 35：百塚東E 36：道金原

信濃川右岸

37：堅正寺 38：前山 39：行塚 40：三貫梨 41：栖吉 42：中道 43：下条山 44：青木 45：山下 46：小毬山 47：鷺巢
 48：長者原 49：入山 50：山王 51：外新田 52：中濁 53：千足山

第三章 調査の方法と経過

1 発掘調査の方法と経過

発掘調査の方法 今回の調査に際し、調査区の長軸方向（南北）に合わせて新規の 10m グリッドを設定した。北から南へアラビア数字の 1～11 を、西から東へはアルファベットの A・B を当てた（図版 1）。

表土剥ぎはバックホーによるすき剥ぎで行い、耕作土層と盛土層を除去した。廃土は、調査区東の耕作地を借り上げ、次年度に予定されている作付けに影響が出ないように養生シートを被せ、その上に積み上げた。盛土層以下の遺物包含層、及び遺構覆土は、ジョレンや移植ゴテ、ネジリガマなどを用いた人力作業によって掘削した。そして廃土にかかる負担を軽くするために、調査区から廃土場所にむかってベルトコンベアを並列させた。

遺物の出土位置は、基本的に光波測量によって記録した。ただし、調査の進捗その他の状況から、グリッド単位や遺構単位で取り上げた遺物も多い。遺構平面図は調査の最終工程に実施した航空写真測量で作成した。それ以前に失われてしまうものに関しては、簡易やり方実測で作成した。断面図も含め、調査員・調査補助員が現場で作成した図面は原則的に縮尺 1/10 とした。

記録写真の撮影には、キャノン Eos-Kiss シリーズを用い、モノクロフィルムとデジタルデータ（JPEG 形式）で記録した。航空写真については、ラジコンヘリに一眼レフカメラ・デジタル一眼レフカメラを搭載し、リバーサルフィルムとデジタルデータ（JPEG 形式）で撮影した。

発掘調査の経過 発掘調査は平成 21 年 11 月 2 日から開始した（事前協議）。11 月 9 日に現地に機材を搬入し、同日調査対象地の草刈、安全柵、工事看板等の設置も行った。表土剥ぎは翌 10 日から 12 日までの 3 日間を要した。11 月 13 日にはグリッド杭の打設とともに、調査範囲の測量を行った。

作業員、調査補助員を動員しての本格的な調査は 11 月 19 日から開始した。包含層掘削は調査区南端から北に向かって進めた。調査区の南端は包含層の残存状況が良好で、Ⅰ層（褐灰色土層）～Ⅲ層（灰黄褐色土層）が観察されたものの、遺構・遺物とも少なく、谷部への落ち込み部分と解された。遺構は 10 グリッドの北半から密集した状態で検出され、9 グリッド以北は包含層がほとんど残存しないものの、遺構が密集して確認されるようになった。遺構の密集度は 7・8 グリッドが最も高く、3 グリッドまで続いた。また、3 グリッド以北は遺構確認面で多量の礫が確認されるようになり、1・2 グリッドでは遺構確認面が完全にⅤ層となり、検出遺構も少なかった。この範囲では後世の攪乱がⅣ層（浅黄色風化火山灰土層）～Ⅴ層（明黄褐色砂礫層）まで及んでいた。包含層の掘削、遺構確認作業は 11 月 25 日までに行い、この段階で約 650 基の遺構を確認した。

11 月 25 日より遺構調査を開始した。包含層掘削と同様に南から順に北に向かって作業を進めた。確認面から底面までの深さが浅いものが多く、遺構の上部がすでに削平されているものと推測された。遺構の多くは規模も小さく性格不明のものが多かったが、土坑、フラスコ状土坑、埋設土器、そして柱穴の区別が可能なものも存在した。柱穴の中には開口部の狭いのに比し掘り込みが極端に深いものがあり、これらは近隣の成台遺跡の事例〔越路町教育委員会 2004〕などから中世の掘立柱建物跡のものと推定された。遺物は、遺構の密集する範囲の、主に遺構覆土から出土している。大半が細片であり、大形破片、復元可能な個体の出土は例外的で、付近の保存状況の悪さを示している。

12 月 15 日、調査が 7 グリッドから 6 グリッドへ移行した段階で降雪があり、除雪作業を行うとともに、

積雪対策について調査担当と調査員とで方針を協議した。そして翌16日からは、調査が既に終了している部分は積雪に備えて、合板等でしっかりと保護した上でシートを掛けて養生し、一方、調査途中の部分については単管・ビデ脚・合板・シート等を用いて簡易的な屋根を掛け、積雪の状態を見ながら、除雪作業や現場の管理を中心に少しずつ調査を進めることとした。

平成22年2月に入ると降雪が一段落したため、8日から重機による除雪作業、そして調査区に溜まった雪水をポンプアップする作業など実施し、15日に本格的に調査を再開した。3月12日に遺構調査が完了し、ただちに全体精査に移り、これを16日午前中に完了させた。16日正午から航空写真測量を実施。17日からは機材の搬出とともに、廃土の埋め戻しを開始し、これを18日までに終了させた。

2 整理作業の経過

整理作業は、一次整理と二次整理とに分けて行った。1次整理と2次整理とも、一部を除き、指名競争入札による受託業者である株式会社シン技術コンサルが行った。

基礎整理となる一次整理は、発掘調査終了後に行われる予定であったが、発掘調査が越冬を余儀なくされたため、平成21年12月7日から1次整理を開始した。内容は主に遺物洗浄・註記作業である。発掘調査の再開を追って、3月8日から註記作業も行った。これに併せて写真、図面整理も行った。図面はすべてA3方眼紙を使い、一つの用紙に一つの遺構図だけを記録し、用紙ごとに番号を振り、これをそのまま図面番号として台帳に整理した。1次整理は平成22年3月18日までに完了した。

報告書刊行に向けた整理作業である2次整理は、平成22年7月1日から開始した。まず多量に出土した土器の分類・接合・抽出を行った。その後、復元と補強作業を行った。補強材には電気化学工業株式会社のデンカ・キューテックスを用いた。石器についても7月中に分類と抽出を完了した。8月からは遺物の図化を開始した。土器に関しては、拓映図・写実測図ともまず手描きの図面を作成し、それをスキャンしてパソコン上でデジタルトレースして合成した。また石器に関しては、長岡市教育委員会によって、実測・トレース・事実記載・観察表の作成まで行った。遺物の図化と並行し、7月から8月にかけて遺構図の作成を行った。遺構図、遺物ドット図は株式会社信濃技術が原図を作成し、それを調査員が修正、加工して仕上げた。遺構個別図は8月中にほぼ完成し、ドット図の作成は11月半ばまで継続して行った。

9月は主に遺物と遺構の観察表を作成した。10月は遺物の写真撮影を行い、引き続き加工、編集を行った。11月からは、遺構、遺物の個別図をAdobe SystemsのAdobe InDesignで編集した。原稿の執筆作業は主に11月から平成23年1月にかけて行った。挿図作成や、各図の修正作業なども平成23年1月まで平行して行った。

第1表 作業工程表

		平成21年		平成22年												平成23年		
		11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
発掘調査	準備・協議																	
	包含層掘削																	
	遺構調査																	
	除雪・現場管理																	
	航空写真測量																	
1次整理	遺物洗浄																	
	註記																	
	図面・写真整理																	
2次整理	土器接合・復元																	
	遺物図化																	
	遺構全体図作成																	
	遺構個別図作成																	
	遺物観察表作成																	
	遺構観察表作成																	
	遺物写真撮影																	
	図版編集																	
	執筆・校正																	

第IV章 調査の成果

1 成果の概要

調査対象とした430 m²の範囲から、約650基の遺構と7,605点の遺物を検出した。

遺構は密集して発見され、しばしば種別の認識に困難を伴ったが、現場での観察や整理での検討を通じて、掘立柱建物跡1棟(柱穴8基)、土坑3基、フラスコ状土坑21基、柱穴293基を認定した。

遺物総数のうち、約97%を占める7,379点が縄文土器であった。この大多数は後期初頭から後期前葉の時期幅に収まるものである。また、今回出土した土製品10点はすべて土製円盤である。その他に地焼炉の一部と推測したのもも1点あった。

石器は80点、そして石製品は1点出土した。土器資料と同時期の所産と推測される。種別は石鏃・打製石斧・磨製石斧・石錘・磨石類・剥片類であった。石製品では軽石製の浮子出土した。

また、骨片が4点出土している(註4)。いずれも細片であり、遺構覆土中から出土したものである。搬入礫と判断されるものは125点である。

この他、縄文時代以外の遺物として、珠洲焼が5点出土している。

おびただしい数の縄文土器に、少量の石器、そして、さらにごくわずかに珠洲焼が加わるという傾向は、過去の発掘調査と共通するものである。

2 基本土層

10グリッド東壁で観察されたものを基本土層とした(図版1-①)。ここでは、盛土層以下からI層～V層の自然堆積層が確認された。また、2グリッド東壁では、IV層下から礫層が確認でき、これをV層とした(図版1-④)。

I層 褐灰色土層(10YR4/1)粘性は<3>、締まりは<4>である(註5)。炭化物、礫、焼土をわずかに含む。遺物はほとんど出土しない。8グリッド以北では削平されほとんど観察されない。

II層 黒褐色土層(10YR3/1)粘性は<3>、締まりは<3>。ローム粒、炭化物、礫をわずかに含む。縄文時代の包含層である。8グリッド以北では局地的にのみ残存する。

III層 灰黄褐色土層(10YR5/3)粘性は<3>、締まりは<4>。ローム粒を30%含む。III層とIV層の混合土のような様態を示し、漸移層と考えられる。

IV層 浅黄色土層(10YR8/4)粘性は<4>、締まりは<4>。ローム層である。砂粒を含まず視覚的には風成層と考えられる。

V層 明黄褐色土層(10YR7/6)粘性は<1>、締まりは<2>。50mm前後の多量の礫を含む。4グリッドの遺構底面から露出しはじめ、2グリッド以北では盛土直下から現れる。段丘礫層であるか否かは不明だが、広く堆積した自然層であることは明らかである。

遺跡の立地する潮音寺面は一般的には川下(北)に向かって徐々に低くなっているが、今回の調査範囲のローム層(IV層)検出のレベルを比較すると、ほぼ水平かむしろ南端で低くなっている(図版1-①～④)。これは調査区南端が谷筋に落ち込んでいること、5グリッド～8グリッドまでは包含層の削平が激しいことなどと関係する局所的な様態と解される。

3 時期区分

今回の調査で出土した遺構、遺物の時期を記述するにあたり、次のような編年観で表記する（註6）。

	在地型式	東北系	関東系
中期中葉	馬高式	大木8a式～8b式中段階	
	栃倉式	大木8b式新段階～	
中期後葉～末	沖ノ原1式	大木9式～10式中段階	加曾利EⅢ～Ⅳ式
後期初頭	多賀屋敷式(沖ノ原2式)	大木10式中段階～新段階	称名寺I式(加曾利EⅤ式)
後期初頭～前葉	三十稲場式	大木10式直後～綱取I・II式(古)	称名寺II式～堀之内1式古段階
後期前葉	南三十稲場式	綱取II式(中)～	堀之内1式中段階～

また、現在まで整理されてきた類型についても必要に応じて用いた。これについては、その都度出典等を記すこととする。

4 検出遺構と遺構出土遺物

(1) 掘立柱建物跡

1号建物（図版4・5） A～B4グリッドで検出した。8基の柱穴（遺構90・100・104・109・122・138・153・164）が南北方向に2列並ぶことから、この一群を掘立柱建物跡とした。全体が長方形を呈し、短辺（梁間）の柱穴数が2本で、長辺（桁行）は4本である。城之腰遺跡〔新潟県教育委員会 前掲〕の長方形柱穴列の分類に抛れば、これはAⅡ類（長辺柱穴数4本）に相当する（註7）。短辺の長さは2.5m、長辺の長さは5.8mを測る。建物の長軸はN-18°-Eである。8基の柱穴は掘り方の規模は大きい、底面までの深さは若干浅い傾向がある。以下、個別の柱穴について説明する。

遺構90（図版5） A～B4グリッドで検出した。南側の一部を遺構123に切られる。建物の北西隅に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径108cm。断面形は略台形状で、確認面からの深さは37cmを測る。

出土遺物は縄文土器3点である。1点を図示した（図版22）。1は縄文を施すものである。

遺構100（図版5） A～B4グリッドで検出した。種別不明の遺構101を切る。平面形は楕円形で長径112cm。断面は箱状を呈し、確認面から底面までの深さは39cm。覆土②層部分が柱痕と考えられる。

遺物は出土しなかった。

遺構104（図版5） A～B4グリッドで検出した。東側を遺構155に切られる。平面形は楕円形を呈し長径92cm。断面は箱状を呈し、確認面から底面までの深さは58cmである。覆土①層は別遺構である可能性もあり、⑤層が柱痕と考えられる。

本遺構からは縄文土器10点と石器1点が出土した。このうち縄文土器1点を図示した（図版22）。2は縦位の条線文を描く土器である。

遺構109（図版4） A～B4グリッドで検出した。建物の南西隅に位置する柱穴である。平面形は楕円形を呈し、長径72cmを測る。確認面から底面までの深さは25cmである。

縄文土器が2点出土した（図版22）。3は細い条線文を縦位に描くもの、4は縄文を施すものである。

遺構122（図版4） B4グリッドで検出した。東側半分は調査区外となる。建物の北東隅に位置する。平面形は楕円形を呈しするものと推測され、長径は84cmを測る。確認面から底面までの深さは48cmである。

本遺構からは縄文土器が3点出土したが、いずれも細片であり、図化に適うものはなかった。

遺構138（図版5） B4グリッドで検出した。東側は調査区外となる。北側を遺構137に切られる。平面形は楕円形を呈し、長径は80cm。覆土の断面観察からは、遺構直上に盛土が堆積しており、遺構上部が削

平を受けていることが分かる。確認された限り底面までの深さは44 cmである。

本遺構からは縄文土器24点と石器1点が出土し、このうち縄文土器2点を図示した(図版22)。5は撚糸文を施す。6は後期初頭～前葉の原山類型である(註8)。口唇部に工具で斜めに抉ったような刺突が並ぶ。剥落しているものの、口縁部の下には隆帯文が巡っていたと推測される。

遺構 153 (図版5) B4グリッドで検出した。遺構153は東側の一部が調査区外となり、南側で遺構158に切られている。平面形は楕円形で、長径は約100 cmと推計される。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは83 cmである。

本遺構からは18点の縄文土器が出土した。このうち4点を図示した(図版22)。7は調整された隆線文によって渦巻文と楕円文とを描く土器である。渦巻文は隆線文を平行させ、楕円文の内側には縄文を施している。これらは大木10式の系譜に連なるものである。8は城之腰類型である(註9)。加飾隆帯文の刺突は工具の先端を垂直に刺した円形のものである。胴部には縄文が施される。9は縦位の条線文が施される土器。10には結節縄文が見られる。

遺構 164 (図版5) B4グリッドで検出した。東端が調査区外となる。建物の南東隅に位置する柱穴である。平面形は楕円形を呈し、長径は100 cmを超えると推測される。確認面から底面の最深部までの深さは39 cmを測る。

本遺構からは縄文土器17点が出土した。このうち4点を図示した(図版22)。11は連続矢羽根状沈線文が施される土器で、多賀屋敷式期の沖ノ原式系統のものであろう(註10)。12は小片だが、縄文の脇を調整する手法などから沖ノ原式期の大木9式系と考えられる。13は条線文、14は縄文が施されるものである。

以上のように、1号建物跡の柱穴から出土した遺物はいずれも少数で破片も小さいことから、遺構の埋没過程で混入したものと考えられる。また、その時期幅も、中期後葉から後期前葉までの幅があり確定性を欠いている。最も新しい遺物である6の時期をもって、後期初頭～前葉とするのが妥当であろうか。

(2) 土坑

ここでは、一定の規模を持ち、底面が平坦で、平面形状がある程度整ったものを土坑として分類した。ただし、その中でも平面形が円形で、断面形が袋状を呈するものなどについては、フラスコ状土坑として分類した。フラスコ状土坑については次節(3)で記述する。

土坑として分類した遺構は3基である(遺構160・511・610)。このうち2基を報告する。

遺構 511 (図版6) B8グリッドで検出した。平面形は北東側でやや歪み、西側で遺構513等に切られるが、元来は長方形であり、長辺140 cm程の遺構であったと推測される。底面からの立ち上がりは緩やかで確認面からの深さは12 cmと浅い。

本遺構からは縄文土器が50点出土した。多くは細片であったが、一部については個別に出土位置を記録した(図版6)。7点を図示した(図版22)。15は不鮮明だが磨消縄文系の土器であろう。16～21は三十稲場式の範囲に収まるものと考えられる。16は三十稲場類型の一つ。小ぶりで、橋状把手の上部が競り上がり、突起化している点などから三十稲場式3期のものである。胴部文様は不明である。17は三十稲場式の典型的な刺突文を施す破片である。18は胴部に渦巻状もしくは同心円状の沈線文を描くもの。沈線文の一部は閉じていない。器形から頸部のすぼむ壺形土器と理解した。19には網目状撚糸文が認められる。

遺構 610 (図版6) B9グリッドで検出した。北側の一部が切れているが、平面形は隅丸長方形を呈する。底面は平坦であり、立ち上がりも急で、しっかりとした作りである。覆土は4層に分けられるが、中央で

縦に分層される部分もあり、重複する2つの遺構とも解釈された。しかし、全体の形状から単一の遺構と理解した。長辺180cm、短辺112cm、確認面から底面までの深さは23cmである。以上のように整った形態、規模から墓坑の可能性が考えられる。

遺物は20点が出土した。このうち1点を図示した(図版22)。22は縦位の沈線文と縄文を組み合わせたもの。施文順序は縄文が先行する。加曽利EⅢ式系以降のものと考えられる。また、骨片の検出に努めたが検出できなかった。

(3) フラスコ状土坑

前項(2)で述べたように、検出された遺構のなかで、一定の規模があり、底面が平坦で、平面形が円形、断面形が袋状を呈するものをフラスコ状土坑、もしくはフラスコ状土坑の可能性のあるものと認定した。

これらの中には、底面中央に小ピットが伴うもの(4基)と伴わないもの(16基)が認められる。確認面から底面までの深さが平均で約28cmと浅いものが多いが、これは調査区全体の傾向として、遺構の上部が削平されていることが影響していると考えられる。ただし、遺構645は調査区壁面で断面観察を行った遺構であり、開口部から底面までの形状が良好に保存されていたが、その深さは38cmと浅いものであった。また、今回検出されたフラスコ状土坑の長径は88cm～168cmとバラツキがあるが、やや大形の遺構454や遺構520を除くと、88cm～130cmの中に収まり、平均は約116cmである。これらを総合すると、今回の調査で検出したフラスコ状土坑は、平面形が小さく、比較的浅いものが多かったと言える。以下、個別に記載を行う。

遺構175(図版6) B4グリッドで検出した。遺構183に切られている。長径88cmを測る。底面は西側が深く、確認面から深さは10cmである。

縄文土器5点と石器1点が出土したが、図化に適するものはなかった。

遺構195(図版6) A5グリッドで検出した。底面中央に小ピットを伴うフラスコ状土坑である。南側で遺構200などに切られているが、平面形はほぼ円形で、長径は100cmを超えると推測される。確認面から底面までの深さは10cmである。

縄文土器3点が出土したが、図化に適うものはなかった。

遺構233(図版7) B5グリッドで検出した。東半分は調査区外となる。底面に小ピットを伴うフラスコ状土坑である。平面形はやや不整形な楕円形であるが、長径は104cmと平均的な規模である。確認面からの底面まで深さが63cmで、今回の調査で検出されたフラスコ状土坑の中では最も深い。

11点の縄文土器が出土したが、いずれも細片であり、図化に適うものはなかった。

遺構299(図版7) A6グリッドで検出した。遺構300などに切られる。北東部や北西部でも他の遺構と切り合い、全体の規模や形状の把握が困難であった。長径は残存値で126cm、確認面からの底面までの深さは24cmである。

本遺構からは、縄文土器70点と石器2点、石製品が1点出土している。これはフラスコ状土坑の中では多い部類に入る。このうち9点を図示した(図版22・23)。23は、口縁の一部に親指程度の範囲を内側へ凹ませる特徴をもつもので、城之腰遺跡〔新潟県教育委員会 前掲〕にやや類似したものがある。多賀屋敷式期と理解した。24は口唇部に刺突がないが、器形等から後期初頭～前葉の原山類型と考えられる。原山類型はしばしば口縁に波状沈線文を描くが、この24は結節縄文の結節部で波状を表現している。25は条線

文で斜格子状の表現を描くようである。26にも結節縄文が見られる。30は磨石類に分類される。実測図正面に浅い凹痕が確認される。裏面にも凹みがあるが、人為的なものか、偶発的なものか判然としない。また、正面・裏面ともに磨痕が確認されるが、裏面の方が顕著である。31は軽石製の浮子。中央やや上に直径約7mmの孔が貫入する。下端にも穴が確認され、この直径は約11mmである。実測図右側に2条の溝が走っており、棒状工具などの研磨具として転用された可能性がある。

遺構 400 (図版 7) A7グリッドで検出した。西側一部は調査区外である。平面形は楕円形を呈し、底面の中央に小ピットを伴う。長径は112cmで平均的な大きさである。確認面からの深さは53cmと深い。本遺構付近は例外的にⅡ層も残存しており、保存状態が良好であった可能性がある。

遺構 400は今回の調査で最も多くの遺物が出土した遺構である。縄文土器 496点と石器 3点が出土している。しかし、土器は全て細片で、ほとんど接合せず、器形を復元できるものが含まれなかった(図版 23・24)。遺物垂直分布図(図版 7)では、遺物が覆土中の上と下にそれぞれまとまりをもつように見えるが、これは残念ながら調査員の指示の不徹底から発生したエラーによるものであり、実際は遺構の底面から確認面まで間欠なく遺物が詰まっていた状況であった。

32は内湾する口縁をもつ資料で、器面が底面に磨かれている。鉢形土器であろうか。口縁部には細い工具の先端で斜めに刺した加飾隆帯文があり、その下には横長の帯状沈線文で囲まれた縄文部が配置される。縄文の施文は沈線に先行する。この帯状文の形から大木 10 式の系譜を引くものと考えられる。33は横位沈線文を重ね、上・下段部には縄文を施し、中段部を無文とする。やはり縄文の施文が沈線に先行する。口縁に近い部分の破片で、内湾している。系統不明だが、中期後葉に遡る可能性がある。34は縄文施文後に横位及び縦位の沈線文を描く。これも内湾する口縁部である。35はL字状の沈線文で区切られ、片側のみに縄文を施すもの。36では縄文施文後に横位沈線文を引く。37は撚糸文と沈線文とで文様を描くようである。これら 34~37 の詳細な時期は不明である。38は外反する口縁付近の資料と考えられる。加飾隆帯文と、これを囲む横長の縄文帯を持つ。系統・時期とも判然としない。39・42・44は沈線文による帯状文の中に縄文もしくは撚糸文を施す。いずれも縄文・撚糸文が沈線に先行する。その帯状文の形から大木 10 式の系譜を引くものと考えられる。また、41は口縁にヒレ状の貼付表現を持ち、やはり大木 10 式系と考えた。他方、40はU字状の平行沈線文が描かれ、加曽利 EIV 式の対向 U 字文系との関連を考えた。いずれも在地化の傾向が認められる。45は口縁部を無文とする在地系の簡素な土器。46は低い隆帯文と浅い刺突がやや特徴的な城之腰類型の胴部条線文のもの。47は曲流する条線文の胴部に刺突付貼付文を垂下させたもので、しばしば後期初頭に認められるものである。48は大木 10 式の注口付浅鉢の系譜を引くもの〔阿部 2007b〕と捉えたが、縄文地に「く」の字の沈線文を引く文様は在地化が著しい。49は、外反する器形、橋状把手のアーチの高さなど、三十稲場式 2 期の特徴を良く示す資料であるが、橋状把手から続く縄文部と横位の沈線文以下の無文部によって磨消縄文を描いている。無文部の描き方は大木 10 式系譜のものと考えられる。50は「8」の字状の橋状把手を持つ壺形土器である。口縁内面には蓋受けを付ける。51~55は刺突文のバリエーション。55は通常の花弁状刺突文と、これとは明らかに異なる細い工具で斜めに刺し抉った刺突文とが併用されている。56は口縁部にC字状の貼付文を持つ。この貼付文を持つ深鉢形土器はしばしば三十稲場式 2 期の資料と共伴する(註 11)。57は口縁に太く深い条線文で左右両方から斜位に施文する。58~60は城之腰類型のバリエーション。60は胴部に帯状文を描いているようである。61は網目状撚糸文の資料。65は胴部の一部に細い幅の縄文が縦に回転施文されているのが微かに残っている。縞状に施された縄文の一部が残存したものと推測される。66~71は蓋のバリエーションを示した。72は南三十

稲場式と理解した。73は磨石類に分類される。実測図正面・裏面に凹痕が確認されるほか、裏面下端には敲打に伴う剥離が確認される。

以上のように、出土土器は三十稲場式2期の資料が多く、これに多賀屋敷式期のものが次ぐ。しかし、それらの出土レベルを見ると、後者（以前を含む）の35・36が上位から出土し、前者の典型例である45・46が中位から出土しており、時期の新旧と出土位置の上下とが逆転している。敢えて言えば、本遺跡で出土する時期幅の土器片が無造作に廃棄されたような状況が推測される。

遺構 412 (図版 8) B7グリッドで検出した。西側を遺構414等に切られている。このため長径は残存値で72cmだが、本来は140cm近い規模であったと推測される。北側に深い掘り込みがあったが、これは別遺構と考えられる。平面形はほぼ円形であり、断面形がややオーバーハングする。確認面から底面までの深さは25cmである。

本遺構からは35点の縄文土器と1点の石器が出土した。このうち2点を図示した(図版25)。74には曲流条線文が、75には無節の縄文が施される。

遺構 436 (図版 8) B7グリッドで検出した。平面形はほぼ円形を呈し、長径104cmと平均的な規模の土坑である。東側壁面のオーバーハングが顕著である。確認面から底面までの深さは32cmである。

本遺構からは縄文土器8点が出土し、うち2点を図示した(図版25)。76の口縁は強く「く」の字に外反する。77は口縁部がやや内湾する土器で、縦位条線文が施文される。

遺構 454 (図版 8) B7グリッドで検出した。遺構451・453・454などを切り、遺構452に切られる。平面形はほぼ楕円形であった。断面図から計測した長径は168cm。今回検出したフラスコ状土坑の中では最も大きい。しかしながら、確認面から底面までの深さは12cmと非常に浅い。

本遺構からは76点の縄文土器と焼成粘土塊1点が出土した。このうち6点を図示した(図版25)。78は今回の調査区では珍しい大形破片であったが、その他のものはいずれも細片である。

78は平口縁に波状の加飾隆帯文を巡らし、波頂部下に環状貼付文を加えたもので、城之腰遺跡をはじめとして小千谷市、長岡市に類例が多く(註12)、多賀屋敷式を構成する主要な類型の一つである。79は称名寺I式にしばしば見られる筒状突起の一つと捉えた。正面には縦位の抉りが見られる。また外面にはかすかに縄文が認められる。80は胎土の粗い土器で、口縁部に沈線文を巡らし、その下に捺糸文を施している。81は口縁部に斜位に刺された刺突文が並ぶもので、南三十稲場式土器の口縁部とも思われるが判然としない。82は底部付近の資料。縄文が施されている。83は、熱を受けた粘土であることは確実であるが、種別は不詳である。正面(断面図では上面)が白っぽく直接火を受けた面に相当し、他はすべて破断面である。破断面は、断面図上側でくすんだピンク色を呈し、下側でオレンジ色を呈する。断面図上面に見られるように、正面にはわずかながら湾曲が観察されることから、当初羽口であると考えた。だが、縄文土器と同レベルで出土していることから(図版8)、粘土を敷いて製作した炉跡の欠片と理解した(註13)。

遺構 476 (図版 9) A8で発見されている。半分は調査区外である。ほぼ円形を呈し、長径は127cmと平均よりもやや大きい。確認面から底面までの深さは59cmと深い。遺構付近ではII層が残存しており、保存状態の良さが窺われる。遺構400と並んで残存状況が良好な遺構である。底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面中央に伴う小ピットは直径36cm、底面からの深さは20cmであった。覆土はほぼ水平に堆積している。

このように遺構476は良好な保存状況を示したが、17点出土した縄文土器はいずれも細片であった。このうち1点を図示した(図版25)。84は三角形の小突起をもち、口縁下に横位の沈線文が描かれる。多賀屋敷

式期と理解した。

遺構 483(図版 9) A 8 グリッドで検出した。半分は調査区外である。平面形は方形に近い。南北の長径は 96 cm とやや平均を下回る。Ⅱ層中から掘り込まれており、底面までの深さは 37 cm であった。底面は平坦である。

8 点の縄文土器が出土したが、図化に適うものはなかった。

遺構 489(図版 9) A 8 グリッドから検出した。西側が遺構 490 に切られているが、平面形はほぼ円形で、長径は 92cm 程と推計される。確認面から底面までの深さは 31 cm。今回の調査で検出したフラスコ状土坑の中では小さな部類に属する。西側の壁面だけややオーバーハングする。この点では遺構 436 と類似している。

本遺構からは 16 点の縄文土器が出土した。このうち 2 点を図示した (図版 25)。85 は胴部破片で、撚糸文が施されている。さらに撚糸文を切って横位の沈線文が引かれる。これは沈線文というよりも、指で撫でたような不明瞭なものである。86 は縦位の条線文が施される土器で、胎土に多量の砂粒含む。

遺構 520(図版 9) B 8 グリッドから検出した。西側が遺構 481 に切られる。平面形は正方形に近い。長径 146 cm と今回見つかったフラスコ状土坑の中では大きい部類に属する。壁面は東側で強くオーバーハングする。確認面から底面までの深さは 28cm である。

縄文土器 18 点と石器 1 点が出土した。4 点については個別に出土位置を記録した (図版 9)。また、2 点を図示した (図版 25)。87 は城之腰類型である。隆帯文は、先端が爪のような工具で斜めから抉るように刺した典型的な刺突文で加飾される。胴部には撚糸文が施される。器形はわずかに内湾する。88 は蓋形土器である。1/2 以上が残存した。身部は平たく作られ円盤状をなしている。円形の刺突文が並べられつまみの周囲を 3 周する。管状の工具を用い器面に対して垂直に突いたものである。つまみは身部の中央に 1 つ付けられ、棒状に伸び先端でやはり円盤状に広がる。先端の円盤は真ん中でややくぼむ。多賀屋敷式期に帰属すると考えられる。

遺構 536(図版 10) B 8 グリッドから検出した。東側で遺構 535 に切られ、遺構 537 を切っている。遺構 537 とのからみから平面形はやや不整形に見えるが、本来円形もしくは楕円形を呈しており、長径は 108 cm 程あったと推測される。確認面から底面までの深さは 7 cm に満たない。

遺物分布図と照合した結果、包含層で取り上げられた資料である 89 が、本遺構に含まれるものであることが判明した (図版 10)。89 は胴部から底部にかけての資料で、遺存率は約 1/5 と高い (図版 25)。胴部に縦位条線文が施される。

遺構 544 (図版 3) A 9 グリッドで検出した。平面形はほぼ円形を呈し、長径の残存値 108 cm と平均的な大きさのフラスコ状土坑である。確認面から底面までの深さは 17 cm である。

本遺構からは縄文土器 7 点と土製品 1 点が出土した。このうち土製円盤を図示した (図版 25)。90 は無文で、上側縁以外は磨耗が著しく、左側縁と下側縁では平滑な面が形成されている。

遺構 583(図版 10) B 9 グリッドで検出された。遺構西側が他の遺構 552 などに切られている。ただし断面図を作成した部分では正確な切り合い関係が分からなかった。平面形は楕円形を呈し、長径は約 100cm と推計される。確認面から底面までの深さは 18 cm と浅い。

本遺構からは縄文土器 17 点、石器 1 点が出土した。91 は遺構内での接合例で、破片は全て遺構 583 の①層から出土している。92 も 91 の近くから出土した土器である (図版 10)。この 2 点を図示した (図版 25)。91 は城之腰類型である。口縁部を巡る隆帯文に絡条体を押圧している。これを回転させたもの (撚糸文 R)

が胴部に認められる。口縁がわずかに外反する。92は縦位条線文を施した胴部資料である。

遺構 621(図版 11) A10 グリッドから検出した。西側半分は調査区外となる。この付近では包含層の残存状態が良好で、Ⅰ～Ⅲ層が観察できた。本遺構はⅢ層上部から掘り込まれており、底面までの深さは42cmである。平面形はほぼ円形を呈し、長径92cmとやや小形である。底面には若干の凹凸があるが、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土はほぼ水平に堆積している。

上で述べたとおり、保存状態が良い遺構であったが、縄文土器が10点出土したに過ぎない。このうち1点を図示した(図版 26)。93は赤く焼成の悪い土器で、胎土中に大粒の土器粒を多く含む。縦位条線文が施されている。

遺構 638(図版 11) B10 グリッドから検出した。他の遺構との切り合いはない。平面形はほぼ楕円形で、長径は126cmである。底面はほぼ平坦で、そこから壁面が垂直に立ち上がる。確認面から底面までの深さは42cmであった。覆土①層の在り方から2遺構の重複であるとも考えたが、単一の遺構であると解釈した。

遺物は137点が出土した。内訳は縄文土器132点・土製品1点・礫2点である。土器はやはり細片がほとんどで、接合例も確認できない(図版 11)。20点を図示した(図版 26)。94・95はU字状沈線文の中に縄文が見られる。加曽利EⅣ式系統のものと考えられる。96も同系統のものであろう。縦位の沈線文が描かれ、片方のみ縄文が施される。97は口縁部に上下2条の加飾隆帯文を巡らせるもので、後期初頭から前葉にかけてしばしば在地系の土器に見られる文様である。口縁部やや外反する。98は口縁部に沈線文を引き、その下に撚糸文らしきものを施す。99は加飾隆帯文より上部がやや内傾するものである。加飾隆帯文の刺突は細かくほぼ垂直に施文されている。101は縄文の結節部のみを強調して横回転させたもののようである。102は横位沈線文から斜位の沈線文を加えている。103は城之腰類型。口縁部がやや外反する。胴部には縄文が施されているようだが、明瞭ではない。104～107は撚糸文のバリエーションを示した。106では縦位と横位の撚糸文を重ねて施文している。108は結節縄文を施す。109～111は条線文のバリエーションである。111では非常に目の細かい条線文が確認される。112は南三十稲場式の小仙塚類型信州系土器群〔品田 2002〕と呼ばれる一群の口縁部と捉えた。器面の風化が著しいが、口縁端部に沈線文と指で押圧したような刺突が認められる。113は土製円盤である。結節縄文が認められる。砂粒を多量に含み風化も顕著であり、磨耗痕の観察が困難である。

遺構 645(図版 11) B10 グリッドで検出したフラスコ状土坑である。北側が遺構 644(柱穴)に切られている。平面形はほぼ円形を呈し、長径は81cmである。断面形は袋状を呈する。Ⅲ層上面から掘り込まれ、ここから底面までの深さは33cmである。遺構上部が削平を受けておらず、断面形状を良好に示す遺構である。

上部の削平を受けず保存状態の良い遺構であったが、遺物は全く出土しなかった。

(4) 埋設土器

遺構 365(図版 12) B6 グリッドで検出した。長径44cmの平面楕円形を呈するピットと、そこに埋められた土器である。確認面からの深さは13cmである。ピットは半分近くを遺構 364に壊されていたが、出土した土器は口縁のわずかな部分を除きほぼ完形であった(図版 26)。土器は正立して設置されていた。

このピットを掘り抜くと、ピット開口部の縁の部分のⅣ層(浅黄色風化火山灰層)が赤色化していることが判明し、これらが炉と炉体土器である可能性が生じた。しかしながら、土器の周囲の土には焼土粒がまったく含まれず、赤色化しているⅣ層土とピット覆土との境界が非常に明瞭であった。従って、両者は別遺構であり、遺構 365、つまり埋設土器は、元々ここにあった地床炉を壊してピットを掘り、そこに埋め

られたものと解釈される。

埋設土器（図版 26-114）は細かい砂粒を多く含み、器厚の薄い土器で、器面は白っぽく風化が顕著である。口縁から胴部上半には、浅く太い沈線文を弧状に描きそれを幾重にも並べている。胴部の中ほどには、ごく一部縄文が施文された痕跡が認められる。三十稲場式には弧線を重ねる文様の浅鉢形土器（註 14）が伴うが、この資料もその系統に連なるものと考えられる。

（5）その他のピット

遺構 3（図版 12） A 2 グリッドで検出した遺構である。平面形は楕円形で、長径は 110 cm である。底面は平坦で、確認面からの深さは 9 cm。これら記録された形状、規模からは土坑に分類すべきところであるが、V 層（砂礫層）で検出されたものため不明なところが多く、ここに含めた。

縄文土器 5 点が出土したが、図化に適うものは出土していない。

遺構 5・6（図版 12） A 2 グリッドで検出した。遺構 6 を遺構 5 が切っている。両遺構とも遺構 3 と同じく、V 層（砂礫層）で検出したもので、不明なところが多い。その中でも遺構 5 は約 40 cm 掘り込まれており、柱穴に分類した。

遺構 5 から 15 点縄文土器が出土した。1 点を図示した（図版 27）。115 は網目状捺糸文が施されている。

遺構 11（図版 2） A 2 グリッドで検出した種別不明の遺構。平面形は円形を呈し、長径 90 cm、確認面から底面までの深さは 54 cm である。

縄文土器が 10 点出土した。2 点を図示した（図版 27）。116 は城之腰類型。117 は時期不明である。

遺構 12（図版 12） B 2 グリッドで検出した柱穴である。東側部分が調査区外で長径は 120 cm であったが、全体では 200cm 近い規模の遺構であると推測される。平面形は楕円形を呈す。確認面から底面までの深さは 95 cm。覆土は多量の礫が混じり、上層から下層へ暗色を呈するように変化したが、柱痕らしきものは観察できなかった。

本遺構からは縄文土器が 59 点出土した。いずれも細片であり、覆土①層～③層からまともりなく出土している。このうち 6 点を図示した（図版 27）。118 は強く外反する口縁。119 は多賀屋敷類型である。円形の貼付文（凸瘤文）を張り、その後に沈線文を帯状に描き、捺糸文を施している（註 15）。120 は横長の橋状把手、121 は縦長の橋状把手である。121 では中央に縦位の凹線文を描き、他には縄文を加えている。三十稲場類型にもこのような把手を付けるものがある。122・123 は網目状捺糸文の土器である。

遺構 13（図版 12） B 2 グリッドで検出した柱穴である。この遺構も V 層（砂礫層）の中で検出したものである。平面形は楕円形を呈し、長径 72 cm。確認面から底面までの深さは 37 cm である。

本遺構からは縄文土器が 38 点出土した。このうち 3 点を図示した（図版 27）。124 は覆土②層中から出土したもので、三十稲場類型の口縁部資料である。橋状把手の上位を円盤のような突起とし、この内側と把手中央に、それぞれ弧状の沈線文を引く。沈線文の両側には縄文を施している。三十稲場式 2 期のものであろう。125 は縦位条線文の土器で、器表面に炭化物が付着する。126 は縄文を施した土器である。

遺構 24・25（図版 13） A 3 グリッドで検出した。遺構 24 は遺構 25 に、遺構 25 は別ピットに切られている。遺構 24 の覆土はより暗色を示し、遺構 25 の覆土は比較的明るいことから、両者の時期差を窺わせる。遺構 24 は柱穴に分類したが、遺構 25 は不明とした。

遺構 24 からは縄文土器 26 点が出土している。このうち 2 点を図示した（図版 27）。127 は横長の楕円文の内側に斜位沈線文を充填したものか。帰属時期・系統は明らかでない。128 は蓋形土器である。

遺構 25 からは遺物は出土しなかった。

遺構 35 (図版 13) A～B 2～3 グリッドで検出した柱穴である。全体の形状はやや不整形な円形を呈し、長径は 109 cm である。中央部分で一段深く掘り込まれており、断面形は階段状となる。一段深く掘り込まれた部分の東側に暗色を呈する土層が認められ、これが柱痕と推測される。確認面から底面までの深さは 63 cm を測る。

本遺構からは縄文土器 2 点と礫 1 点が出土したが、図化に合うものはなかった。

遺構 37・39・40 (図版 13) A～B 3 グリッドで検出した。両者とも溝のような形状の遺構 39 を切っている。遺構 37 は長径 158 cm、確認面からの深さ約 72 cm で、規模が大きく、掘り込みがしっかりとした柱穴である。遺構 40 は長径 120 cm、確認面からの深さ 70 cm。一部分を深く掘り込んだものでやはり柱穴である。一方、遺構 39 は種別不明である。

遺構 37 からは縄文土器が 77 点出土したが、このうち 3 点を図示した (図版 27)。129 は弧状の加飾隆帯文が認められ、わずかながら条線文も見える。三十稲場式期の城之腰類型であろう。130 は斜位に撚糸文が施される。131 は粗雑な撚糸文が施されている。

遺構 40 からは 54 点の縄文土器が出土した。このうち 2 点を図示した (図版 27)。132 は口縁を外に開く浅鉢であろう。口唇部と口縁に合計 3 本の太い沈線文を引く。口縁部の 2 本の沈線文の上下には連続刺突文があり、下の連続刺突文のさらに下には縄文が施される。帰属時期を明らかにできなかった。133 は縦位条線文が施される土器である。

遺構 42 (図版 13) B 3 グリッドで検出した。遺構 41・44 を切る。平面形は楕円形で長径 85 cm、断面は中央部分にやや深いところがある。これは①層の堆積する範囲と対応することから、ここが柱痕と推測される。確認面から底面までの深さは 60 cm。明瞭な柱穴である。

本遺構からは 15 点の縄文土器が出土したが、図化に合うものはなかった。

なお、この遺構 42 の南に分布する、遺構 50・57～59・61 は近代の磁器等を混入することからカクランとして扱った。遺構 50 は遺構 252 と類似する。平面形は円形で、覆土には多量の礫を含み、土壌には多くの空隙が認められた。非常に深い遺構であったため完掘には至らなかったが、近代の井戸跡と考えられる。遺構 57～59・遺構 61 は底面が丸みを帯び、覆土も周囲の遺構とは明瞭に違い粘性が強かった。こちらはゴミ穴と考えられる。

遺構 51 (図版 2) B 3 グリッドで検出した柱穴である。縄文土器 1 点を図示した (図版 27)。134 は隆帯文をやや複雑な形に連結させたもので、一部には連続刺突文が施される。時期・器種とも不明である。

遺構 78 (図版 13) B 3 グリッドで検出した。南側で遺構 80 を切っている。平面形は楕円形を呈し、柱穴かと思われたが、確認面から底面までの深さは 22 cm と浅く、種別は不明である。

2 点の縄文土器が出土したが、図化に合うものはなかった。

遺構 80 (図版 13) B 3 グリッドで検出した。北東側をわずかに遺構 78 に切られる。平面形は円形を呈し、長径 88 cm である。断面には段が認められ、南側が深い。覆土②～④はこの深い部分と対応し、暗色を呈することから、ここが柱痕と考えられる。確認面から底面までの深さは 48 cm である。

本遺構からは 6 点の縄文土器が出土した。このうち 1 点を図示した (図版 27)。135 は楕円形の貼付文があり、その周りに刺突文を巡らしている。その刺突のさらに外側に沈線文とよくナゲ調整された隆線が加わる。部分的に朱彩の痕跡が残る。隆線文の調整手法から中期後葉のものとした。

遺構 101 (図版 5) A～B 4 グリッドで検出した種別不明のピットである。北側を 1 号建物跡の柱穴であ

る遺構 100 に切られている。平面形は不整形で、掘り込みも 6 cm で浅い。

本遺跡からは縄文土器が 29 点出土した。いずれも細片であり、1 点を図示した (図版 27)。136 は非常に細かい撚糸文を施したもの。今回の調査では、少数ながらこの類が出土している。

遺構 114・116 (図版 14) B 4 グリッドで検出した。両者の平面形とも不整形であり、掘り込みも浅く、種別は不明である。

遺構 114 からは 10 点の縄文土器が出土した。2 点を図化した (図版 27)。137 は口縁が外反し、縄文が施される土器。138 は隆線文と縄文が見られ、隆線の脇の調整の仕方から中期後葉のものと推測される。

遺構 121 (図版 2) B 4 グリッドで検出した柱穴である。

9 点の縄文土器が出土し、このうち 2 点を図示した (図版 27)。139 は胴部縄文の城之腰類型。加飾隆帯文には斜位の短沈線文が見られる。140 は器厚が薄く、細い集合沈線文が見られる。南三十稲場式新段階の細片であろう。

遺構 122 (図版 14) B 4 グリッドで検出した。東側の半分は調査区外である。平面形は楕円形を呈し、長径 84 cm。断面図から III 層から掘り込まれ底面までの深さは 48 cm。柱痕はないが柱穴と捉えた。

本遺構からは縄文土器が 3 点出土したが、図化に適うものはなかった。

遺構 143 (図版 2) B 4 グリッドで検出した柱穴である。西側を遺構 144 に切られる。

本遺構からは縄文土器 6 点が出土した。このうち 2 点を図示した (図版 27)。141 はゆるく内湾する口縁部で、2 条の加飾隆帯文を巡らしている。隆帯文上の刺突は竹管状工具で垂直に押されたもので、環状の痕跡となっている。胴部には細かい撚糸文が縦位に施される。142 は底部付近の資料である。これにも細かい撚糸文が施されており、141 と同一個体である可能性が高い。後期初頭に帰属するものであろう。

遺構 148 (図版 2) B 4 グリッドで検出した種別不明の遺構である。東側で 1 号建物跡の柱穴である遺構 153 に切られる。

本遺構からは 16 点の縄文土器が出土したが、このうち 1 点を図示した (図版 28)。143 は緩やかな波状口縁の鉢形土器。無文であり、帰属時期は不明である。

遺構 157 (図版 5) B 4 グリッドで検出した柱穴である。北西側で遺構 104 に、南西側で遺構 106 に切られる。平面形は本来楕円形を呈していたものと推測され、長径は約 70 cm と推計される。確認面から底面までの深さは 37 cm であった。

本遺構からは縄文土器が 3 点出土している。1 点を図示した (図版 28)。144 は弧状の条線文を描く口縁部資料である。

遺構 168 (図版 2) B 4 グリッドで検出した柱穴である。平面形はほぼ楕円形を呈し、長径は 62 cm、確認面から底面までの深さは 20 cm であった。

本遺構からは縄文土器が 4 点出土した。このうち 2 点を図示した (図版 28)。145 は中期中葉の矢羽根状沈線文をもつ口縁部付近の資料である。

遺構 202 (図版 2) A 5 グリッドで検出した柱穴である。北側が遺構 200 を切り、西側は遺構 203 に切られる。平面形は楕円形を呈し、長径 52 cm。確認面から底面までの深さは 44 cm である。

縄文土器 2 点と石器 1 点が出土している。2 点を図示した (図版 28)。146 は斜位方向に撚糸文が施文される資料である。147 は珪質頁岩の剥片を素材とした楔形石器である。実測図正面左の階段状剥離は石核調整 (頭部調整) の痕跡であり、調整が施されるやや平坦な礫面を打面として素材剥片が剥離されている。裏面左上に連続する剥離が施されており、ここも使用されていた可能性がある。また、石器の上・左・右

の3面に礫面が残されており、このことから母岩（石核）の大きさ・形状を推定できよう。

遺構 217 (図版 14) A 5 グリッドで検出した柱穴である。南側が遺構 218 を切る。全体の平面形は丸みを帯びた三角形のような形をしており、長径は 74cm であった。底面の東側に直径 12 cm ほどの深い部分があり、ここに柱痕であった可能性が高い。残念ながら土層断面はそこからはずれたところで記録している。確認面から最深部までの深さは 41cm である。

本遺構からは遺物は出土していない。

遺構 218 (図版 14) A 5 グリッドで検出した柱穴である。北側が遺構 217 (柱穴) に切られている。平面形は楕円形で長径は 52 cm、確認面から底面までの深さは 31 cm である。

本遺構からは縄文土器 4 点、礫 1 点が出土した。このうち 1 点を図示した (図版 28)。148 は撚糸文を施した胴部破片である。

遺構 225 (図版 14) A 5 グリッドで検出した柱穴である。西側が遺構 224 を切る。平面形は不整楕円形で、長径は 88 cm を測る。確認面から底面までの深さは 48 cm である。東西で段差があり西が浅く東が深い。東側の深い部分が柱痕である。

本遺構からは 11 点の縄文土器が出土した。このうち 1 点を図示した (図版 28)。149 は縄文が施された土器である。

遺構 238・240 (図版 14) A～B 5 グリッドで検出した。遺構 238 は平面形円形を呈し、フラスコ状土坑の可能性もあるが、遺構 237・239 が掘り込まれており判然とないため、種別は不明とした。一部で残っている断面によると、確認面から底面までの深さは 12 cm である。遺構 240 は遺構 238・239 を切っている。長径 40 cm に対して深さ 68 cm という形状から、柱穴と考えられる。

両遺構から遺物は出土しなかった。

遺構 267 (図版 2) B 5 グリッドで検出したピットである。北側で遺構 266 (柱穴) に切られ、一方、西側で遺構 268 を切っている。平面形は本来楕円形をしていたと推測され、長径 52 cm である。確認面から底面までの深さは 23 cm であった。

本遺構からは縄文土器が 8 点出土し、このうち 1 点を図示した (図版 28)。150 は縦位の集合沈線文の資料で、南三十稲場式新段階のものであろう。

遺構 269 (図版 15) B 5 グリッドで検出した柱穴である。東側で遺構 270 に切られる。西側には小さく突き出たテラス状の部分がある。長径はこのテラス部分も含めて約 80 cm あったと推測される。確認面から底面までの深さは 43 cm である。

縄文土器が 5 点出土したが、図化に適うものはなかった。

遺構 272 (図版 15) B 5 グリッドで検出した柱穴である。平面形は楕円形を呈し、長径 73 cm。確認面から底面までの深さは 49 cm であった。覆土はほぼ同一層であったが、わずかに南側が暗い部分があり、ここが柱痕だと考えられる。

本遺構からは 27 点の縄文土器が出土した。このうち 2 点を図示した (図版 28)。151 は縦位の撚糸文、152 は縄文が施されている。

遺構 280・281・220 (図版 15) A～B 5 グリッドで検出した。遺構 280 はその形状からフラスコ状土坑である可能性が指摘できるが、他遺構に切られており詳細が不明である。遺構 281 は B 5 グリッドで検出したカクランで、「口」の字形に巡る溝である。遺構 220 は長径 50 cm、確認面から底面までの深さが 40 cm の柱穴である。

遺構 280 からは縄文土器 8 点・礫が 1 点出土した。また、遺構 220 からは縄文土器 2 点と石器 1 点が出土した。いずれも図化に適うものがなかった。

遺構 282 (図版 15) A～B 5 グリッドで検出した柱穴である。わずかであるが東側をカクランである遺構 281 に切られている。平面形は楕円形で、長径は 69 cm である。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 32 cm であった。

本遺構からは縄文土器が 5 点出土した。このうち 1 点を図示した (図版 28)。153 は条線文の資料で、縦位ものと曲流するものとを組み合わせているようである。

遺構 284 (図版 2) B 5 のカクラン遺構 281 の内側で検出された遺構である。平面形は楕円形を呈し、長径は 40 cm、確認面から底面までの深さは 17 cm である。詳細は不明だが、柱穴である可能性が高い。

本遺構からは縄文土器 15 点と土製品 1 点が出土した。このうち 2 点を図示した (図版 28)。154 は L 縄文を施しているが、その後で縦位にナデを加えている。155 は土製円盤である。文様は観察されない。左右の側縁で磨耗が顕著である。

遺構 292 (図版 2) B 5 で検出した遺構である。遺構 291・293 (柱穴) やカクランに切られており、全体の形状は不明である。

この遺構からは縄文土器が 2 点出土した。このうち縄文土器 1 点を図示した (図版 28)。156 は、器面の風化が著しいが、沈線文の描き方から小仙塚類型信州系土器群と考えられる。

遺構 296 (図版 2) A 6 グリッドで検出した遺構である。北側で遺構 229、南側で遺構 299 (土坑) に切れ、さらに西側の一部は調査区外へと続いているため、全体形状は判然としない。確認面から底面までの深さは 20 cm である。

本遺構からは 22 点の縄文土器と 1 点の礫が出土した。このうち 4 点を図示した (図版 28)。157 は、高く伸びる橋状把手や、わずかに見える磨消縄文などから、加曽利 E IV 式系のもと考えられる。ただし、口縁部には加飾隆帯文も巡っており、在地化が著しい。加飾隆帯文への刺突は先端の尖った工具を垂直に突いたものである。158 は浅い弧状沈線文を重ねたものである。これは埋設土器である 114 と同様に、大木 10 式の系譜に連なる浅鉢にしばしば見られる表現である。159 は条線文が施されるが、原体が細いためか、文様のはっきりしない。160 は縄文を施す資料である。

遺構 303 (図版 2) A 6 グリッドで検出した柱穴である。西側は調査区外へ続いている。平面形は楕円形を呈し、長径 87 cm、確認面から底面までの深さは 37 cm である。

本遺構からは縄文土器が 5 点出土し、このうち 1 点を図示した (図版 28)。161 はミニチュア土器である。無文で、器高 6.8 cm を測り、口径は 8.5 cm を推計する。口縁部付近のナデ調整が顕著である。

遺構 310 (図版 3) A 6 グリッドで検出した種別不明の遺構である。西側一部は調査外へ伸び、北側で遺構 309 と接する。遺構 309 との切り合いは不明であった。平面形は不整形で、長径は残存値で 92 cm である。確認面から底面までの深さは 16 cm である。

本遺構からは縄文土器が 19 点出土した。このうち 3 点を図示した (図版 28)。162 は非常に丁寧にナデ調整された隆線文が 2 条横位に附され、その下に縄文が施されている。縄文の一部はナデ調整によって消されている。163 は細い条線文、164 は不鮮明ながら L 縄文が施されるものである。

遺構 311・312 (図版 15) これらは A～B 4 グリッドで検出した柱穴である。遺構 363 の西側を遺構 311・312 が切り、遺構 312 の南側を遺構 311 が切っている。遺構 311 は平面形が楕円形で、長径は 66 cm、確認面から底面までの深さは 42 cm である。遺構 312 も平面形が楕円形で、長径は 84 cm、確認面から底面まで

の深さは46 cmであった。覆土の②～④層が柱痕と考えられる。

遺構 311 からは遺物は出土していない。一方、遺構 312 からは縄文土器 34 点と礫 1 点が出土し、このうち 4 点を図示した (図版 28・29)。165 は太く浅い沈線文を 2 本～3 本横位、斜位に描いたもので、一部には縄文も見られる。小仙塚類型信州系土器群であろう。166・167 は撚糸文、168 は無節の縄文が施される土器である。

遺構 313 (図版 16) A～B 6 グリッドで検出した遺構である。北端で遺構 312 を切る。平面形は不整形を呈し、長径は 88 cm である。確認面から底面までの深さは 34 cm である。柱穴であろうか。

本遺構からは縄文土器 10 点が出土したが、図化に適うものはなかった。

遺構 314 (図版 3) A 6 グリッドで検出した。平面形は円形を呈し、長径は 42 cm である。確認面から底面までの深さは約 30 cm であるが、柱穴に分類した。

縄文土器が 7 点出土した。このうち 1 点を図示した (図版 29)。169 は撚糸文を施したものである。

遺構 315 (図版 16) A 6 グリッドで検出した柱穴である。東端が遺構 314 に切られており、西半分は調査区外となる。平面形は楕円形を呈し、長径を推計で約 50 cm。確認面から底面までの深さは 47 cm である。覆土②層が柱痕である。

本遺跡からは縄文土器が 2 点出土したが、図化に適うものはなかった。

遺構 317 (図版 16) A 6 グリッドで検出した。北側で別のピットで切られる。平面形は不整形で長径は残存値で 68 cm である。断面形は台形状ないし V 字状で、確認面から底面までの深さは 38 cm である。種別は不明である。

遺物は出土していない。

遺構 321 (図版 3) B 6 グリッドで検出した柱穴である。西側を遺構 323 に切られる。平面形はほぼ円形を呈し、長径は 124 cm、確認面から底面までの深さは 42 cm であった。壁面がややオーバーハングする。

この遺構からは縄文土器 23 点と石器 3 点が出土した。このうち 2 点を図示した (図版 29)。170 は集合沈線文と細かい連続刺突文 (列点文)、一部に縄文を施したもので、南三十稲場式新段階のものである。171 は打製石斧である。厚手の横長剥片を素材とする。実測図正面に礫面、裏面に主要剥離面を残す。刃部の一部に摩滅痕が確認される。

遺構 324 (図版 3) B 6 グリッドで検出した。北側で遺構 323 と接するが、切り合い関係は不明である。平面形は楕円形で、長径は 70 cm を超えると推測される。確認面から底面までの深さは 23 cm である。種別は不明である。

本遺構からは 2 点の縄文土器が出土した。このうち 1 点を図示した (図版 29)。172 は胴部下半から底部にかけての資料で、典型的な三十稲場類型の花弁状刺突文が施される。

遺構 329 (図版 3) B 6 グリッドで検出した。東側一部分は調査区外である。平面形は楕円形を呈し、長径 43 cm、確認面から底面までの深さは 20 cm に満たない。種別は不明である。

本遺構からは縄文土器が 4 点出土した。このうち 1 点を図示した (図版 29)。173 では口唇部に横位沈線文を引き、その下に斜位短沈線文を連続させている。小仙塚類型信州系土器群の口縁部である。

遺構 331 (図版 3) B 6 グリッドで検出した。東側の一部を遺構 332 に切られる。平面形は楕円形を呈し、長径は推計値で約 70 cm である。確認面から底面までの深さが 21 cm と浅いが、柱穴とした。

本遺構からは 8 点の縄文土器が出土した。このうち 2 点を図示した (図版 29)。174・175 は、条線文をやや乱雑ながら斜格子状に引いたものである。同一個体資料である可能性が高い。

遺構 338 (図版 16) B 6 グリッドで検出した。北端が遺構 334 を切り、南端は遺構 342 に切られる。平面形は概ね円形を呈し、長径 84 cm を測る。底面は平坦で、壁面は急傾斜で立ち上がる。確認面から底面までの深さは 16 cm である。やや小ぶりであるが、フラスコ状土坑の可能性もある。

本遺構からは縄文土器が 10 点出土した。このうち 1 点を図示した (図版 29)。176 は後期初頭～前葉の原山類型である。口唇部に斜位に抉るような刺突を並べ、頸部に横位と斜位の沈線文を引いている。胴部の文様は不明である。

遺構 346 (図版 3) A～B 6 グリッドで検出した種別不明の遺構。北側で遺構 306 等と接する。

本遺構からは縄文土器が 54 点出土したが、このうち 3 点を図示した (図版 29)。177・178 は網目状撚糸文を施した土器である。179 も撚糸文を施文した資料である。

遺構 363 (図版 15) B 6 グリッドで検出した柱穴である。北側を遺構 311、西側を遺構 312 に切られる。平面形は本来楕円形を呈するものと推測され、長径は約 100 cm と推計される。残存部の断面形は台形状を呈し、確認面から底面までの深さは 45 cm である。

本遺構からは 8 点の縄文土器が出土した。このうち 1 点を図示した (図版 29)。180 は、その器形から後期初頭～前葉の原山類型であると捉えられる。口縁部は無文で、ナデ調整が目立つ。頸部の区画文が見当たらない。胴部には縄文が施されているが、口縁部からのナデ調整によって消されている。また、外面には炭化物の付着が顕著である。

遺構 364 (図版 12) B 6 グリッドで検出した柱穴である。先に見た埋設土器を埋めたピットである遺構 365 を切っている。平面形は楕円形を呈し、長径は 76 cm。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 44 cm である。覆土①～③層が柱痕と考えられる。

本遺構からは縄文土器 49 点が出土した。このうち 2 点を図示した (図版 29)。181 は三十稲場式 1 期の三十稲場類型である。口縁部を強く外反させてほぼ水平な蓋受けとし、胴部には刺突文ではなく撚糸文が選択されている。182 は外反する頸部付近の破片であり、縦位弧状などの沈線文と縄文で施文されている。これは南三十稲場式の一つと考えた。182 は、遺構 365 から出土した埋設土器 114 よりも新しく、遺構の新旧関係と矛盾しない。一方、181 は 114 と同時期か、むしろ古いものと考えられる。

遺構 368 (図版 3) B 6 グリッドで検出した種別不明の遺構。北側で遺構 369 と接する。平面形は不整形で、長径は残存値で 37cm、確認面から底面までの深さは 16 cm である。

本遺構から縄文土器 6 点と石器 1 点が出土した。2 点を図示した (図版 29)。183 は花卉状刺突文を施す三十稲場タイプの胴部下半から底部にかけての資料である。184 は磨製石斧である。刃部に剥離面、基部には敲打痕が残る。刃部の剥離面に擦痕が確認されることから、両極打撃によるリダクションの後に再度研磨を行い始めた段階、刃部再生の中間段階の状態を留めているものと推測される。

遺構 383 (図版 3) A 7 グリッドで検出した。平面形は楕円形を呈し、長径は 60 cm、底面までの深さは 46 cm である。種別は柱穴である。

本遺構からは縄文土器 25 点が出土した。このうち 1 点を図示した (図版 30)。185 は口縁から胴部へ条線文を描く土器で、バケツ状に開く器形が推測される。

遺構 387 (図版 3) A 7 グリッドで検出した種別不明の遺構。遺構 386・388・424・425 などと接するが、切り合いは不明であった。

本遺構からは 17 点の縄文土器が出土した。このうち 3 点を図示した (図版 30)。186 は三十稲場タイプの橋状把手。板状であるがやや捻りが加わっている。187 は刺突文が施される三十稲場類型。186・187 とともに

十稲場式2期のものであろう。188は城之腰類型である。

遺構 390 (図版 3) A7グリッドで検出した柱穴である。平面形はほぼ円形で長径37cm、深さは39cmである。

縄文土器5点との石器1点が出土した。1点を図示した(図版30)。189は無節縄文を施した資料である。

遺構 392 (図版 16) A7グリッドで検出した。北側が遺構391に切られ、南側が遺構394を切っている。平面形はやや歪んだ円形で長径57cm。断面形はU字状で確認面から底面までの深さは53cm。覆土①～②層が柱痕である。

本遺構からは縄文土器が16点出土したが、図化に適うものはなかった。

遺構 396 (図版 17) A～B7グリッドで検出した柱穴である。北側を遺構393・394に切られが、平面形は方形であったと推測される。南側にテラス状の段がつく。長径は130cm程度と推測される。確認面から底面までの深さは69cmであった。

本遺構からは117点の縄文土器と3点の石器が出土した。このうち11点を図示した(図版30)。190は垂直に立ち上がる口縁を持つ無文の土器。口縁に沿って横位方向のナデ調整が重ねられている。粗い作りで内面には指の腹で押したような調整痕が顕著である。191は内湾する口縁部で、上から下への刺突を横位に連続させ、それを二列並べている。刺突文の下には縄文が施される。類例を見つけられず、時期は不詳である。192は口縁の外反する城之腰類型。加飾隆帯には横位の短沈線文を加え、胴部には縄文を施す。193は、花卉状刺突文が施される土器。194・195は蓋形土器である。195は中空状の工具で刺突されている。196・197は条線文、198は撚糸文、199・200は縄文が施文されている。

遺構 402 (図版 3) A7グリッドの遺構400(フラスコ状土坑)に接して検出したピット。遺構のほぼ半分が調査区外となる。平面形は楕円形で長径は60cmと推計される。確認面から底面までの深さは11cm。

5点の縄文土器が出土した。1点を図示した(図版30)。201はやや大形の破片だが縄文のみを施す。

遺構 404 (図版 17) A～B7グリッドで検出した種別不明の遺構。北側が遺構401・403、南側が遺構416に切られている一方、南東側では他のピットを切っている。平面形は不整形で、断面形は箱状を呈するが、確認面から底面までの深さが4cm～15cmと浅く、安定しない。

この遺構からは縄文土器が15点出土した。このうち6点を図化した(図版30)。202は城之腰類型である。加飾隆帯文は、隆帯の断面が三角形で、指の腹で押しくぼませるような刺突が加えられている。203は器厚が9mmと薄い土器で、器形が緩やかに外反し、沈線文が描かれていることから、城之腰類型ではなく三十稲場式3期の三十稲場類型と考えられる。加飾隆帯文の刺突文は密接して附され円形にくぼむが斜位に抉ったものである。204は内湾する器形の土器である。鉢であろうか。縄文を施文した後、2本の沈線文を横位に描き、その上に蛇行沈線文を引く。上位の横位沈線文はその右側で蛇行沈線文と連続する。205は結節縄文が施される。206は丁寧に器面が調整された土器である。平行する沈線文の間に細かい縄文を充填している。207は注口付鉢形土器。平行する沈線文で三角形文などが描かれる。

遺構 415 (図版 8) B7グリッドで検出した柱穴。北側が遺構412(フラスコ状土坑)・遺構414(柱穴)に切られる。平面形は不整形で、長径は残存値で71cm。確認面から底面までの深さは34cm。しっかりと掘り込まれた遺構である。

本遺構からは縄文土器1点が出土した(図版30)。208は口縁を広く無文とし、その下位に附した環状貼付文の両脇に横位の沈線文が引かれる。さらに環状貼付文から四本の沈線が放射状に伸びる。施文順序は貼付文→沈線文であるが、先行して沈線文による下書きがなされている。沈線間には縄文が確認できる。

遺構 419 (図版 16) B7グリッドで検出した柱穴。西側で遺構420に切られる。平面形は円形を呈し、長

径 49 cm、確認面から底面までの深さは 67 cm である。覆土①層が柱痕である。

縄文土器 1 点が出土したが、図化に適うものではなかった。

遺構 428 (図版 18) B 7 グリッドで検出した。北側で遺構 427 (柱穴) に切られ、東半分は調査区外となる。平面形は楕円形で長径の推計値は 100 cm を超える。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 61 cm である。比較的規模の大きい柱穴である。

本遺構からは 36 点の縄文土器と 1 点の礫が出土した。このうち 5 点を図示した (図版 30・31)。209 は内湾する口縁の破片。横位に貼った隆帯文を丁寧に調整し、下位に縄文を施す。210 は小形の鉢形土器である。波状口縁で、その頂部に 4 箇所のかかりが認められる。かかりの下には半截竹管状工具で垂直に突いた刺突が 6 つ並ぶ。この範囲には粘土が貼られた痕跡がある。帰属時期・系統等は不明である。211 はための撚糸文を附す城之腰類型である。加飾隆帯文の刺突は先端のささくれた工具で斜位に刺したものである。無文部は丁寧に磨かれている。212 は角ばった工具の角で刺したような三角形の刺突文が見られる。213 は蓋形土器であろう。小さい円筒形の突起、円形を描く沈線文、円形の刺突の充填文などが見られる。

遺構 431 (図版 3) B 7 グリッドで検出した。北側で遺構 430 を切る楕円形の柱穴である。長径 48 cm、底面までの深さは 36 cm であった。

縄文土器 8 点と礫 2 点が出土し、このうち 2 点を図示した (図版 31)。214 は三十稲場類型でも新しい要素が多く見られる。特に口縁部の先が内側に折れる形態は珍しく、棒状化した橋状把手の上下に円形の凹文を附す。三十稲場式 3 期のものと考えられる。215 は蓋形土器で、太く深い沈線文と縄文で施文される。

遺構 432 (図版 18) B 7 グリッドで検出した柱穴。東側半部は調査区外となる。平面形は不整形で、長径の推計値は約 70 cm。底面も平坦でないが、確認面からの深さは 54 cm である。覆土①層が柱痕であろう。

縄文土器 2 点が出土したが、図化に適うものはなかった。

遺構 434 (図版 18) B 7 グリッドで検出した柱穴である。東側が遺構 433 (柱穴) を切る。平面形は楕円形で、長径は 60 cm。断面では東側に段が認められる。確認面から底面までの深さは 86 cm と深い。覆土①層が柱痕である。長径に比して掘り込みが深いという特徴から中世の柱穴と考えられる。

しかしながら本遺構から出土したのは縄文土器である。6 点出土したが図化に適うものはなかった。

遺構 440 (図版 18) B 7 グリッドで検出した柱穴である。平面・断面形ともやや歪である。長径 48 cm、深さ 29 cm であった。遺物は出土していない。

遺構 441 (図版 18) A～B 7 グリッドで検出した規模の大きな柱穴。西側が遺構 397 に切られている。平面形は不整形で長径は 104 cm。断面形は箱状を呈し、確認面から底面までの深さは 41 cm である。

本遺構からは縄文土器 73 点・石器 1 点・礫 4 点が出土した。一部については個別に出土位置を記録した (図版 18)。3 点について図示した (図版 31)。216 は蓋形土器で、遺構覆土中の上位から出土した。凸瘤文を並べる。217 は覆土下位の 4 箇所から出土した土器が接合したものである。ほぼ円筒形の器形をした城之腰類型である。胴部下半は出土していないが、口縁部を中心に全体の約 1/8 が残存し、口径を推計することができた。平口縁の一部に小さな山形突起がつく。ここから S 字状の加飾隆帯文が垂下する。加飾隆帯文の刺突は半截竹管状工具で抉ったような刺突である。口縁には水平に巡る加飾隆帯文も存在する。この水平の隆帯文の下には条線によって渦巻文や S 字文が描かれ、それらで隙間なく埋め尽くされている。218 は、217 のやや上から出土した浅鉢形土器である。無文で、口縁部の一部に小さな突起がある。炭化物の付着が著しい。炭化物は内面の胴部下半から底部にかけて全面的に厚く付着し、口唇部にも点々と認められ、それが外面の一部から底部裏側まで及んでいる。

遺構 442 (図版 19) B 7 グリッドで検出した遺構である。西側が遺構 444 に切られるほか、南側が遺構 446 等と接する。平面形はやや不整な楕円形で長径は 115 cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 79 cm である。覆土①層～⑤層が柱痕であり、⑫層部分は別遺構の可能性がある。本遺構は縄文時代の掘立柱建物跡に伴う柱穴の典型例とも言えるべき在り方を示すが、周囲で掘立柱建物跡を成すような柱穴の配列を検出することができなかった。

縄文土器 20 点と炭化物 1 点が出土している。このうち 2 点を図示した (図版 31)。219 は口縁がやや内湾する深鉢形土器で、口縁に小さな山形突起をもち、その下に環状貼付文を附す。環状貼付文の両脇には円形の凹文が並ぶ。78 等に後続するものであろうか。220 は口唇部に刺突を並べる手法から後期初頭～前葉の原山類型と捉えられる。頸部の区画文がなく、口縁やや下から条線を縦位に引いている。

遺構 443 (図版 19) B 7 グリッドで検出した柱穴である。平面形は不整形で長径 63 cm。断面形も歪な台形状で、確認面から底面までの深さは 53 cm。覆土③層部分が柱痕であろう。

本遺構からは 23 点の縄文土器が出土した。このうち 1 点を図示した (図版 31)。221 は三十稻場類型の頸部付近の資料である。加飾隆帯文の刺突は細い工具を横方向から抉るように刺し、一方、胴部への刺突文はやや幅広の工具で器面を押すように施文している。三十稻場式 2 期のものであろう。

遺構 445 (図版 18) B 7 グリッドで検出した柱穴。北端が遺構 441 と接する。平面形は楕円形で長径 48 cm。確認面から底面までの深さは 71 cm である。遺構 434 と同様に中世の柱穴と考えられる。

しかし、この遺構から出土したのは 4 点の縄文土器であった。222 は縄文が施される (図版 31)。

遺構 448 (図版 19) B 7 グリッドで検出した柱穴である。東側の一部は調査区外であり、西側が遺構 447 を切っている。平面形はほぼ円形で、長径約 100 cm と推計される。断面形は U 字状で、確認面から底面までの深さは 95 cm と深い。覆土①層～⑤層が柱痕である。

本遺構からは縄文土器 19 点と石器 1 点が出土した。このうち 2 点を図示した (図版 31)。223 では間隔を空けた縦位の沈線文を引き、その脇に縄文を施す。加曾利 E IV 式系であろう。224 は 2 本の平行沈線文を弧状に引き、その横に縄文を施す。内面は丁寧に磨かれている。南三十稻場式古段階の一つであろう。

遺構 450 (図版 8) B 7 グリッドで検出した柱穴である。東側で遺構 449、南側で遺構 452 を切る。平面形は不整形で長径は 62 cm、断面形は箱状で、確認面から底面までの深さが 31 cm であった。

縄文土器 10 点が出土した。1 点を図示した (図版 31)。225 は太い沈線文を引き、細かい撚糸文を異方向に施文しているようである。帰属時期・系統は不明である。

遺構 452 (図版 8) B 7 グリッドで検出した柱穴。北側が遺構 450 (柱穴) に切られ、南側で遺構 454 (フラスコ状土坑) を切っている。平面形は楕円形で、長径は約 90 cm と推計される。確認面から底面までの深さは 34 cm である。

縄文土器 6 点との石器 1 点が出土した。2 点を図示した (図版 31・32)。226 は厚手の大きな深鉢形土器の破片であろう。胴部には縦位の条線文が施される。227 は磨石類に分類される。実測図正面・裏面・左側面・裏面下端にも浅い凹痕が確認される。石器の表面には一部、黒色に変化している範囲がある。

遺構 456 (図版 8) B 7 グリッドで検出した柱穴。南側で遺構 454 (フラスコ状土坑) と接するが、切り合いは不明。平面は楕円形で、長径 90 cm を推計する。確認面から底面までの深さは 73 cm と比較的深い。

本遺構からは縄文土器が 37 点出土した。2 点を図示した (図版 32)。228 は口唇部が肥厚し、内湾する口縁部である。縄文を施した後に横位二本の沈線文を引く。229 は口縁部資料で、無文。時期は不明である。

遺構 458 (図版 3) B 7 南端で検出した柱穴である。北側が種別不明の遺構 457 と接するが、切り合いは

不明。平面形は不整形で、残存部の長径は 118 cm。確認面から底面までの深さは 49 cmであった。

本遺構からは縄文土器 59 点・土製品 1 点・石器 1 点、そして礫が 1 点出土した。うち 4 点を図示した (図版 32)。230 は捺糸文が施される土器で、胎土に砂粒を多く含む。231 は蓋形土器の端部付近で、太めの沈線文と加飾隆帯文が施文されている。232 は蓋形土器で、無節縄文が施される。233 は方形を呈する土製円盤。左側縁上部がやや平滑化している。

遺構 459 (図版 19) B 7 南端で検出した柱穴である。東側が遺構 461 を切る。平面形はほぼ円形を呈し、長径は 116 cm である。断面形は台形状を呈し、確認面から底面までの深さは 62 cm である。

本遺構からは縄文土器 256 点・土製品 1 点・石器 2 点、礫 4 点が出土した。このうち縄文土器 14 点、土製品 1 点を図示した (図版 32)。234 は三十稻場類型である。口縁部の外反は強いが、橋状把手の上方は円盤状に突起化して口縁上に競り上がる。胴部のほか把手の背にも刺突を加える。三十稻場式 2 期のものである。235～238 は刺突文のバリエーション。237 は角ばった工具の先端を使用して三角形の刺突としたもの。238 は細い工具で斜め方向へ連続的に突いたものである。239 はゆるい波状口縁をもつ口縁部である。波頂部から隆帯文を「し」の字に垂下させている。隆帯文は、先端が円筒形の工具で斜め方向から連続的に刺突されている。三十稻場式 2 期に伴う城之腰類型であろう。240 は結節縄文を施したものである。241～243 は捺糸文のバリエーション。241 は網目状捺糸文、242 は縦位の捺糸文、243 は横位と斜位の捺糸文が施される。244～246 は条線文のバリエーション。縦位のもの、曲流するもの、縦位+斜位のものが確認される。247 は縄文が施される土器。248 は土製円盤である。条線文が見られ、手前の破断面に若干の磨耗が観察される。

遺構 461 (図版 19) B 7 グリッドで検出した柱穴。遺構 459 に切られている。平面形は楕円形を呈すると思われる、長径約 60 cm と推計される。確認面から底面の深さは 28 cm であった。

この遺構からは 4 点の縄文土器が出土した。このうち 1 点を図示した (図版 32)。249 は口縁下に隆帯文を巡らし、その下に縄文と沈線文を施している。口縁は肥厚する。時期は不明である。

遺構 463 (図版 3) B 7 グリッドの南端で検出したピット。南側で遺構 464 と接する。

本遺構からは縄文土器が 7 点出土し、このうち 1 点を図示した (図版 32)。250 は強く内湾する器形を持つ浅鉢であろうか。口縁には二本の沈線文を巡らし、その間に半截竹管状工具による斜め方向からの刺突を並べる。その外側にもわずかな範囲に刺突文が見られる。

遺構 470 (図版 19) A 8 グリッドで検出した種別不明の遺構。西側は調査区外となる。遺構 468・469・470 などに掘り込まれている。平面形は楕円形で残存部の長径は 204 cm である。断面形は東が深く西が浅い形状となり、。確認面から最も深い底面までは 23 cm であった。

本遺構からは 68 点の縄文土器が出土したが、このうち 4 点を図示した (図版 32)。251 は城之腰類型である。隆帯文は調整されておらず、一部に胴部の縄文が及んでいる。また、隆帯文上には斜めから抉るような刺突が加えられる。252 は花弁状刺突文が施される三十稻場類型の胴部資料。253 は口縁に円形の凹文を並べるもので、南三十稻場式古段階の一つ。254 は縄文が施される。外面の一部に炭化物が付着する。

遺構 473 (図版 3) A 8 グリッド、遺構 470 の南側で検出した柱穴である。南側で遺構 474 と接する。平面形は楕円形で長径 90 cm、確認面から底面までの深さは 44 cm であった。

縄文土器 9 点と石器 1 点が出土した。このうち石器 1 点を図示した (図版 33)。255 は打製石斧である。薄手の縦長剥片を素材とし、素材剥片の打点側を刃部とする。側面からの両極打撃により若干の成形を行っている。刃部への二次加工は主に実測図正面側に施されており、片刃に近い形状となっている。裏面左

下端に二次加工が加えられることにより、この部分が両刃になる。基部端は折損している。

遺構 477 (図版 6) A 8 グリッド検出した種別不明の遺構。遺構 511 (土坑) を切っている一方、南側では遺構 512 に切られる。平面形は不整形で、長径は 53 cm、確認面から底面までの深さは 19 cm であった。

この遺構からは縄文土器 3 点が出土した。このうち 1 点を図示した (図版 33)。256 は底部付近の資料である。底部のやや上に横位の沈線文を巡らす。その上位に撚糸文が施文される。時期・系統は不明である。

遺構 480 (図版 3) A 8 グリッドで検出した柱穴。平面形はほぼ楕円形で長径 68 cm。底面には段差があり、最も深い部分までの深さは 25 cm であった。

本遺構からは縄文土器が 4 点出土した。このうち 2 点を図示した (図版 33)。257 は花卉状刺突文を施したものである。258 は撚糸文を施したものである。

遺構 481 (図版 9) A 8 グリッドで検出した柱穴で、遺構 520 (フラスコ状土坑) を切っている。平面形はほぼ方形で、長辺 94 cm。断面形は不整な台形状で、確認面から底面までの深さは 49 cm であった。

本遺構からは縄文土器 19 点・土製品 1 点が出土した。このうち 4 点を図示した (図版 33)。259 は撚糸文、260 は縄文が施される。261 は蓋形土器である。262 は土製円盤で、三十稲場類型の刺突文が見られる。破断面の磨耗が顕著な部分がある。

遺構 494 (図版 3) B 8 グリッド北側で検出された柱穴である。西側で遺構 495 を切る。平面形は歪な楕円形を呈し、長径は 42 cm、深さは 43 cm であった。

本遺構からは縄文土器 6 点と礫 1 点が出土した。このうち縄文土器 1 点を図示した (図版 33)。263 は城之腰類型で、口縁部直下に加飾隆帯文を巡らす。加飾隆帯文の刺突は斜めから抉るように施されている。隆帯下は無文である。

遺構 497 (図版 3) B 8 グリッドで検出した柱穴である。西側が遺構 495 を切る。平面形は楕円形を呈し、長径は 50 cm、深さは 28 cm であった。

本遺構からは縄文土器 16 点と土製品 1 点、礫が 1 点出土した。このうち 1 点を図示した (図版 33)。264 は土製円盤である。器厚の薄い土器を用いている。左側辺の磨耗が顕著である。

遺構 501 (図版 20) B 8 グリッドで検出した柱穴である。北側が遺構 489 に切られる。平面形はほぼ円形を呈し、長径は 44 cm、確認面から底面までの深さは 35 cm であった。

本遺構からは縄文土器が 6 点出土した。このうち 1 点を図示した (図版 33)。265 は口縁部に小さな山形突起を附しその部分に S 字状の貼付文を付けた土器である。三十稲場式期のものであろう。

遺構 507 (図版 20) B 8 グリッドで検出した柱穴である。平面形は不整形で長径 76 cm である。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 108 cm であった。長径に比較して掘り込みが深いという特徴から、中世の柱穴であると推測される。

本遺構からは 33 点の縄文土器が出土した。このうち 1 点を図示した (図版 33)。266 は南三十稲場式の一つである。口縁に大きめの突起を附し、その一部を開孔する。横位方向の凹線文も確認できる。口縁部下にはしっかりした沈線文を縦位に並べ、沈線間に縄文が施文されている。

遺構 513 (図版 6) B 8 グリッドで検出した柱穴である。北側で土坑 (遺構 511) を切っている。平面形は歪な楕円形を呈し、長径は 57 cm、確認面から底面までの深さは 40 cm であった。

縄文土器が 2 点出土した。うち 1 点を図示した (図版 33)。267 は間隔のまばらな撚糸文が施される。

遺構 516 (図版 20) B 8 グリッドで検出した柱穴。北側で遺構 514、西側で遺構 517、東側で遺構 515 を切る。平面形は楕円形で長径 106 cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 56 cm である。

本遺構からは縄文土器 40 点と石器 4 点が出土したが、いずれも図化に適うものではなかった。

遺構 519 (図版 20) B 8 グリッドで検出した柱穴である。北東隅で遺構 518 を切る。平面形は歪な楕円形を呈し、長径 94 cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 48 cm である。

この遺構からは縄文土器 221 点が出土し、一部については出土位置を個別に記録した (図版 20)。出土土器には半完形品 (遺物 269) や大形破片の接合するもの (遺物 268) が含まれており、今回の調査では珍しい事例となる。269 は全体の 1 / 3 程を残す半完形品で、遺構一部から折り重なるように出土し、ほぼ同じレベルの他の破片と接合している。一方、268 は 269 の直下から最も大きな破片が出土し、遺構内に散漫に分布する破片と同一個体と認識された資料である。こちらは 269 と比べ出土レベルの差も大きい。

出土土器のうち 9 点を図示した (図版 33・34)。268 は白っぽい土器で、環状貼付文をもつ城之腰類型である。この環状貼付文からは縦位の貼付文が垂下し、これが横位の加飾隆帯文をまたいで 2 条の貼付文に変わり、胴部半ばまで続く。横位の加飾隆帯文はやや波状で、円形の刺突が並ぶ。胴部には細かい条線文が縦位、そして斜位に描かれている。269 は大きな山形突起をもつ土器である。突起は 4 単位と推測される。山形突起の間にはわずかに高まる部分がある。胴部上半部に L 縄文が施されるが、一部で回転方向を変え、羽状になっている部分が認められる。270 は口縁部に不揃いな段のある資料で、この段の下に L 縄文が施される。271 は深い縦位沈線文の片側にのみに縄文が施文される。縄文の施文が先行する。無文部は平滑に仕上げられている。加曾利 E IV 式系統であろうか。272 には弧状の加飾隆帯文と縄文が見られる。隆帯文の内部は無文となる。加飾隆帯文の刺突は斜めから抉るよう施される。273 は典型的な花卉状刺突文の資料。274 は鉢形土器で、器厚が薄く、白っぽい色調を呈し、胎土に多量の砂粒を含む。口縁部に蕨手状のモチーフがあるほか、胴部ではこれを横位に連結させており、この横位沈線文の空隙を刺突文で埋めている。堀之内 1 式であろう。275 は弧状の条線文を全体の指向としては縦方向に引いたものである。276 は二次加工のある剥片に分類される。両極打撃によって剥離された黒曜石の剥片を素材としたもので、やはり両極打撃により素材の厚さを取り、端部 (実測図正面上) に二次加工を施す。石鏃の製作を意図したものであろう。裏面には礫面が残されており、この様子から小さな転石を母岩としていたと推測される。

遺構 521 (図版 20) B 8 グリッドで検出した柱穴である。東側の一部は調査区外となる。平面形は方形を呈しており、長辺は 100 cm を超えるものと推計される。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 93 cm である。

本遺構からは縄文土器が 10 点出土している。このうち 3 点を図化した (図版 34)。277 は網目状撚糸文、278 は縦位条線文、279 は撚糸文が施される土器である。

遺構 523 (図版 3) B 8 グリッドで検出した柱穴である。南端が遺構 528 を切っている。平面形はほぼ円形で長径 76 cm、確認面から底面までの深さは 59 cm である。

本遺構からは縄文土器 24 点と礫 2 点が出土した。このうち縄文土器 4 点を図示した (図版 34)。280 は口縁部から加飾隆帯文を垂下させるもの。後期初頭に含まれるものであろうか。281 は花卉状刺突文、282 は網目状撚糸文、283 は縦位条線文が施される土器である。

遺構 531 (図版 3) B 8 グリッドで検出した柱穴である。平面形は不整形で長径 72 cm、確認面から底面までの深さは 36 cm であった。

この遺構からは縄文土器が 3 点出土した。このうち 1 点を図示した (図版 34)。284 は小仙塚類型信州形土器群の口縁部資料である。沈線で逆 U 字や弧文を描く。沈線文は縄文施文の後に加えられている。

遺構 532 (図版 20) B 8 グリッドで検出した種別不明の遺構。南側が遺構 523 に切られ、遺構 524 と接し

ている。平面形は方形で、長辺は推計で約 110 cm である。断面形は箱状で、底面は平坦である。確認面から底面までの深さは 26 cm。覆土は南上がりに傾斜する堆積を示す。

出土した 19 点の縄文土器のうち、1 点を図示した (図版 34)。285 は沈線文で帯状のモチーフを描き、その内側に撚糸文が施されるもの。多賀屋敷類型である。

遺構 540 (図版 21) A 9 グリッドで検出した柱穴である。西側半分は調査外となり、東側では遺構 543 等を切っている。平面形は不整形だが、長径は 100 cm を超えるものと推測される。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 32 cm であった。

本遺構からは縄文土器 6 点と石器 1 点が出土しているが、図化に適うものはなかった。

遺構 546 (図版 3) A 9 グリッドで検出した種別不明の遺構。北側で遺構 544 (フラスコ状土坑) と接しているが、両者の切り合いは不明である。平面形は楕円形を呈し、長径は 37 cm、確認面から底面までの深さは 20 cm である。

本遺構からは縄文土器 6 点と礫 1 点が出土した。このうち縄文土器 2 点を図示した (図版 34)。286 は隆帯文で渦巻文を描くもので、空隙に縄文を施文している。梶山類型であろうか (註 16)。287 は太い撚糸文が施される土器である。

遺構 552 (図版 10) A～B 9 グリッドで検出した種別の遺構である。東側が遺構 584、西側が遺構 551 を切っている。そのほか多くのピットと切り合っているため、平面形は判然としない。断面形は弧状となる。確認面から底面の最も深いところまでの深さは 19 cm である。

本遺構からは縄文土器 20 点と石器 1 点が出土した。2 点を図示した (図版 34)。288 は城之腰類型である。加飾隆帯文は高く、そこに加えられる刺突は斜めから抉るように入る。胴部文様は不明。289 は円形の刺突文を密に施文するもの。器厚は薄い。小片であるため、器種・時期・系統など不明である。

遺構 568 (図版 3) A 9 グリッドで検出した柱穴である。平面形はほぼ円形で、長径 45 cm、深さは 32 cm である。

本遺構からは縄文土器 7 点と石器 1 点が出土した。このうち縄文土器 1 点を図示した (図版 34)。290 は小ぶりの土器で、口縁は平縁で加飾隆帯文を波状に巡らすものである。これは 78 に類似し、環状貼付文を省略したものと解釈できる。多賀屋敷式期のものである。

遺構 571 (図版 3) B 9 グリッドで検出した種別不明の遺構。東側が遺構 572 と接するが、両者の切り合いは不明である。平面形は楕円形であろうか。残存部の長径は 36 cm、確認面から底面までの深さは 17 cm である。

本遺構からは縄文土器 19 点と礫が 1 点出土した。このうち縄文土器 3 点を図示した (図版 34)。291・292 は撚糸文、293 は縄文が施されるものである。

遺構 590 (図版 21) A 9 グリッドで検出した柱穴である。北側で遺構 589 (ピット) を切っている。東側の一部は調査区外となる。平面形態は不整形で、長径は 100 cm を超えるものと推計される。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 51 cm であった。

本遺構からは 46 点の縄文土器と 1 点の石器が出土している。このうち縄文土器 1 点を図示した (図版 34)。294 は縄文を施した土器である。

遺構 591 (図版 21) A 9 グリッドで検出した柱穴である。南側で他の柱穴である遺構 593 に切られている。平面形はほぼ円形を呈し、長径は推計で約 70 cm。確認面からの深さは 42 cm である。

本遺構からは 5 点の縄文土器と 2 点の石器を出土したが、縄文土器 1 点を図示した (図版 34)。295 は加飾隆帯文が附される蓋形土器である。

遺構 593 (図版 3) A 9 グリッドで検出した柱穴である。北側で遺構 591 を切っている。ほぼ楕円形を呈

し、長径 48 cm、確認面から底面までの深さ 48 cmであった。

本遺構からは縄文土器 1 点と石器 1 点が出土した。このうち石器 1 点を図示した (図版 35)。296 は磨石類に分類される。実測図正面及び裏面に凹痕が確認できる。石器表面は赤色変化しているが、これは被熱痕であろう。

遺構 600 (図版 21) A 9 グリッドで検出した柱穴である。北側が遺構 597 に切られ、西側が遺構 599 等と接している。遺構 599 との切り合いは不明。平面形はほぼ円形で、長径は約 106 cm と推計される。断面形は、一部不明だが、箱状で、確認面から底面までの深さは 40 cm であった。

本遺構からは 183 点の縄文土器が出土した。その一部については個別に出土位置を記録した (図版 21)。この遺構でも珍しく大形破片が出土し、破片同士の接合も見られた。301 は大形破片である。接合は見られなかったものの同一個体と考えられ、遺構覆土の上層から下層まで散らばって出土している。また、302 は覆土の中位と下位から出土したものが接合した事例である。

7 点を図示した (図版 35・36)。297 は八反田類型 (註 17) から派生したものであろう。口縁部は不明だが、胴部が大きく膨らむ形態を呈する。波状の加飾隆帯文を巡らし、その上方にのみ、後から縄文を施文する。加飾隆帯文の刺突は斜めから抉ったように入る。器表面の一部に炭化物が付着する。多賀屋敷式期のものである。この土器に近似する資料が第 2 次本発掘調査で出土している。298 は三十稲場類型である。橋状把手は細いが外反が強く、胴部には刺突文が施される。三十稲場式 2 期のものである。299 は 298 と同一個体である。300 は三十稲場類型の胴部破片である。301 は縦位に条線文を施すもの。口縁から底部まで同一個体資料が出土したが、接合しなかった。302 は蓋形土器である。断面形態は傘形で、波状沈線文と、これに沿うような円形刺突の連続とで文様を描いている。303 は条線文の施された土器である。

遺構 622 (図版 3) A 10 グリッドで検出した遺構である。南側で遺構 625 を切り、西側が遺構 621 に、東側が遺構 623 に切られている。平面形は不整形で、深さも 14 cm と浅い。

本遺構からは縄文土器が 7 点出土した。このうち 1 点を図示した (図版 36)。304 は恐らく環状貼付文を附した土器であろう。この環状貼付文には斜めから抉るような刺突文が加えられ、貼付文以外の部分には捺糸文が施されている。

遺構 644 (図版 11) B 10 グリッドで検出した柱穴である。南側が遺構 645 (フラスコ状土坑) を切っている。平面形は長楕円形であり、長径は推計で約 90 cm。断面形は箱状である。Ⅲ層上面から掘り込まれ、ここから底面までの深さは 75 cm であった。

本遺構からは縄文土器 23 点と礫が 1 点出土した。このうち縄文土器 3 点を図示した (図版 36)。305 は無文であるが、口縁端部に粘土を加えて水平の蓋受け状口縁としたもの。多賀屋敷式期に帰属する。306 は口縁に 2 列の列点文 (連続刺突文) を描く土器である。刺突は器面に対し垂直に施文される。時期・系統とも不明であるが、本遺跡 2 次調査に類例がある [越路町教育委員会 1993]。307 は三十稲場式 1 期に帰属する三十稲場類型である。口縁は強く外反し、ほぼ水平の蓋受けを作出している。橋状把手は段面の丸い C 字状の貼付文となっている。頸部の隆帯文は加飾されず、この隆帯文下を細い捺糸文で埋めている。

5 包含層出土遺物

(1) 縄文時代の遺物

A. 土器

馬高式期 (図版 36) 308 は火炎土器の胴部破片。隆線文と沈線文が縦位に密接して伸びている。

沖ノ原式期 (図版 36) 309 は底部付近の小片で、底部まで三本の平行沈線文が引かれている。うち一本は不明瞭である。平行沈線文の横には縄文が施される。沖ノ原式と考えられる。310 も沈線文が平行に三本引かれるもので、その間は明瞭な隆線文となっている。これら以外の部分は撚糸文が施されている。こちらは中期中葉に遡る可能性もある。

多賀屋敷式期 (図版 36) 311 は二本の平行する隆線で弧状文を描く。隆線間には幅があり、その内側にも外側にも充填文様はない。大木 10 式系のもと考えられるが、詳細な時期等は不明である。312 は口縁の山形突起の頂部の下に凸瘤文の一つ施すもの。中道遺跡や城之腰遺跡で類例を見つけることができ、多賀屋敷式期の主要な類型と考えられる。本資料には凸瘤文の下に磨消縄文的な表現がわずかに見え、注目される。313 は環状、もしくは C 字状の貼付文をもつものである。城之腰類型の水平隆帯文から懸架したものであろうか。

314～320 は城之腰類型である。いずれも加飾隆帯文を水平に 1 条巡らしている。城之腰類型は中期後葉から後期前葉まで存続する簡素な作りの類型で、簡素なだけに単独では時期の判別が難しく、ここに一括した。314 は風化が激しく加飾隆帯文の刺突の手法がはっきりしない。胴部には撚糸文が施される。加飾隆帯文(頸部)付近で外反する器形であり、これにより三十稲場式期の可能性がある。315 の加飾隆帯文の刺突は爪のような工具で抉るように施文したものと推測される。胴部には文様が見受けられない。これも頸部からの外反が明瞭であり、三十稲場式期のものと推測される。316 は口縁直下に加飾隆帯文が附されるものである。加飾隆帯文への刺突は 315 と類似する。外反口縁だがこれは時期が判然としない。317 はやや内湾する器形で、加飾隆帯文の刺突は小さな円形のを並べている。しかも隆帯文の横断面の尾根上ではなく上側のふとも付近に附している。これは沖ノ原式期に多い手法であろう。318 は直立する器形で、加飾隆帯文の刺突は半截竹管状工具で斜位に突いたものである。その内皮にササクレがあったためか、刺突内に細かい凹凸が認められる。319 はやや内湾する口縁の端部に加飾隆帯文を附している。この刺突は指先で押圧したもののように見える。口縁端部の内側には凸帯の剥落痕が観察され、蓋受けが付いていたものと考えられる。ただし類例は確認できなかった。320 の隆帯文への加飾は縄原体の斜位連続押圧である。器面の風化が著しく、詳細は不明である。

321 は口縁に加飾隆帯文ではなく水平の沈線文が巡らされるものである。胴部に撚糸文が施される。

322 は平らな口縁に波状の加飾隆帯文を巡らすものである。78 や 298 と類縁関係にあるものと推測される。加飾隆帯文の刺突は小さい円形を呈するものである。口縁の内側端部が剥落しており、319 と同じく蓋受け状口縁の凸帯があった可能性がある。323 はほぼ直立する口縁で、2 条の加飾隆帯文をもつものである。胴部には縄文が施される。多賀屋敷式の範囲に収まるものであろう。324 は加飾隆帯文の下に横位の縄文帯を巡らすもので、その下端に沈線文を引いている。頸部の隆帯文付近で外反している。接合はしていないが、38 (図版 23) と同一個体であろう。

325～328 は磨消縄文を有するものである。在地型式の沖ノ原式は磨消縄文を発展させることのなかった土器群であり、これらはいずれ大木 10 式系統か加曾利 E III・IV 式の系譜を引くものと考えられる。325 は U 字状沈線文の中に弧状の条線が見られるもの。施文順序は条線が先である。U 字状沈線文から加曾利 E IV 式に由来するものであろうか。326・327 も U 字状沈線文らしきものの内側に L 縄文もしくは撚糸文が確認できるもの。順序は沈線文が後であり、365 と同じ系統のものであろう。他方、328 は平行沈線文で J 字文のようものを描いているようである。称名寺 I 式であろうか。

三十稲場式期 (図版 36・37) 329 は三十稲場類型の口縁部資料である。蓋受けは口縁端部内側にわずかな

平坦面として作出されている。橋状把手は板状であり、この上の口唇部に深い穴が穿たれている。加飾隆帯文の刺突は、細い工具の先端で斜めに突いたものでD字状を呈する。胴部の刺突文は典型的な花卉状刺突文である。330 は口縁部上に付けられた環状の突起である。中央の貫通孔のまわりに太い沈線文がめぐり右下に円形凹文が並ぶ。中央の一つからは右辺へ沈線文が伸びているようである。裏側は剥落しており文様が認められない。称名寺Ⅱ式の終わりのものであろうか。331 は同期にしばしば伴う称名寺式の浅鉢形土器である。橋状把手の先に中空の大きな突起を付け、この周囲を円形の凹文や沈線文で飾る。口縁部にも横位に列点文を並べ、この上下に沈線文を引く。332～338 は三十稲場類型の刺突文のバリエーションである。332 は凸瘤文を全面に並べたように見えるが、この瘤文は両側から多截竹管状工具で抉り粘土瘤を盛り上げたものである。施文手法としては花卉状刺突文とほとんど代わるところがなく、多くの遺跡で少量ずつ出土する。333 もほぼ同様の資料であるが、右側のみから二度上下に突き分けて瘤を作出している。334・335 は典型的な花卉状刺突文。336 は薄い工具で浅く突かれたもの。細い爪形の刺突文となっている。337 は細い工具を斜めに刺した後に抉るようにしたもの。D字状の刺突文となる。338 は斜めに刺し、同じ角度で引き抜いたものだろうか。C字状の刺突文となっている。

339～344 は蓋形土器である。339 は加飾隆帯文を頂部から端部へとまっすぐに伸ばし、その片側のみに刺突文を密集させている。加飾隆帯文の刺突は円形だが、身に施されたものは花卉状刺突文である。340 は斜めに先端の尖った工具で深く突き刺した長楕円形の刺突を並べたもの。端部に沿うものと、縦位に並べたものとがある。341 は瘤文を縦位に並べたもの。343 は340 とほぼ同様である。344 は端部に沿って2条の隆線を平行させたもの。隆線は丁寧に調整されている。

南三十稲場式期 (図版 37) 345 は無文であるが、頸部で一度くぼみ、口縁を肥厚させる器形から、この期とした。346 はほぼ垂直に立ちがある口縁に円形の凹文をならべたものである。品田〔2001〕でE群(口縁指頭圧痕文系)とされた土器であろう。347 は縦位方向に太い沈線文が連続して引かれその間に縄文が施されている。施文順序は縄文が先である。南三十稲場式の一つであろう。348 は弧状の平行沈線文の周りに縄文を施したり、沈線文を加えたりするもので、小仙塚類型信州系土器群の一つと理解した。349 も類例が見つけられないが、渦巻文とそれを連結するような三本の沈線文が描かれており、同類型と解釈した。350 は、縦位の沈線文の間を斜位の沈線文でつなぐもので、しばしば南三十稲場式の前段階に認められるものである。

351～354 は南三十稲場新段階のものである。351 は外反しながら口縁でわずかに内湾する器形を呈する。口縁端部に刻目を連続させその直下に深い沈線文をめぐらし、さらにその下位に隆線文を貼っている。すぐ下の胴部には横位の沈線文を3本並べる。352 は円形の貫通孔のある突起の破片である。突起上部は孔を巡る同心円文状に6本の沈線文を重ねている。下部では、横長の楕円文と横位の沈線文とを組み合わせているようである。353 は集合沈線文と列点文を組み合わせたものである。354 は山形突起の波頂部の破片である。残念ながら表面は剥落し、一部破損している。波頂部には環状の突起が前後に二つ並びどちらも内側の穴に貫通している。この波頂部から沈線文が伸び、その中に円形の刺突文が見られる。この沈線文の内側にも刻目らしきものが刻まれている。

時期不明の土器群 (図版 37～39) 355～361 は条線文のバリエーションである。355 は口縁が垂直に立ち上がるもので、細い条線文が浅く主に縦位に描かれている。357 は太い条線文である。356 と358 は縦位と斜位とを組み合わせている。359～361 は曲流条線文である。

362～365 は撚糸文のバリエーションである。362 は比較的太く縦位に施された撚糸文である。363～365

はいずれも網目状撚糸文で、2本の糸を用い右巻きと左巻きにしたものである〔可児 2008〕。なお、365はLR縄文を併用している。

366～375は縄文のバリエーションである。366はB7グリッド包含層中でまとまって発見されたものである。底部からやや下ぶくれ気味に開き、そこからほぼ垂直に口縁まで立ち上がる。胴部上半を中心にLR縄文が施される。368は太く短い原体を用いたもの。373はL縄文の回転方向を変えて羽状構成にしたもの。なお、372は縄文に水滴形の刺突文を縦位に並べたものである。

376～380は底部のバリエーションである。376は鉢形土器であろうか。377の底部には網代痕が認められる。一本超え一本潜り一本送りである。378にも網代痕が一部残存しているが、不明瞭である。379・380には木葉痕が認められる。

B. 土製品

包含層からは3点の土製円盤が出土した。全て図示した（図版39）。

381～383は土製円盤である。381は器面にはわずかに単節縄文が認められる。破断面は全体的に磨耗が著しい。382は沈線文が見られるようだが判然としない。左側縁の磨耗が目立つ。383は無文のようである。破断面には、下方から左側縁にかけて、5mm～10mm程度の幅の平滑に磨耗したような面が見られる。

C. 石器

包含層中から14点、表土から8点の石器が出土した。主要な5点について図示した（図版39）。

384は黒曜石製の石鏃である。実測図正面に礫面を残す。凹基無柄。先端部は折損している。385は磨製石斧である。刃部に剥離面を残し、基部に敲打痕が確認される。これらは両極打撃によるリダクション直後の状態を示すものだろう。386は二次加工のある剥片に分類される。鉄石英の剥片を素材としている。実測図正面上端部の連続する階段状剥離は石核調整（頭部調整）の痕跡と推測されるが、この石器の素材剥片は実測図正面右側から剥離されており、打面転移を物語っている。剥片は石核から剥離された後、縁辺部に二次加工が施され、微細剥離痕も確認されるが、特に裏面右～上面に入る槌状剥離が特徴的である。そして、裏面に施される二次加工によって主要剥離面の打面・打点は除かれている。387は石錘である。扁平な砂岩を素材とする。糸掛りは両極打撃によって作出されている。また実測図左側面にも二次加工が確認される。右側縁にはこれと対向する位置に浅いくぼみ（風化した自然の剥離面）があることから、側縁の一对も糸掛りとして使用されていた可能性がある。388は磨石類に分類される。実測図正面・裏面ともに凹痕及び磨痕が確認できるが、正面側に凹痕が多く、磨痕も顕著である。

(2) 中世の遺物

今回の調査で5点の珠洲焼が出土した。このうち4点を図示した（図版39）。残る1点は口縁部資料であったが、表面が剥落しており、図化に適さなかった。5点とも表土層中からも出土であり、包含層中、あるいは遺構覆土中から出土したものはない。

389と390は片口鉢である。389の御目は1単位10条でその幅27mmである。390はやや不明瞭だが、御目1単位10条で29mmである。391と392は甕の胴部破片である。391は表面に磨耗が認められる。砥石かなにかに転用されたのであろう。392とも打ち込みが浅い。いずれも細片で時期の判別が難しいが、14世紀から15世紀の所産であろう。

第V章 まとめ

1 遺構の分布傾向（図版1～3）

前章までに述べたように、今回の調査区からは多くの遺構が検出された。その内容も、掘立柱建物跡・土坑・フラスコ状土坑・埋設土器・柱穴・ピットと多様であった。その時期は、出土土器と同じく縄文時代中期中葉～後期前葉としておく。ただし、一部の柱穴は中世のものと推測される。以下で、遺構種別ごとに分布状況を整理し、集落構成の把握へと繋げたい。

4グリッドで掘立柱建物跡（1号建物跡）を検出した。これまで柱穴の検出などによって可能性が示されてきたが、建物跡を実態として検出したのは初めてである。さらに、1号建物跡の柱穴と同規模、あるいは、より大きな柱穴が2～3グリッドと7グリッドに分布する。調査範囲の狭さから建物跡としての把握には至らなかったが、将来の発掘調査で掘立柱建物跡群が検出される可能性は大きい。

フラスコ状土坑は、4グリッド南側～5グリッド北側、7グリッド～10グリッド北側にかけて、まとまって分布する傾向がある。

残念ながら、今回の調査でも竪穴住居跡を検出することはできなかった。しかし、B6グリッドで発見された埋設土器は焼土を壊しており、この焼土が地床炉であったとすると、竪穴住居の存在が見えてくる。さらに、埋設土器自体も住居内に据えられた埋甕であるとの推察もできる。昭和57年の範囲確認調査において、No.13トレンチで竪穴住居跡のプランを一部検出したとする報告があり〔新潟県教育委員会 1982〕、その位置は今回の調査区の5～6グリッドにほぼ相当する。埋設土器、地床炉、そして住居跡のプランという断片的な材料ではあるが、5～6グリッド付近における竪穴住居群のひろがりが見られる。

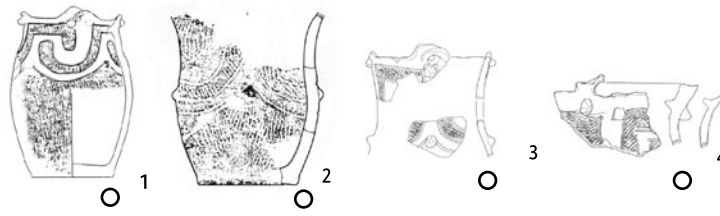
整理すると、5～6グリッドを中心に竪穴住居が並び、その北と南に掘立柱建物跡群とフラスコ状土坑群が分布すると推測できる。また、今回の調査区の南端にあたる10グリッドから11グリッドにかけては、IV層の検出レベルが下がっていき、ここが谷部へ落ち込んでいく地形となることが判明した。同時に、遺構・遺物ともに僅少であった。試掘調査の結果と併せて、ここが集落の南縁にあたることほぼ確定したと言える。これは線的に限定された知見から導かれたものに過ぎないが、翻ってみれば、それは遺跡の大部分が現状保存されていることを意味する。その中で、こうした推測が可能となったことが、集落の把握にとっても、そして埋蔵文化財保護行政にとっても、一つの成果だろう。

2 多賀屋敷式土器の内容について

（1）はじめに

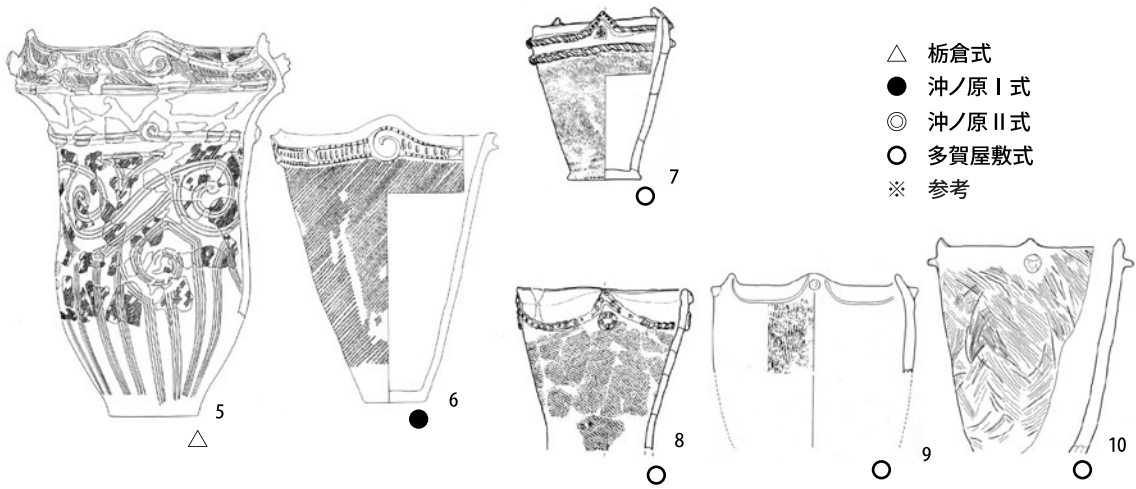
近年の新潟県における縄文時代中期後葉から後期初頭にかけての土器編年研究は進展が目覚ましい。特に阿部の研究〔2008・2009〕によって沖ノ原式の範囲が見直され、その系譜もほぼ明らかにされた。その大枠を要約すると、沖ノ原式は基本的に前代の在地型式を受け継いで成立した地域色の強い土器型式で、沖ノ原I式はほぼ大木9式に、沖ノ原II式は大木10式に並行し、その後隙間なく三十稲場式へと接続する型式である、となるだろう。これに拠れば、沖ノ原式の時期幅は中期後葉から後期初頭に及ぶことになる。これまで研究史において、中期末葉には宮下原式などの名前が検討され、後期初頭にも様々な型式名称が模索されていたことを顧みると、沖ノ原式において中期末葉から後期初頭への連続性が把握されたことには、高い評価が与えられる。そして、一度この連続性が理解されてみると、周辺の大木10式や加曽利E式も

多賀屋敷類型



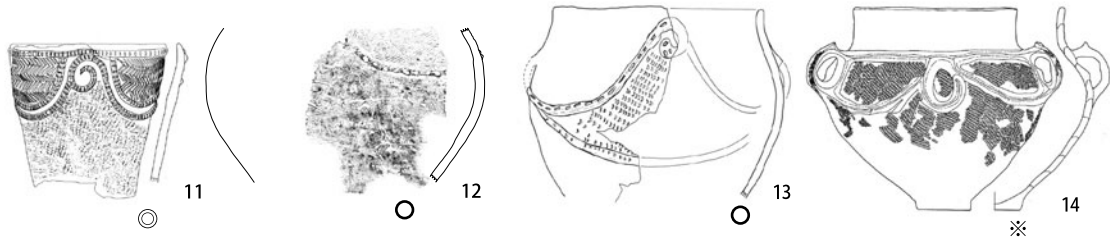
- 1・12・13:多賀屋敷
 2・7・8:城之腰 3:与三 4:向原II
 5:笹山 6:沖ノ原 9:野崎
 10:中道 11:八反田
 14:荒砥北原(群馬県)

環状貼付文系とその系統



- △ 枋倉式
 ● 沖ノ原I式
 ◎ 沖ノ原II式
 ○ 多賀屋敷式
 ※ 参考

八反田類型とその周辺系統



1 ~ 14 (1:10)

第6図 多賀屋敷式の主要類型とその系統

<p>1 沖ノ原 (1住床面)</p>	<p>2 沖ノ原</p>	<p>3 (1191)</p>	<p>4 (1820)</p>	<p>5 (1821)</p>	<p>6 (1574)</p>	<p>7 (1169)</p>
<p>8 万條寺林 (36住)</p>	<p>9 沖ノ原</p>	<p>10 羽黒</p>	<p>11 つじ原B (2住)</p>	<p>12 (1819)</p>	<p>13 三十稲場</p>	
<p>14 八反田 (8住伊埋設)</p>	<p>15 芋川原</p>	<p>16 宮下原 (2住埋設2)</p>	<p>17 (656)</p>	<p>18 宮下原 (9住)</p>	<p>19 (1634)</p>	
IV 期		V 1 期		V 2 期		

第7図 IV期からV期への系統変遷図 國島〔1991〕より転載

中期から後期へと継続しており、これらとの対応が見事に了解されたわけである。さらには、沖ノ原式がそれら周辺型式とは独立性を見せつつ連動しながら変遷を遂げた土器群である、という新たな認識への足がかりを準備したものと言える。

しかしながら、この成果の一方で、沖ノ原式は魚沼地域を中心とする狭い範囲に分布する土器型式であり、その影響力もかなり限定的である、という特徴がある。

魚沼地域を除く中越地方、つまり長岡周辺地域では沖ノ原式をベースにするものの、魚沼地域では見かけることの少ない独特な土器群も存在し、これに大木 10 式に系譜の求められる土器群が加わる。阿賀川水系とそれ以北では、主に大木式の影響が色濃い土器群で占められる。上越地方の様相はまだ不明瞭であるが、恐らく北陸系・信州系の影響を受けているものと推測される。新潟県における当該期の土器様相を把握するには、魚沼地域における連続性の把握だけでなく、地域ごとに周辺の土器群との影響関係を視野に入れて検討されなければならない。

また、この問題とは別に、長岡周辺地域では、沖ノ原 I 式に対応するような中期後葉～末葉の事例があまり蓄積されていないという実状がある。枥倉式以降のような土器群が存在するのか、一部の遺跡で断片的に窺える程度に留まっている。

その一方で、長岡周辺地域には後期初頭に関する長い研究史があり、これに城之腰遺跡の大規模な発掘調査から得られた成果と、その後の調査成果が加わることによって、沖ノ原 II 式に並行する後期初頭の土器群については、その候補となる資料がかなり揃っている。

石坂は、これらの状況と研究史を踏まえ、新潟県の後期初頭に「多賀屋敷式」を設定した〔2007a〕。

本稿では主に長岡周辺地域の土器様相について、上記したような新潟県特有の多様な様相を視野に入れつつ、かつ、沖ノ原式の周縁にありながらも新潟県の土器編年の主幹をなしてきたという地域的な課題の上に、改めて後期初頭の土器群についての整理を行うこととする。

（2）中越地方における多賀屋敷式の主要類型

後期初頭については、魚沼地域で沖ノ原式が引き続き存続しているのに対し、中越地方では、沖ノ原式と同じ土器群をベースとしながらも、沖ノ原式から派生した土器群と、大木 10 式の系譜に連なる土器群によって構成されている。つまり、魚沼地域とは異なる様相が見られる。

これら多賀屋敷式を構成する土器群として、最初に挙げるべきは多賀屋敷類型である〔石坂 2007b〕。示準となったのは『先史時代と長岡の遺跡』〔中村 1966〕に写真掲載された表採資料である。この類型は、上並松遺跡発掘資料のうち、稲岡〔1970〕によって分類された「E 群土器」の一部に含まれており、「中期最終末期、或いは後期初頭に含まれるものだろう」と位置づけされた。その後、安孫子〔1981〕が『縄文土器大成 3—後期』にこの示準資料の写真を掲載し、改めて「称名寺式の最初の段階に相当する」と評価している。これを受け、駒形〔1983〕はこの資料をして新潟県の後期初頭を代表させ、田中〔1984〕も称名寺 I（古）に並行する資料の一つとして取り扱っている。このように、多賀屋敷遺跡表採資料は 1970 年代から 80 年代にかけて、新潟県の後期初頭を象徴するものであった。

多賀屋敷類型はその後、阿賀北地域でも出土し、田中〔1985〕によってその特徴が抽出された。それに拠って列記すると、①口縁に捻転する環状突起が付く、②瘤文が見られる、③細い沈線で帯状のモチーフを描く、④その帯状のモチーフは大木 10 式のアルファベット文に系譜を辿れる形状をしており、比較的直線部分が長い、⑤このモチーフの中には主に撚糸文が施される、⑥横位の沈線文で区切られた胴部下半に

は地文が施される、⑦口縁内側に凸帯上の蓋受けをもつ、となる。多賀屋敷遺跡をはじめ、三十稲場遺跡や城之腰遺跡にも破片資料があり、柏崎市与三遺跡、遠く十日町市向原Ⅱ遺跡からの出土例もある。新発田市の北平B遺跡例も含めると、ほぼ新潟県域全体に広がることとなるが、分布の中心は中越地方と考えられる。今回の調査でもこのタイプの破片資料が出土している（図版27-119・図版34-285）。

沖ノ原式は中期末葉になっても磨消縄文を発達させず、周辺の大木9-10式や加曾利EⅢ-Ⅳ式に対して独自性をもつ土器群である（註18）。それとは対照的に、多賀屋敷類型は大木10式の磨消縄文の手法を受け入れたものであり、遠隔地域との関係を示す一方、近隣（中越地方）では孤立した存在となっている。この東北系の磨消縄文の伝統は、三十稲場式へとわずかに継承されていったようであり、三十稲場式2期と思われる三十稲場類型にその例が認められる。今回の調査で出土した49（図版23）や、吉野屋遺跡例などがこれに該当する。しかし、これらはごく例外的な事例と考えられる。

次いで、環状貼付文の土器群が挙げられる。城之腰遺跡で出土した複数の個体資料に代表されるが、今回の調査でも出土している（図版25-78）。底部からバケツ状に広がる器形で、平口縁に波状の加飾隆帯文をもち、その波頂部の下に環状貼付文を付け、この下を地文としたものである（第6図8）。加飾隆帯文を2条並べるものもある（同図7）。これらは阿部〔2008〕が設定した沖ノ原式のN型式・O型式に相当するが、そこで提示されたように、魚沼地域にはあまり分布せず（註19）、長岡周辺地域を中心に分布する。

この土器群に関しては、國島〔1991〕が、現在で言うところの沖ノ原Ⅰ式の沖ノ原類型から派生したものであるとの認識を示している。第7図Ⅳ期は概ね現在の沖ノ原Ⅰ式、Ⅴ1期は同じく多賀屋敷式に相当する。第7図1・2は渦巻文を中心としており、これを加飾隆帯文で連結する。この連結の間にも渦巻文や貼付文が附される。中心となる渦巻文からは3本の隆沈線文が下垂する。やはりバケツ状に立ち上がる器形をしている。第7図3・4では、渦巻文が環状貼付文になり、渦巻文から下垂する隆線文や中間の貼付文が失われ、簡素化が進んでいる。しかし、文様構成と主要な文様の配置はおおよそ一致している。國島が図示した沖ノ原式は波状口縁のもので、3条の加飾隆帯文が口縁に沿っているが、第6図6（沖ノ原遺跡第1号住居址出土）は平口縁であり、加飾隆帯文が2条の資料である。この加飾隆帯文は口縁に沿ってほぼ水平である。これと2条の加飾隆帯をもつ同図7とを比較すると、両者の間では文様構成と主要な文様の配置とが一致している。このことから7の出自が6に求められることは疑いない。先述したように、これらのバリエーションの中には、第6図8や第7図3、そして78（図版25）のような1条加飾隆帯文のものも多く見られる。これらの隆帯文はいずれも波状で、これが沈線文に置き換わるとの第6図9（野崎遺跡出土）になる。ここでは環状貼付文が凸瘤文に置換されている。さらに沈線文も省略されたものが第6図10（中道遺跡出土）である。口縁突起下の凸瘤文は、上並松遺跡の「E群土器」に含まれ、中越地方では古くから注目されてきたものであった。これらを含めた環状貼付文の土器群の出自が沖ノ原類型に求められたことは、この地域の土器群の基盤を考える上でも重要な認識である。つまり、後述する城之腰類型とともに、これらの土器群が中越地方の在地系土器群の基盤をなしていたと考えられる。

ところで、第6図6に再度注目すると、2条の加飾隆帯文間が縦位の短沈線文で充填されている。これは第6図5のような柵倉式へとその系譜の連なりが遡る可能性を示す。両者の間には器形や文様帯数、そして文様要素の違いなど、多くの相違点が見られるが、主要な文様である渦巻文・隆帯文・充填文という口縁部文様の配置が一致している。連結する隆帯文の間に渦巻文を付ける手法は第7図1でより明確に遺されている。このように、沖ノ原類型の出自は柵倉式に求められる。沖ノ原類型は、柵倉式の口縁部文様を保持した類型と言える（註20）。この渦巻文（柵倉式／沖ノ原式）→環状貼付文・凸瘤文（多賀屋敷式）

の系列は、新潟県域において渦巻文の伝統が終焉していく姿の一つを示している（註21）。

それと同時に、この系列は、磨消縄文を発達させなかった沖ノ原式の他の代表的な類型と同様に变化する側面も認められる。もともと柝倉式は大木8b式・加曽利EⅡ式との共通点を多く保持していたが、その後の沖ノ原式と大木9式・加曽利EⅢ式とでは、文様の発達のさせ方が大きく異なっていく。大木9式と加曽利EⅢ式が、口縁部の渦巻文を取り囲む部分（第6図5で言えば短沈線文が充填される範囲）を磨消縄文の縄文部とし、次第にこれを主要な文様として発達させていったと推測されるのに対し、沖ノ原類型一環状貼付文一凸瘤文の系列は、あくまでも隆帯による渦巻文とこれを繋ぐ連結文のみを継承していったのである。これは沖ノ原式における、隆帯と沈線を主要な文様とする他の類型群の変遷とも関連する。

上述したように、この環状貼付文一凸瘤文の土器群は、沖ノ原類型からの変遷が実にスムーズに辿れ、間違いなくその後裔に位置づけられるのだが、佐藤〔1999〕、そして阿部〔2008・2009〕は沖ノ原式や沖ノ原類型に組み入れなかった。それは、この土器群が長岡周辺地域を中心に分布し、魚沼地域の土器ではないことに起因する。その意味では、あくまでもこの類型は沖ノ原式から派生した土器群であり、沖ノ原式の周縁に偏在する類型として存在したものと見えよう。

さらに、出土例はごく少数だが、多賀屋敷遺跡からは沖ノ原Ⅱ式の八反田類型から派生したとみられる土器群が出土している。八反田類型は第6図11のような土器群で、口縁に水平の加飾隆帯文と連続U字文の加飾隆帯文を描き、この間を連続矢羽根状沈線文で充填する一方、連続U字文の間にはやはり隆帯による渦巻文を配する、というものである。胴部には縄文などの地文が施される。多賀屋敷遺跡から出土した第6図12・13は、この八反田類型から派生した土器群と考えられる。12は全体の構成明らかではないが、隆帯文によってU字文を描き、その内側を充填する、という部分的な構成は一致するし、13では2条の波状隆帯文と渦巻文、刺突文による充填という構成が一致している。魚沼地域に分布する八反田類型とは共通点がある一方で、若干異なる要素があり、周縁の様態を示していると言える。

ところで、阿部〔2008・2009〕は八反田類型をつつじ原類型a群から変遷したものと捉えている。つつじ原類型a群、八反田類型ともにU字文が描かれるためであろうが、ここでは別の視点を提示してみたい。つつじ原類型a群は要所に瘤文を附する個体資料が存在するが、これは石坂〔2007b〕が示したように、柝倉式の渦巻文等の痕跡と考えられる。つまり、渦巻文→瘤文という変化は、先に見た渦巻文一環状貼付文一凸瘤文の系列と同調するように、この類型でも進んでおり（ただし環状貼付文の資料は見つかっていない）、その変化の方向性から見れば、つつじ原類型a群は既に渦巻文を放棄した系列である。また、柝倉式において隆帯で表現されていたU字文は、つつじ原類型a群において主に沈線で描かれるように変化している。阿部の変遷観はこうした変化の方向性を逆転させたものである。実際、八反田類型と並行する時期の万條寺林類型には未だ渦巻文と隆帯文が存続しており、阿部〔2009〕も両者（八反田・万條寺林類型）の同調的な変化を繰り返し説明している。だが、八反田類型の形成には外部の土器群からの強い影響、すなわち、北関東の両耳壺の影響は考えられないだろうか。第6図14は群馬県荒砥北原遺跡例である。隆帯によるU字文の間に、隆帯の渦巻文が見られる。その一方で、同図11にも同じようなモチーフが確認できる。しかしながら、この2つの土器は器種が異なる。14は両耳壺であり、11は深鉢である。ところが、13（多賀屋敷遺跡出土）に目を転じると、これは2単位の橋状把手をもつと推測され、器形も大きく膨らみ口縁部で少し直立させており、両耳壺の形態を模したものと推測される。そして、13と14との関係の考えたとき、そこに八反田類型が介在していることに改めて注目させられる。まだ推測の域を出ないが、八反田類型はつつじ原類型a群には由来するものではなく、むしろ両耳壺との接触を示すものなのではないだろうか。

最後に、出土量の目立つ土器群、城之腰類型を挙げなくてはならない。城之腰類型の典型例は第7図7のような資料である。口縁部に加飾隆帯文を1条巡らし、その上は無文、その下には地文のみを配する。古くからその存在が知られ、三十稲場類型との文様構成の共通性を指摘されたもの〔中島 1975〕だが、非常に簡素な土器群で特徴が少ないため、時期変遷が追いきい。そこで同類型の一括資料を集成したのが第8図である(註 22)。道尻手遺跡H 4-P 201 は沖ノ原 I 式期、笹山遺跡D 5区 5号炉と道尻手遺跡 20号住・10号炉は多賀屋敷式期、城之腰遺跡R 24-P 30 と原遺跡 J 13-P 7 は三十稲場式 2 期のものである。同図 3・5・6・8・12・15 が城之腰類型である。これらの一括資料を見る限り、道尻手遺跡H 4-P 201 例から城之腰類型が沖ノ原 I 式期には成立していたことが窺え、その後もほとんど変化せずに継続していることが認められる。(註 21)。第8図で集成した資料は、ほぼ魚沼地域のものであるが、今回の調査でも多くの城之腰類型が出土しており、多数の類例を出土した城之腰遺跡をはじめとして、本遺跡や三十稲場遺跡の事例から、長岡周辺地域でもこの類型の構成比が高かったものと推測できる。

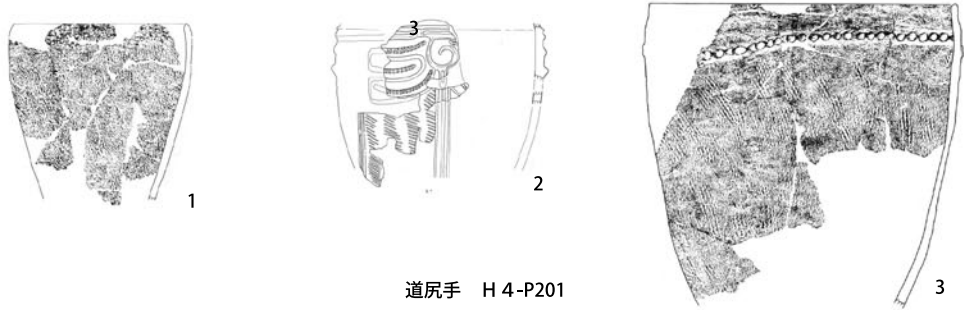
(3) 中越地方における多賀屋敷式期の土器様相

前項(2)では、これまでにほぼ系統の明らかになった土器群について述べたが、未だ系譜の辿れない土器群が多い。遺構 644 から出土した 306 (図版 36) は系統不明と分類した土器であるが(30頁)、類似資料が第二次本発掘調査で1点出土しており、より広い範囲で類例を探す必要を感じている。また、同調査の報告書において「気になる土器群」としたもののうち、小さい山形突起をもち、口縁部以下に刺突文を並べる資料がある。後期初頭に収まると推測されるが、未だその出自が明らかでない。また、全面を雨だれ状や縦長の刺突文で覆う土器群も古くから知られる土器群であるが、その系統や後続する土器群への繋がりはずしも明らかになっていない。さらに、城之腰遺跡で出土した口縁端部の一部を親指で内側へ大きく押しくぼめたような土器群や、三十稲場遺跡でも出土した胴部に凸瘤文を縦位に並べる土器群も、未だ出自が不明な土器群である。こうした課題が残るものの、前項を通して、長岡周辺地域における後期初頭の土器群の様相が、およそ見えてきたのではなかろうか。

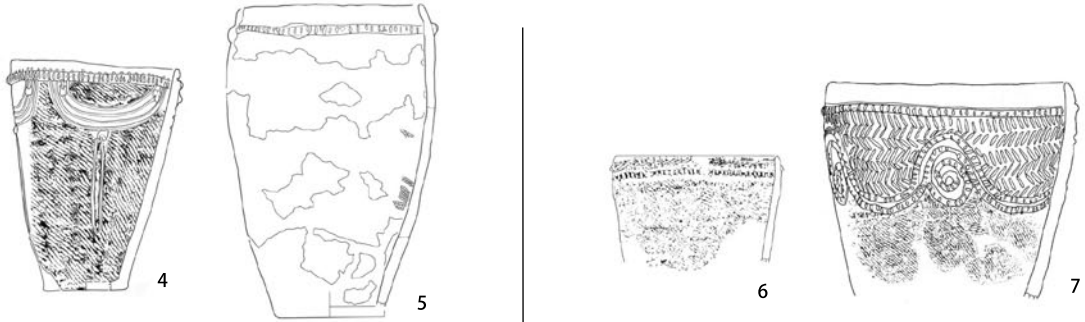
まず、城之腰類型が高い構成比を占めて存在することに注目すべきであろう。城之腰類型は、既に述べたように、口縁部の加飾隆帯文と、それ以下の地文からなる単純な構成の土器群である。この加飾隆帯文を中心とする単純な構成は、つつじ原類型 a 群・b 群、さらには万條寺林類型と共通するもので、現時点では、これらの簡素形として成立したと推測される。これは魚沼地域では多くの良好な一括資料が、長岡周辺地域でも構成比の高い遺跡が知られており、この城之腰類型の共有によって、当該期における中越地方全体の土器型式の基盤が沖ノ原式の系統によって構成されていると推測される。

この基盤の上に、長岡周辺地域で以前から注目されていた、環状貼付文と凸瘤文の土器群が存在する。今回、それらが一連のものとして整理され、その系譜が再認識された。八反田類型から派生した土器群に関しては未だ不明なところが多い。隆帯間に充填文を配するという構成から、沖ノ原式から派生した側面をもつが、現状では、北関東の両耳壺を含めた複雑な影響関係によって成立した土器群と解釈できよう。そして、多賀屋敷類型のような、東北地方の磨消縄文の系譜(多くは撚糸文)を引く土器群が加わる。

以上を整理すると、長岡周辺地域における後期初頭の土器群は、概ね、沖ノ原式の中でも魚沼地域と共通する簡素系、次に沖ノ原式から派生したやや独自なもの、そして東北系によって構成されると推測される。そして、恐らくは両地域に共通する基盤を母胎として三十稲場式が成立したものと予測されよう。

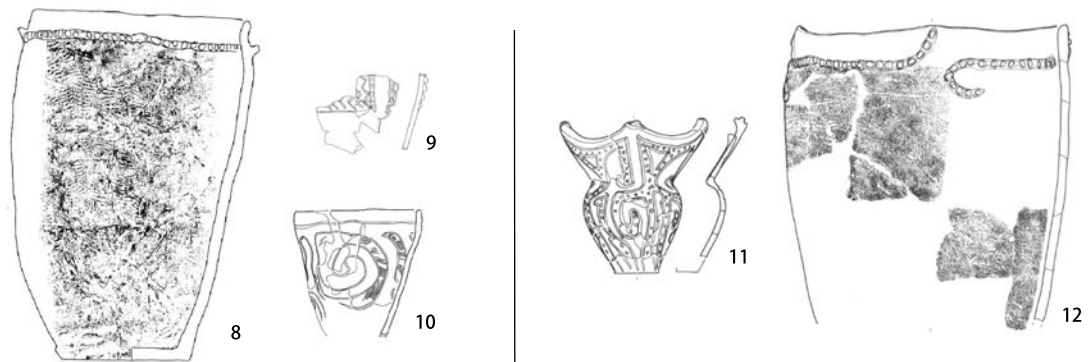


道尻手 H 4-P201



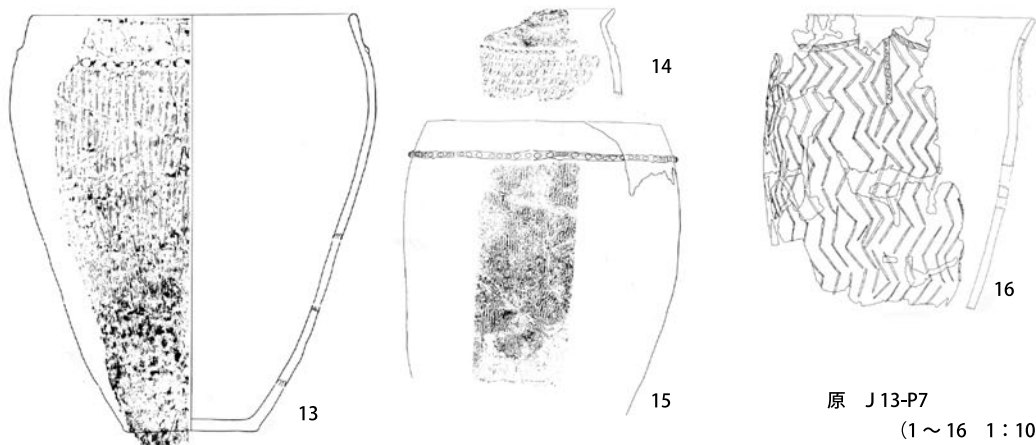
笹山 D 5区5号炉

道尻手 20号住



道尻手 10号炉

城之腰 R24-P30



原 J 13-P7

(1~16 1:10)

第8図 城之腰類型の一括資料

註

- 註1 旧三島郡越路町に相当する。
- 註2 第3次調査の報告書は長岡市教育委員会によって現在作成中である。
- 註3 ただし、馬高・三十稲場遺跡では、大木8b式並行段階で三十稲場遺跡に小規模な集落が営まれ、また大木10式並行の段階にも両遺跡で小規模集落が並存するという在り方を示している。
- 註4 4点の骨片のうち、遺構377から出土した1点については、谷畑美徳氏（明治大学文学部）から鑑定いただき、人間の足根骨の一部であることが分かった。この骨片が強く被熱していることから、遺構377の周辺に中世の火葬墓があった可能性がある。
- 註5 土壌の締りと粘性については、5段階区分で観察し、表記した。締り、粘性とも、1がもっとも悪く（弱く）、5が最も良い（強い）。図版中の表記もこれに拠っている。
- 註6 これらの編年観については、現在多くの議論がなされているところであり、異論も多い。中期中葉については、大木8b式新段階以降を引き続き「馬高式」と称するか、別に短命型式の「枳倉式」を用いるかで見解が分かれるところであろう。「枳倉式」はまだ正式に提唱されていないが、寺村〔1961〕以降提示されてきた資料には、独特の充填文様のほかに文様帯数の縮減や単位文の孤立化が見られるなど、新しい要素が窺える。このことから、やや先取的ではあるが、「枳倉式」を用いることにした。また、中期後葉以降では、中期のものを沖ノ原I式とし、後期に存続したものを沖ノ原II式とする見解がある〔阿部2007〕。だが、沖ノ原式は魚沼地域を中心として成立した地域色の強い型式であり、当該期中越地方では別の土器様相が見られ、さらに下越地方では東北地方の強い影響下にあることから、石坂は、この複雑な様相を統合する名前として多賀屋敷式を提唱したことがある〔2007〕。今回はこの多賀屋敷式を用いることとした。三十稲場式期については〔石坂2008〕に拠って3期区分した。南三十稲場式については、田中〔1999〕に拠って古段階、新段階とした。
- 註7 ただし、今回の調査区の狭さを考慮すると、東側にもう一列柱穴の並ぶ、短辺柱穴数3、長辺柱穴数4の建物であった可能性も否めない。
- 註8 従来「北陸系」と呼ばれてきた土器であるが、十日町市中島遺跡で多量に出土し、そこで「原山類型」という呼称が提案されている〔十日町市教育委員会2006〕。
- 註9 城之腰類型なる語は佐藤雅一〔1999〕が初めて使用した用語である。しかしながら、この土器群が目目されたのは古く、“口辺にバンドをめぐるしたグループ〔小坂遺跡調査団1961〕”とか、“口縁部に水平の隆帯文を巡らす胴部地文の土器〔下田村教育委員会1975〕”など、しばしば三十稲場類型との文様構成の同一性が指摘された土器群である。また、近年では阿部〔2007〕で、R群とされたものに相当する。
- 註10 矢羽根状沈線文を施すものには、万條寺林類型や八反田類型、および反里口類型がある。これらは佐藤〔1999・2003〕によって提唱されたもので、万條寺林類型については、石坂〔2007〕によって修正されている。これは佐藤の指示によるもので、より主要な文様の共通性に注目し、波状口縁のもの（堂平類型の一部）や連続矢羽根状沈線文を充填するもの（反里口類型の一部）を、万條寺林類型に含めたものである。他方、反里口類型については、石坂〔2006〕で万條寺林類型に含められたもの以外を、「旧・反里口類型」との呼称で整理を試みたが、却って混乱を招く結果になっている。記してお詫びしたい。
- 註11 「C」字状の貼付文を持つ深鉢形土器は水上遺跡1号土坑および4号土坑で三十稲場式2期の資料や称名寺II式の資料と共存している〔大和町教育委員会1988〕。
- 註12 この系列には加飾隆帯文が1条のもの2条のものがある。本文で触れたように、城之腰遺跡で多くの類例があるほか、三十稲場遺跡〔長岡市教育委員会2002〕、元中子遺跡〔小千谷市教育委員会1990〕などでも類例がある。
- 註13 佐藤雅一氏よりご教示いただき、出土状況などを含めて判断した。文責は執筆者にある。
- 註14 沈線文を多用する浅鉢については、阿部〔2007a・b〕を参考にした。
- 註15 多賀屋敷類型については、多くのところで言及され、提示されてきた〔中村1966、安孫子1981、駒形1983、田中1984・1999〕。

研究者間における後期初頭土器群の共通認識の中核的な役割を果たしてきたものという、重要な土器群である。他方で、執筆者の石坂は、「多賀屋敷式」という後期初頭の型式名を提唱する一方、この土器群については、“多賀屋敷タイプ”、“多賀屋敷類型”、“多賀屋敷類似土器”などと混乱を招く表現とその修正を繰り返してしまった。ここにお詫びするとともに、今後は“多賀屋敷式類型”に統一することを改めて提案したい。

註 16 梶山類型については谷井・細田〔1995〕を参考にした。新潟県でも、堂平遺跡〔津南町教育委員会 1999〕で在地系の土器との合わせ口埋甕として出土するなど、類例が増えてきている。

註 17 八反田類型に関しては、石坂〔2007b〕で口頭で触れたことがある。これは阿部〔2008〕でM群とされたものである。

註 18 沖ノ原式は磨消縄文を本格的に発達させなかったという点では、大木9式とは分岐の明らかな側面を持つが、同時に、大きくは大木8b式—9式—10式と連動するように変化している側面もある。後者の側面には、器形の変化による文様帯の縮減と渦巻文の伝統を保持したことが挙げられる。

また、沖ノ原式の中に磨消縄文を志向した類型も存在する。つつじ原類型b群である。これは古くから、東北系、大木10式系と解釈されてきたが、中期後葉からの変遷が連れ、在地の土器群が磨消縄文を取り入れようとした試みと考えられる〔石坂2007b〕。

註 19 しかしながら、魚沼地域にも十日町梶花遺跡などで若干の事例が知られる。

註 20 沖ノ原式の中には、このように現在の柵倉式の文様構成から、口縁部の文様を残存させたもの（沖ノ原類型）があるが、それと同時に胴部の文様帯を残存させたもの（つつじ原類型a群・b群、万條寺林類型）も存在する。すなわち、この二者によって構成された土器型式とすることができる。この二者による構成という点でも、大木9—10式、加曾利EⅢ—Ⅳ式との連動性が窺える。

註 21 渦巻文については、水沢〔2003〕から大きな示唆を受けた。

註 22 これらの一括資料に関しては、阿部昭典、長澤展生氏にご教示いただいたものがある。記して謝意を表したい。

参考文献

- 安孫子昭二 1981 「関東・中部地方」 芹沢長介・坪井清足監修『縄文土器大成 3 後期』 講談社。144—152頁。
- 阿部昭典 2007a 「新潟県下越地方の縄文中期集終末から後期初頭の緒様相」『第20回 縄文セミナー 中期終末から後期初頭の再検討』 縄文セミナーの会。271—336頁。
- 阿部昭典 2007b 「新潟県下越地方の縄文中期集終末から後期初頭の緒様相」『第20回 縄文セミナー 中期終末から後期初頭の再検討—記録集—』 縄文セミナーの会。79—93頁。
- 阿部昭典 2008 「沖ノ原式土器」 小林達雄編『総覧 縄文土器』 アム・プロモーション。472—479頁。
- 阿部昭典 2009 「沖ノ原式土器の編年に関する一試論」『新潟県考古学会設立20周年記念論文集 新潟県の考古学Ⅱ』 新潟県考古学会。167—189頁。
- 石坂圭介 2006 「土器の分類」『十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第31集 中島遺跡発掘調査報告書—主要地方道小千谷十日町津南線 緊急地方道（改築）事業に伴う発掘調査報告書—』 十日町教育委員会。37—57頁。
- 石坂圭介 2007a 「新潟県中越地方の中期末から後期前葉の土器様相」『第20回 縄文セミナー 中期週末から後期初頭の再検討』 縄文セミナーの会。213—270頁。
- 石坂圭介 2007b 「新潟県中越地方の中期末から後期前葉の土器様相」『第20回 縄文セミナー 中期週末から後期初頭の再検討—記録集—』 縄文セミナーの会。60—78頁。
- 石坂圭介 2008 「三十稲場式土器」 小林達雄編『総覧 縄文土器』 アム・プロモーション。618—625頁。
- 稲岡嘉彰 1970 「土器 遺物 上並松遺跡 並松遺跡」『越路原総合調査報告書 朝日百塚 並松遺跡』 越路町教育委員会。25—31

頁。

- 可児通宏 2008 「縄文施文原体と文様」 小林達雄編『総覧 縄文土器』 アム・プロモーション。965-980 頁
- 小千谷市教育委員会 1990 『小千谷市文化財報告 第4集 市内遺跡詳細分布調査報告書』
- 群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986 「6号住址 荒砥北原遺跡の調査」『荒砥北原遺跡 今井神社古墳群
荒砥青柳遺跡 昭和56年度県営園場整備事業荒砥南部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 駒形敏朗 1983 「2. 縄文土器について VI. まとめ」『越路町文化財調査報告書 第10輯 多賀屋敷遺跡調査報告書』 越路町教育委員会。32-36 頁。
- 越路町教育委員会 1970 『越路原総合調査報告書 朝日百塚 並松遺跡』
- 越路町教育委員会 1983 『越路町文化財調査報告書 第10輯 多賀屋敷遺跡調査報告書』
- 越路町教育委員会 1993 『越路町文化財報告書 第20輯 多賀屋敷遺跡—第二次発掘調査報告書—』
- 小坂遺跡調査団 1961 『十日町市文化財調査報告第二 小坂遺跡』 十日町市教育委員会
- 佐藤雅一 1998 a 「新潟県の中期中葉から後葉の様相」『第11回 縄文セミナー 中期後半の再検討』 縄文セミナーの会。101-188 頁
- 佐藤雅一 1998 b 「新潟県の中期中葉から後葉の様相」『第11回 縄文セミナー 中期後半の再検討—記録集—』 縄文セミナーの会。38-59 頁。
- 佐藤雅一 1999 「2. 魚沼地方の縄文時代中期後半土器群の検討 原遺跡の研究(2)」『新潟考古』第10号 新潟県考古学会。1-44 頁。
- 佐藤雅一 2003 「沖ノ原式土器について」『第16回 縄文セミナー 中期後半の再検討』 縄文セミナーの会。1-70 頁。
- 佐藤雅一・石坂圭介 1993 「V. まとめ」『越路町文化財報告書 第20輯 多賀屋敷遺跡—第二次発掘調査報告書—』 越路町教育委員会。23-41 頁。
- 品田高志 2002 「新潟県における縄文後期前葉期の土器群—柏崎市十三本塚北遺跡を中心に—」『第15回縄文セミナー 後期前半の再検討』 縄文セミナーの会。173-202 頁。
- 品田高志 2001 「IV遺物」『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第37集 十三本塚北—新潟県柏崎市十三本塚遺跡群・十三本塚北遺跡発掘調査報告書—』 柏崎市教育委員会。97-106 頁
- 田中耕作 1984 「所謂「三十稲場式」の成立について」『信濃』37-4。130-151 頁
- 田中耕作 1999 「第5項 後期 第2節 縄文土器 第2章 縄文時代」 新潟県考古学会編『新潟県の考古学』 高志書院。105-113 頁
- 谷井 彪・細田 勝 1995 「関東の大木式・東北の加曾利E式土器」『日本考古学』第2号 日本考古学協会。37-67 頁。
- 寺崎裕助 1991 「火炎土器様式について」『新潟考古学談話会会報』第8号 新潟考古学談話会。1-19 頁。
- 寺崎裕助 1996 「火炎土器の成立・展開・終焉」『縄文人の技と心に迫る—火焔土器研究の新視点』 十日町博物館。8-13 頁。
- 寺崎裕助 2008 「火炎土器」小林達雄編『総覧 縄文土器』 アム・プロモーション。458-471 頁。
- 十日町市教育委員会 2006 『十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第31集 中島遺跡発掘調査報告書—主要地方道小千谷十日町津南線 緊急地方道(改築)事業に伴う発掘調査報告書—』
- 十日町教育委員会 2009 『十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第39集 梶花遺跡発掘調査報告書』
- 中島栄一 1975 「2. 三十稲場式・南三十稲場式土器について」『芹沢・八幡平遺跡緊急調査報告書』 下田村教育委員会。14-16 頁。
- 中村孝三郎 1996 『先史時代と長岡の遺跡』 長岡市立科学博物館
- 長岡市教育委員会 2002 『馬高・三十稲場遺跡—史跡「馬高・三十稲場遺跡」環境整備事業に伴う発掘調査報告 I—』

- 長岡市教育委員会 1981 『埋蔵文化財発掘調査報告書 岩野原遺跡』
- 長岡市史編纂委員会 1992 「外新田遺跡」『長岡市史 資料編1 考古』 長岡市
- 長岡市史編纂委員会 1992 「長岡市遺跡位置図」『長岡市史 資料編1 考古』 長岡市
- 新潟県教育委員会 1991 『新潟県埋蔵文化財報告書第29集 関越自動車道関係発掘調査報告書 城之腰遺跡』
- 新潟県教育委員会 1983 「2. 範囲確認調査 I 調査の経緯」『越路町文化財調査報告書 第10輯 多賀屋敷遺跡調査報告書』 越路町教育委員会
- 新潟平野団体研究グループ 1967 「新潟県小千谷市周辺および長岡市西方の第四系—新潟県の第四系そのⅧ—」『新潟大学教育学部高田分校紀要』12。139—160頁。
- 水沢教子 2003 「中期後半の渦巻文を有する土器とその周辺」『第16回 縄文セミナー 中期後半の再検討—記録集—』 縄文セミナーの会。55—74頁。
- 大和町教育委員会 1988 『大和町文化財発掘調査報告書 第3号 水上遺跡』
- 渡辺秀男 2007 「新潟県越後平野南西部の河成段丘の編年と構造運動」『地球科学』61巻。129—142頁。

第2表 遺構観察表(1)

覆土1は黒色土、2は灰褐色土、3は混合土、※は断面図参照。法量のうち、斜体の数値は残存値を示す。

遺構番号	註記番号		図版番号	種別	平面形	法量(cm)			柱痕(cm)		覆土	備考
	グリッド	個別番号				長径	短径	深度	直径	深度		
1	A1			-	不整形	46	72	-	-	-	-	
2	A1			カクレン	長楕円形	112	78	-	-	-	-	
3	A2	P4	12	-	楕円形	110	84	9	-	-	※	
4	A2			柱穴?	不整形	44	39	10	-	-	2	
5	A2	P2	12	柱穴	楕円形	60	46	41	-	-	-	
6	A2	P3	12	-	楕円形	128	84	19	-	-	-	
7	A2			柱穴?	円形	44	38	22	-	-	2	
8	A2			-	楕円形	280	26	6	-	-	2	
9	A2			-	不整形	60	42	8	-	-	2	
10	A2			-	不整形	50	40	6	-	-	2	
11	A2	P1		-	円形	90	70	54	-	-		
12	B2	P2	12	柱穴	楕円形	120	132	96	-	-	※	
13	B2	P1	12	柱穴	楕円形	72	61	37	-	-	※	
14	A3	P9		-	楕円形	31	20	14	-	-	2	
15	A3			-	楕円形	49	40	11	-	-	2	
16	A3			柱穴?	楕円形	47	44	48	-	-	1	
17	A3			柱穴?	楕円形	44	40	-	-	-	1	
18	A3			-	楕円形	29	28	12	-	-	-	
19	A3	P3		柱穴	円形	29	28	26	-	-	1	
20	A3	P18		-	不整形	92	84	7	-	-	-	
21	A3			柱穴	不整形	40	36	41	-	-	-	
22	A3	P4		-	楕円形	47	36	24	-	-	2	
23	A3			-	不整形	44	41	12	-	-	-	
24	A3	P7	13	柱穴	楕円形	67	56	34	-	-	※	
25	A3	P6	13	-	楕円形	54	48	20	-	-	※	
26	A3			柱穴	楕円形	50	48	70	-	-	1	
27	A3			柱穴?	楕円形?	36	28	22	-	-	1	
28	A3			柱穴	不整形	36	28	47	-	-	1	
29	A3			柱穴	楕円形?	30	16	43	-	-	1	
30	A3			柱穴?	楕円形?	28	24	26	-	-	1	
31	A3			柱穴?	楕円形	28	24	11	-	-	1	
32	A3	P8		柱穴?	円形	28	28	18	-	-	1	
33	A3			-	楕円形	32	28	-	-	-	2	
34	A3	P5		柱穴	円形	47	44	45	-	-	2	
35	A3	P1	13	柱穴?	不整形	109	99	63	16.0	61.0	※	
36	B3			柱穴	-	44	87	41	-	-	-	
37	B3	P16	13	柱穴	不整形	158	89	72	-	-	※	
38	B3			柱穴?	不整形	64	49	22	-	-	1	
39	B3		13	-	不整形	90	78	41	-	-	※	
40	B3	P15	13	柱穴	不整形	120	92	70	-	-	※	
41	B3		13	-	楕円形	36	28	19	-	-	※	
42	B3	P10	13	柱穴	楕円形	85	73	62	40.8	60.0	※	
43	B3	P11		柱穴	不整形	37	35	34	-	-	1	
44	B3		13	柱穴	長楕円形	57	48	33	-	-	※	
45	B3			-	不整形	48	44	21	-	-	2	
46	B3			-	不整形	44	36	7	-	-	2	
47	B3			-	長楕円形	72	36	11	-	-	-	
48	B3	P13		-	楕円形?	60	22	26	-	-	-	
49	B3	P12		-	略方形	48	56	12	-	-	2	

第2表 遺構観察表(2)

遺構番号	註記番号		図版番号	種別	平面形	法量(cm)			柱痕(cm)		覆土	備考
	グリッド	個別番号				長径	短径	深度	直径	深度		
50	B3	P14		カクレン	略円形	96	102	-	-	-	-	
51	B3	P1		柱穴	楕円形?	44	50	36	-	-	1	
52	B3			柱穴?	不整形	72	54	-	-	-	1	
53	B3			-	不整形	40	24	13	-	-	1	
54	B3			-	楕円形	48	28	20	-	-	1	
55	B3			カクレン	楕円形	128	86	20	-	-	3	
56	B3			-	不整形	48	92	22	-	-	3	
57	B3			カクレン	不整形	116	82	27	-	-	3	
58	B3			カクレン	不整形	104	64	28	-	-	3	
59	B3	P3		カクレン	不整形	68	88	22	-	-	3	
60	B3	P9		-	楕円形	96	80	22	-	-	3	
61	B3			カクレン	楕円形	52	40	15	-	-	3	
62	B3			-	不整形	36	32	16	-	-	3	
63	B3	P4		-	円形	76	72	17	-	-	3	
64	B3			-	不整形	32	28	21	-	-	-	
65	B3	P5		-	不整形	28	24	18	-	-	2	
66	B3			柱穴	長楕円形	44	28	28	-	-	-	
67	B3			-	楕円形	36	28	12	-	-	2	
68	B3	P6		-	楕円形	72	60	18	-	-	※	
69	B3			-	不整形	36	30	12	-	-	※	
70	B3			柱穴?	円形	32	31	19	-	-	1	
71	B3			-	不整形	44	24	10	-	-	1	
72	B3			-	不整形	34	24	14	-	-	1	
73	B3			-	略方形	40	28	17	-	-	1	
74	B3			柱穴	楕円形	44	36	24	-	-	1	
75	B3			-	円形	32	28	12	-	-	1	
76	B3			-	円形	24	24	17	-	-	1	
77	B3			-	円形	29	28	-	-	-	2	
78	B3	P7	13	-	楕円形	64	60	22	49.0	48.5	※	
79	B3			-	楕円形	32	28	7	-	-	2	
80	B3	P8	13	柱穴	円形	88	80	48	-	-	1	
81	B3			-	不整形	36	32	14	-	-	2	
82	B3			柱穴	略方形	36	30	52	40.0	48.0	2	
83	B3			柱穴	楕円形	48	40	32	-	-	3	
84	A4			-	楕円形	48	36	30	-	-	1	
85	A4			-	不整形	32	27	5	-	-	1	
86	A4			柱穴	長楕円形	60	28	27	-	-	1	
87	A4	P1		柱穴	楕円形	44	40	48	-	-	1	
88	A4			-	略方形	32	24	-	-	-	2	
89	A4			-	不整形	28	36	18	-	-	※	
90	A4	P7	5	柱穴	楕円形	108	72	37	-	-	※	1号建物
91	A4			-	楕円形	36	28	13	-	-	1	
92	A4			-	不整形	24	16	11	-	-	2	
93	A4	P2		柱穴	楕円形	44	40	44	-	-	1	
94	A4			柱穴	楕円形	28	24	29	-	-	1	
95	A4			-	長楕円形	40	28	8	-	-	2	
96	A4			柱穴	楕円形	25	22	32	-	-	1	
97	A4			-	楕円形	28	24	3	-	-	2	
98	A4			-	楕円形	16	20	9	-	-	2	
99	A4			柱穴	不整系	30	28	21	-	-	1	

第2表 遺構観察表(3)

遺構番号	註記番号		図版番号	種別	平面形	法量(cm)			柱痕(cm)		覆土	備考
	グリッド	個別番号				長径	短径	深度	直径	深度		
100	A4		5	柱穴	楕円形	112	72	39	28	37	※	1号建物
101	A4	P8	5	-	不整形	80	44	6	-	-	※	
102	A4			-	楕円形	20	20	10	-	-	2	
103	A4			-	略方形	24	22	18	-	-	2	
104	A4	P5	5	柱穴	楕円形	92	76	58	19	39	※	1号建物
105	A4	P4		柱穴	楕円形	44	32	37	-	-	1	
106	A4	P6		-	方形	74	52	14	-	-	1	
107	A4			柱穴?	円形	28	24	-	-	-	1	
108	A4			カラン	溝状	348	84	-	-	-	-	
109	A4	P23		柱穴	楕円形	72	48	25	-	-	2	1号建物
110	A4			柱穴	不整形	48	46	21	-	-	1	
111	A4			柱穴	不整形	32	28	20	-	-	1	
112	A4			柱穴	略方形	36	32	29	-	-	1	
113	A4			-	楕円形	24	24	16	-	-	2	
114	B4	P1	14	-	不整形	56	76	18	-	-	※	
115	B4	P2		柱穴	楕円形	44	40	20	-	-	1	
116	B4	P28	14	-	不整形	58	40	18	-	-	※	
117	B4			-	不整形	24	24	-	-	-	2	
118	B4			柱穴	不整形	76	42	41	-	-	-	
119	B4			-	不整形	30	24	-	-	-	-	
120	B4			柱穴	不整形	28	26	28	-	-	1	
121	B4	P3		柱穴	楕円形	36	32	28	-	-	1	
122	B4	P25	14	柱穴	楕円形	84	44	48	-	-	※	1号建物
123	B4	P27		-	略方形	28	26	16	-	-	2	
124	B4	P4		-	楕円形	28	26	7	-	-	2	
125	B4			-	不整形	28	24	20	-	-	2	
126	B4			-	不整形	20	20	18	-	-	2	
127	B4			柱穴	不整形	40	36	25	-	-	1	
128	B4	P24		柱穴	長楕円形	72	40	35	-	-	1	
129	B4			-	円形	20	20	3	-	-	2	
130	B4			-	楕円形	24	20	12	-	-	2	
131	B4			柱穴	楕円形	24	22	20	-	-	1	
132	B4			柱穴	円形	300	296	34	-	-	1	
133	B4			-	円形	16	16	7	-	-	2	
134	B4			-	楕円形	28	24	15	-	-	2	
135	B4			柱穴	不整形	38	36	40	-	-	1	
136	B4	P5		柱穴	略方形	52	44	39	-	-	1	
137	B4	P23	5	-	略方形	24	16	15	-	-	※	
138	B4	P7	5	柱穴	楕円形	80	60	44	-	-	※	1号建物
139	B4			-	楕円形	16	16	2	-	-	2	
140	B4			-	楕円形	34	28	8	-	-	2	
141	B4			-	方形?	52	20	7	-	-	1	
142	B4			-	略方形	27	24	10	-	-	2	
143	B4	P6		柱穴	円形	24	24	31	-	-	1	
144	B4	P29	5	-	不整形	72	56	25	-	-	※	
145	B4			-	不整形	26	28	13	-	-	2	
146	B4			-	楕円形	34	28	23	-	-	-	
147	B4			柱穴	楕円形	30	28	40	-	-	-	
148	B4	P12		-	略方形	124	82	14	-	-	-	
149	B4			柱穴?	楕円形	288	288	-	-	-	-	

第2表 遺構観察表(4)

遺構番号	註記番号		図版番号	種別	平面形	法量(cm)			柱痕(cm)		覆土	備考
	グリッド	個別番号				長径	短径	深度	直径	深度		
150	B4			柱穴	楕円形	27	24	38	-	-	-	
151	B4			-	楕円形	24	20	16	-	-	-	
152	B4	P8		柱穴?	不整形	68	56	25	-	-	1	
153	B4		5	柱穴	楕円形	80	88	83	-	-	※	1号建物
154	B4	P9		柱穴?	楕円形	48	44	19	-	-	1	
155	B4	P22	5	柱穴	不整形	28	24	69	-	-	※	
156	B4	P10		柱穴	不整形	40	36	46	-	-	1	
157	B4	P14		柱穴?	楕円形?	64	54	37	-	-	1	
158	B4	P21	5	-	不整形	40	72	34	-	-	※	
159	B4	P16		柱穴?	不整形	48	28	26	-	-	1	
160	B4	P15		土坑	略方形	128	60	23	-	-	1	
161	B4		5	-	不整形	60	92	45	-	-	※	
162	B4			柱穴	不整形	40	36	49	-	-	1	
163	B4			-	不整形	24	12	-	-	-	-	
164	B4	P19	5	柱穴	楕円形	76	72	39	-	-	※	1号建物
165	B4			柱穴	楕円形	38	28	25	-	-	1	
166	B4			-	不整形	42	40	15	-	-	1	
167	B4	P13		柱穴	楕円形	80	72	41	-	-	1	
168	B4	P17		柱穴	楕円形	62	48	20	-	-	1	
169	B4	P18		-	不整形	36	28	16	-	-	2	
170	B4			柱穴	不整形	48	36	27	-	-	1	
171	B4			-	楕円形	36	28	14	-	-	2	
172	B4			-	不整形	16	12	-	-	-	2	
173	B4			-	不整形	72	46	13	-	-	-	
174	B4			柱穴	略方形	24	24	23	-	-	2	
175	B4	P11	6	フラスコ?	略楕円形	88	84	10	-	-	※	
176	B4			柱穴	楕円形	36	28	23	-	-	1	
177	B4			-	不整形	28	24	-	-	-	2	
178	B4			柱穴	楕円形	28	28	25	-	-	1	
179	B4			-	不整形	36	26	14	-	-	2	
180	B4			柱穴	楕円形	68	44	40	-	-	1	
181	B4			柱穴	楕円形	48	28	-	-	-	1	
182	B4			-	楕円形	32	21	-	-	-	2	
183	B4	P26	6	-	楕円形	88	84	28	-	-	※	
184	B4			-	楕円形	28	24	18	-	-	2	
185	A5	P9	6	柱穴	不整形	72	52	35	-	-	※	
186	A5			柱穴	楕円形	47	36	-	-	-	2	
187	A5	P16		-	楕円形	26	18	11	-	-	2	
188	A5			-	楕円形	28	24	12	-	-	2	
189	A5			柱穴	略円形	42	42	35	-	-	1	
190	A5			-	略方形	76	36	11	-	-	1	
191	A5			-	不整形	32	24	18	-	-	2	
192	A5	P7		-	楕円形	16	16	8	-	-	2	
193	A5			-	長楕円形	20	20	14	-	-	2	
194	A5	P8		柱穴	楕円形	40	34	32	-	-	1	
195	A5	P4	6	フラスコ	略円形	92	88	10	-	-	※	小ピット有
196	A5			-	楕円形	24	16	15	-	-	2	
197	A5	P18		柱穴	楕円形	36	36	32	-	-	1	
198	A5			-	楕円形	48	40	16	-	-	2	
199	A5			柱穴	不整形	36	36	36	-	-	1	

第2表 遺構観察表(5)

遺構番号	註記番号		図版番号	種別	平面形	法量(cm)			柱痕(cm)		覆土	備考
	グリッド	個別番号				長径	短径	深度	直径	深度		
200	A5		6	-	不整形	36	28	19	-	-	※	
201	A5			-	不整形	32	32	33	-	-	1	
202	A5	P5	6	柱穴	楕円形	52	38	44	-	-	※	
203	A5			柱穴	略円形	42	41	36	-	-	1	
204	A5			-	楕円形	32	28	-	-	-	2	
205	A5			-	不整形	32	20	18	-	-	2	
206	A5			-	不整形	52	28	12	-	-	2	
207	A5	P17		-	不整形	52	32	23	-	-	2	
208	A5			柱穴	略円形	48	40	34	-	-	1	
209	A5	P15		柱穴	不整形	48	44	41	-	-	1	
210	A5	P14		柱穴?	不整形	28	24	28	-	-	1	
211	A5			柱穴	不整形	36	24	48	-	-	1	
212	A5			-	不整形	24	24	13	-	-	2	
213	A5	P13		柱穴	不整形	76	48	27	-	-	1	
214	A5			-	不整形	28	16	11	-	-	2	
215	A5			-	不整形	24	16	21	-	-	2	
216	A5			柱穴	不整形	36	28	24	-	-	1	
217	A5	P12	14	柱穴	不整形	74	53	41	-	-	※	
218	A5	P11		柱穴	楕円形	52	42	31	-	-	1	
219	A5			柱穴?	不整形	69	40	33	-	-	1	
220	A5	P6	14	柱穴	楕円形	50	40	42	-	-	※	
221	A5	P20		柱穴	不整形	88	52	39	-	-	1	
222	A5			柱穴	不整形	72	50	25	-	-	1	
223	A5	P19		柱穴	不整形	49	30	39	-	-	1	
224	A5	P3		-	不整形	68	28	21	-	-	2	
225	A5	P2	14	柱穴	楕円形	88	68	48	39	48	※	
226	A5	P1		柱穴	楕円形	52	40	40	-	-	1	
227	A5			-	楕円形	36	24	-	-	-	2	
228	A5	P10		-	不整形	32	48	-	-	-	2	
229	A5			-	楕円形	68	45	-	-	-	2	
230	B5	P14	6	柱穴	不整形	28	52	51	-	-	※	
231	B5	P22		柱穴	円形	47	44	49	-	-	1	
232	B5			-	不整形	28	26	-	-	-	2	
233	B5	P11	7	フラスコ	楕円形	104	60	63	-	-	※	小ビット有
234	B5	P25		-	不整形	28	24	18	-	-	2	
235	B5			-	不整形	36	30	18	-	-	2	
236	B5	P24		柱穴	楕円形	38	32	39	-	-	1	
237	B5	P28		-	楕円形	28	24	-	-	-	-	
238	B5	P6	14	-	円形	88	84	12	-	-	※	
239	B5	P29	14	-	略方形	20	24	29	-	-	※	
240	B5	P27	14	柱穴	楕円形	40	36	68	-	-	※	
241	B5			-	不整形	24	16	11	-	-	1	
242	B5			-	不整形	28	28	16	-	-	1	
243	B5			柱穴	不整形	57	34	29	-	-	1	
244	B5	P21		-	楕円形	45	30	16	-	-	2	
245	B5			-	不整形	37	32	12	-	-	2	
246	B5			柱穴	円形	44	40	32	-	-	1	
247	B5			柱穴?	不整形	33	29	22	-	-	1	
248	B5			-	不整形	52	28	21	-	-	2	
249	B5			-	円形	45	45	8	-	-	2	

第2表 遺構観察表(6)

遺構番号	註記番号		図版番号	種別	平面形	法量(cm)			柱痕(cm)		覆土	備考
	グリッド	個別番号				長径	短径	深度	直径	深度		
250	B5			-	不整形	25	20	17	-	-	2	
251	B5	P20		柱穴	円形	44	44	46	-	-	1	
252	B5			-	不整形	60	48	13	-	-	2	
253	B5	P15		柱穴	不整形	57	37	14	-	-	1	
254	B5			カケン	楕円形	108	93	-	-	-	-	
255	B5			-	不整形	26	36	7	-	-	2	
256	B5			-	不整形	44	32		-	-	2	
257	B5			-	不整形	34	32	27	-	-	2	
258	B5			-	不整形	46	36	11	-	-	2	
259	B5			-	不整形	36	33		-	-	2	
260	B5			柱穴	楕円形	48	44	25	-	-	1	
261	B5			柱穴	楕円形	40	38	38	-	-	1	
262	B5			柱穴	不整形	45	36	27	-	-	1	
263	B5	P9		-	略方形	44	40	10	-	-	1	
264	B5			柱穴?	円形	28	28	24	-	-	1	
265	B5			-	不整形	28	28	9	-	-	2	
266	B5			柱穴	不整形	32	28	39	-	-	2	
267	B5	P3		-	不整形	52	36	23	-	-	2	
268	B5			-	不整形	40	30	11	-	-	2	
269	B5	P4	15	柱穴	不整形	63	60	43	-	-	※	
270	B5	P26	15	-	不整形	40	32	14	-	-	※	
271	B5			柱穴	楕円形	48	32	32	-	-	1	
272	B5	P5	15	柱穴	楕円形	73	68	49	27	48	※	
273	B5			柱穴	略円形	35	28	23	-	-	2	
274	B5			柱穴	楕円形	32	28	28	-	-	1	
275	B5			柱穴	楕円形	40	36	22	-	-	1	
276	B5			柱穴	円形	36	36	31	-	-	1	
277	B5			-	楕円形	40	32	12	-	-	2	
278	B5			柱穴	不整形	76	47	26	-	-	1	
279	B5	P4		-	不整形	42	37	18	-	-	2	
280	B5	P2	15	-	円形	92	52	10	-	-	※	
281	B5		15	カケン	口の字形	297	244	-	-	-	-	
282	B5	P8	15	柱穴?	楕円形	69	68	32	-	-	※	
283	B5	P13		-	不整形	29	40	26	-	-	2	
284	B5	P19		-	楕円形	40	34	17	-	-	2	
285	B5			-	不整形	52	34	24	-	-	2	
286	B5			-	不整形	26	22	-	-	-	2	
287	B5	P18		-	楕円形	30	25	-	-	-	2	
288	B5			柱穴	楕円形	69	44	32	-	-	1	
289	B5			-	長楕円形	32	24	16	-	-	2	
290	B5			-	不整形	36	27	19	-	-	2	
291	B5			柱穴?	不整形	35	29	22	-	-	1	
292	B5	P10		-	略方形	68	40	18	-	-	※	
293	B5	P7		柱穴	不整形	44	32	39	-	-	※	
294	B5	P17		柱穴	不整形	48	28	41	-	-	1	
295	B5	P16		柱穴	円形	48	40	38	-	-	1	
296	A6	P11		-	不整形	96	104	20	-	-	2	
297	A6			柱穴	楕円形	40	36	39	-	-	1	
298	A6			柱穴?	楕円形	36	30	22	-	-	1	
299	A6	P10		フラスコ?	楕円形	126	122	24	-	-	2	

第2表 遺構観察表(7)

遺構番号	註記番号		図版番号	種別	平面形	法量(cm)			柱痕(cm)		覆土	備考
	グリッド	個別番号				長径	短径	深度	直径	深度		
300	A6			柱穴?	楕円形	59	32	38	-	-	3	
301	A6			柱穴?	不整形	28	26	22	-	-	2	
302	A6	P12		柱穴	不整形	92	49	43	-	-	3	
303	A6	P13		柱穴	楕円形	87	44	37	-	-	2	
304	A6			柱穴	不整形	70	50	28	-	-	1	
305	A6			-	不整形	28	28	8	-	-	1	
306	A6			-	不整形	44	38	18	-	-	1	
307	A6			柱穴?	楕円形	44	37	19	-	-	1	
308	A6	P14		柱穴	楕円形	47	38	31	-	-	1	
309	A6	P15		-	不整形	80	48	129	-	-	2	
310	A6	P16		-	不整形	92	42	16	-	-	2	
311	A6	P2	15	柱穴	楕円形	66	49	42	20	37	※	
312	A6	P1	15	柱穴	楕円形	84	53	46	41	41	※	
313	A6	P5	16	-	不整形	88	66	34	-	-	※	
314	A6	P3		柱穴	円形	41	41	27	-	-	1	
315	A6	P4	16	柱穴	楕円形	31	41	47	20	39	※	
316	A6	P8	16	-	不整形	76	28	17	-	-	※	
317	A6	P9	16	-	不整形	68	60	38	-	-	※	
318	A6	P7		-	楕円形	32	25	19	-	-	2	
319	A6			-	楕円形	28	26	20	-	-	2	
320	A6	P6		-	不整形	43	56	17	-	-	2	
321	B6	P14		柱穴	略円形	124	96	42	-	-	1	
322	B6			-	不整形	34	29	13	-	-	2	
323	B6	P13		-	不整形	96	48	31	-	-	3	
324	B6	P25		-	楕円形	68	68	23	-	-	3	
325	B6			-	楕円形	35	28	15	-	-	2	
326	B6	P27		-	楕円形	32	28	14	-	-	2	
327	B6			-	楕円形	29	20	2	-	-	2	
328	B6			-	楕円形	35	28	16	-	-	2	
329	B6	P28		-	楕円形	43	28	19	-	-	2	
330	B6	P23		-	円形	32	26	9	-	-	2	
331	B6	P21		柱穴	楕円形	60	32	21	-	-	1	
332	B6			-	楕円形	36	32	9	-	-	2	
333	B6	P24		-	楕円形	46	36	-	-	-	3	
334	B6	P15	16	柱穴?	楕円形	56	44	21	-	-	※	
335	B6			-	円形	24	24	14	-	-	2	
336	B6			-	円形	18	17	12	-	-	2	
337	B6			柱穴	円形	34	34	37	-	-	1	
338	B6	P16	16	-	略円形	84	84	16	-	-	※	
339	B6			-	円形	34	18	7	-	-	2	
340	B6			-	不整形	29	24	8	-	-	2	
341	B6			-	不整形	36	28	15	-	-	2	
342	B6	P17	16	-	不整形	35	44	10	-	-	※	
343	B6			-	不整形	45	29	-	-	-	2	
344	B6	P22		柱穴?	楕円形	57	42	19	-	-	2	
345	B6	P29	16	柱穴	円形	59	46	33	-	-	※	
346	B6	P18		-	不整形	76	60	24	-	-	3	
347	B6			-	楕円形	32	25	20	-	-	2	
348	B6	P19		柱穴	楕円形	51	46	31	-	-	1	
349	B6	P20		柱穴?	略円形	42	40	22	-	-	2	

第2表 遺構観察表(8)

遺構番号	註記番号		図版番号	種別	平面形	法量(cm)			柱痕(cm)		覆土	備考
	グリッド	個別番号				長径	短径	深度	直径	深度		
350	B6			-	不整形	24	26	11	-	-	2	
351	B6			-	不整形	28	32	14	-	-	2	
352	B6			-	不整形	28	24	10	-	-	2	
353	B6			柱穴?	楕円形	28	25	19	-	-	1	
354	B6			-	円形	32	31	13	-	-	2	
355	B6			-	不整形	32	24	12	-	-	2	
356	B6			-	不整形	46	38	9	-	-	2	
357	B6	P12		-	楕円形	28	24	19	-	-	2	
358	B6			-	楕円形	28	24	23	-	-	2	
359	B6			柱穴?	楕円形	32	28	27	-	-	1	
360	B6			柱穴?	楕円形	38	25	26	-	-	1	
361	B6			-	楕円形	30	21	15	-	-	2	
362	B6			柱穴?	楕円形	29	24	22	-	-	1	
363	B6	P1	15	柱穴	楕円形?	64	64	45	-	-	※	
364	B6	P10	12	柱穴	楕円形	76	59	44	35	44	※	
365	B6	P9	12	埋設土器	楕円形	44	21	13	-	-	※	
366	B6			-	略円形	24	38	14	-	-	2	
367	B6			-	不整形	80	28	16	-	-	2	
368	B6	P2		-	不整形	37	43	16	-	-	2	
369	B6			-	不整形	48	28	20	-	-	2	
370	B6	P7		-	不整形	55	26	8	-	-	2	
371	B6			柱穴?	略円形	54	52	29	-	-	1	
372	B6			-	不整形	30	44	14	-	-	2	
373	B6	P4		-	不整形	24	28	-	-	-	2	
374	B6			-	不整形	64	44	15	-	-	2	
375	B6			-	楕円形	37	32	14	-	-	2	
376	B6	P8		柱穴	楕円形	44	32	38	-	-	1	
377	B6	P3		柱穴?	楕円形	50	46	25	-	-	1	
378	B6			-	楕円形	25	22	15	-	-	2	
379	B6			-	略円形	28	25	13	-	-	2	
380	B6	P11		-	楕円形	56	38	20	-	-	2	
381	B6	P5		柱穴	略円形	40	38	30	-	-	1	
382	B6	P6		-	楕円形	42	36	20	-	-	2	
383	A7	P15		柱穴	楕円形	60	34	46	-	-	1	
384	A7	P14		-	不整形	44	48	13	-	-	3	
385	A7			柱穴	楕円形	72	38	31	-	-	3	
386	A7	P8		-	不整形	40	56	23	-	-	2	
387	A7	P7		-	不整形	64	52	27	-	-	2	
388	A7			柱穴	楕円形	40	32	48	-	-	1	
389	A7			-	不整形	56	37	9	-	-	2	
390	A7	P3		柱穴	略円形	37	36	39	-	-	1	
391	A7	P16	16	-	楕円形	36	28	21	-	-	2	
392	A7	P4	16	柱穴	略円形	57	50	53	25	52	1	
393	A7	P5	17	柱穴	略楕円形	56	46	71	34	70	※	
394	A7			フラスコ?	不整形	100	60	21	-	-	-	
395	A7			柱穴	不整形	48	27	65	-	-	1	
396	A7	P6	17	柱穴	方形?	117	116	69	-	-	※	
397	A7			柱穴	略方形	53	53	16	-	-	1	
398	A7			カレン	方形	150	136	-	-	-	-	
399	A7			柱穴	不整形	50	44	49	-	-	-	

第2表 遺構観察表(9)

遺構番号	註記番号		図版番号	種別	平面形	法量(cm)			柱痕(cm)		覆土	備考
	グリッド	個別番号				長径	短径	深度	直径	深度		
400	A7	P1	7	フラスコ	楕円形	112	84	53	-	-	※	小ピット有
401	A7	P13	17	柱穴	楕円形	56	53	71	-	-	※	
402	A7	P2		柱穴?	楕円形	43	52	11	-	-	2	
403	A7	P11	17	柱穴	略楕円形	64	56	55	-	-	※	
404	A7	P10	17	-	不整形	191	146	15	-	-	※	
405	A7			-	楕円形	32	28	9	-	-	-	
406	A7	P17		柱穴	不整形	68	60	28	-	-	-	
407	B7	P23		柱穴	不整形	97	52	34	-	-	3	
408	B7			柱穴	略楕円形	53	32	24	-	-	1	
409	B7	P2		-	略円形	32	30	10	-	-	2	
410	B7	P37		柱穴	略円形	32	29	21	-	-	1	
411	B7			柱穴	楕円形	48	35	33	-	-	-	
412	B7	P1	8	フラスコ	略円形	72	122	25	-	-	※	
413	B7			-	楕円形	34	48	25	-	-	-	
414	B7	P40	8	柱穴	不整形	91	80	59	37	37	※	
415	B7	P4		柱穴	不整形	36	28	34	-	-	-	
416	B7		17	-	略円形	36	24	14	-	-	1	
417	B7	P35		柱穴	楕円形	64	35	61	-	-	1	
418	B7			柱穴	楕円形	24	29	32	-	-	1	
419	B7	P3	17	柱穴	円形	49	42	67	15	65	※	
420	B7	P41	17	-	不整形	72	36	25	-	-	※	
421	B7	P25	17	-	不整形	68	56	17	-	-	※	
422	B7			柱穴?	略楕円形	38	32	22	-	-	2	
423	B7	P29		-	不整形	62	49	20	-	-	2	
424	B7	P43		柱穴	不整形	48	40	31	-	-	3	
425	B7	P28		-	不整形	32	24	15	-	-	3	
426	B7	P27		柱穴?	不整形	61	48	43	-	-	1	
427	B7	P42	18	柱穴	楕円形	22	23	45	-	-	※	
428	B7	P22	18	柱穴	略円形	96	40	61	-	-	※	
429	B7	P12		-	不整形	62	52	21	-	-	2	
430	B7	P11		-	不整形	27	35	13	-	-	1	
431	B7	P10		柱穴	楕円形	48	34	36	-	-	1	
432	B7	P18	18	柱穴	不整形	37	62	54	22	50	※	
433	B7	P19		柱穴?	楕円形	25	29	25	-	-	1	
434	B7	P20	18	柱穴	略楕円形	60	54	86	25	85	※	
435	B7	P17		-	不整形	35	32	21	-	-	-	
436	B7	P5	8	フラスコ	略円形	104	83	32	-	-	※	
437	B7			-	略円形	24	24	10	-	-	2	
438	B7			-	不整形	25	24	14	-	-	2	
439	B7	P15		-	不整形	24	28	9	-	-	-	
440	B7	P38	18	-	不整形	48	20	29	-	-	※	
441	B7	P30	18	柱穴	不整形	104	84	41	-	-	※	
442	B7	P36		柱穴	略楕円形	115	89	79	30	77	※	
443	B7	P34	19	柱穴	不整形	63	53	53	23	45	※	
444	B7	P32		柱穴	略楕円形	44	34	57	-	-	1	
445	B7	P31	18	柱穴	楕円形	48	39	71	34	68	※	
446	B7	P44		-	楕円形	42	44	27	-	-	※	
447	B7	P45	19	柱穴?	不整形	45	52	39	-	-	※	
448	B7	P33	19	柱穴	略円形	78	77	95	37	90	※	
449	B7			柱穴	楕円形	52	42	29	-	-	1	

第2表 遺構観察表(10)

遺構番号	註記番号		図版番号	種別	平面形	法量(cm)			柱痕(cm)		覆土	備考
	グリッド	個別番号				長径	短径	深度	直径	深度		
450	B7	P14		柱穴	不整形	62	60	31	-	-	※	
451	B7	P21	8	-	長楕円形	76	72	18	-	-	※	
452	B7	P13		柱穴	楕円形	88	66	34	-	-	※	
453	B7	P39	8	-	楕円形	24	16	7	-	-	※	
454	B7	P6	8	フラスコ?	略楕円形	168	139	12	-	-	※	
455	B7			-	円形	24	24	33	-	-	-	
456	B7	P9		柱穴	楕円形	82	60	73	-	-	-	
457	B7			-	不整形	94	36	31	-	-	1	
458	B7	P8		柱穴	不整形	119	74	49	-	-	1	
459	B7	P7	19	柱穴	略円形	116	108	62	-	-	※	
460	B7			柱穴	楕円形	45	29	34	-	-	-	
461	B7	P24		柱穴?	略楕円形	38	40	28	-	-	1	
462	B7			柱穴?	楕円形	44	38	25	-	-	1	
463	B7	P26		-	円形	22	22	10	-	-	1	
464	B7			柱穴?	楕円形	56	40	29	-	-	1	
465	A8			-	不整形	36	32	11	-	-	2	
466	A8	P17		柱穴	略楕円形	48	43	59	-	-	※	
467	A8			-	略円形	26	22	16	-	-	-	
468	A8	P16	19	-	不整形	24	24	11	-	-	※	
469	A8	P15	19	-	不整形	26	26	12	-	-	※	
470	A8	P10	19	-	楕円形	204	149	23	-	-	※	
471	A8		19	柱穴	不整形	64	48	33	-	-	※	
472	A8			-	略方形	87	31	12	-	-	2	
473	A8	P9		柱穴	楕円形	90	56	44	-	-	1	
474	A8			-	不整形	72	42	36	-	-	2	
475	A8			柱穴?	不整形	52	44	25	-	-	1	
476	A8	P2	9	フラスコ	略円形	127	74	59	-	-	※	小ピット有
477	A8	P1		-	不整形	53	48	19	-	-	2	
478	A8			-	略楕円形	67	44	13	-	-	2	
479	A8	P4		柱穴	不整形	68	50	49	-	-	1	
480	A8	P3		柱穴?	略楕円形	68	45	25	-	-	1	
481	A8	P13	9	柱穴	略方形	94	83	49	-	-	※	
482	A8			柱穴	略円形	33	28	41	-	-	1	
483	A8	P6	9	フラスコ	略方形	96	56	38	-	-	※	
484	A8	P5		-	略円形	38	33	13	-	-	2	
485	A8			-	不整形	46	34	26	-	-	2	
486	A8	P12		-	不整形	36	30	20	-	-	2	
487	A8	P7		-	不整形	38	27	22	-	-	2	
488	A8			-	不整形	64	48	13	-	-	2	
489	A8	P8	9	フラスコ?	略円形	84	82	31	-	-	※	
490	A8	P14	9	-	不整形	44	24	14	-	-	※	
491	A8			-	不整形	40	28	19	-	-	-	
492	A8	P11		柱穴	楕円形	68	54	30	-	-	3	
493	B8			-	楕円形	36	24	15	-	-	2	
494	B8	P25		柱穴	略楕円形	42	49	43	-	-	1	
495	B8	P6		フラスコ?	楕円形	109	96	12	-	-	3	
496	B8			-	楕円形	32	30	21	-	-	2	
497	B8	P26		柱穴	楕円形	50	37	28	-	-	1	
498	B8	P28		柱穴	略楕円形	73	62	21	-	-	1	
499	B8	P20		柱穴	楕円形	46	35	54	-	-	1	

第2表 遺構観察表(11)

遺構番号	註記番号		図版番号	種別	平面形	法量(cm)			柱痕(cm)		覆土	備考
	グリッド	個別番号				長径	短径	深度	直径	深度		
500	B8			-	略楕円形	37	35	13	-	-	1	
501	B8	P24		柱穴	略円形	44	40	35	-	-	1	
502	B8			-	略円形	23	21	5	-	-	2	
503	B8	P27		柱穴	不整形	58	54	39	-	-	1	
504	B8			柱穴	不整形	28	36	36	-	-	1	
505	B8	P13		-	不整形	48	32	23	-	-	1	
506	B8	P23		-	不整形	50	39	22	-	-	2	
507	B8	P4	20	柱穴	不整形	76	65	108	22	71	※	
508	B8	P12		-	不整形	76	74	26	-	-	1	
509	B8	P14		柱穴	楕円形	40	32	30	-	-	1	
510	B8			柱穴?	略楕円形	51	38	25	-	-	1	
511	B8	P7	6	土坑?	方形?	116	96	12	-	-	※	
512	B8			柱穴	不整形	48	34	24	-	-	-	
513	B8	P2		柱穴	楕円形	57	54	40	-	-	※	
514	B8	P15		-	不整形	100	77	26	-	-	1	
515	B8			-	不整形	24	36	17	-	-	1	
516	B8	P5	20	柱穴	楕円形	106	76	56	19	56	1	
517	B8			-	不整形	34	32	17	-	-	1	
518	B8	P29		-	略円形	60	40	20	-	-	1	
519	B8	P1	20	柱穴	略楕円形	94	80	48	-	-	※	
520	B8	P3	9	フラスコ?	略方形	146	128	28	-	-	※	
521	B8	P8	20	柱穴	略方形	80	81	93	-	-	※	
522	B8	P19		-	不整形	68	49	12	-	-	2	
523	B8	P18		柱穴	略円形	76	76	59	-	-	1	
524	B8			-	略円形	28	27	16	-	-	2	
525	B8	P16		-	不整形	63	48	12	-	-	1	
526	B8	P21		柱穴	不整形	93	64	31	-	-	1	
527	B8			-	略円形	24	33	10	-	-	1	
528	B8	P9		柱穴	楕円形	52	44	41	-	-	1	
529	B8			-	不整形	28	22	13	-	-	1	
530	B8			柱穴	不整形	60	44	32	-	-	1	
531	B8	P22		柱穴	不整形	72	68	36	-	-	1	
532	B8	P11	20	-	略方形	104	106	26	-	-	※	
533	B8			-	楕円形	26	23	12	-	-	-	
534	B8	P17		-	不整形	68	60	15	-	-	-	
535	B8			柱穴	不整形	86	64	68	-	-	-	
536	B8	P10	10	フラスコ	略円形	86	94	7	-	-	※	
537	B8	P30	10	柱穴	略楕円形	50	36	30	-	-	※	
538	B8	P31	10	柱穴	不整形	47	42	39	23	31	※	
539	B8			-	不整形	36	32	11	-	-	2	
540	A9	P1	21	柱穴	不整形	42	84	32	-	-	※	
541	A9	P15		柱穴?	略楕円形	36	30	27	-	-	1	
542	A9	P16		柱穴	略楕円形	44	37	37	-	-	※	
543	A9	P17		-	不整形	84	48	18	-	-	※	
544	A9	P6		フラスコ?	略円形	108	96	17	-	-	2	
545	A9			柱穴	略楕円形	56	48	33	-	-	3	
546	A9	P7		-	略楕円形	37	27	20	-	-	1	
547	A9	P8		-	不整形	37	36	7	-	-	2	
548	A9			-	略円形	32	32	-	-	-	-	
549	A9			柱穴?	不整形	44	35	23	-	-	1	

第2表 遺構観察表(12)

遺構番号	註記番号		図版番号	種別	平面形	法量(cm)			柱痕(cm)		覆土	備考
	グリッド	個別番号				長径	短径	深度	直径	深度		
550	A9	P13	10	-	不整形	56	48	19	-	-	※	
551	A9	P14	10	柱穴	楕円形	60	52	21	-	-	※	
552	A9	P5	10	-	不整形	116	88	19	-	-	※	
553	A9			-	不整形	64	51	13	-	-	2	
554	A9			-	不整形	52	36	16	-	-	2	
555	A9			-	楕円形	56	48	13	-	-	2	
556	A9	P9		柱穴?	略楕円形	34	31	22	-	-	1	
557	A9			-	略楕円形	49	38	12	-	-	2	
558	A9			柱穴?	不整形	42	44	30	-	-	1	
559	A9	P4		-	楕円形	54	38	31	-	-	1	
560	A9	P12		柱穴?	不整形	53	46	22	-	-	1	
561	A9			柱穴	略楕円形	36	29	47	-	-	1	
562	A9	P11		-	不整形	72	30	42	-	-	1	
563	A9			柱穴	不整形	39	26	32	-	-	1	
564	A9			-	不整形	50	68	7	-	-	1	
565	A9			-	不整形	40	40	8	-	-	1	
566	A9	P10		柱穴?	楕円形?	29	48	29	-	-	1	
567	A9			-	略円形	36	34	19	-	-	1	
568	A9	P2		柱穴	略円形	45	44	32	-	-	1	
569	A9			-	楕円形	48	36	14	-	-	1	
570	A9	P3		-	不整形	44	30	12	-	-	1	
571	B9	P24		-	楕円形	36	38	17	-	-	1	
572	B9			柱穴	楕円形	92	56	49	-	-	1	
573	B9	P9		柱穴	円形	49	49	39	-	-	1	
574	B9	P10		-	楕円形	53	42	15	-	-	2	
575	B9			-	長楕円形	64	32	15	-	-	2	
576	B9	P11		-	不整形	51	44	15	-	-	1	
577	B9	P12		柱穴	略円形	49	43	38	-	-	1	
578	B9			-	不整形	31	22	8	-	-	1	
579	B9	P21		-	楕円形?	28	40	6	-	-	3	
580	B9	P13		-	不整形	48	46	18	-	-	3	
581	B9			-	楕円形	38	28	11	-	-	2	
582	B9	P14		柱穴	不整形	62	53	41	-	-	3	
583	B9	P8	10	フラスコ?	楕円形?	72	104	18	-	-	※	
584	B9	P26		柱穴	楕円形	43	37	30	-	-	-	
585	B9	P20		柱穴	不整形	40	32	35	-	-	-	
586	B9	P25		柱穴	略楕円形	64	52	40	-	-	-	
587	B9			柱穴?	不整形	56	40	26	-	-	1	
588	B9	P15		-	略楕円形	32	28	5	-	-	2	
589	B9		21	柱穴	略楕円形	52	47	53	-	-	-	
590	B9	P16		柱穴	不整形	85	108	51	-	-	※	
591	B9	P22	21	柱穴	円形	64	64	42	-	-	※	
592	B9	P27		柱穴	楕円形	38	34	60	-	-	1	
593	B9	P23		柱穴	楕円形	48	40	48	-	-	-	
594	B9			-	円形	33	33	13	-	-	2	
595	B9			柱穴	円形	37	37	17	-	-	1	
596	B9	P28	21	柱穴?	不整形	37	28	28	-	-	※	
597	B9	P29	21	柱穴	不整形	62	47	55	-	-	※	
598	B9			柱穴	不整形	68	48	32	-	-	-	
599	B9			柱穴	不整形	78	44	46	-	-	-	

第2表 遺構観察表(13)

遺構番号	註記番号		図版番号	種別	平面形	法量(cm)			柱痕(cm)		覆土	備考
	グリッド	個別番号				長径	短径	深度	直径	深度		
600	B9	P1	21	柱穴	円形	106	94	40	-	-	※	
601	B9			-	不整形	38	20	28	-	-	-	
602	B9			柱穴	不整形	46	45	36	-	-	-	
603	B9	P7		柱穴	略楕円形	53	36	40	-	-	1	
604	B9			柱穴	不整形	40	36	30	-	-	1	
605	B9			-	略楕円形	32	31	23	-	-	2	
606	B9			-	楕円形	28	22	-	-	-	2	
607	B9			-	不整形	85	42	17	-	-	-	
608	B9	P19		-	不整形	47	36	23	-	-	2	
609	B9			-	不整形	36	26	11	-	-	2	
610	B9	SK1	6	土坑	長方形	180	112	23	-	-	※	
611	B9			-	不整形	30	27	23	-	-	2	
612	B9	P5		-	略円形	38	33	20	-	-	2	
613	B9			-	不整形	32	25	19	-	-	2	
614	B9			-	不整形	44	36	12	-	-	2	
615	B9	P18		柱穴	不整形	53	44	31	-	-	1	
616	B9	P17		-	略円形	31	30	11	-	-	2	
617	B9	P6		-	不整形	38	33	-	-	-	2	
618	B9	P3		柱穴	楕円形	43	29	56	-	-	1	
619	B9	P4		柱穴?	不整形	60	40	25	-	-	1	
620	B9	P2		柱穴	不整形	43	35	28	-	-	1	
621	A10	P4	11	フラスコ	略円形	92	60	42	-	-	※	
622	A10	P1		-	不整形	100	82	14	-	-	1	
623	A10	P5		柱穴	楕円形	39	36	46	-	-	-	
624	A10	P6		柱穴?	略円形	28	28	28	-	-	-	
625	A10			-	不整形	101	32	5	-	-	-	
626	A10			-	不整形	56	38	25	-	-	2	
627	A10	P3		-	不整形	40	36	5	-	-	2	
628	A10	P2		柱穴	楕円形	40	28	37	-	-	1	
629	A10			-	略円形	25	25	23	-	-	2	
630	A10			柱穴?	略楕円形	45	41	22	-	-	1	
631	B10	P7		柱穴	楕円形	40	32	34	-	-	1	
632	B10	P9		柱穴	不整形	52	44	34	-	-	3	
633	B10			-	楕円形?	38	20	11	-	-	1	
634	B10			柱穴?	不整形	45	24	26	-	-	1	
635	B10	P12		柱穴	楕円形	39	32	27	-	-	1	
636	B10			-	略円形	32	30	15	-	-	1	
637	B10	P8		柱穴?	不整形	38	35	28	-	-	1	
638	B10	P1	11	フラスコ	略楕円形	126	108	42	-	-	※	
639	B10			-	不整形	40	28	10	-	-	1	
640	B10	P4		-	円形	43	41	11	-	-	1	
641	B10	P5		柱穴	略円形	30	29	27	-	-	1	
642	B10	P10		-	不整形	24	14	18	-	-	2	
643	B10			-	楕円形	28	22	16	-	-	2	
644	B10	P11	11	柱穴	長楕円形	64	73	75	-	-	※	
645	B10	P6	11	フラスコ	略円形	81	76	33	-	-	※	
646	B10	P2		-	円形	28	28	8	-	-	2	
647	B10	P3		柱穴	楕円形	35	29	26	-	-	1	
648	B11			柱穴?	不整形	45	45	16	-	-	2	

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(1)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	付着物		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
								内面	外面												
1	A4-P7	90	縄文土器					RL縄文		白色粒子 土器碎片	7.5YR8/4	やや不良	胴部	破片	-	-				9	27.3
2	A4-P5	104	縄文土器		後期初頭～			縦位糸線文		白色透明 粒子 土器碎片	5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-				10	18.6
3	A4-P23	109	縄文土器		後期初頭～			縦位糸線文		白色粒子 土器碎片	10YR6/4	良	胴部	小破片	-	-				11	19.8
4	A4-P23	109	縄文土器					単節縄文		灰色粒子 土器碎片	10YR8/4	やや良	胴部	小破片	-	黒斑				9	12.4
5	B4-P23	138	縄文土器					縷糸文L		白色粒子 土器碎片	10YR7/1	良	胴部	小破片	-	-				10	39.7
6	B4-P23	138	縄文土器	深鉢	後期初頭～前 葉		原山	口唇に刺突文	頸部に隆帯文	白色粒子 土器碎片	10YR7/1	良	口縁	小破片	-	黒斑				11	74.3
7	B4-P22-2	153	縄文土器		中期末～後期 初頭		大木10式系	隆線文	LR縄文	土器碎片 白色粒子	7.5YR7/3	良	口縁	小破片	-	-				13	145.7
8	B4-P22	153	縄文土器		中期後葉～後 期前葉		城之腰	加飾隆帯文(円形刺突)	L縄文	土器碎片	7.5YR6/6	良	頸部	小破片	-	スス				11	19.8
9	B4-P22	153	縄文土器		後期初頭～			縦位糸線文		土器碎片 黒色粒子	10YR8/3	やや不良	胴部下半	小破片	-	-				15	45.9
10	B4-P22-1	153	縄文土器					単節縄文		土器碎片 白色透明 粒子	10YR7/4	良	胴部	小破片	-	-				14	88.0
11	B4-P19	164	縄文土器		後期初頭	多賀屋敷	万条寺林?	連続矢羽根状沈線文		灰色粒子	5YR6/8	良	胴部	小破片	-	-				10	12.1
12	B4-P19	164	縄文土器		中期後葉	沖ノ原式	大木9式系?	単節縄文	沈線文	土器碎片	7.5YR5/2	良	胴部	小破片	-	-				8	6.1
13	B4-P19	164	縄文土器		後期初頭～			縦位糸線文		土器碎片	7.5YR5/3	良	胴部	小破片	-	-				10	11.4
14	B4-P19	164	縄文土器					RL縄文		土器碎片	7.5YR8/6	やや不良	胴部	小破片	-	黒斑				12	52.8
15	B8-P7	511	縄文土器		中期末～後期 初頭		加曾利EIV 式系～	単節縄文	沈線文	白色透明 粒子 土器碎片	7.5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-				8	17.7
16	B8-P7-6	511	縄文土器	鉢	後期前葉	三十稲場	三十稲場	橋状把手		土器碎片	7.5YR8/4	良	口縁	小破片	-	-				7	30.6
17	B8-P7-3	511	縄文土器	甕	後期初頭	三十稲場	三十稲場	花弁状刺突文	橋状把手	土器碎片	7.5YR7/4	良	頸部	小破片	-	スス				20	54.7
18	B8-P7	511	縄文土器	壺?	後期初頭	三十稲場?	三十稲場	同心円状沈線文		白色透明 粒子 土器碎片	5YR7/8	良	胴部	小破片	-	-				8	41.8
19	B8-P7	511	縄文土器		後期初頭～前 葉	三十稲場	三十稲場	網目状糸線文		土器碎片 白色粒子	10YR8/2	良	胴部	小破片	-	-				9	26.7
20	B8-P7	511	縄文土器					縷糸文R		土器碎片	7.5YR7/4	良	頸部	小破片	-	-				20	33.1
21	B8-P7-8	511	縄文土器					縷糸文R		土器碎片	10YR7/3	やや不良	胴部	小破片	-	-				17	185.8
22	SK1	610	縄文土器		中期後葉～		加曾利EIII 式系～	縦位沈線文	LR縄文	土器碎片 白色粒子	5YR6/6	良	胴部	小破片	-	-				7	23.2
23	A6-P10	299	縄文土器		後期初頭	多賀屋敷		指頭押圧文	結節LR縄文	-	5YR7/6	良	口縁	小破片	-	-				10	16.9
24	A6-P10	299	縄文土器		後期初頭～前 葉		原山	結節RL縄文		土器碎片 白色粒子	10YR8/2	良	口縁	小破片	-	-				15	166.7

口径・底径・器高の数値のうち斜体のものは推測値である。

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(2)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	附着物		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
								縦横位条線文	帯状沈線文						内面	外面					
25	A6-P10	299	縄文土器		後期初頭～					白色透明 粒子	10YR8/4	良	胴部	小破片	-	-			11	49.0	
26	A6-P10	299	縄文土器		後期初頭～前 葉					白色透明 粒子	10YR7/2	良	胴部	小破片	-	黒班			9	36.6	
27	A6-P10	299	縄文土器							白色透明 粒子	5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-			13	41.6	
28	A6-P10	299	縄文土器							白色透明 粒子	5YR6/6	やや不良	胴部	小破片	-	-			11	32.7	
29	A6-P10	299	縄文土器							白色透明 粒子	7.5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-			10	102.7	
30	A6-P10	299	石器	磨石類																	
31	A6-P10	299	石製品	浮子																	
32	A7-P1-129	400	縄文土器	鉢	後期初頭～		大木10式系?			白色透明 粒子	7.5YR8/4	良	口縁	小破片	-	スス			10	90.5	
33	A7-P1-12	400	縄文土器	深鉢?	中期後葉?					白色透明 粒子	5YR7/6	良	口縁	小破片	-	-			10	125.3	
34	A7-P1-42	400	縄文土器							灰色透明 粒子	5YR6/6	やや不良	口縁	小破片	-	-			8	17.6	
35	A7-P1-80	400	縄文土器							白色透明 粒子	10YR7/3	やや不良	胴部	小破片	-	-			10	36.6	
36	A7-P1	400	縄文土器							白色透明 粒子	5YR6/8	良	胴部	小破片	-	-			10	58.4	
37	A7-P1-45	400	縄文土器							白色透明 粒子	10YR7/2	やや不良	胴部	小破片	-	-			12	61.5	
38	A7-P1-32	400	縄文土器							黒色透明 粒子	2.5YR7/8	良	胴部	小破片	-	-			10	39.1	
39	A7-P1-101	400	縄文土器		中期末～後期 初頭		大木10式系			白色透明 粒子	10YR6/3	良	胴部	小破片	-	スス			11	46.6	
40	A7-P1-4	400	縄文土器	深鉢	中期末～後期 初頭		加曾利EIV式系～			白色透明 粒子	5YR6/8	良	胴部～底 部	小破片	-	-			10	59.5	
41	A7-P1	400	縄文土器	浅鉢?	後期初頭～		大木10式系			白色透明 粒子	7.5YR8/4	良	口縁	小破片	-	-			12	59.0	
42	A7-P1-104	400	縄文土器		中期末～後期 初頭		大木10式系			白色透明 粒子	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	黒班			11	92.0	
43	A7-P1	400	縄文土器		中期末～後期 初頭		大木10式系?			灰色透明 粒子	10YR4/1	やや不良	胴部	小破片	-	-			10	42.4	
44	A7-P1-113	400	縄文土器		中期末～後期 初頭		大木10式系			灰色透明 粒子	7.5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-			13	171.4	
45	A7-P1-56	400	縄文土器		後期初頭?		在地系			白色透明 粒子	5YR7/6	良	口縁	小破片	-	黒班			7	36.0	
46	A7-P1-63	400	縄文土器		後期初頭～		城之腰			土器破片	5YR6/6	良	頸部	小破片	-	-			14	20.2	
47	A7-P1-62	400	縄文土器		後期初頭					白色透明 粒子	7.5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-			13	90.5	
48	A7-P1-74	400	縄文土器	注口付 浅鉢	後期初頭		大木10式系			白色透明 粒子	5YR7/6	良	口縁	小破片	-	-			7	42.4	

別表

別表

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(3)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	附着物		口径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
								加飾隆帯文(短沈線)	細文						内面	外面				
49	A7-P1-47	400	縄文土器	甕	後期初頭	三十稲場	三十稲場	橋状把手 加飾隆帯文(短沈線)	細文	白色粒子 土器碎片	7.5YR8/4	良	口縁	小破片	-	-			9	190.0
50	A7-P1-61	400	縄文土器	壺	後期初頭	三十稲場	三十稲場	8の字状橋状把手 橋状把手	橋状把手	白色粒子 土器碎片	7.5YR8/4	良	口縁	小破片	-	-			18	247.0
51	A7-P1	400	縄文土器		後期初頭	三十稲場	三十稲場	爪形刺突文		白色粒子 土器碎片	5YR8/4	良	胴部	小破片	-	-			8	20.6
52	A7-P1	400	縄文土器		後期初頭	三十稲場	三十稲場	D字状刺突文		白色粒子 土器碎片	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	スス			10	33.3
53	A7-P1	400	縄文土器		後期初頭	三十稲場	三十稲場	花卉状刺突文		白色粒子 土器碎片	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	-			11	22.7
54	A7-P1	400	縄文土器		後期初頭	三十稲場	三十稲場	花卉状刺突文		白色不透明粒子 土器碎片	7.5YR6/4	やや不良	胴部	小破片	-	-			10	25.9
55	A7-P1	400	縄文土器		後期初頭	三十稲場	三十稲場	花卉状刺突文	C字状刺突文	黒色粒子 土器碎片	7.5YR7/4	やや不良	胴部	小破片	-	-			10	16.0
56	A7-P1	400	縄文土器		後期初頭	三十稲場	三十稲場	C字状加飾隆帯文(刺突)		黒色粒子 土器碎片	10YR7/2	やや不良	口縁	小破片	-	-			10	29.6
57	A7-P1-30	400	縄文土器					斜位交差条沈線文		黒色粒子 土器碎片	7.5YR5/1	良	口縁	小破片	-	-			13	72.5
58	A7-P1-60	400	縄文土器		後期初頭	三十稲場	城之腰	加飾隆帯文(刺突)	爪形刺突文	白色透明粒子 土器碎片	5YR8/4	良	頸部	小破片	-	-			15	82.7
59	A7-P1	400	縄文土器		後期初頭	三十稲場	城之腰	加飾隆帯文(刺突)	単節細文	金雲母 土器碎片	5YR7/6	良	頸部	小破片	-	-			15	114.4
60	A7-P1-108	400	縄文土器		後期初頭	三十稲場	城之腰?	横位加飾隆帯文(斜位短沈線)		白色粒子 土器碎片	5YR7/6	やや不良	頸部	小破片	-	-			10	42.3
61	A7-P1-102	400	縄文土器		後期初頭~前葉	三十稲場		網目状条沈文		黒色粒子 金雲母	10YR7/2	やや不良	胴部	小破片	-	-			11	57.1
62	A7-P1-98	400	縄文土器		後期初頭			縦位曲流条沈文		黒色粒子 土器碎片	10YR7/2	良	胴部	小破片	-	黒斑			10	40.3
63	A7-P1	400	縄文土器					条沈文L		白色粒子 土器碎片	7.5YR6/4	良	胴部	小破片	-	スス			14	24.6
64	A7-P1-14	400	縄文土器					縦位条沈文		白色粒子 土器碎片	5YR7/6	良	胴部	小破片	-	スス			13	131.1
65	A7-P1-75	400	縄文土器	深鉢				LR細文		白色粒子 土器碎片	7.5YR7/4	やや不良	胴部下半~底部	大形破片	オコグ	-			12	308.9
66	A7-P1-86	400	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場	三十稲場	加飾隆帯文(刺突)	あらい網目状条沈文(?)	白色粒子 土器碎片	10YR8/3	やや不良	端部	小破片	-	-			10	65.4
67	A7-P1-92	400	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場	三十稲場	縦位連続貼附文		白色透明粒子 土器碎片	10YR8/2	良	端部	小破片	-	-			7	79.7
68	A7-P1-89	400	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場	三十稲場	環状加飾隆帯文(刺突)		白色透明粒子 土器碎片	7.5YR7/4	良	端部	1/5	黒斑	-			8	51.2
69	A7-P1-99	400	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場	三十稲場	宝珠つまみ 加飾隆帯文(刺突)	花卉状刺突文	砂粒	10YR7/4	良	つまみ頂部	小破片	-	-			9	93.3
70	A7-P1	400	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場	三十稲場	刺突文	橋状把手	白色粒子	10YR7/1	やや不良	端部	小破片	-	-			6	21.0
71	A7-P1-73	400	縄文土器	蓋	後期前葉?	三十稲場	三十稲場	橋状把手状つまみ	連続短沈線文	白色粒子 土器碎片	10YR8/2	良	端部頂部	完形	-	-	6.1	3.0	5	34.2
72	A7-P1	400	縄文土器		後期前葉	南三十稲場	小皿塚?	帯状沈線文L細文		白色透明粒子 土器碎片	10YR8/3	やや不良	胴部	小破片	-	-			11	93.3
73	A7-P1	400	石器	磨石類																

別表

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(4)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	附着物		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
								文様要素	文様要素						内面	外面					
74	B7-P1	412	縄文土器		後期初前葉?			曲流条線文		灰色粒子 土器碎片	10YR7/3	良	胴部	小破片	-	-			13		38.5
75	B7-P1	412	縄文土器					無節縄文		白色透明 粒子 土器碎片	5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-			12		36.9
76	B7-P5-1	436	縄文土器		後期初頭					白色粒子 土器碎片	7.5YR8/6	良	口縁	小破片	-	-			10		69.9
77	B7-P5	436	縄文土器		後期初頭~			縦位条線文		白色粒子 土器碎片	10YR8/3	良	胴部	小破片	-	-			11		64.2
78	B7-P6-21	454	縄文土器	深鉢	後期初頭	多賀屋敷		波状加飾隆背(斜位沈線)	環状貼付文 L	土器碎片 白色粒子	7.5YR8/4	良	口縁から 胴部	1/7	スス	18.5			11		388.0
79	B7-P6-9	454	縄文土器		後期初頭		称名寺I?	筒状突起	縄文	土器碎片	5YR6/6	良	突起	小破片	-	-			18		64.7
80	B7-P6-19	454	縄文土器		後期初頭~			横位沈線文 燃系文?		白色粒子 土器碎片	5YR7/6	やや不良	口縁	小破片	スス			12		129.7	
81	B7-P6-10	454	縄文土器		後期前葉?	南三十稲場?		凹形刺突文		白色透明 粒子 土器碎片	7.5YR7/4	やや不良	口縁	小破片	-	-			10		36.3
82	B7-P6-24	454	縄文土器					L縄文		白色粒子 土器碎片	2.5YR7/8	良	胴部下半 ~底部	小破片	灰化物			16		178.9	
83	B7-P6-8	454	焼成粘土 塊	地殻片 欠片?																	
84	A8-P2	476	縄文土器		後期初頭	多賀屋敷		三角状小突起		白色透明 粒子 土器碎片	5YR7/6	良	口縁	小破片	-	-			12		20.5
85	A8-P8	489	縄文土器		後期初頭~			横位沈線文	貼付文	白色透明 粒子 土器碎片	5YR6/6	良	胴部	小破片	-	-			10		45.0
86	A8-P8	489	縄文土器	深鉢	後期初頭~			縦位条線文		白色透明 粒子 土器碎片	7.5YR5/4	やや不良	胴部	小破片	スス			8		53.8	
87	B8-P3-1	520	縄文土器		後期初頭~		城之腰	加飾隆背文(刺突)	燃系文L	灰色粒子 土器碎片	10YR7/2	良	口縁	小破片	-	-			12		59.9
88	B8-P3-3	520	縄文土器	蓋	後期初頭	多賀屋敷		凹盤つまみ 凹形刺突文		白色透明 粒子 土器碎片	10YR8/4	やや不良	端部から つまみ	1/2	黒斑	17.2	5.6	12		279.6	
89	個体1	536	縄文土器	深鉢	後期初頭から 前葉			斜行条線文		土器碎片 白色粒子	7.5YR8/6	やや不良	胴部から 底部	1/5	スス		12.2	11		1152.0	
90	A9-P6	544	土製品	土製凹 盤																	
91	B9-P26-10	583	縄文土器	深鉢	後期初頭	三十稲場	城之腰	加飾隆背文(絡糸体庄痕)	燃系文R	白色透明 粒子 土器碎片	10YR6/3	やや不良	口縁から 胴部	1/8	スス			12		974.0	
92	B9-P26-8	583	縄文土器		後期前葉?			縦位条線文		灰色粒子 土器碎片	10YR7/4	良	胴部	小破片	-	-		7		7.2	
93	A10-P4	621	縄文土器		後期前葉?			縦位条線文		灰色粒子 土器碎片	2.5YR5/6	不良	胴部	小破片	-	-		13		48.8	
94	B10-P1-16	638	縄文土器		中期末~		加曾利EIV 式系~	U字沈線文	単節縄文	白色透明 粒子 土器碎片	7.5YR7/4	やや不良	胴部	小破片	スス			10		37.1	
95	B10-P1-5	638	縄文土器		中期末~		加曾利EIV 式系~	U字沈線文	単節縄文	白色透明 粒子 土器碎片	7.5YR5/4	良	胴部	小破片	-	-		8		13.0	
96	B10-P1-41	638	縄文土器		中期末~		加曾利EIV 式系~	縦位沈線文 LR縄文		白色透明 粒子 土器碎片	7.5YR5/4	やや不良	胴部	小破片	スス			8		36.3	
97	B10-P1-17	638	縄文土器		後期初頭~	三十稲場		二条加飾隆背文(刺突)		白色透明 粒子 土器碎片	7.5YR5/2	不良	口縁	小破片	-	-		8		53.8	

別表

別表

第3表 遺物觀察表(縄文土器・珠洲焼)(5)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	附着物		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
								横位沈線文・捺糸文?	横位加飾隆背文(削突)						内面	外面					
98	B10-P1	638	縄文土器		後期初頭～			横位沈線文・捺糸文?		白色粒子 土器碎片	10YR6/3	やや不良	口縁	小破片	-	-			10		20.8
99	B10-P1	638	縄文土器					横位加飾隆背文(削突)		白色粒子 灰色粒子	7.5YR7/3	良	口縁	小破片	-	-			8		42.8
100	B10-P1-24	638	縄文土器					横位加飾隆背文(削突)		白色粒子 土器碎片	7.5YR7/6	良	口縁	小破片	-	スス			10		52.3
101	B10-P1-11	638	縄文土器					結節縄文?		白色粒子 土器碎片	7.5YR7/4	良	口縁	小破片	-	-			7		20.5
102	B10-P1-3	638	縄文土器		後期前葉			縦位沈線文 斜位沈線文		白色透明 粒子 土器碎片	10YR8/3	やや不良	口縁	小破片	-	-			9		39.6
103	B10-P1	638	縄文土器		後期初頭	三十稲場	城之腰	加飾隆背文(削突)	縄文?	白色粒子 土器碎片	7.5YR5/4	良	口縁	小破片	-	スス			7		27.5
104	B10-P1-44	638	縄文土器					捺糸文L		白色透明 粒子	7.5YR5/4	良	胴部	小破片	-	-			11		41.3
105	B10-P1-37	638	縄文土器					捺糸文		白色粒子 土器碎片	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	黒斑			12		48.6
106	B10-P1-27	638	縄文土器					捺糸文L		白色粒子 土器碎片	5YR6/6	良	胴部	小破片	-	黒斑			12		166.1
107	B10-P1-22	638	縄文土器					捺糸文L		白色粒子 土器碎片	5YR6/6	良	胴部下半 ～底部	小破片	-	-			10		98.7
108	B10-P1-25	638	縄文土器		後期初頭～			結節縄文		土器碎片 灰色粒子	10YR7/2	やや不良	胴部	小破片	-	-			12		86.9
109	B10-P1-38	638	縄文土器		後期初頭～			交差捺糸文		白色透明 粒子	7.5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-			7		36.0
110	B10-P1-10	638	縄文土器		後期初頭～			縦位捺糸文		土器碎片 灰色粒子	5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-			16		70.7
111	B10-P1-7	638	縄文土器		後期初頭～			縦位捺糸文		白色透明 粒子	7.5YR4/1	やや不良	胴部	小破片	-	-			9		56.3
112	B10-P1-1	638	縄文土器		後期前葉	南三十稲場	小仙塚	口唇に沈線文・削突文		土器碎片 黒色粒子	7.5YR7/6	やや不良	口縁	小破片	-	スス			8		34.1
113	B10-P1	638	土製品	土製口 盤																	
114	B6-P9	365	縄文土器	鉢	後期初頭	三十稲場	大木10式系	重弧状沈線 文	縄文	砂粒 白色硬質 粒子	10YR8/2	やや不良	口縁部小 ～底部	ほぼ完形	-	-	17.2	7.1	10.8	7	528.0
115	A2-P2	5	縄文土器		後期前葉	三十稲場?		網目状捺糸文		土器碎片	5YR7/6	良	胴部	小破片	-	黒斑			12		38.2
116	A2-P1	11	縄文土器		後期初頭	多賀屋敷?	城之腰	加飾隆背文(削突)	縦位捺糸文	灰色砂粒 土器碎片	5YR7/6	良	頸部	小破片	-	-			12		41.9
117	A2-P1	11	縄文土器					弧状沈線文LR縄文		土器碎片	7.5YR5/3	良	胴部	小破片	-	スス			9		19.4
118	B2-P2	12	縄文土器		後期初頭					白色粒子	7.5YR8/4	良	口縁	小破片	-	-			10		21.3
119	B2-P2	12	縄文土器		後期初頭	多賀屋敷	多賀屋敷	貼牆文	沈線文	白色粒子	10YR8/2	良	胴部	小破片	-	-			10		16.9
120	B2-P2	12	縄文土器		後期初頭?			横位桶状把手		土器碎片 灰色粒子	7.5YR8/6	良	口縁	小破片	-	-			8		31.5
121	B2-P2	12	縄文土器		後期初頭～後 期前葉			縦位凹線文RL縄文			10YR8/3	良	桶状把手						11		67.6
122	B2-P2	12	縄文土器		後期前葉	三十稲場?		網目状捺糸文		土器碎片 白色粒子	7.5YR8/6	良	胴部	小破片	-	オコゲ			16		48.7

別表

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(6)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	付着物		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
								内面	外面						内面	外面					
123	B2-P2	12	縄文土器		後期前葉	三十稲場?		網目状燃糸文		土器碎片	7.5YR8/3	やや不良	胴部	小破片	-	スズ			14	37.7	
124	B2-P1	13	縄文土器	甕	後期初頭	三十稲場		凹状突起付橋状把手	加飾隆帯(縄文)	土器碎片	10YR7/4	良	口縁	小破片	-	-			10	125.4	
125	B2-P1	13	縄文土器	深鉢	後期初頭~			縦位条線文		土器碎片	10YR3/1	良	胴部	小破片	-	スズ			11	39.4	
126	B2-P1	13	縄文土器					LR縄文		白色透明 粒子	10YR7/3	良	胴部	小破片	-	-			11	37.6	
127	A3-P7	24	縄文土器					橋口沈線 文?	連続沈線文	白色透明 粒子	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	-			10	11.4	
128	A3-P7	24	縄文土器	蓋	後期初頭~後 期前葉			加飾隆帯文(柳突)		土器碎片	7.5YR7/4	良	端部	小破片	-	-			10	12.1	
129	B3-P16	37	縄文土器		後期初頭	三十稲場	城之腰	弧状加飾隆帯文(柳突)	縦位沈線文	土器碎片	7.5YR7/3	やや不良	胴部	小破片	-	-			16	39.2	
130	B3-P16	37	縄文土器					燃糸文L		白色透明 粒子	7.5YR8/3	やや不良	胴部	小破片	-	-			10	59.5	
131	B3-P16	37	縄文土器					燃糸文L?		土器碎片	7.5YR8/3	やや不良	胴部	小破片	-	-			16	114.2	
132	B3-P15	40	縄文土器	浅鉢				連続柳突文	横位沈線文	土器碎片	2.5YR3/1	やや不良	口縁	小破片	-	?			13	36.1	
133	B3-P15	40	縄文土器		後期初頭			縦位条線文	単節縄文	白色透明 粒子	7.5YR8/3	良	胴部	小破片	-	-			10	15.0	
134	B3-P1	51	縄文土器					加飾隆帯文(柳突)	太い沈線文	土器碎片	10YR6/3	やや不良	胴部	小破片	-	-			12	36.0	
135	B3-P8	80	縄文土器	不明	中期後葉?			橋口形貼付 文	沈線文	白色透明 粒子	7.5YR7/6	良	胴部	小破片	朱彩	朱彩			8	26.8	
136	A4-P8	101	縄文土器					燃糸文R		白色透明 粒子	5YR8/4	やや不良	胴部	小破片	-	-			10	30.9	
137	B4-P1	114	縄文土器					LR縄文		白色透明 粒子	10YR8/3	やや軟質	口縁	小破片	黒斑	黒斑			10	59.6	
138	B4-P1	114	縄文土器		中期後葉			単節縄文	沈線文	土器碎片	7.5YR8/4	やや不良	胴部	小破片	-	-			6	20.4	
139	B4-P3	121	縄文土器		中期末~後期 前葉		城之腰	加飾隆帯文(斜位短沈線文)	LR縄文	土器碎片	7.5YR7/6	良	頸部	小破片	-	-			12	39.0	
140	B4-P3	121	縄文土器		後期前葉	南三十稲場 (新)		集合沈線文		黒色粒子	7.5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-			5	4.6	
141	B4-P6	143	縄文土器	深鉢	後期初頭	多賀屋敷		二条加飾隆帯文(凹形刺突)	燃糸文R	土器碎片	7.5YR7/4	良	口縁	小破片	-	スズ			10	57.2	
142	B4-P6	143	縄文土器	深鉢	後期初頭	多賀屋敷		燃糸文R		白色透明 粒子	7.5YR8/4	良	胴部下半 ~底部	小破片	-	-			13	158.0	
143	B4-P12	148	縄文土器	鉢						土器碎片	10YR7/4	良	口縁	小破片	-	-			9	71.5	
144	B4-P14	157	縄文土器					弧状条線文		土器碎片	10YR8/3	良	口縁	小破片	-	スズ			8	19.2	
145	B4-P13	168	縄文土器		中期中葉	枍倉?		沈線文	矢羽根状沈線文	土器碎片	10YR8/3	良	胴部	小破片	-	-			5	6.6	
146	A5-P5	202	縄文土器					L縄文		土器碎片	5YR7/6	やや不良	胴部	小破片	-	スズ			10	78.8	

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(7)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	附着物		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)	
								縦文	横文						内面	外面						
147	A5-P5	202	石器	楔形石器																		
148	A5-P11	218	縄文土器				縹赤文R			土器碎片	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	スス				9	20.3	
149	A5-P2	225	縄文土器				LR縄文			土器碎片	7.5YR8/2	やや不良	胴部	小破片	-	-				9	21.0	
150	B5-P3	267	縄文土器		南三十稲場(新)		縦位集合沈線文			白色透明粒子	7.5YR8/3	良	胴部	小破片	-	-				7	21.7	
151	B5-P5	272	縄文土器				縹赤文R			土器碎片	5YR7/6	良	胴部	小破片	-	スス				12	72.2	
152	B5-P5	272	縄文土器				LR縄文			土器碎片	7.5YR8/3	やや不良	胴部	小破片	-	-				10	28.1	
153	B5-P8	282	縄文土器		後期初頭～		縦位条線文 曲流条線文			白色透明粒子	7.5YR8/4	良	胴部	小破片	-	スス				11	52.4	
154	B5-P19-1	284	縄文土器				L縄文			土器碎片	7.5YR8/6	良	胴部	小破片	-	-				16	80.6	
155	B5-P19-5	284	土製品	土製円盤																		
156	B5-P10	292	縄文土器		後期前葉	南三十稲場(古)	沈線文			白色透明粒子	7.5YR8/3	やや不良	胴部	小破片	-	-				5	27.3	
157	A6-P11	296	縄文土器		後期初頭～後期前葉		加藤隆菅文(網突)	縹赤把手		土器碎片	10YR7/2	やや不良	口縁	小破片	-	-				12	69.2	
158	A6-P11	296	縄文土器		後期初頭	三十稲場	重弧状沈線文			黒色粒子+O176明粒子	7.5YR6/3	やや不良	胴部	小破片	-	スス				10	39.1	
159	A6-P11	296	縄文土器				条線文			土器碎片	10YR6/2	良	胴部	小破片	-	-				9	11.5	
160	A6-P11	296	縄文土器				単節縄文			白色透明粒子	7.5YR8/4	良	胴部	小破片	-	オコグ				10	65.8	
161	A6-P13	303	縄文土器							土器碎片	10YR6/2	やや不良	口縁～底部	1/3	-	スス	5.3	6.5	8	93.0		
162	A6-P16	310	縄文土器				2条隆線文	RL縄文		黒色粒子	7.5YR4/1	良	頸部	小破片	-	オコグ			10	22.8		
163	A6-P16	310	縄文土器				縦位条線文			灰色粒子	2.5YR6/8	やや不良	胴部	小破片	-	-			9	20.9		
164	A6-P16	310	縄文土器				L縄文			土器碎片	10YR6/2	やや不良	胴部	小破片	-	-			10	27.3		
165	A6-P1	312	縄文土器		後期前葉	南三十稲場	横位・斜位沈線文			白色透明粒子	7.5YR7/3	不良	胴部	小破片	-	スス				10	29.6	
166	A6-P1	312	縄文土器				縹赤文L			土器碎片	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	スス			13	61.3		
167	A6-P1	312	縄文土器				縹赤文L			白色粒子	7.5YR8/6	良	胴部	小破片	-	-			12	24.3		
168	A6-P1	312	縄文土器				無節縄文			土器碎片	7.5YR8/4	良	胴部下半	小破片	-	オコグ			15	270.0		
169	A6-P3	314	縄文土器				縹赤文L			灰色粒子	7.5YR8/4	良	胴部	小破片	-	-			12	25.9		
170	B6-P14	321	縄文土器		後期前葉	南三十稲場(新)	集合沈線文 列点文	単節縄文		灰色粒子	10YR7/4	良	胴部	小破片	-	-				8	16.1	

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(8)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素	主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	付着物		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
														内面	外面					
171	B6-P14	321	石器	打製石斧																
172	B6-P25	324	縄文土器		後期初頭	三十稲場	三十稲場	爪形刺突文	土器碎片	5YR7/6	良	胴部下半	小破片	-	-				10	43.6
173	B6-P28	329	縄文土器		後期前葉	南三十稲場	小仙塚?	沈線文	白色透明 粒子	7.5YR8/3	やや不良	口縁	小破片	-	-				10	26.3
174	B6-P21	331	縄文土器		後期初頭			交差条線文	土器碎片	10YR8/3	やや不良	胴部	小破片	オコグ	ス				9	70.4
175	B6-P21	331	縄文土器		後期初頭			交差条線文	土器碎片	10YR8/4	やや不良	胴部	小破片	-	-				10	32.5
176	B6-P16-1	338	縄文土器		後期初頭～前葉		原山	口唇に刺突文	土器碎片	7.5YR8/6	良	口縁	小破片	-	-				9	73.8
177	B6-P18	346	縄文土器		後期初頭～前葉	三十稲場		網目状条線文	土器碎片	7.5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-				11	54.1
178	B6-P18	346	縄文土器		後期初頭～前葉	三十稲場		網目状条線文	土器碎片	10YR8/3	やや不良	胴部	小破片	-	-				12	62.0
179	B6-P18	346	縄文土器		後期初頭	三十稲場		条線文L	土器碎片	7.5YR8/6	やや不良	胴部	小破片	オコグ	黒斑				15	100.4
180	B6-P1	363	縄文土器	深鉢	後期初頭～前葉		原山	LR縄文	白色透明 粒子	7.5YR4/2	やや不良	口縁	小破片	-	ス				8	137.1
181	B6-P10-1	364	縄文土器	鉢?	後期初頭	三十稲場		橋状把手	土器碎片	7.5YR7/4	良	口縁	小破片	-	ス				10	35.0
182	B6-P10	364	縄文土器		後期前葉	南三十稲場		沈線文	白色透明 粒子	10YR8/3	やや不良	頸部?	小破片	-	-				8	11.7
183	B6-P2-1	368	縄文土器		後期初頭	三十稲場		花卉状刺突文	土器碎片	2.5YR7/6	良	胴部下半	小破片	-	-				10	55.8
184	B6-P2-1	368	石器	磨製石斧																
185	A7-P15	383	縄文土器	深鉢	後期初頭～			弧状条線文	土器碎片	7.5YR7/6	やや不良	口縁	小破片	-	黒斑				12	134.3
186	A7-P7	387	縄文土器		後期初頭	三十稲場	三十稲場	橋状把手	白色粒子	10YR7/4	良	口縁	小破片	-	-				6	28.1
187	A7-P7	387	縄文土器		後期初頭	三十稲場	三十稲場	爪形刺突文	土器碎片	5YR6/4	良	胴部	小破片	オコグ	-				7	15.5
188	A7-P7	387	縄文土器		後期初頭～		城之腰	加飾隆背文(押正)	土器碎片	10YR8/3	良	頸部	小破片	-	-				10	34.1
189	A7-P3	390	縄文土器	深鉢				LR縄文	白色透明 粒子	5YR7/6	良	胴部下半	小破片	黒斑	-				13	188.6
190	A7-P6	396	縄文土器					傾立調羹(指ナリ)痕	白色透明 粒子	7.5YR8/3	やや不良	口縁	小破片	-	-				10	88.9
191	A7-P6	396	縄文土器	鉢				連続槽口形刺突列	白色粒子	5YR7/6	良	口縁	小破片	-	ス				8	21.2
192	A7-P6	396	縄文土器		後期初頭	三十稲場	城之腰	加飾隆背文(短沈線)	灰色粒子	10YR8/3	良	頸部	小破片	-	-				9	14.4
193	A7-P6	396	縄文土器		後期初頭	三十稲場		花卉状刺突文	黒色粒子	10YR8/3	良	胴部	小破片	-	-				9	16.0
194	A7-P6	396	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場		沈線文	黒色透明 粒子	5YR7/6	やや不良	端部	小破片	-	-				12	15.1
195	A7-P6	396	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場		方形連続刺突文	土器碎片	10YR8/4	良	端部	小破片	-	-				10	14.6

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(9)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	附着物		口径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)	
								文様要素	文様要素						内面	外面					
196	A7-P6	396	縄文土器		後期初頭～	三十稲場?		斜格子状条線文		土器碎片	10YR7/4	やや不良	胴部	小破片	-	-			9	27.2	
197	A7-P6	396	縄文土器		後期初頭～			縦位斜位条線文		土器碎片	7.5YR6/4	やや不良	胴部	小破片	-	スス			10	34.6	
198	A7-P6	396	縄文土器					縷糸文L		土器碎片	7.5YR6/4	良	胴部	小破片	-	-			14	26.1	
199	A7-P6	396	縄文土器					LR縄文		土器碎片	7.5YR4/1	良	胴部	小破片	-	スス			12	40.7	
200	A7-P6-4	396	縄文土器					LR縄文		土器碎片	7.5YR6/3	やや不良	胴部	小破片	-	スス			8	54.4	
201	A7-P2-3	402	縄文土器					RL縄文		土器碎片	7.5YR3/1	やや不良	胴部	小破片	-	黒斑			12	149.7	
202	A7-P10	404	縄文土器	深鉢	後期初頭～後期前葉		城之腰	加飾隆帯文(押圧)	L縄文	土器碎片	7.5YR8/3	やや不良	口縁	小破片	-	-			12	36.2	
203	A7-P10	404	縄文土器	鉢?	後期前葉	三十稲場		逆V字状沈線文	LR縄文	土器碎片	7.5YR4/1	不良	頸部	小破片	-	スス			9	76.5	
204	A7-P10	404	縄文土器	鉢	後期初頭～後期前葉			横位沈線文 蛇行沈線文	LR縄文	土器碎片	7.5YR8/4	やや不良	胴部	小破片	-	スス			10	84.5	
205	A7-P10	404	縄文土器		後期初頭～			結節R縄文		土器碎片	5YR8/4	良	胴部	小破片	-	-			11	31.1	
206	A7-P10	404	縄文土器		後期前葉		堀之内2?	沈線文	LR縄文	土器碎片	7.5YR6/4	良	胴部	小破片	-	-			8	26.2	
207	A7-P10	404	縄文土器	注口付浅鉢	後期初頭			帯状沈線文		土器碎片	10YR8/3	やや不良	口縁	1/6	-	-			8	76.3	
208	B7-P4-1	415	縄文土器		後期前葉		堀之内1?	環状貼付文 沈線文		土器碎片	10YR8/4	良	頸部	小破片	-	-			10	102.4	
209	B7-P22	428	縄文土器		中期後葉～			隆帯文 結束縄文?		土器碎片	5YR7/6	良	頸部	小破片	-	黒斑			8	12.2	
210	B7-P22	428	縄文土器	鉢				新磨状突起 連続D字形刺突文		土器碎片	5YR7/6	良	口縁	小破片	-	-			7	34.0	
211	B7-P22	428	縄文土器		後期初頭～		城之腰	加飾隆帯文(刺突)	縷糸文R	土器碎片	5YR7/6	良	頸部	小破片	-	-			10	23.4	
212	B7-P22-1	428	縄文土器		後期初頭	三十稲場		三角形(先端)刺突文		土器碎片	10YR8/2	良	胴部	小破片	-	-			10	34.5	
213	B7-P22	428	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場		沈線文 円形刺突	円筒状の突起	土器碎片	7.5YR8/4	良	頂部	2/3	-	-			8	25.4	
214	B7-P10-1	431	縄文土器		後期前葉	三十稲場		加飾隆帯文(短沈線文)	円形凹文	土器碎片	7.5YR7/6	やや不良	口縁	小破片	-	スス			6	36.3	
215	B7-P10	431	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場		L縄文		土器碎片	7.5YR8/4	良	端部	小破片	斑才コ	-			8	14.3	
216	B7-P30-1	441	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場		凸帯文		土器碎片	10YR7/3	やや不良	端部	小破片	オコゲ	黒斑			8	59.8	
217	B7-P30-2他	441	縄文土器	深鉢	後期初頭	三十稲場	城之腰	加飾隆帯(刺突)	曲流条線文	土器碎片	2.5YR6/1	やや不良	口縁から胴部	1/8	黒斑	-	34.5		10	1261.2	
218	B7-P30-5	441	縄文土器	浅鉢	後期?			突起		土器碎片	10YR8/4	やや不良	先形	完形	オコゲ	スス	12.4	7.6	5.4	7	234.6
219	B7-P36	442	縄文土器		後期初頭			環状貼付文 円形凹文		土器碎片	10YR8/2	良	口縁	小破片	-	-			15	78.6	
220	B7-P36	442	縄文土器		後期初頭～前葉		原山	口唇部に刺突文	縦位条線文	土器碎片	7.5YR7/4	良	口縁	小破片	-	-			10	16.8	

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(10)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	付着物		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
															内面	外面					
221	B7-P34	443	縄文土器		後期初頭	三十稲場	加飾隆背(刺突)		D字形刺突文	白色透明 粒子	7.5YR5/3	やや不良	胴部	小破片	-	-			12	52.7	
222	B7-P31	445	縄文土器				LR縄文			白色透明 粒子	10YR7/2	やや不良	口縁	小破片	-	スス			10	38.6	
223	B7-P33	448	縄文土器		後期初頭～		加厚利EIV 式系～			白色透明 粒子	10YR8/3	良	胴部	小破片	-	黒斑			10	63.6	
224	B7-P33	448	縄文土器		後期前葉	南三十稲場	平行沈線文		RL縄文	白色透明 粒子	10YR6/3	やや不良	胴部	小破片	-	-			8	45.2	
225	B7-P14	450	縄文土器				沈線文			白色透明 粒子	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	-			10	34.7	
226	B7-P13	452	縄文土器		後期初頭～		縦位条線文			土器碎片	10YR8/4	良	胴部	小破片	-	黒斑			17	178.8	
227	B7-P13	452	石器	磨石類																	
別表																					
228	B7-P9	456	縄文土器		中期末～後期 初頭		縄文		横位沈線文	灰色透明 粒子	7.5YR8/4	良	口縁	小破片	-	-			10	18.6	
229	B7-P9	456	縄文土器							土器碎片	7.5YR7/4	やや不良	口縁	小破片	-	-			12	60.0	
230	B7-P8	458	縄文土器				捺糸文L			白色透明 粒子	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	-			10	26.4	
231	B7-P8	458	縄文土器	蓋?	後期初頭	三十稲場	加飾隆背文(円形刺突)			土器碎片	10YR8/3	良	端部	小破片	-	-			6	10.0	
232	B7-P8	458	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場	無節縄文			土器碎片	5YR8/4	良	端部	小破片	-	-			10	26.8	
233	B7-P8	458	土製品	土製円盤																	
別表																					
234	B7-P7-2	459	縄文土器		後期初頭	三十稲場	加飾隆背文(刺突)		花卉状刺突文	土器碎片	10YR7/4	良	口縁	小破片	-	-			8	114.4	
235	B7-P7	459	縄文土器		後期初頭	三十稲場	花卉状刺突文			土器碎片	5YR4/1	良	胴部	小破片	-	スス			10	49.4	
236	B7-P7	459	縄文土器		後期初頭	三十稲場	爪形刺突文			土器碎片	5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-			7	19.0	
237	B7-P7	459	縄文土器		後期初頭	三十稲場	三角形(鋭角)刺突文			白色透明 粒子	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	-			7	11.1	
238	B7-P7	459	縄文土器		後期初頭	三十稲場	D字形刺突文			土器碎片	7.5YR4/1	良	頸部	小破片	-	-			7	9.1	
239	B7-P7	459	縄文土器	深鉢	後期初頭	三十稲場	不交差加飾隆背文(刺突)			白色透明 粒子	7.5YR8/4	不良	口縁	小破片	-	スス			14	119.4	
240	B7-P7	459	縄文土器				結節LR縄文			白色透明 粒子	7.5YR4/2	良	胴部	小破片	-	スス			8	23.8	
241	B7-P7	459	縄文土器				網目状捺糸文			土器碎片	2.5YR7/6	良	胴部	小破片	-	オコグ			12	24.2	
242	B7-P7	459	縄文土器				捺糸文			土器碎片	10YR8/3	やや不良	胴部	小破片	-	-			8	18.2	
243	B7-P7	459	縄文土器				横位斜位捺糸文			灰色透明 粒子	5YR7/6	やや不良	胴部	小破片	-	スス			10	51.0	
244	B7-P7	459	縄文土器		後期初頭～		縦位条線文			土器碎片	7.5YR8/4	良	胴部	小破片	-	-			10	35.0	

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(11)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	附着物		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
								曲流条線文	縦位条線文						内面	外面					
245	B7-P7	459	縄文土器		後期初頭～					土器碎片	10YR7/4	良	胴部	小破片	黒班	スス				9	29.6
246	B7-P7	459	縄文土器		後期初頭～					土器碎片	10YR8/4	良	胴部	小破片	黒班	-				12	99.7
247	B7-P7	459	縄文土器							土器碎片	7.5YR8/4	良	胴部	小破片	-	-				9	22.4
248	B7-P7	459	土製品	土製口盤																	
249	B7-P24	461	縄文土器					隆帯文	縄文	土器碎片	10YR8/4	良	口縁	小破片	-	-				11	23.7
250	B7-P26	463	縄文土器	浅鉢?	後期前葉?			連続刺突文	沈線文	土器碎片	10YR6/4	良	口縁	小破片	-	-				8	11.3
251	A8-P10	470	縄文土器		後期初頭～	城之腰		加飾隆帯(刺突)	LR縄文	土器碎片	7.5YR7/6	良	頸部	小破片	-	-				14	18.1
252	A8-P10	470	縄文土器		後期初頭	三十稲場		花卉状刺突文		白色透明 粒子	5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-				13	23.7
253	A8-P10	470	縄文土器		後期前葉	南三十稲場		口縁部大形刺突文	頸部LR縄 文	土器碎片	7.5YR7/3	やや不良	口縁	小破片	-	スス				10	18.0
254	A8-P10-6	470	縄文土器					LR縄文		土器碎片	7.5YR6/4	やや不良	胴部	小破片	-	スス				10	72.4
255	A8-P9	473	石器	打製石斧																	
256	A8-P1	477	縄文土器						捺糸文L	土器碎片	5YR7/6	良	胴部下半 ～底部	小破片	-	-				10	24.5
257	A8-P3	480	縄文土器		後期初頭	三十稲場		花卉状刺突文		土器碎片	5YR6/6	良	胴部	小破片	-	スス				8	15.2
258	A8-P3	480	縄文土器					捺糸文L		土器碎片	7.5YR5/1	やや不良	胴部	小破片	-	スス				10	64.9
259	A8-P13	481	縄文土器					捺糸文L		土器碎片	7.5YR6/3	やや不良	胴部	小破片	-	-				14	53.4
260	A8-P13	481	縄文土器					LR縄文		白色透明 粒子	7.5YR8/6	良	胴部	小破片	スス	-				10	36.2
261	A8-P13	481	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場				土器碎片	10YR7/3	良	口縁	小破片	-	スス				13	34.6
262	A8-P13	481	土製品	土製口盤																	
263	A8-P25	494	縄文土器		後期初頭～		城之腰	加飾隆帯文(刺突)		土器碎片	2.5YR7/1	やや不良	口縁	小破片	-	-				10	39.3
264	A8-P26	497	土製品	土製口盤																	
265	B8-P24	501	縄文土器	深鉢	後期初頭	三十稲場		S字状貼付文		土器碎片	10YR8/4	良	口縁	小破片	-	-				10	44.5
266	B8-P4-2	507	縄文土器	深鉢	後期前葉	南三十稲場		開孔文	横位沈線文	土器碎片	7.5YR7/6	良	口縁	小破片	-	-				20	89.2
267	B8-P2-1	513	縄文土器					捺糸文L		土器碎片	10YR7/4	不良	胴部	小破片	スス	-				15	141.6
268	B8-P1-29他	519	縄文土器	深鉢	後期初頭～	城之腰		半円形突起	縦位貼付文	土器碎片	10YR8/2	やや不良	口縁～胴 部	1/8 黒班	スス	-				9	1040.5
269	B8-P1-26他	519	縄文土器	深鉢	後期初頭～	四角山形 突起		四角山形 突起	L縄文	土器碎片	10YR8/6	良	口縁～底 部	1/3	スス	-	32.5	12.1	38.2	9	

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(12)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	付着物		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
								内面	外面												
270	B8-P1	519	縄文土器					L縄文		土器碎片	7.5YR6/3	良	口縁	小破片	-	スス			9	51.0	
271	B8-P1	519	縄文土器			加高利EIV式系～		L縄文	LR縄文	土器碎片	5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-			8	15.2	
272	B8-P1	519	縄文土器					環状貼付文(刺突)	LR縄文	土器碎片	10YR5/2	良	胴部	小破片	-	スス			10	35.6	
273	B8-P1	519	縄文土器			三十稲場		花卉状刺突文		白色透明 土器碎片	7.5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-			8	13.6	
274	B8-P1-11	519	縄文土器			堀之内1?		L縄文	刺突文	白色透明 土器碎片	10YR8/2	良	口縁	小破片	-	-			7	48.3	
275	B8-P1	519	縄文土器					交差斜行条線文		土器碎片	7.5YR8/4	良	胴部	小破片	-	-			12	81.9	
276	B8-P1	519	石器							剥片類											
別表																					
277	B8-P8	521	縄文土器			三十稲場		網目状縹糸文		土器碎片	5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-			10	19.9	
278	B8-P8	521	縄文土器					縦位条線文		白色粒子	10YR8/2	良	胴部	小破片	-	-			9	13.7	
279	B8-P8	521	縄文土器					縹糸文L		白色透明 土器碎片	7.5YR6/6	良	胴部	小破片	-	スス			12	31.6	
280	B8-P18	523	縄文土器				城之腰	垂直加飾隆背文(刺突)	L縄文	白色透明 土器碎片	10YR7/4	良	口縁	小破片	オコグ	スス			10	31.9	
281	B8-P18	523	縄文土器			三十稲場		爪形刺突文		白色粒子	10YR7/4	良	胴部	小破片	スス	-			8	8.2	
282	B8-P18	523	縄文土器			三十稲場		網目状縹糸文		白色粒子	10YR8/6	良	胴部	小破片	-	-			10	31.1	
283	B8-P18	523	縄文土器					縦位条線文		土器碎片	10YR5/1	やや不良	胴部	小破片	黒斑	-			12	103.2	
284	B8-P22	531	縄文土器			南三十稲場	小山塚?	弧文	逆U字文	灰色粒子	10YR7/4	やや不良	口縁	小破片	-	-			20	45.6	
285	B8-P11	532	縄文土器			多賀屋敷	多賀屋敷	L縄文	縹糸文	土器碎片	10YR7/4	良	胴部	小破片	-	-			9	22.9	
286	A9-P7	546	縄文土器			中期末	梶山	大形渦巻状隆背文	単筋縄文	灰色粒子	7.5YR5/4	やや不良	胴部	小破片	-	スス			13	58.4	
287	A9-P7	546	縄文土器					縹糸文L		白色透明 土器碎片	5YR7/8	良	胴部	小破片	-	-			13	42.4	
288	A9-P5	552	縄文土器			中期末～後期初頭	城之腰	加飾隆背(刺突)		白色透明 土器碎片	5YR6/6	やや不良	口縁	小破片	-	スス			7	66.1	
289	A9-P5	552	縄文土器			後期初頭		円形刺突文		土器碎片	7.5YR8/4	良	胴部	小破片	-	-			5	6.5	
290	A9-P2	568	縄文土器			多賀屋敷		波状加飾隆背(刺突)		土器碎片	5YR5/4	やや不良	口縁	小破片	-	-			8	10.2	
291	B8-P24	571	縄文土器					縹糸文R		土器碎片	5YR7/6	良	胴部	小破片	-	スス			10	53.8	
292	B8-P24	571	縄文土器					縹糸文		白色透明 土器碎片	7.5YR6/4	良	胴部	小破片	-	-			13	23.8	
293	B8-P24	571	縄文土器					LR縄文		灰色粒子	10YR8/2	やや不良	胴部	小破片	-	-			8	29.4	
294	B9-P16	590	縄文土器					RL縄文		土器碎片	10YR5/2	やや不良	胴部	小破片	スス	スス			10	35.3	

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(13)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	附着物		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
								文様要素	主要含有物						内面	外面					
295	B9-P22	591	縄文土器	蓋	後期初頭			加師隆背(刺突)	土器碎片	白色透明粒子	5YR7/6	良	口縁	小破片	-	-				11	19.8
296	B9-P23	593	石器	磨石類																	
297	B9-P1-10	600	縄文土器	鉢	後期初頭	多賀屋敷	八反田?	波状加師隆背文(刺突)	LR縄文	白色透明粒子	10YR8/4	やや不良	胴部	1/6	スス				12	1196.1	
298	B9-P1	600	縄文土器		後期初頭	三十稲場	三十稲場	加師隆背文(刺突)	爪形刺突文	砂粒	10YR7/3	良	口縁	小破片	オコグ				7	62.5	
299	B9-P1-39	600	縄文土器		後期初頭	三十稲場	三十稲場	加師隆背文(刺突)	爪形刺突文	白色透明粒子	7.5YR5/3	良	口縁	小破片	スス				7	41.2	
300	B9-P1-36	600	縄文土器		後期初頭	三十稲場	三十稲場	爪形刺突文		土器碎片	10YR8/3	良	胴部	小破片	-	黒斑			9	179.2	
301	B9-P1-25他	600	縄文土器	深鉢	後期初頭~前葉			曲流条線文		白色透明粒子	7.5YR7/6	良	口縁から底部	1/4	オコグ		14.5		10	1481.0	
302	B9-P1-45他	600	縄文土器	蓋	後期初頭~前葉	三十稲場		沈線文	円形刺突文	土器碎片	7.5YR8/4	良	胴部~底部	1/3	オコグ	スス			10	212.3	
303	B9-P1-42	600	縄文土器		後期初頭~			縦立条線文		白色透明粒子	7.5YR2/1	良	胴部	小破片	黒斑	-			8	52.3	
304	A10-P1-1	622	縄文土器		後期初頭	多賀屋敷		環状加師隆背文(刺突)	燃糸文L	土器碎片	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	スス			11	46.9	
305	B10-P11-2	644	縄文土器	深鉢	後期初頭	多賀屋敷				砂粒	10YR8/3	やや不良	口縁	小破片	-	-			13	65.6	
306	B10-P11	644	縄文土器		後期前葉	南三十稲場		二列連続円形刺突文		土器碎片	10YR7/3	やや不良	口縁	小破片	-	-			9	14.2	
307	B10-P11-3他	644	縄文土器	深鉢	後期初頭	三十稲場	三十稲場	C字状橋状把手	燃糸文R	土器碎片	10YR6/2	やや不良	口縁から胴部	1/6	スス	スス			11	167.0	
308	A5	-	縄文土器		中期中葉	馬高式	火箱?	縦立条線文		灰色粒子	10YR7/6	良	胴部	小破片	-	スス			10	28.6	
309	114	-	縄文土器		中期後葉~			縦立沈線文 LR縄文		白色粒子	5YR7/4	良	胴部下半部~底部	小破片	-	-			9	25.0	
310	A9	-	縄文土器		中期中葉			燃糸文R	縦立沈線文	土器碎片	7.5YR5/2	やや不良	胴部	小破片	-	-			7	16.2	
311	B8	-	縄文土器		後期初頭	多賀屋敷	大木10式系	平行隆線文		土器碎片	10YR7/3	良	胴部	小破片	-	-			14	66.2	
312	282	-	縄文土器		後期初頭	多賀屋敷		凸瘤文	燃糸文	土器碎片	10YR8/3	良	口縁	小破片	-	-			10	27.3	
313	36	-	縄文土器		後期初頭?		城之腰?	環状加師隆背文(刺突)		土器碎片	7.5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-			12	38.5	
314	A8	-	縄文土器		後期初頭?	三十稲場	城之腰	燃糸文	横位加師隆背(刺突)	白色透明粒子	7.5YR7/3	やや不良	口縁	小破片	-	-			12	91.9	
315	262	-	縄文土器		後期初頭	三十稲場	城之腰	横位隆背(刺突)		土器碎片	5YR6/6	やや不良	口縁	小破片	-	-			12	46.9	
316	96	-	縄文土器		後期初頭?		城之腰	横位加師隆背(押圧)		土器碎片	10YR7/6	不良	口縁	小破片	-	-			9	36.1	
317	B3	-	縄文土器		中期後葉~		城之腰	横位加師隆背(円形刺突)	L縄文	土器碎片	5YR7/8	やや不良	口縁	小破片	オコグ	-			10	38.6	
318	B8	-	縄文土器		中期後葉~		城之腰	横位加師隆背文(刺突)	LR縄文	土器碎片	10YR7/4	良	胴部	小破片	-	-			10	39.7	
319	267	-	縄文土器		後期初頭	多賀屋敷	城之腰	加師隆背文(押圧)	燃糸文L	土器碎片	10YR7/3	良	口縁	小破片	-	-			10	41.0	
320	1	-	縄文土器		中期後葉~		城之腰	加師隆背文(縄文)		白色粒子	10YR7/3	やや不良	胴部	小破片	-	-			11	67.5	

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(14)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	付着物		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
								横位沈線文	燃系文L						内面	外面					
321	436	-	縄文土器		後期前葉			横位沈線文	燃系文L	土器碎片	5YR6/6	やや不良	口縁	小破片	-	スス			11		43.8
322	470	-	縄文土器		後期初頭	多賀屋敷		波状加飾隆帯文(柳突)	燃系文	土器碎片	10YR7/4	やや不良	口縁	小破片	-	スス			10		71.0
323	B7	-	縄文土器		後期初頭	多賀屋敷		二条加飾隆帯文(柳突)	無筋縄文	白色粒子	10YR7/3	やや不良	口縁	小破片	-	スス			10		79.9
324	377	-	縄文土器		後期初頭			横位沈線文	LR縄文	土器碎片	5YR6/8	不良	頸部	小破片	-	-			11		35.8
325	354	-	縄文土器		中期末～		加曾利EIV式系～	弧状沈線文	弧状交差条線文	白色透明粒子	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	-			10		43.3
326	B8	-	縄文土器		中期末～		加曾利EIV式系～	沈線文	L縄文	土器碎片	10YR6/4	良	胴部	小破片	-	スス			15		50.3
327	372	-	縄文土器		中期末～		加曾利EIV式系～	平行沈線文	燃系文	土器碎片	10YR8/3	良	胴部	小破片	-	-			12		113.0
328	B8	-	縄文土器		後期初頭～		称名寺I?	平行沈線文	LR縄文	土器碎片	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	スス			9		52.7
329	399	-	縄文土器		後期初頭	三十稲場		貫通孔	橋状把手文	土器碎片	7.5YR7/6	良	口縁	小破片	-	-			7		75.2
330	421	-	縄文土器		後期初頭	三十稲場		凹文・沈線	高文連珠沈線文	土器碎片	7.5YR8/4	良	突起	小破片	-	-			20		60.0
331	300	-	縄文土器	浅鉢	後期初頭	三十稲場		凹文・沈線	列点文	白色粒子	10YR8/2	良	突起	小破片	-	-			20		169.1
332	A7	-	縄文土器		後期初頭	三十稲場		瘤+2方向柳突文		金雲母	7.5YR7/6	やや不良	頸部	小破片	スス	スス			9		50.0
333	A7	-	縄文土器		後期初頭	三十稲場		2方向柳突文	瘤文	白色透明粒子	7.5YR7/6	やや不良	胴部	小破片	スス	スス			8		25.9
334	171	-	縄文土器		後期初頭	三十稲場		花卉状柳突文		土器碎片	10YR7/4	良	胴部	小破片	-	スス			9		40.0
335	170	-	縄文土器		後期初頭	三十稲場		花卉状柳突文		土器碎片	10YR7/4	良	胴部	小破片	-	スス			9		38.9
336	A6	-	縄文土器		後期初頭	三十稲場		爪形柳突文		土器碎片	5YR7/6	良	胴部	小破片	-	スス			9		17.3
337	A7	-	縄文土器		後期初頭	三十稲場		D字形柳突文		土器碎片	7.5YR8/4	良	胴部	小破片	-	-			10		11.6
338	B8	-	縄文土器		後期初頭	三十稲場		D字形柳突文		土器碎片	10YR7/4	良	胴部	小破片	-	-			8		17.2
339	B2	-	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場		花卉状柳突文	縦位加飾隆帯(円形柳突)	土器碎片	5YR7/6	やや不良	端部	小破片	-	-			6		18.1
340	A7	-	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場		超槽円形柳突文		土器碎片	5YR7/6	良	端部	小破片	オコガ	-			10		22.6
341	B9	-	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場		凸瘤文		土器碎片	10YR8/3	良	端部	小破片	オコガ	-			8		23.6
342	A7	-	縄文土器	蓋	後期初頭	三十稲場		花卉状柳突文		土器碎片	10YR6/2	良	端部	小破片	-	-			9		14.6
343	A7	-	縄文土器	蓋				長槽円形柳突文		土器碎片	7.5YR6/4	良	端部	小破片	オコガ	-			10		30.3
344	B8	-	縄文土器					二条隆帯文		土器碎片	10YR7/3	やや不良	端部	小破片	-	-			9		32.0
345	398	-	縄文土器		後期前葉	南三十稲場				土器碎片	10YR7/3	良	口縁	小破片	-	スス			9		57.2
346	A8	-	縄文土器		後期前葉	南三十稲場		円形凹文	車筋縄文	土器碎片	7.5YR8/6	やや不良	口縁	小破片	-	-			10		25.4

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(15)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	附着物		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
								縦位一本指沈線文	L縄文						内面	外面					
347	A8	-	縄文土器					縦位一本指沈線文	L縄文	土器碎片	10YR6/4	良	胴部	小破片	-	-				12	63.8
348	A8	-	縄文土器		後期初頭	大木10式系		平行沈線文		土器碎片	10YR7/4	良	胴部	小破片	-	-				12	44.0
349	B8	-	縄文土器		後期前葉	小仙塚?		沈線文	単節縄文	白色粒子	7.5YR8/6	良	胴部	小破片	-	-				12	33.8
350	448	-	縄文土器		後期前葉	南三十稻場		縦対立斜位沈線文		白色透明粒子	5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-				8	10.7
351	B3	-	縄文土器		後期前葉	南三十稻場(新?)		斜位沈線文	凹線文	灰色粒子	7.5YR6/3	良	口縁	小破片	-	-				6	14.2
352	A10	-	縄文土器	深鉢	後期前葉	南三十稻場(新)		集合沈線文		褐色粒子	10YR8/3	良	口縁	小破片	-	-				10	18.2
353	405	-	縄文土器		後期前葉	南三十稻場(新)		集合沈線文	楕円形刺突文	灰色透明粒子	10YR6/2	良	胴部	小破片	-	-				8	12.8
354	B10	-	縄文土器		後期前葉	南三十稻場(新)		波状突起	刺突付沈線文	砂粒	10YR7/4	やや不良	口縁	小破片	-	-				9	14.1
355	B7	-	縄文土器	深鉢	後期初頭			縦位糸線文		土器碎片	10YR7/3	良	胴部	小破片	-	-				13	116.2
356	242	-	縄文土器		後期初頭			縦位糸線文		白色透明粒子	10YR6/4	良	胴部	小破片	-	スス				10	34.8
357	419	-	縄文土器		後期初頭			縦位糸線文		土器碎片	7.5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-				10	41.8
358	423	-	縄文土器		後期初頭~			縦位斜位糸線文		灰色粒子	7.5YR6/4	良	胴部	小破片	-	スス				10	77.9
359	A8	-	縄文土器		後期初頭~			曲流糸線文		土器碎片	7.5YR8/4	良	胴部	小破片	-	-				12	33.3
360	B8	-	縄文土器		後期初頭~			曲流糸線文		土器碎片	10YR6/2	良	胴部	小破片	-	スス				8	26.8
361	394	-	縄文土器		後期初頭~			曲流糸線文		土器碎片	7.5YR6/4	良	胴部	小破片	-	スス				10	27.8
362	85	-	縄文土器					燃糸文L		土器碎片	5YR7/8	良	胴部	小破片	-	-				12	99.5
363	314	-	縄文土器		後期前葉	三十稻場?		網目状燃糸文		土器碎片	10YR7/4	やや不良	胴部	小破片	-	スス				13	64.1
364	A2	-	縄文土器		後期初頭~前葉	三十稻場		網目状燃糸文		土器碎片	7.5YR7/6	良	胴部	小破片	-	-				11	23.6
365	373	-	縄文土器		後期初頭~前葉	三十稻場		網目状燃糸文	LR縄文	土器碎片	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	-				10	39.5
366	個体2	-	縄文土器	深鉢	後期初頭~			LR縄文		砂粒	10YR7/4	不良	口縁部 と底部	1/2	-	スス	19.5	9.5	24.5	7.5	1136.0
367	316	-	縄文土器					結節縄文		土器碎片	10YR8/2	やや不良	胴部	小破片	-	-				12	97.1
368	A8	-	縄文土器					LR縄文		土器碎片	10YR7/4	不良	胴部	小破片	-	-				9	53.1
369	A4	-	縄文土器					LR縄文		土器碎片	10YR3/1	不良	胴部	小破片	-	黒班				10	44.2
370	A7	-	縄文土器					L縄文		土器碎片	7.5YR7/6	やや不良	胴部	小破片	-	-				10	33.9
371	A8	-	縄文土器					結節縄文		灰色粒子	10YR6/1	良	胴部	小破片	-	-				10	31.9

第3表 遺物観察表(縄文土器・珠洲焼)(16)

番号	註記	遺構	種別	器種	時期	型式	系統・類型	文様要素		主要含有物	色調	焼成	部位	遺存率	付着物		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
								LR縄文	雨だれ状刺突文						灰色粒子	白色透明粒子					
372	126	-	縄文土器		後期初頭	三十稲場		LR縄文	雨だれ状刺突文	灰色粒子	7.5YR7/4	良	胴部	小破片	-	-			10		16.9
373	B8	-	縄文土器					L縄文		土器碎片	10YR7/3	良	口縁	小破片	-	黒斑			9		34.2
374	A7	-	縄文土器					L縄文		土器碎片	7.5YR6/6	やや不良	胴部	小破片	-	-			9		28.8
375	345	-	縄文土器					LR縄文		土器碎片	10YR8/4	良	胴部下半 ~底部	小破片	-	スス			15		77.4
376	325	-	縄文土器							土器碎片	10YR7/4	やや不良	胴部下半 ~底部	小破片	オコナゲ	スス			8		173.2
377	492	-	縄文土器						一本超え一本潜り一本送り	白色透明 粒子	7.5YR8/3	やや不良	底部	小破片	-	-			14		136.7
378	158	-	縄文土器							土器碎片	10YR7/3	良	底部	底部2/3	黒斑				12		147.4
379	A8	-	縄文土器						木葉痕	土器碎片	10YR8/3	良	胴部下半 ~底部	小破片	-	-			12		32.8
380	235	-	縄文土器						木葉痕	土器碎片	5YR7/6	良	底部	小破片	-	-			12		18.4
381	B11	-	土製品							土製円盤											
382	B11	-	土製品							土製円盤											
383	A9	-	土製品							土製円盤											
384	B6表土	-	石器							石鏃											
385	464	-	石器							磨製石斧											
386	232	-	石器							剥片類											
387	B9	-	石器							石錐											
388	B5	-	石器							磨石類											
389	B5表土	-	珠洲焼		14~15c				御目:1単位10条 27mm	~2mm白色 色粒子	5Y5/1	良	胴部	小破片	-	-			12		93.0
390	B4	-	珠洲焼		14~15c				御目:1単位10条 29mm	~2mm白色 色粒子	5Y5/1	良	胴部	小破片	-	-			14		51.0
391	表土	-	珠洲焼		14~15c				平行式打圧痕	~2mm白色 色粒子	2.5Y7/2	良	胴部	小破片	-	-			17		150.0
392	A1	-	珠洲焼		14~15c				平行式打圧痕	~2mm白色 色粒子	5Y6/1	良	胴部	小破片	-	-			8		59.8

別表

別表

別表

別表

別表

別表

別表

別表

別表

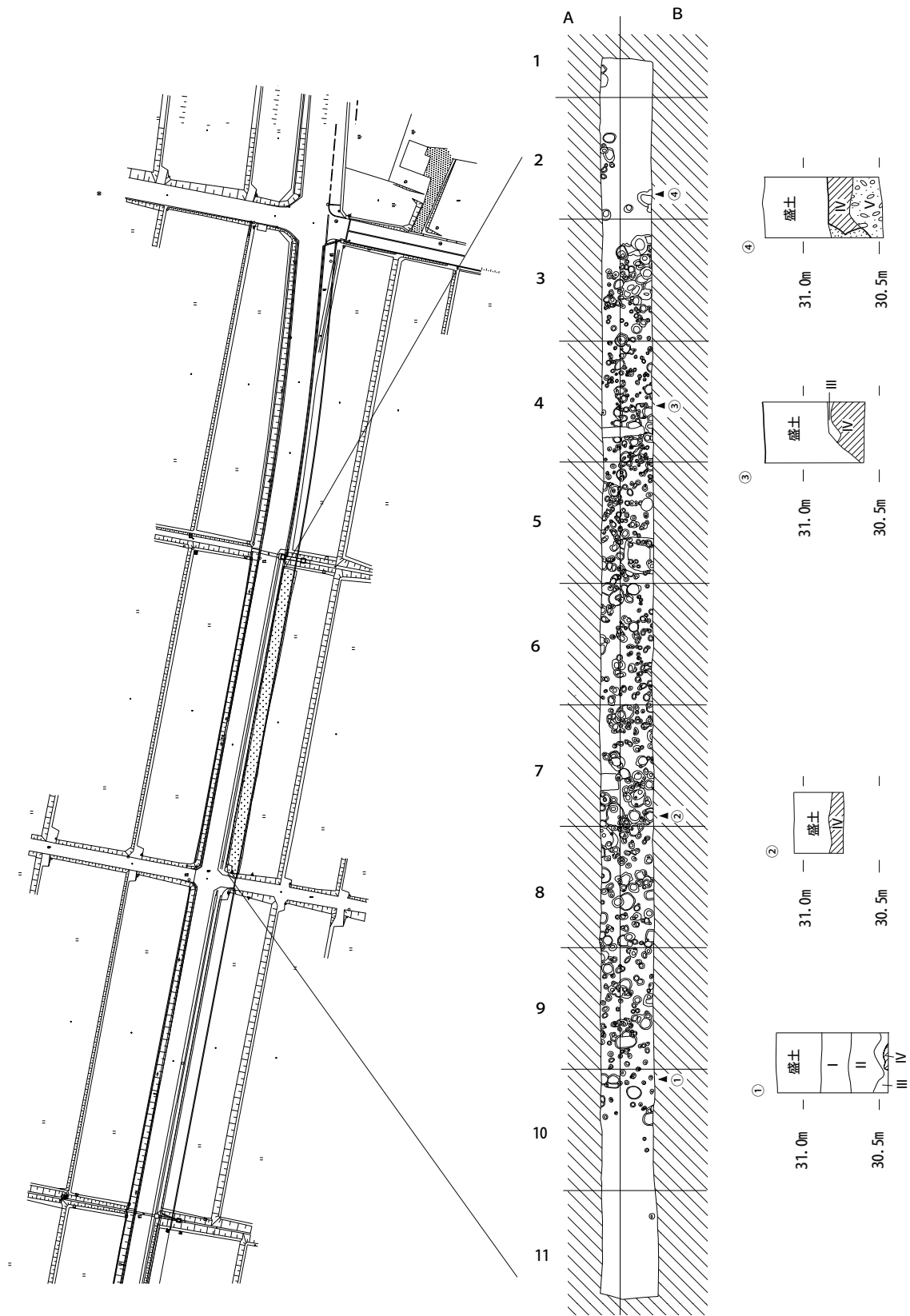
第4表 遺物観察表(土製品)

番号	註記	遺構	種別	時期	型式	系統・類型	文様要素	磨耗痕(側線)	主要含有物	色調	焼成	内面付着	外面付着	長辺 (mm)	短辺 (mm)	器厚 (mm)	重量 (g)
83	B7-P6-8	454	地焼炉欠片						白色透明粒子	5YR7/3	良	-	-	49	41	43	57.1
90	A9-P6	544	土製円盤					下・左・右	白色粒子 黒色粒子	7.5YR7/6	良	-	-	35	34	12	15.5
113	B10-P1	638	土製円盤	後期初頭～			結節縄文		土器碎片	7.5YR5/6	良	-	-	31	29	11	13.0
155	B5-P19-5	284	土製円盤					左・右	白色透明粒子	5YR7/6	良	-	-	29	27	10	10.3
233	B7-P8	458	土製円盤					左	白色透明粒子	10YR7/3	やや不良	-	-	50	47	10	38.4
248	B7-P7	459	土製円盤	後期初頭～			条線文	下	土器碎片	5YR6/6	良	-	スス	41	35	10	17.8
262	A8-P13	481	土製円盤	後期前葉	三十稲場		花卉状刺突文		白色粒子	10YR7/4	やや不良	-	-	38	35	8	12.7
264	A8-P26	497	土製円盤					左	白色粒子	10YR8/4	良	-	-	40	37	7	12.9
381	B11	-	土製円盤				L縄文?	上・下・左・右	白色透明粒子	5YR7/6	良	-	-	37	36	11	18.1
382	B11	-	土製円盤				沈線文	左	白色透明粒子	10YR4/1	やや不良	-	-	38	34	10	14.0
383	A9	-	土製円盤					下・左	白色透明粒子	7.5YR7/6	良	-	-	28	25	10	7.8

第5表 遺物観察表(石器)

番号	註記	遺構	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
30	A6-P10	299	磨石類	凹+磨	安山岩	7.5	8.2	4.1	392.49	
31	A6-P10	299	浮子		凝灰岩	6.1	5.2	5.0	41.40	
73	A7-P1	400	磨石類	磨+敲+凹	安山岩	13.7	5.8	4.2	495.05	
147	A5-P5	202	楔形石器		珉質頁岩	2.4	2.7	0.8	6.83	石核調整剥片の転用
171	B6-P14	321	打製石斧		無斑晶質安山岩	10.1	6.1	2.2	154.39	
184	B6-P2	368	磨製石斧		不明	9.4	5.2	2.3	170.90	
227	B7-P13	452	磨石類	凹+磨	安山岩	10.9	6.1	4.0	419.88	
255	A8-P9	473	打製石斧		頁岩	10.5	4.5	1.6	81.02	
276	B8-P1	519	剥片類		黒曜石	3.3	2.3	1.1	7.09	石核未製品か?
296	B9-P23	593	磨石類	凹+磨	凝灰岩	10.6	7.6	4.1	394.68	
384	B6表土		石鏃		黒曜石	(2.0)	1.6	0.4	1.26	先端部折損
385	464		磨製石斧		砂岩	13.3	6.4	3.3	423.17	
386	232		剥片類	二次加工のある剥片	チャート	2.3	4.1	1.2	13.24	石核調整剥片の転用
387	B9		石錘		砂岩	7.0	4.9	1.6	82.44	
388	B5		磨石類	凹+磨	安山岩	8.2	9.2	4.4	479.05	

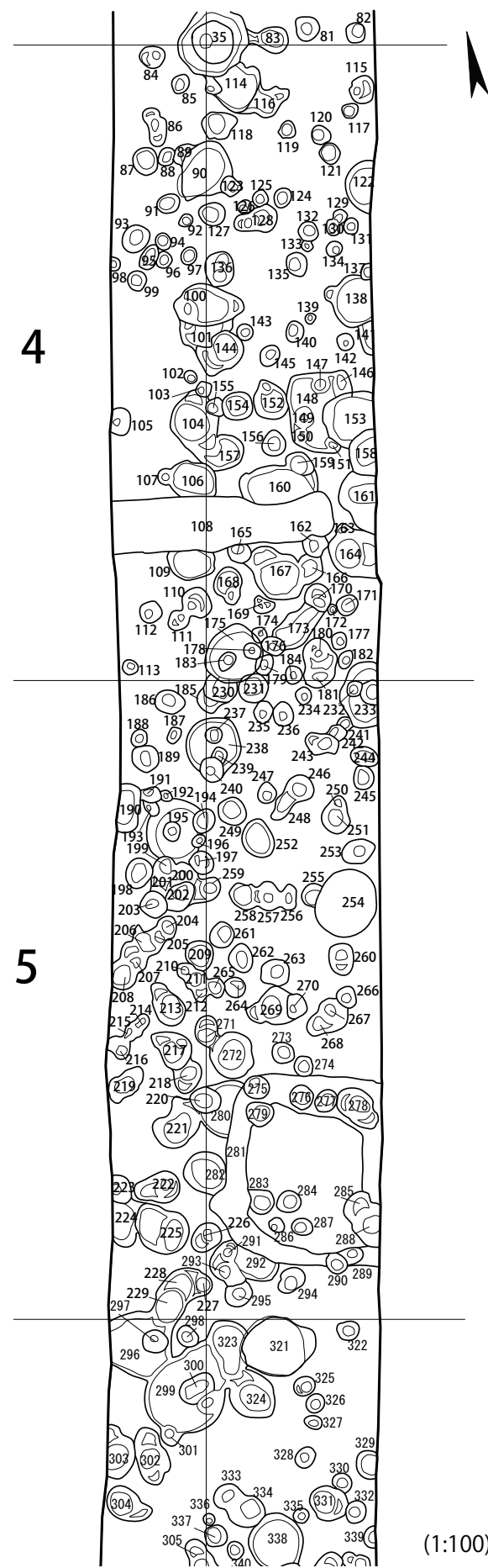
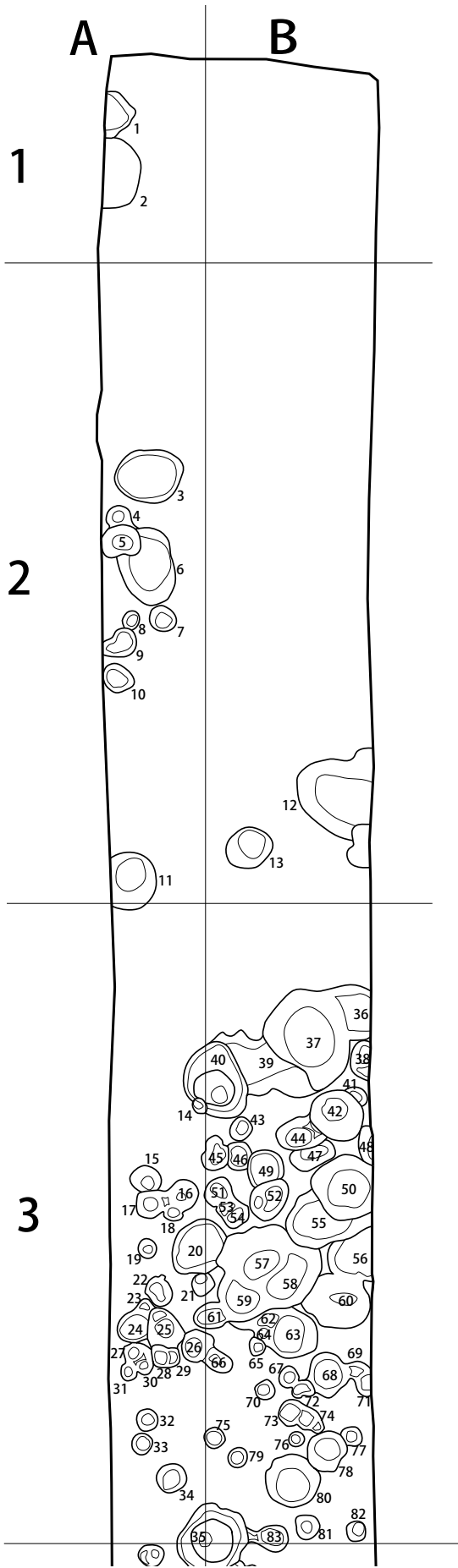
圖 版



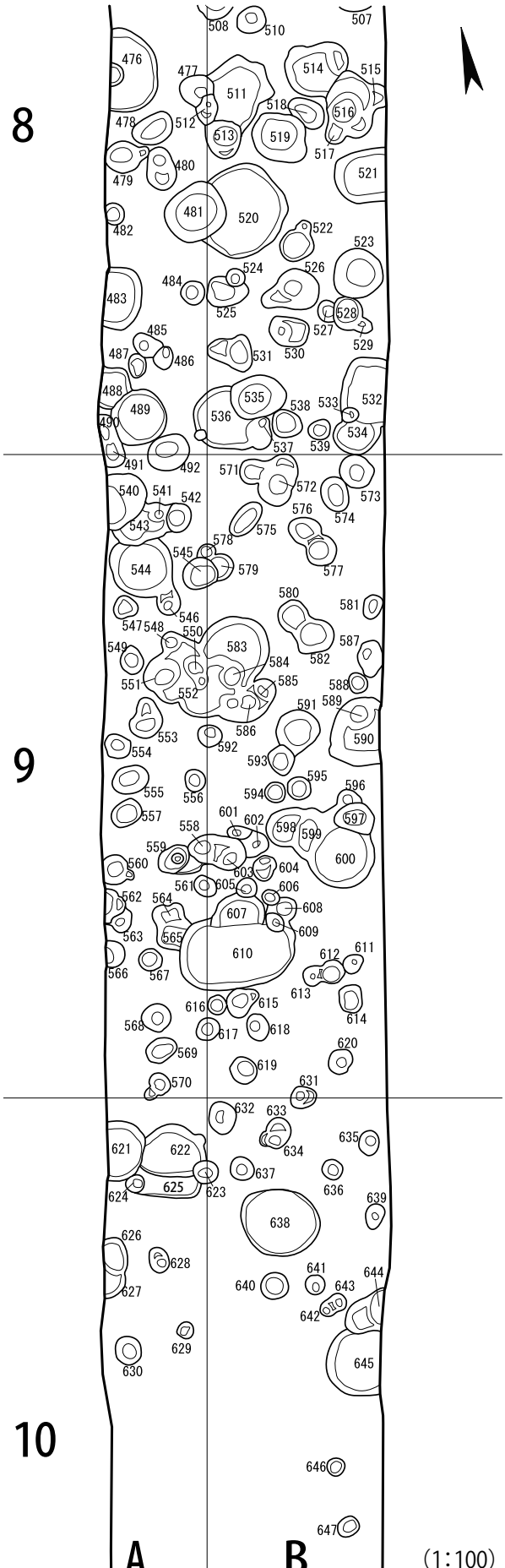
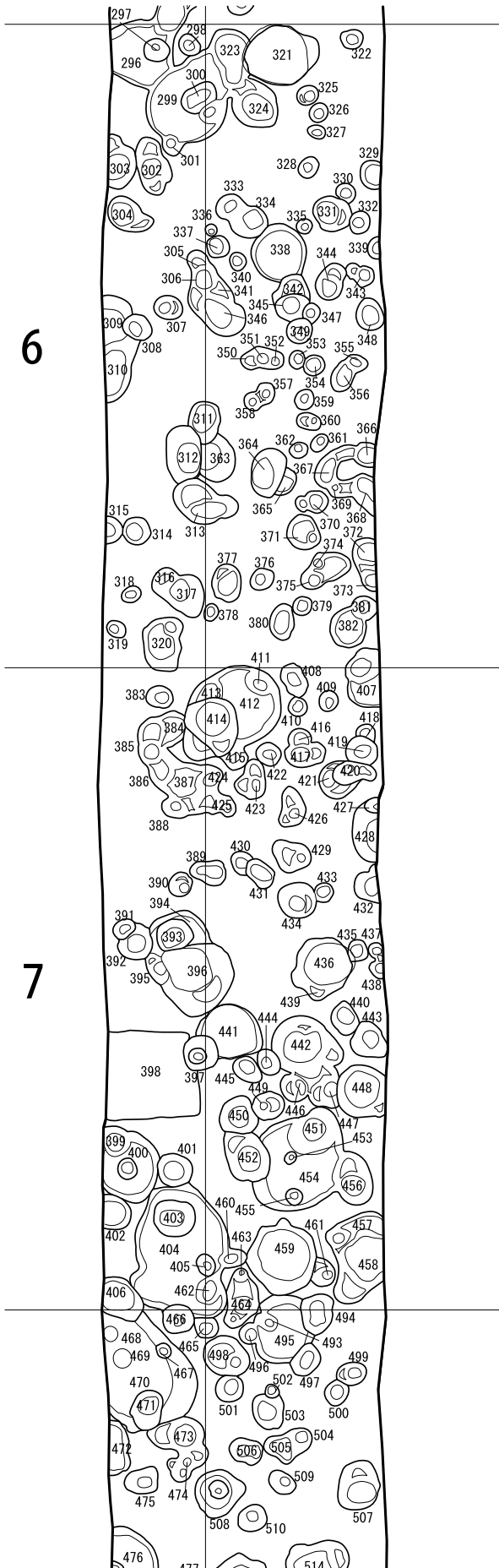
遺跡周辺図 (1:2,000)

調査区全体図 (1:500)

柱状図(1:40)

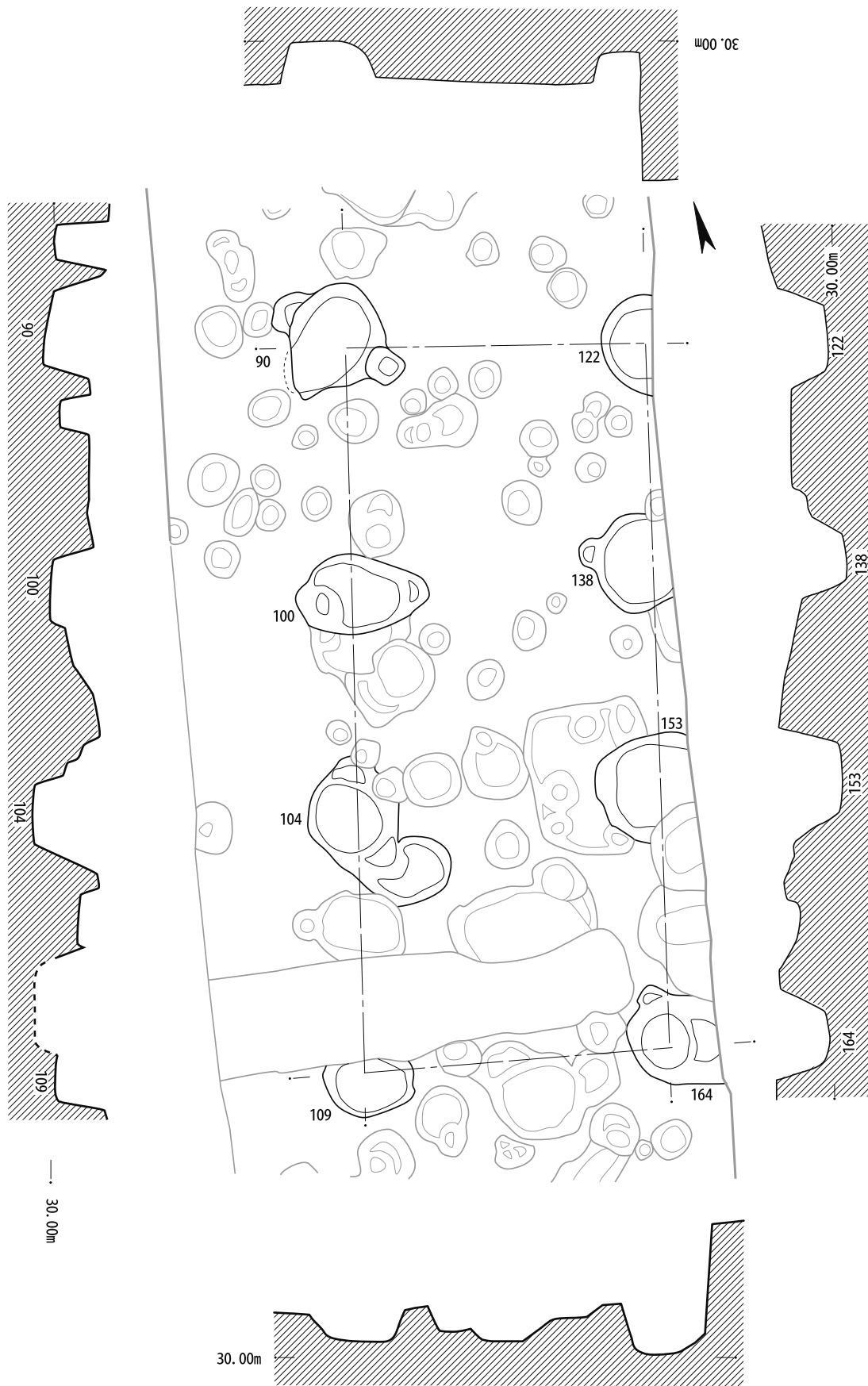


(1:100)

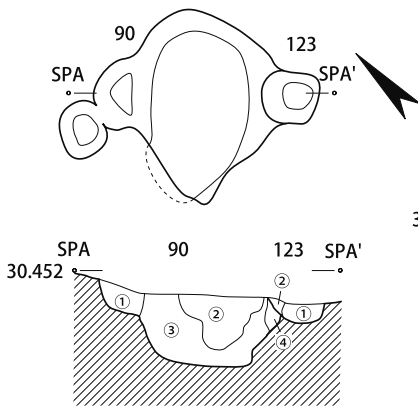


(1:100)

掘立柱建物跡
1号建物



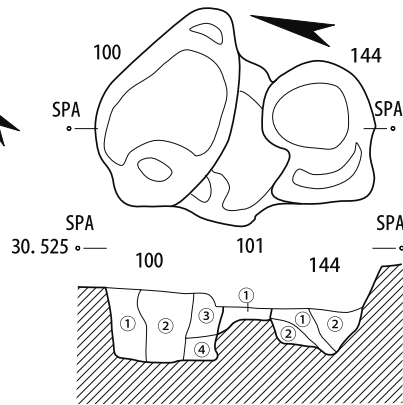
遺構 90



- 90 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ④層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

- 123 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 100・101・144

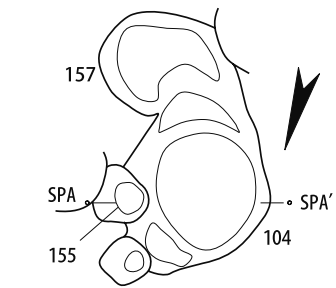


- 100 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ②層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<4>
 ③層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ④層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<5>

- 101 ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>

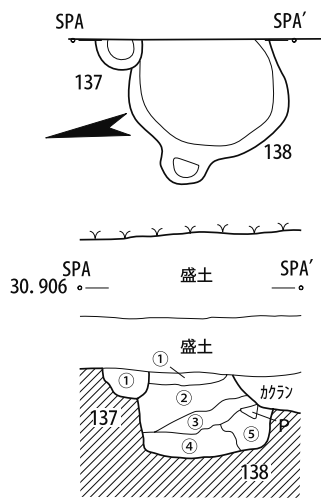
- 144 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 104・157



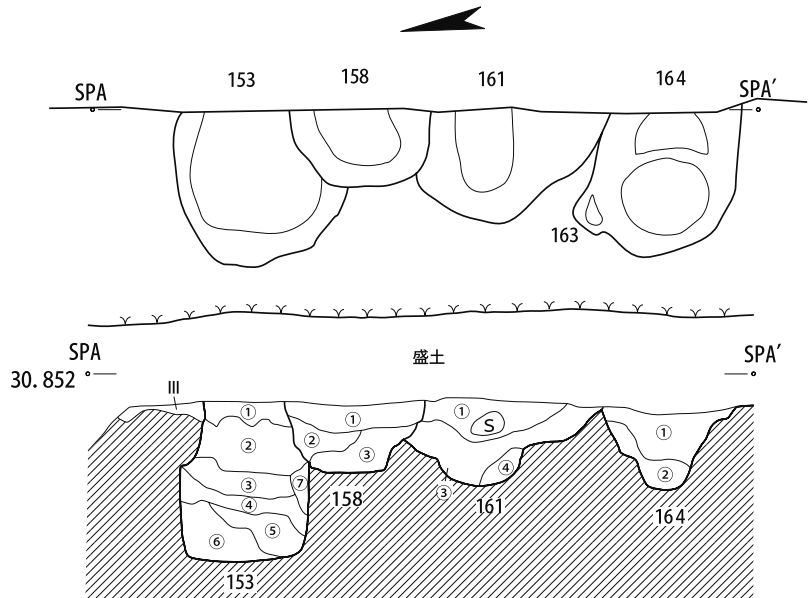
- 155 ①層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<4>
- 104 ①層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<5>
 ③層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<5>
 ④層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑤層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑥層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>

遺構 138



- 137 ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
- 138 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ④層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ⑤層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<5>

遺構 153・164



- 153 ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ④層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑤層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ⑥層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ⑦層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<5>

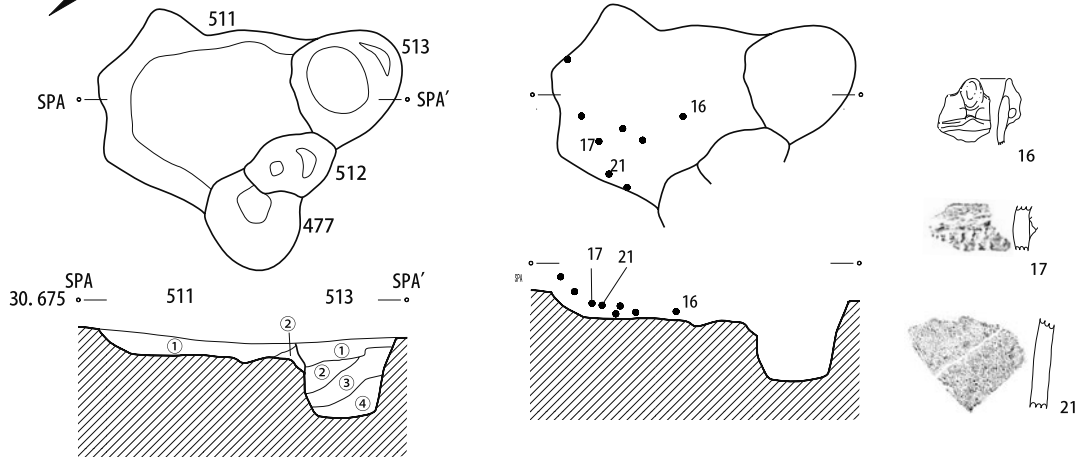
- 158 ①層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ③層:灰黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>

- 161 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<4> 締まり<5>
 ③層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 ④層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>

- 161 ①層:黒褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<4> 締まり<3>

土坑

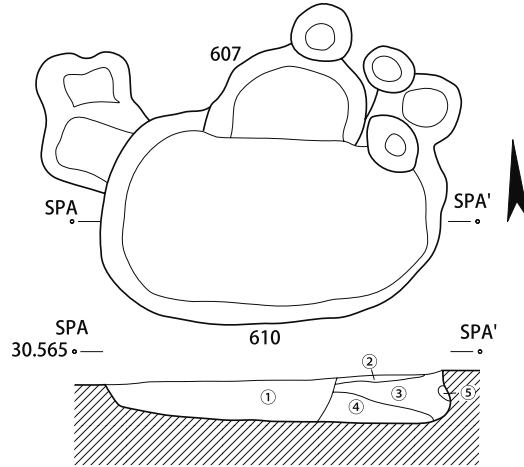
遺構 477・511・513



511 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
②層:にぶい黄橙色土 粘性<2> 締まり<2>

513 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
③層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
④層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>

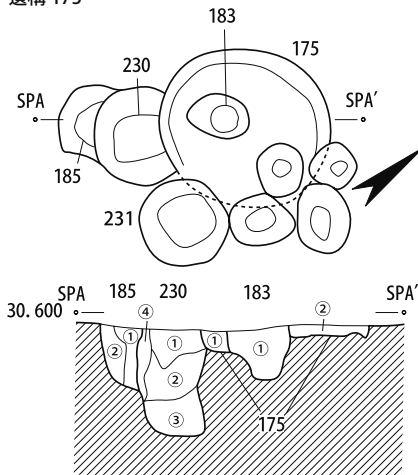
遺構 610



610 ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<2>
②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
③層:灰黄褐色土 粘性<1> 締まり<1>
④層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
⑤層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>

フラスコ状土坑

遺構 175



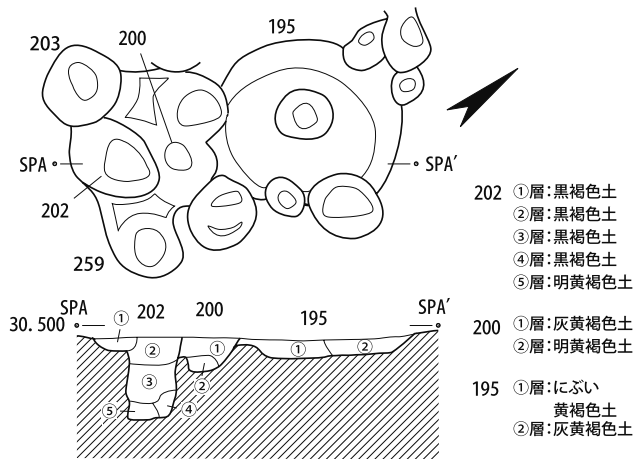
185 ①層:灰黄褐色土
②層:明黄褐色土

230 ①層:褐灰色土
②層:灰黄褐色土
③層:灰黄褐色土
④層:褐灰色土

175 ①層:褐灰色土
②層:褐灰色土

183 ①層:黒褐色土

遺構 195

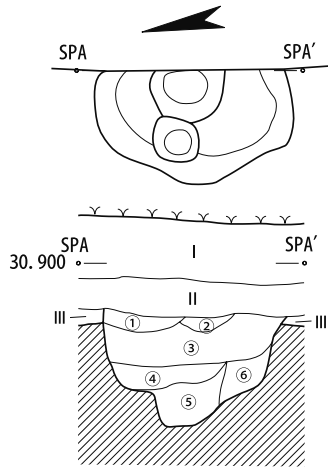


202 ①層:黒褐色土
②層:黒褐色土
③層:黒褐色土
④層:黒褐色土
⑤層:明黄褐色土

200 ①層:灰黄褐色土
②層:明黄褐色土

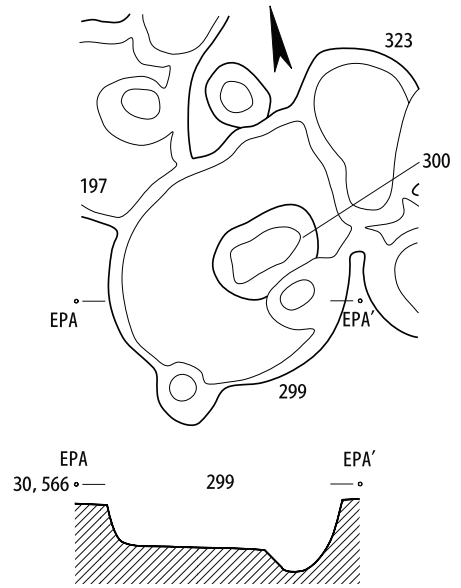
195 ①層:にぶい黄褐色土
②層:灰黄褐色土

遺構 233

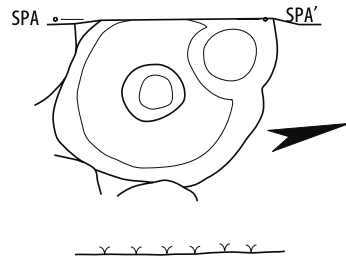


- 233 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 ②層:黒褐色土 粘性<4> 締まり<3>
 ③層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<2>
 ④層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ⑤層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ⑥層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>

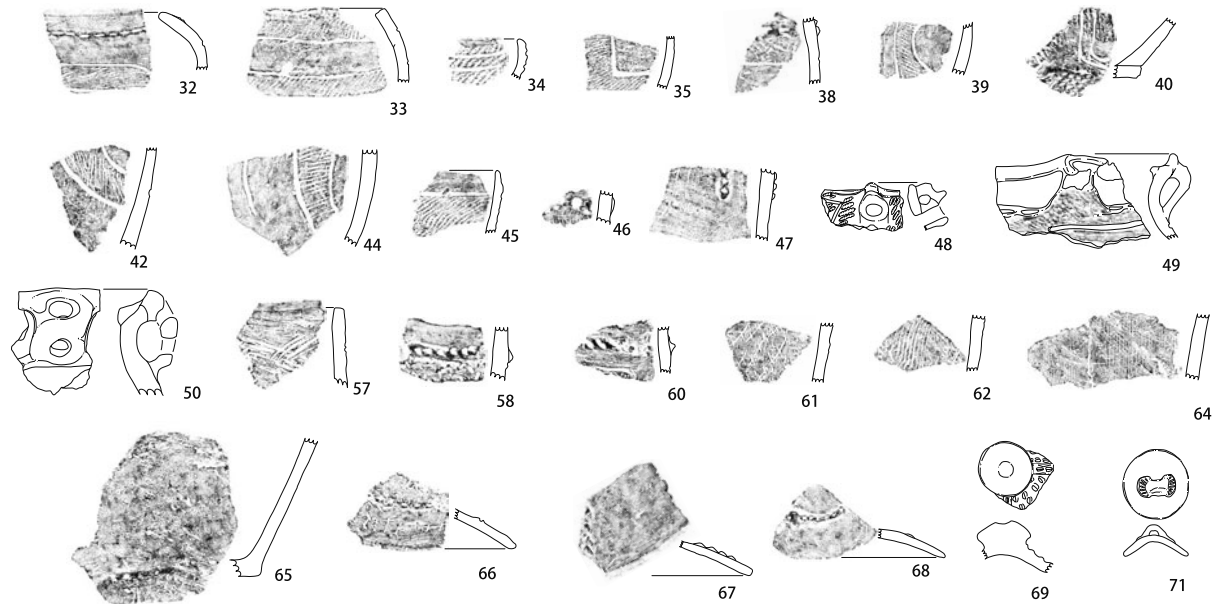
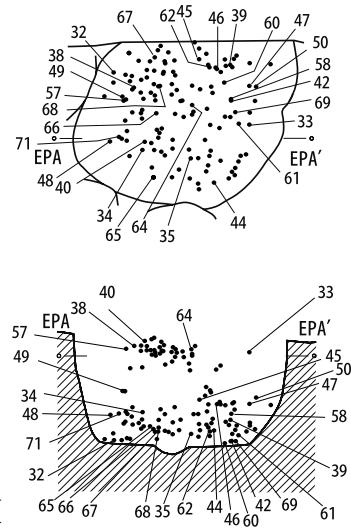
遺構 299



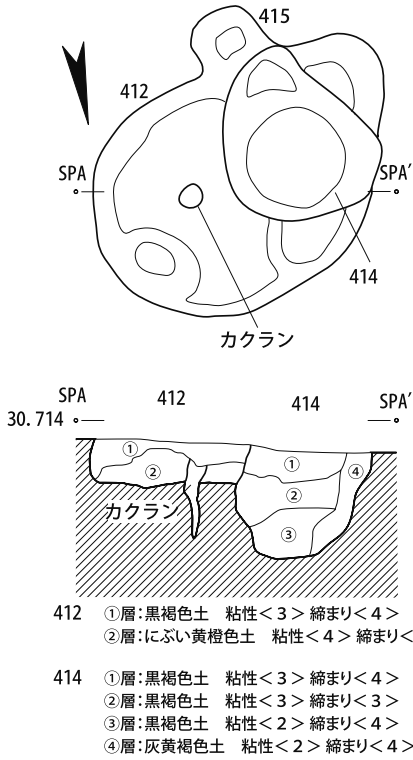
遺構 400



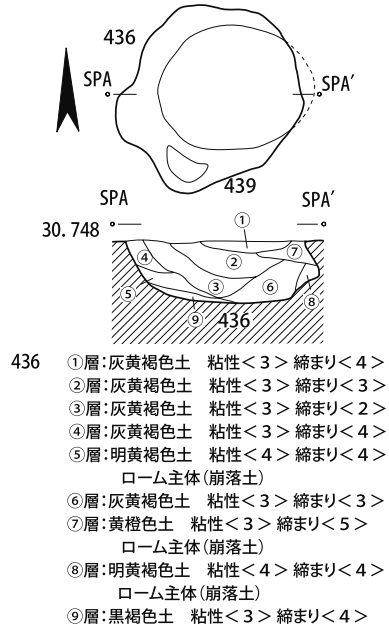
- 400 ①層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:褐灰色土 粘性<4> 締まり<3>
 ③層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>



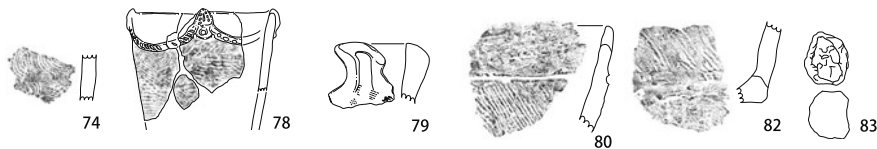
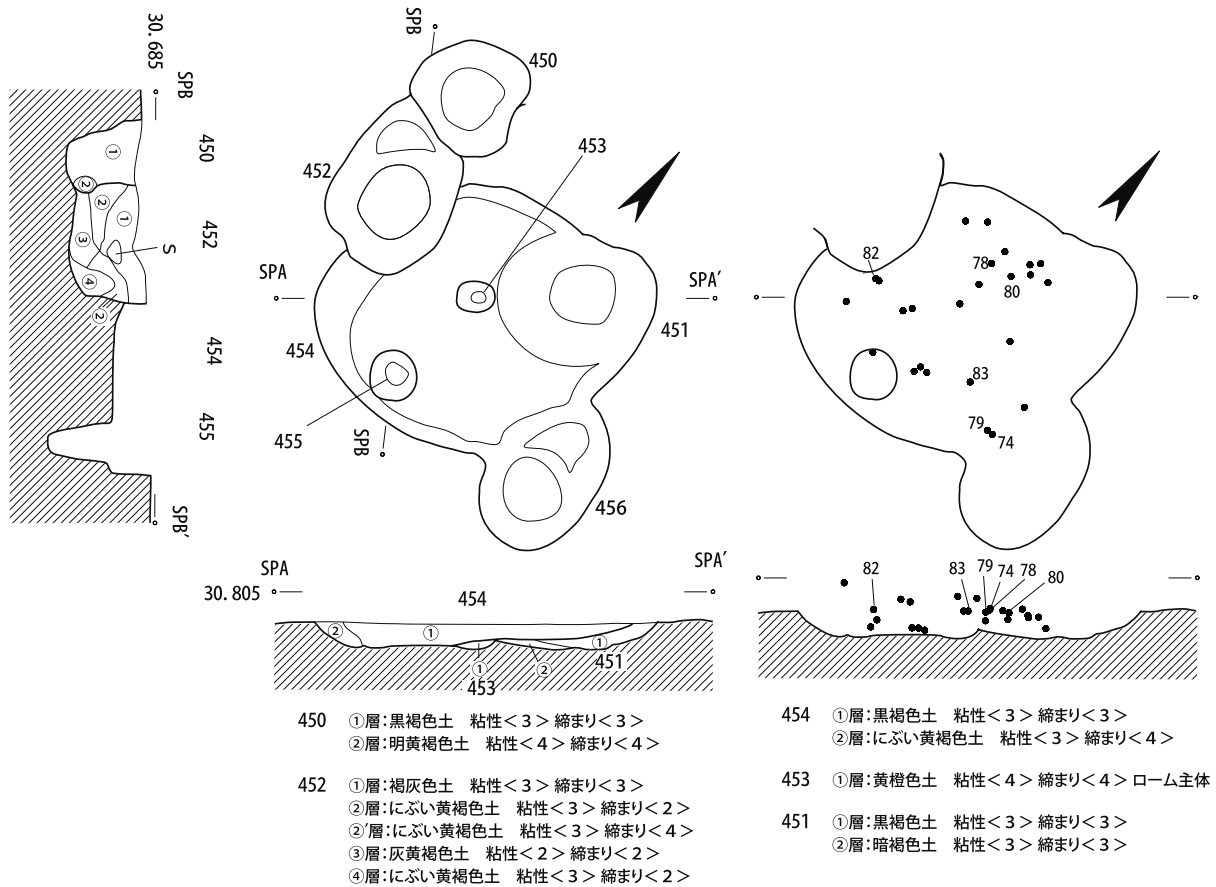
遺構 412・415



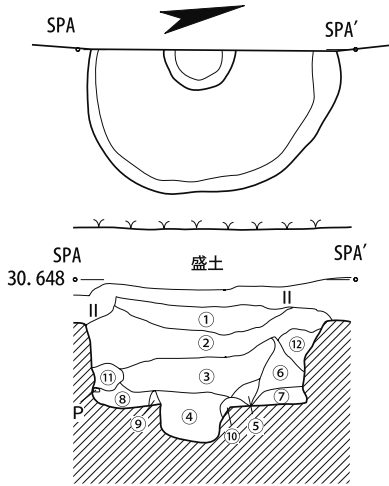
遺構 436



遺構 450・452・454・456

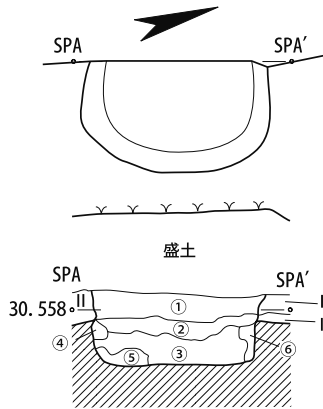


遺構 476



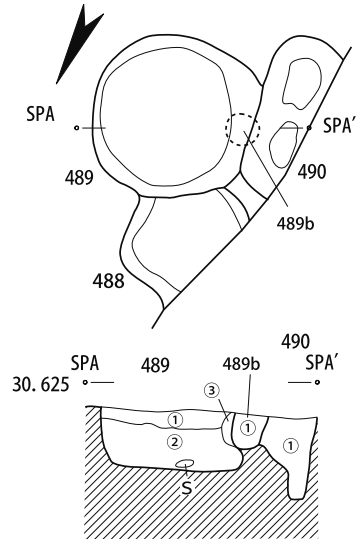
- 476
- ①層:黒褐色土 粘性<4> 締まり<2>
 - ②層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<2>
 - ③層:黒褐色土 粘性<4> 締まり<2>
 - ④層:黒褐色土 粘性<4> 締まり<2>
 - ⑤層:褐灰色土 粘性<4> 締まり<2>
 - ⑥層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<2>
 - ⑦層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<3>
 - ⑧層:黒褐色土 粘性<4> 締まり<2>
 - ⑨層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 - ⑩層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 - ⑪層:明黄褐色土 粘性<4> 締まり<3>
 - ⑫層:明黄褐色土 粘性<4> 締まり<3>

遺構 483



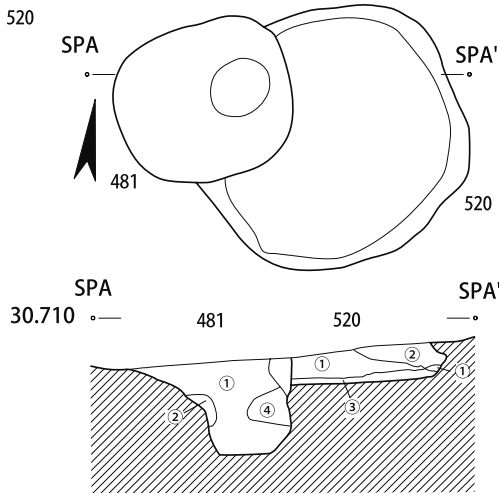
- 483
- ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<5>
 - ②層:黒褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 - ③層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 - ④層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 - ⑤層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 - ⑥層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<3>

遺構 489

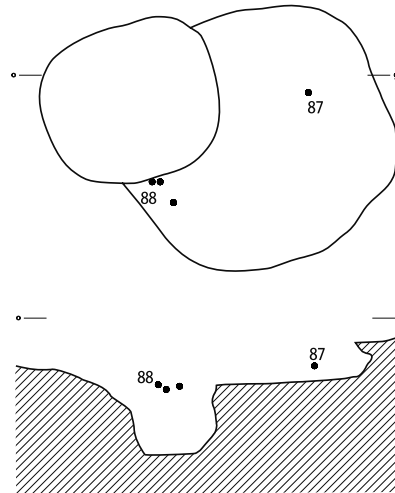


- 489
- ①層:黒色土 粘性<2> 締まり<4>
 - ②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 - ③層:明黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
- 489b
- ①層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<4>
- 490
- ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>

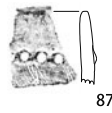
遺構 481・520



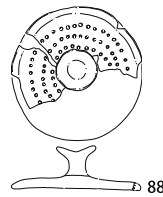
- 481
- ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 - ②層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 - ③層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 - ④層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>



- 520
- ①層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 - ②層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 - ③層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>

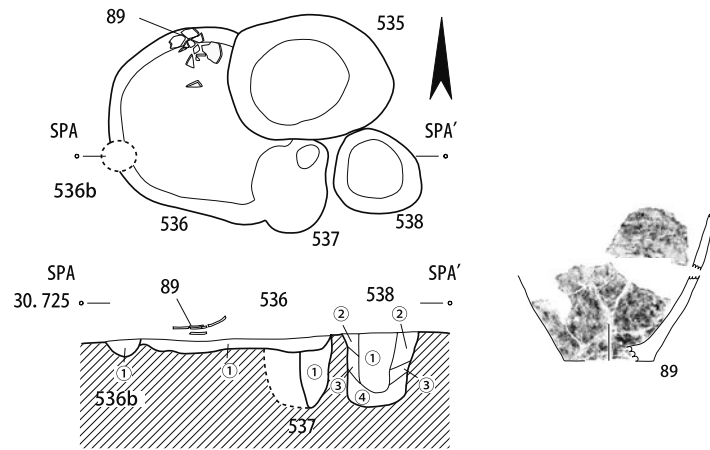


87



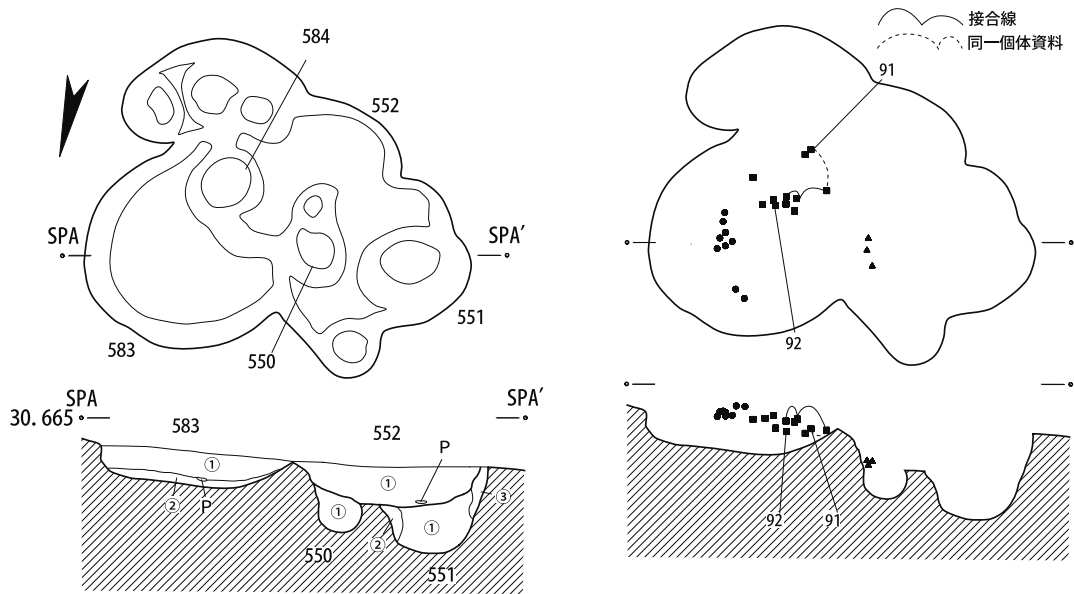
88

遺構 536



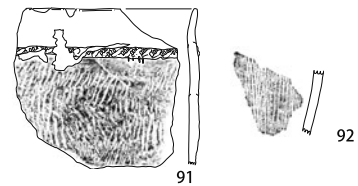
- 536b ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 536 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 537 ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 538 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ④層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>

遺構 552・583

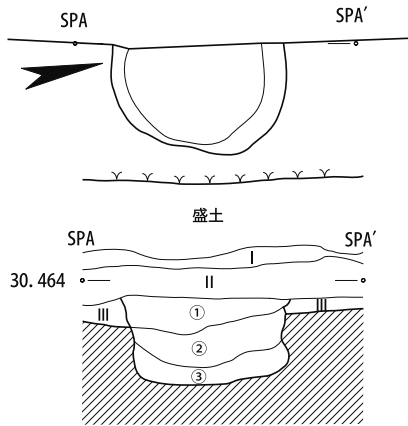


- 583 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 552 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>

- 550 ①層 褐灰色土 粘性<2> 締まり<4>
 551 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:にぶい黄橙色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

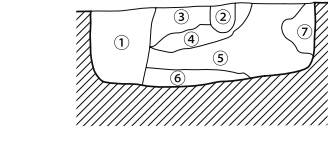
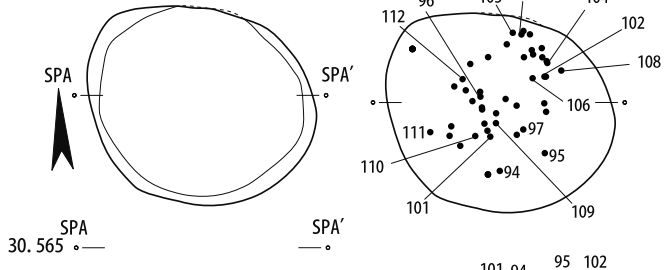


遺構 621

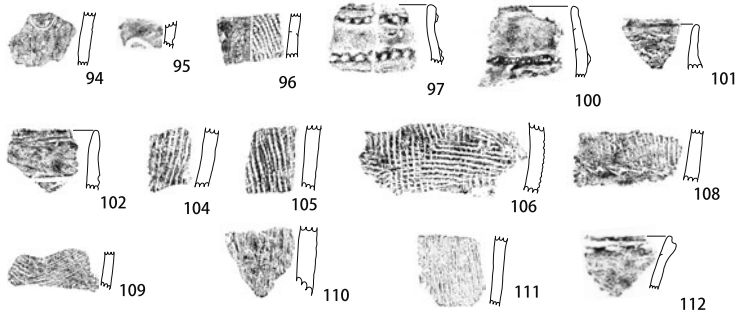
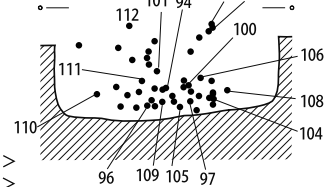


- 621 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ③層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>

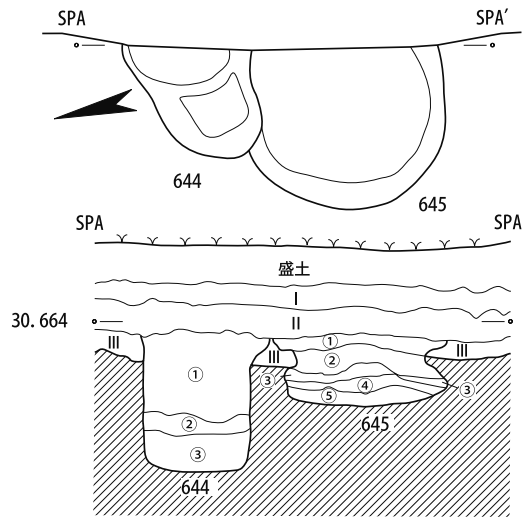
遺構 638



- 638 ①層:黒褐色土 粘性<1> 締まり<1>
 ②層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ④層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ⑤層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<2>
 ⑥層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑦層:黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>



遺構 644・645

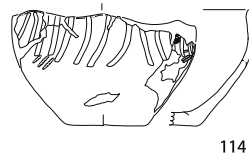
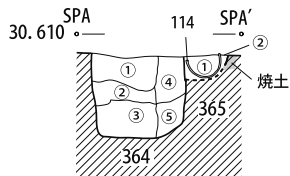
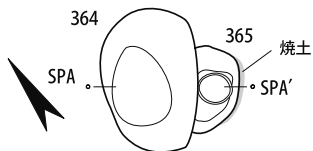


- 644 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>

- 645 ①層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ③層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ④層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑤層:明黄褐色土 粘性<4> 締まり<5>

埋設土器

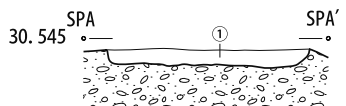
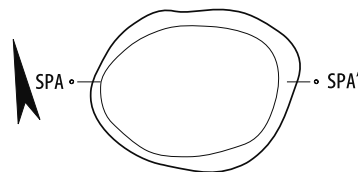
遺構 364・365



- 364 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ③層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ④層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ⑤層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>
- 365 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:褐色土 粘性<2> 締まり<2>

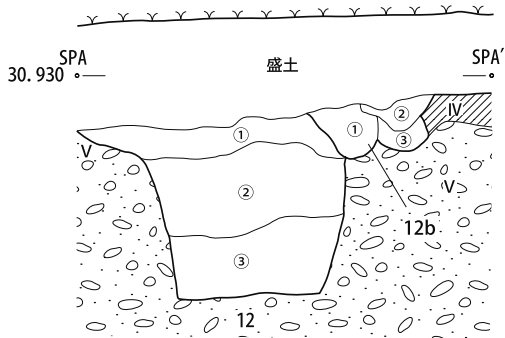
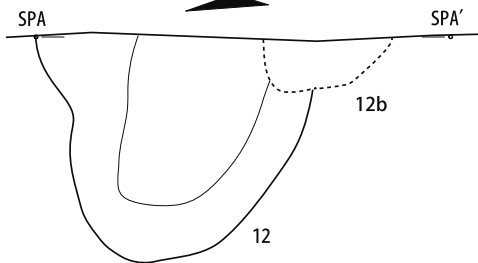
その他のピット

遺構 3



- 3 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<5>

遺構 12

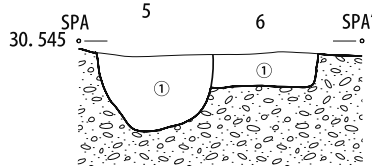
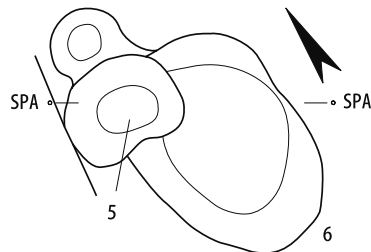


- 12 ①層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ③層:にぶい褐色土 粘性<2> 締まり<3>

- 12b ①層:にぶい黄褐色土 粘性<1> 締まり<3>
 ②層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<5>

V層:明黄褐色土 粘性<1> 締まり<2>

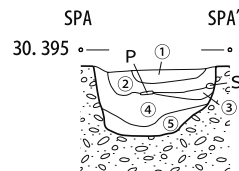
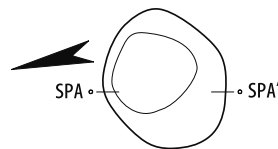
遺構 5・6



- 5 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>

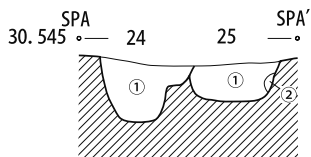
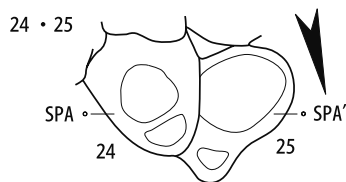
- 6 ①層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>

遺構 13



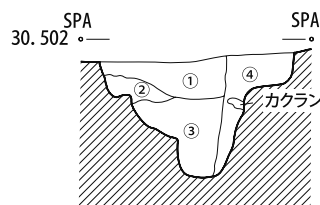
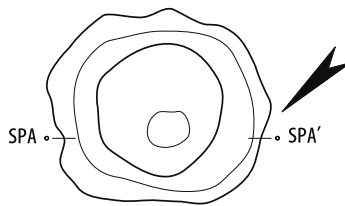
- 13 ①層:暗灰色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ③層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ④層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<2>
 ⑤層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>

遺構 24・25



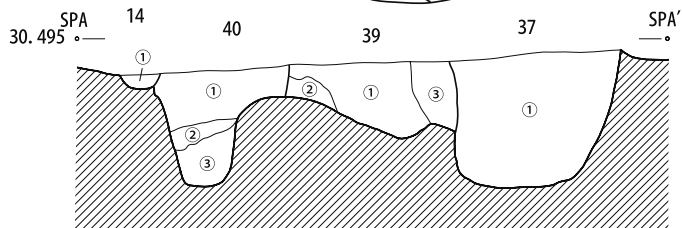
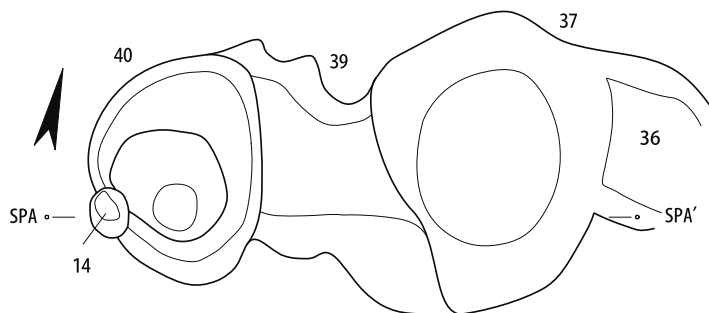
- 24 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 25 ①層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:にぶい黄橙色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 35



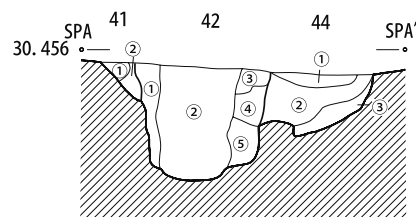
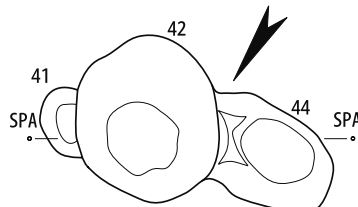
- 35 ①層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ②層:にぶい黄橙色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<4>
 ④層:にぶい黄橙色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 37・39・40



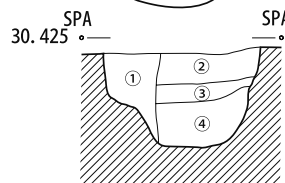
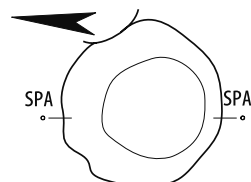
- 14 ①層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 40 ①層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ③層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 39 ①層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<5>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ③層:にぶい黄橙色土 粘性<2> 締まり<2>
 37 ①層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>

遺構 42



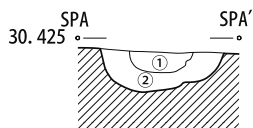
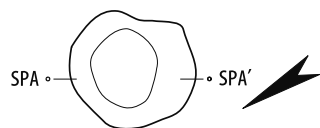
- 41 ①層:明黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ②層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 42 ①層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ④層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑤層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 44 ①層:にぶい黄橙色土 粘性<2> 締まり<4>
 ②層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ③層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>

遺構 80



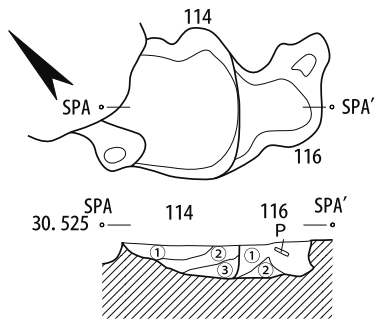
- 80 ①層:明黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ③層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ④層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>

遺構 78



- 78 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>

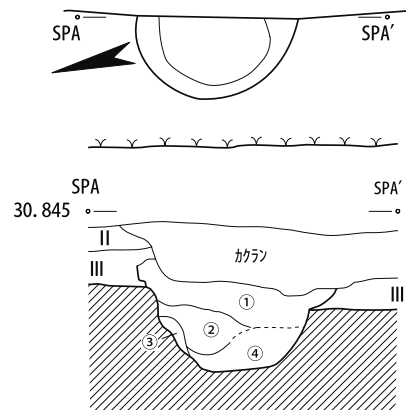
遺構 114・116



- 114 ①層:明黄褐色土 粘性<4> 締まり<5>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

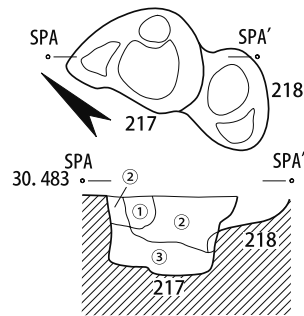
- 116 ①層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 122



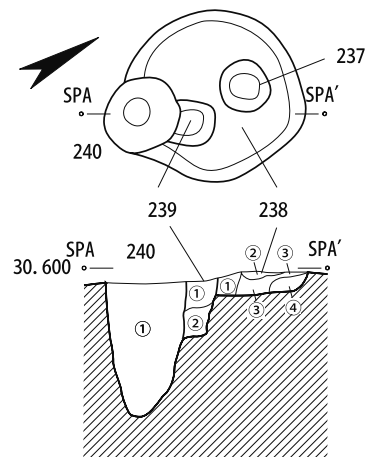
- 122 ①層:褐灰色土 粘性<4> 締まり<3>
 ②層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ④層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>

遺構 217・218



- 217 ①層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<5>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 238・240

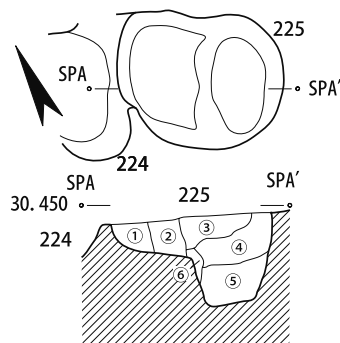


- 240 ①層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<2>

- 239 ①層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<5>

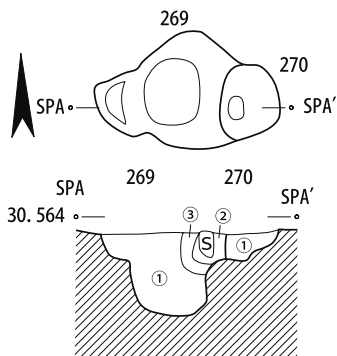
- 238 ①層:褐灰色土 粘性<4> 締まり<5>
 ②層:明赤褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ③層:暗赤褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ④層:灰赤色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 225



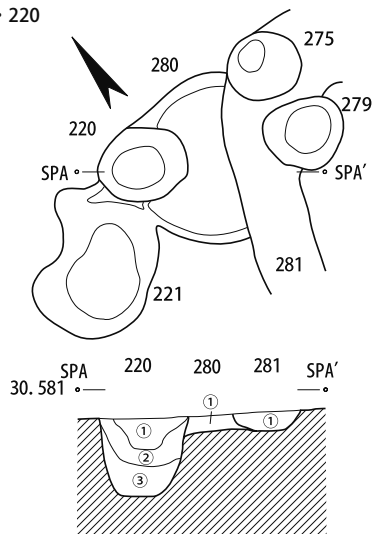
- 225 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<2>
 ②層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ③層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ④層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑤層:黒褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 ⑥層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 269



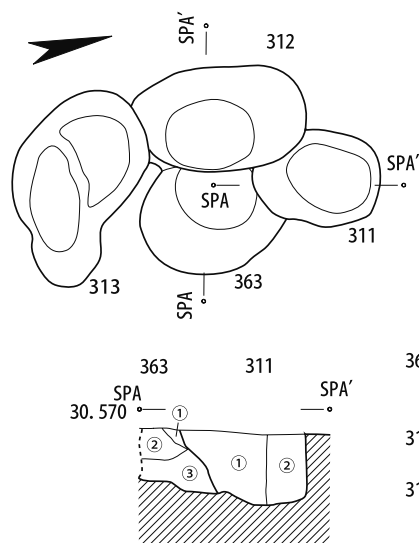
- 269 ①層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ③層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
- 270 ①層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<3>

遺構 280・281・220

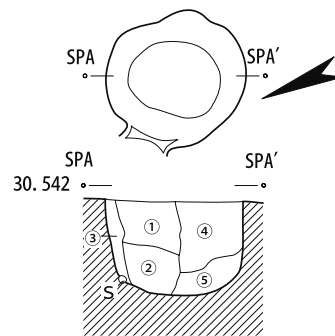


- 220 ①層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<2>
 ②層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
- 280 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
- 281 ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>

遺構 311・312・363

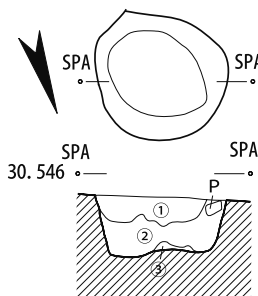


遺構 272



- 272 ①層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ③層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ④層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ⑤層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

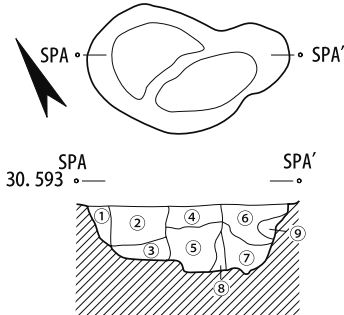
遺構 282



- 282 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:明黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>

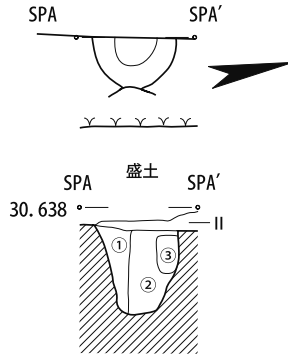
- 363 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<4>
- 311 ①層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>
- 312 ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ②層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ④層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑤層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 313



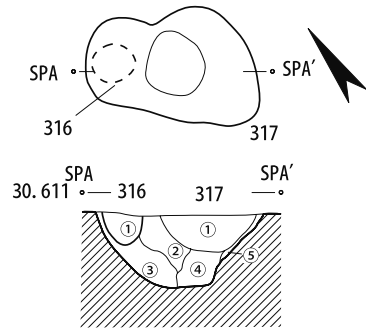
- 313 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ③層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ④層:明黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ⑤層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ⑥層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<2>
 ⑦層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑧層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑨層:明黄褐色土 粘性<4> 締まり<5>

遺構 315



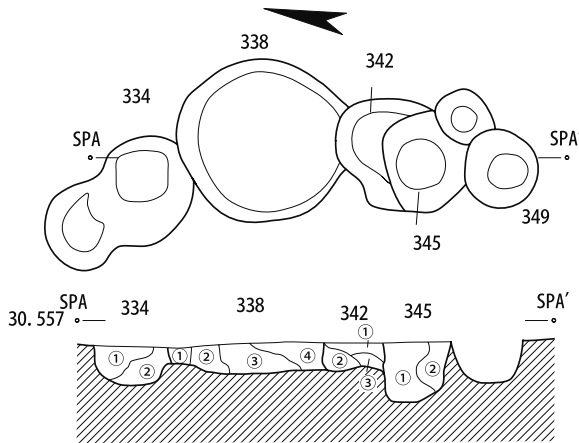
- 315 ①層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ③層:明黄褐色土 粘性<4> 締まり<3>

遺構 317



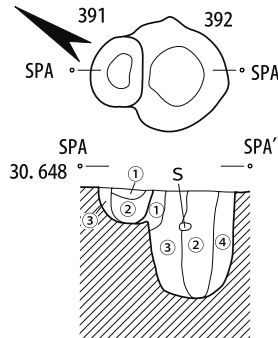
- 317 ①層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<3>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 ③層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ④層:灰黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 ⑤層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>

遺構 338



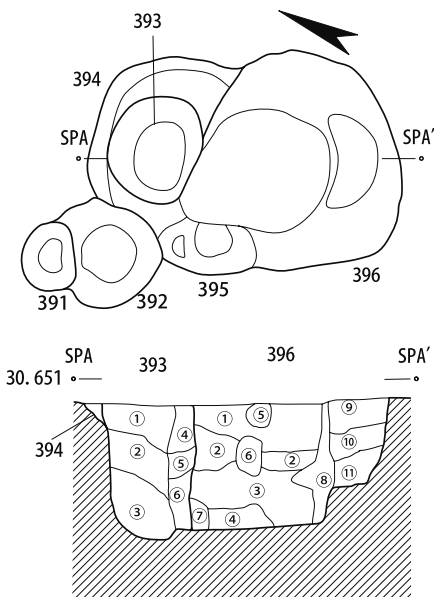
- 334 ①層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4> ローム主体
- 338 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<5> ローム主体
 ②層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<3>
 ③層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<3> ローム主体
 ④層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
- 342 ①層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ②層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<3>
- 345 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ②層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<4> ローム主体

遺構 392



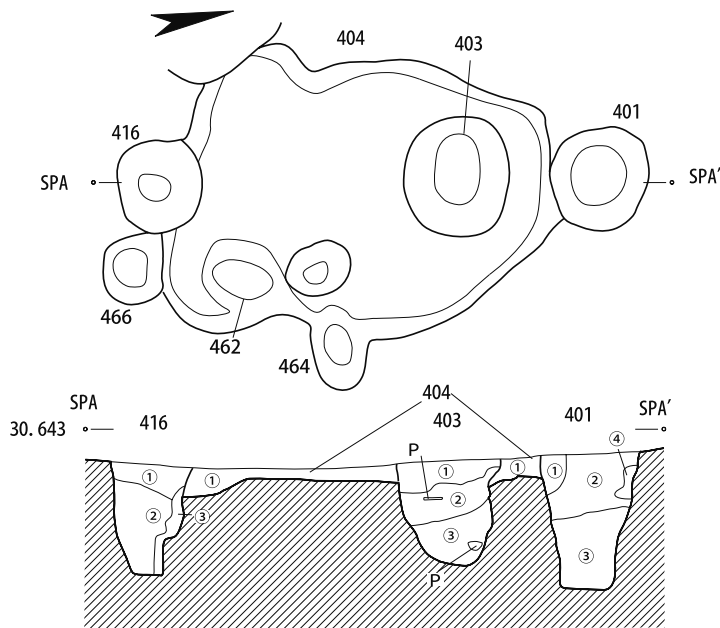
- 391 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ③層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
- 392 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ③層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<2>
 ④層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 396



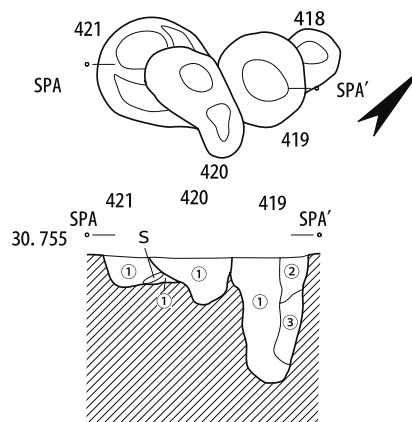
- 394 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 393 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ③層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ④層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<2>
 ⑤層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑥層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>
- 396 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ③層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ④層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑤層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ⑥層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ⑦層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ⑧層:にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ⑨層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ⑩層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ⑪層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>

遺構 404



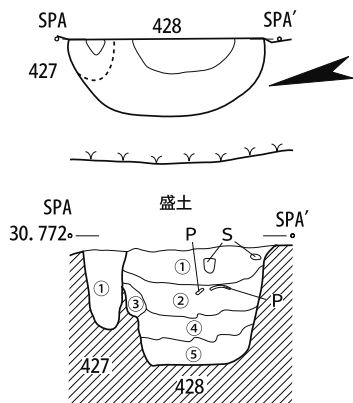
- 416 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ③層:暗褐色土 粘性<3> 締まり<2>
- 404 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
- 403 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ②層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<3>
 ③層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<3>
- 401 ①層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ③層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ④層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 419



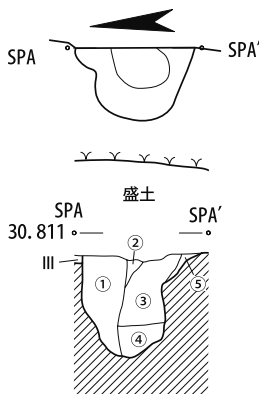
- 421 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<2>
- 420 ①層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<4>
- 419 ①層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<4>
 ②層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>

遺構 428



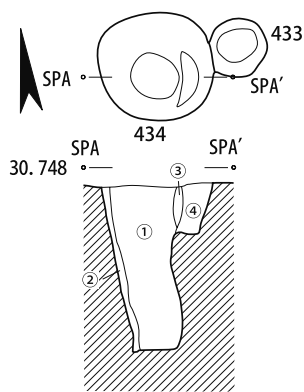
- 427 ①層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 428 ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ④層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑤層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 432



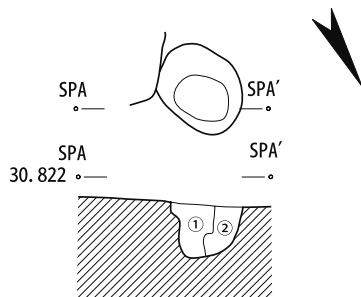
- 432 ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 ③層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<4>
 ④層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ⑤層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 434



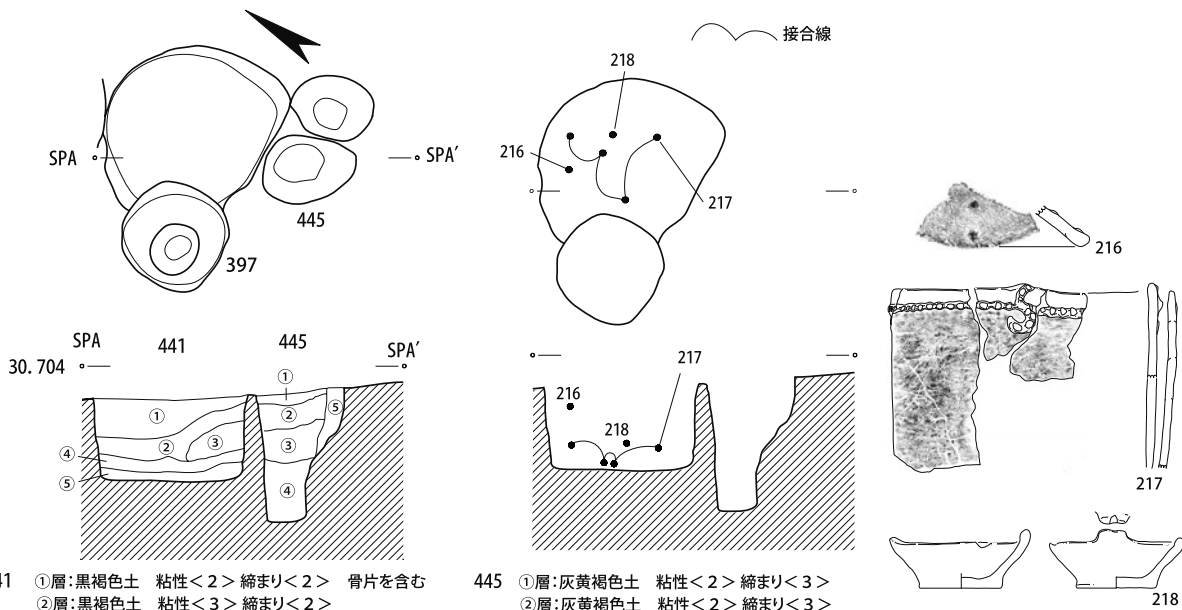
- 434 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 ③層:暗褐色土 粘性<3> 締まり<2>
 ④層:暗褐色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 440



- 440 ①層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>

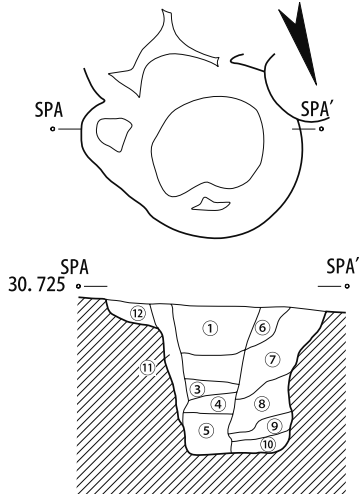
遺構 441・445



- 441 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2> 骨片を含む
 ②層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<2>
 ③層:明黄褐色土 粘性<4> 締まり<4> ローム主体
 ④層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ⑤層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>

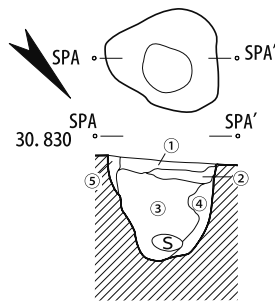
- 445 ①層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ③層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<2>
 ④層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ⑤層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 442



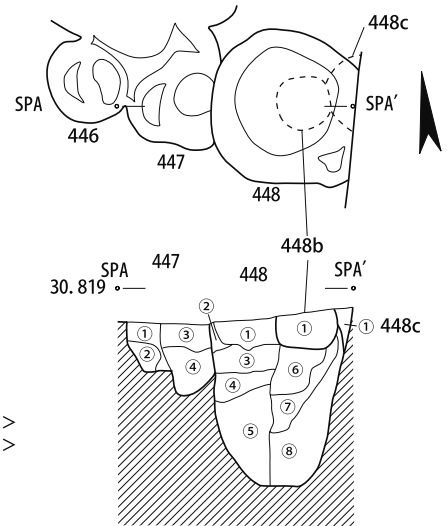
- 442 ①層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<2>
 ②層:にぶい黄橙色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:褐灰色土 粘性<3> 締まり<4>
 ④層:にぶい黄橙色土 粘性<2> 締まり<4>
 ⑤層:にぶい黄橙色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑥層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<2>
 ⑦層:褐灰色土 粘性<4> 締まり<4>
 ⑧層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ⑨層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<2>
 ⑩層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<5>
 ⑪層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑫層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<3>

遺構 443



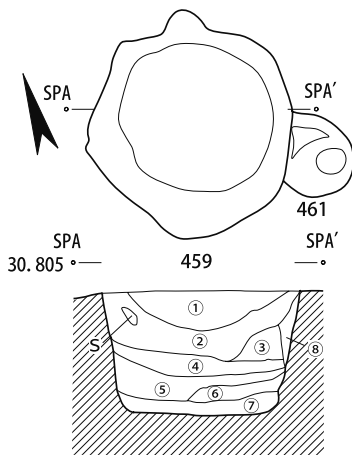
- 443 ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ④層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ⑤層:明黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ローム主体

遺構 448



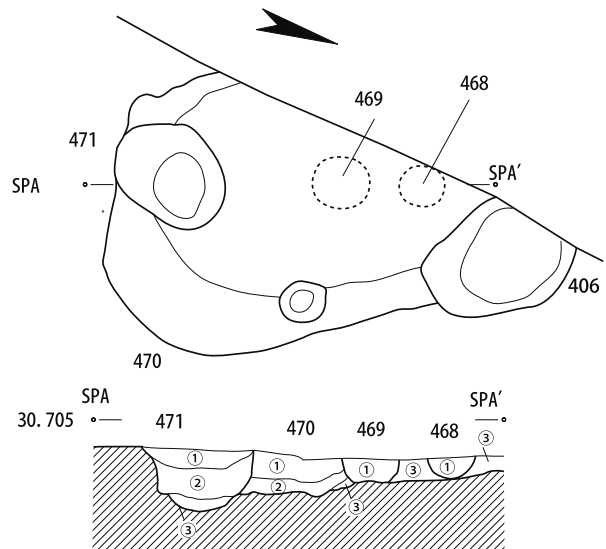
- 447 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ④層:黒黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
- 448 ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:黒褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 ③層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ④層:黒褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 ⑤層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑥層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<5>
 ⑦層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ⑧層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
- 448b ①層:黒褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 448c ①層:黒褐色土 粘性<4> 締まり<4>

遺構 459・461



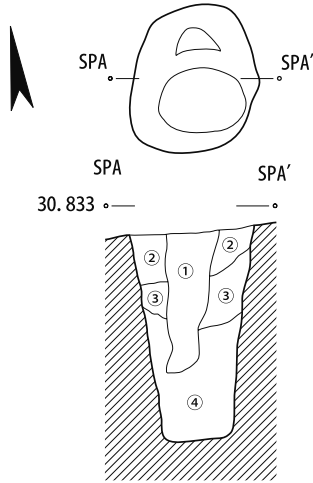
- 459 ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ②層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ③層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<2>
 ④層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ⑤層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ⑥層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<2>
 ⑦層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<2>
 ⑧層:明黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 ローム主体

遺構 470



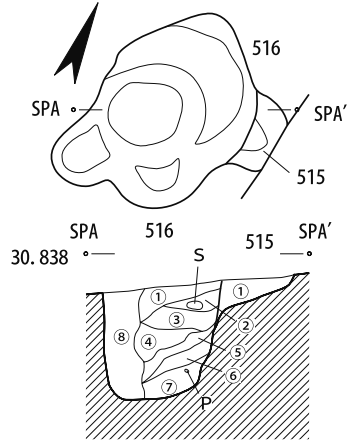
- 471 ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ③層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
- 470 ①層:にぶい黄橙色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ③層:明黄褐色土 粘性<3> 締まり<3> ローム主体
- 468 ①層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<2>
 469 ①層:褐灰色土 粘性<2> 締まり<2>

遺構 507



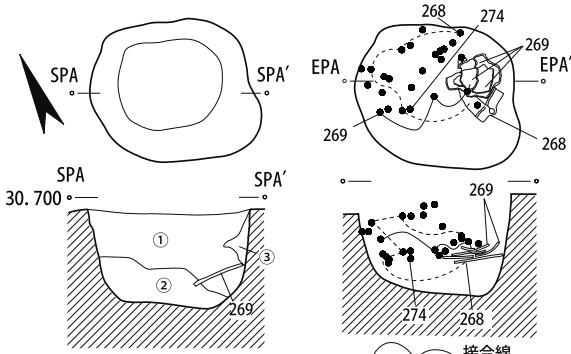
- 507 ①層: にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ローム主体
 ②層: 褐灰色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層: にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<2>
 ④層: にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<2>

遺構 516



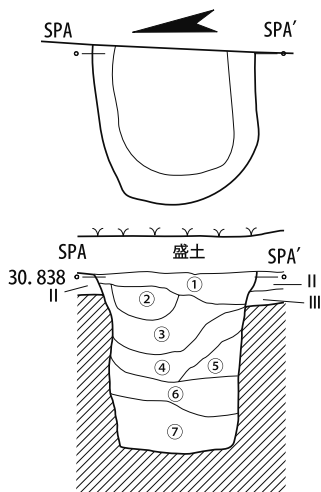
- 516 ①層: 黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層: 明黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層: 黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ④層: 黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ⑤層: 黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ⑥層: 黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ⑦層: 明黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ⑧層: 黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
- 515 ①層: にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>

遺構 519



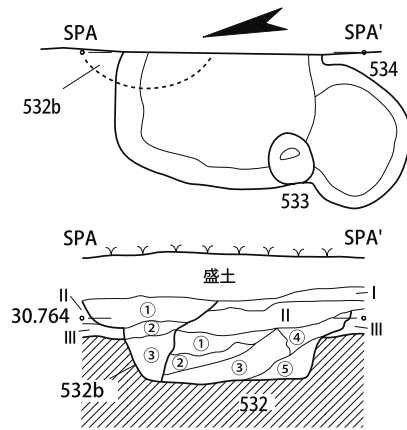
- 519 ①層: 黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ②層: 黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ③層: 明黄褐色土 粘性<2> 締まり<4> ローム主体

遺構 521



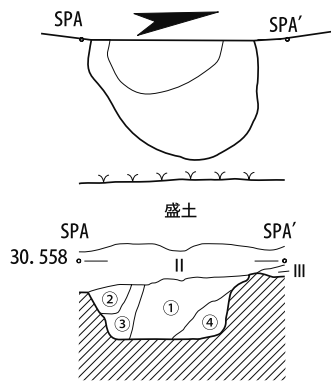
- 521 ①層: 黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ②層: 黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ③層: にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ④層: 黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ⑤層: にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ⑥層: 褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ⑦層: にぶい黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>

遺構 532



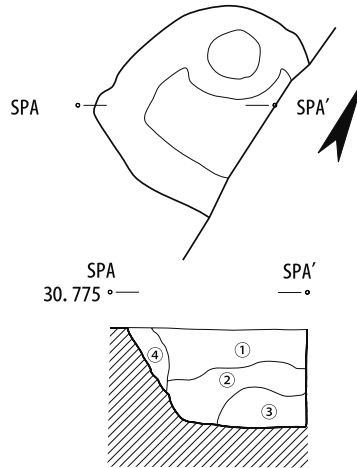
- 532b ①層: 灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<5>
 ②層: 灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ③層: 黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
- 532 ①層: 黒褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ②層: 黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ③層: にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ④層: 黒褐色土 粘性<4> 締まり<3>
 ⑤層: にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 540



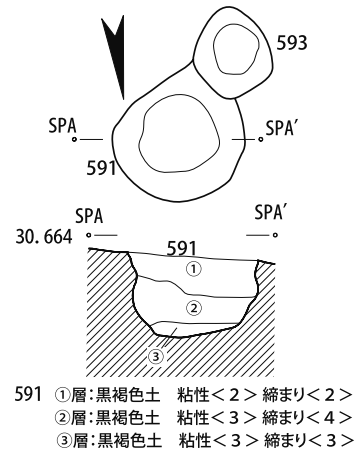
- 540 ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>
 ③層:灰黄褐色土 粘性<2> 締まり<4>
 ④層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>

遺構 590



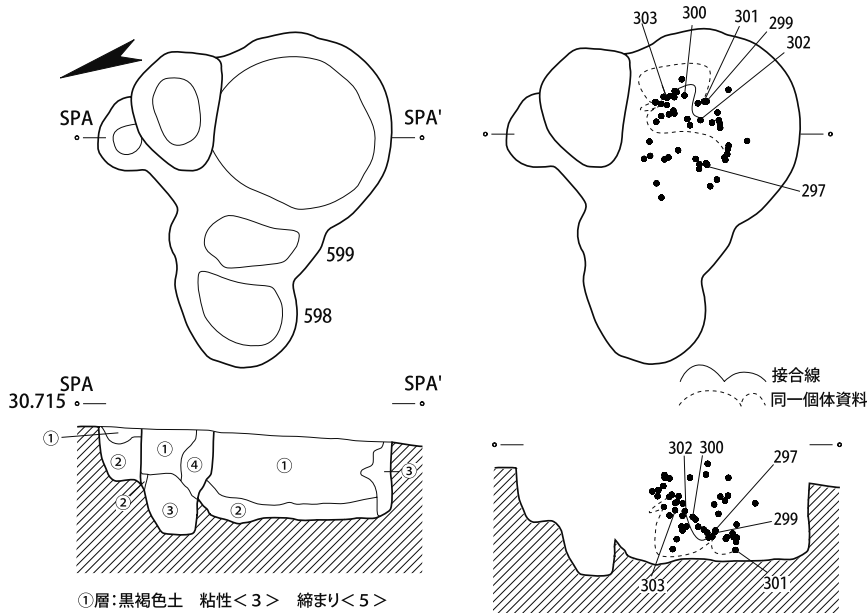
- 589 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ③層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ④層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>

遺構 591



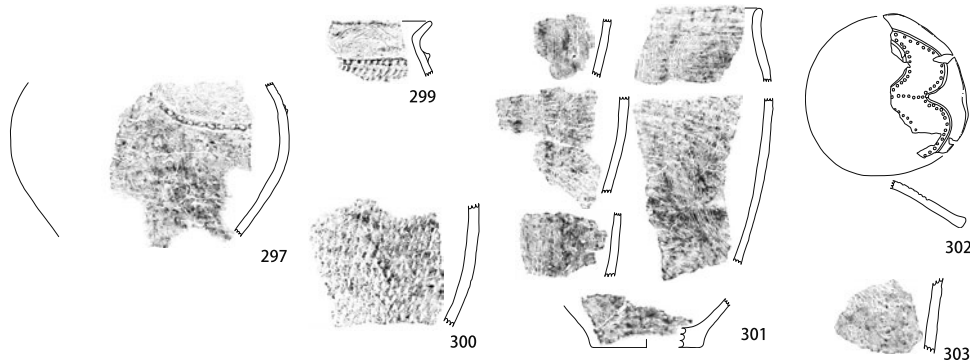
- 591 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ②層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ③層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<3>

遺構 600



- ①層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<5>
 ②層:黒褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ①層:にぶい黄褐色土 粘性<3> 締まり<4>
 ②層:灰黄褐色土 粘性<3> 締まり<3>
 ③層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<3>
 ローム主体
 ④層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>

- 600 ①層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<3>
 ②層:黒褐色土 粘性<2> 締まり<2>
 ③層:にぶい黄褐色土 粘性<4> 締まり<4>



掘立柱建物

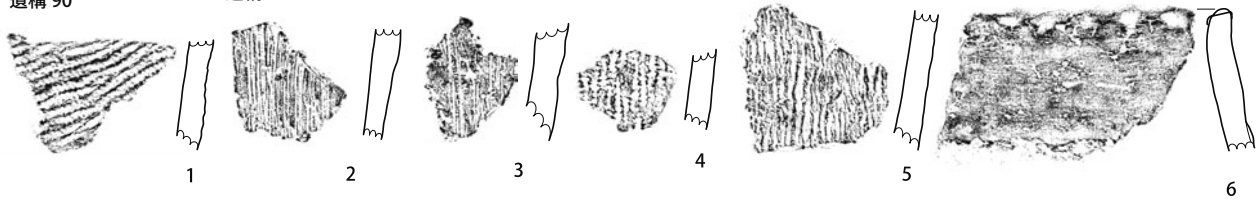
1号建物

遺構 90

遺構 104

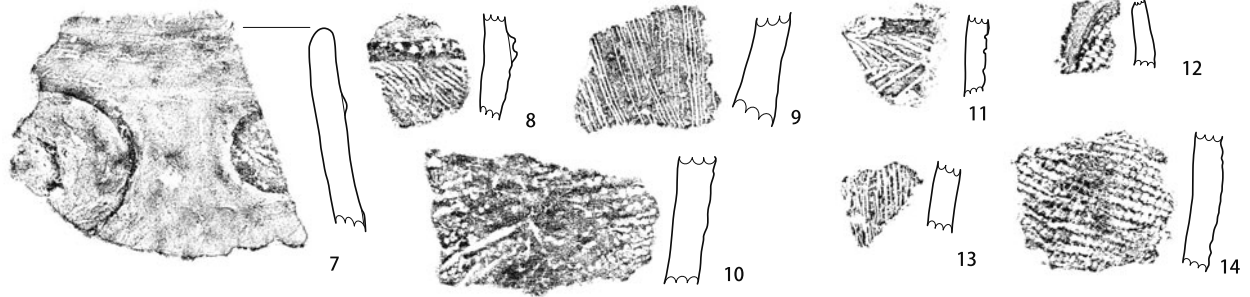
遺構 109

遺構 138



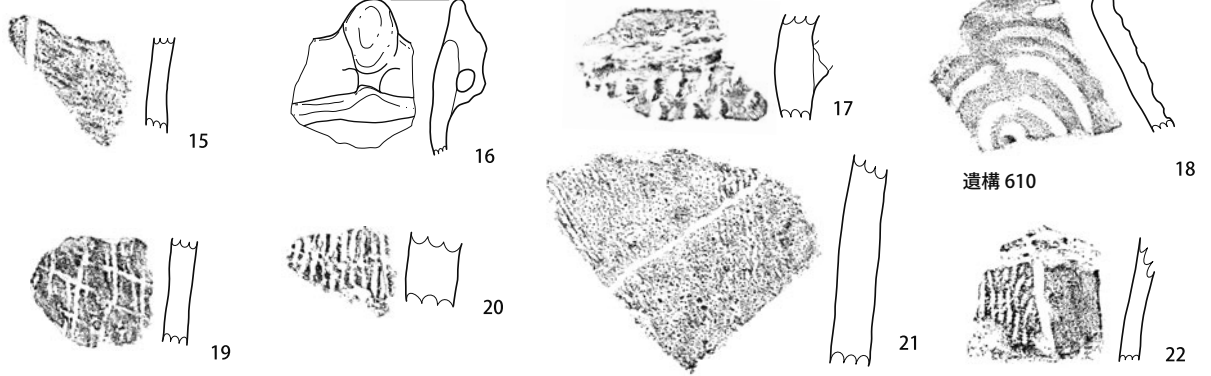
遺構 153

遺構 164



土坑

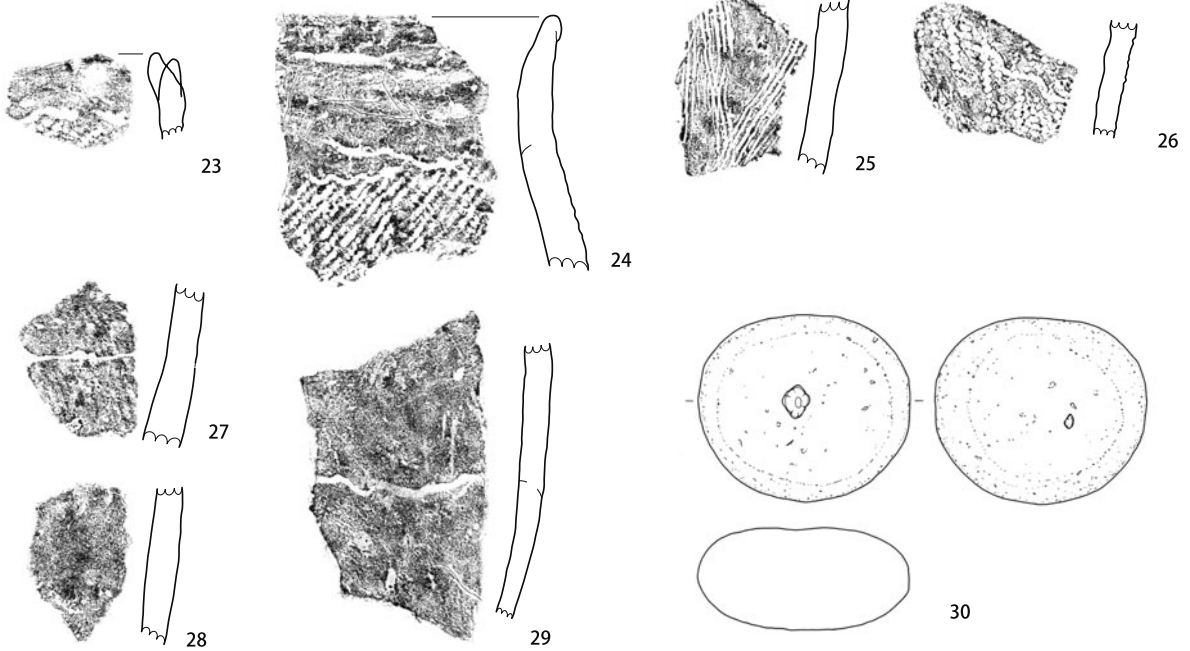
遺構 511



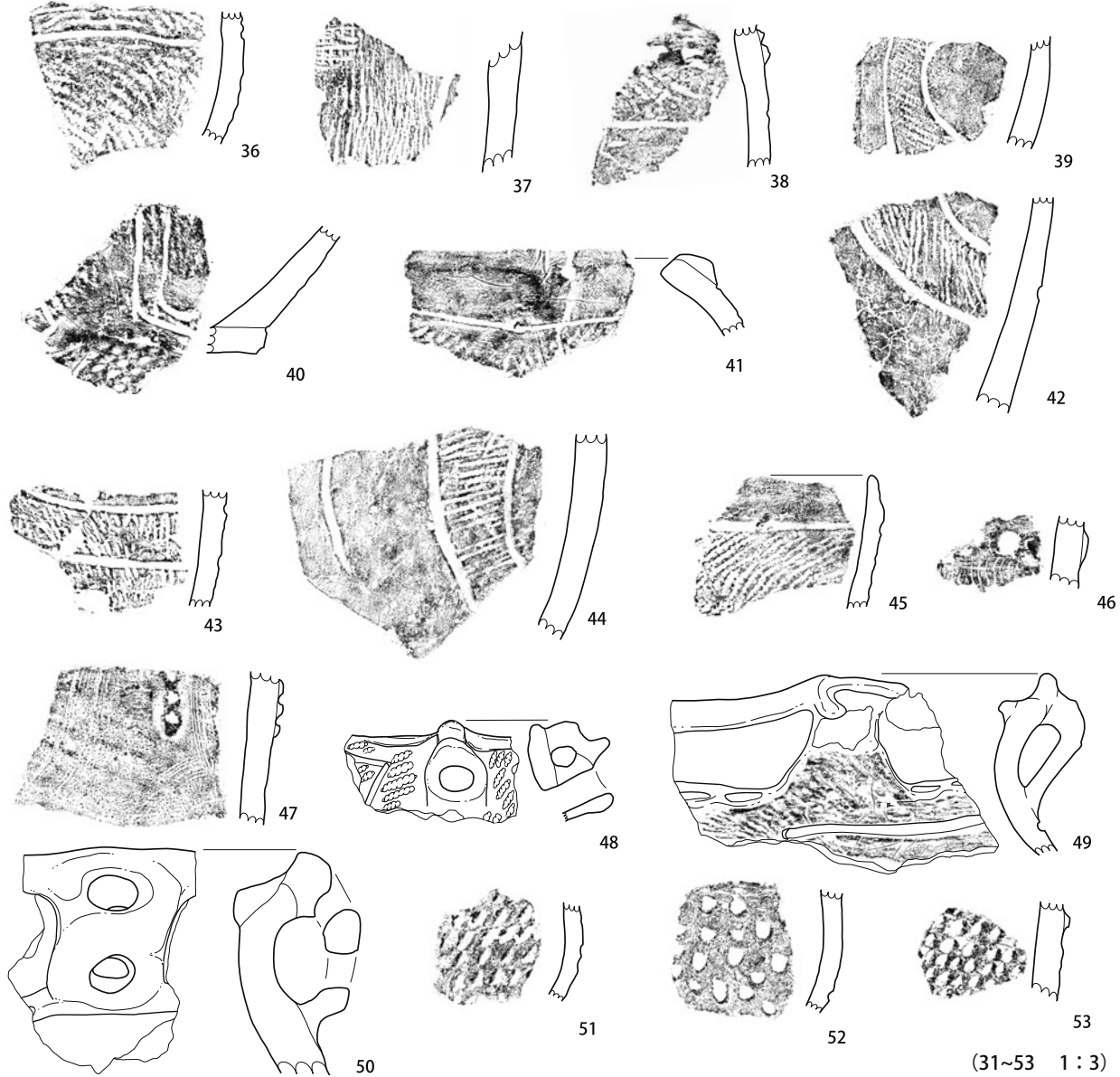
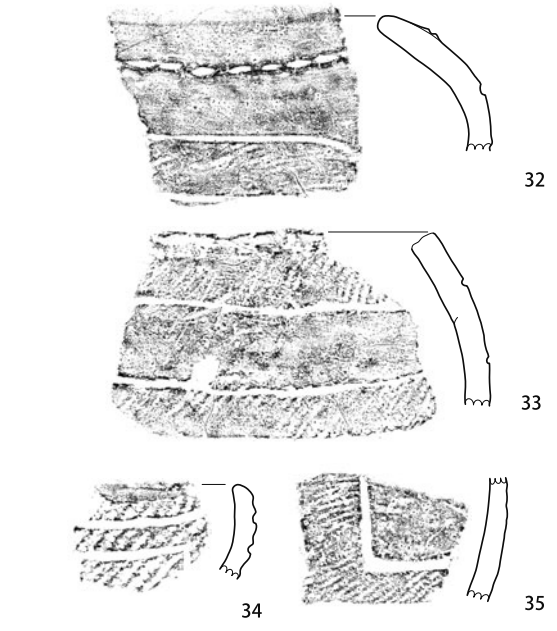
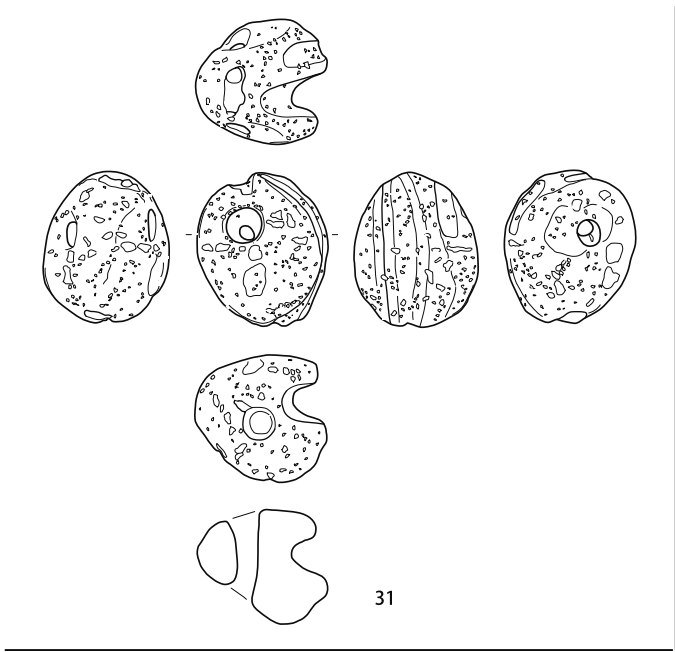
遺構 610

フラスコ状土坑

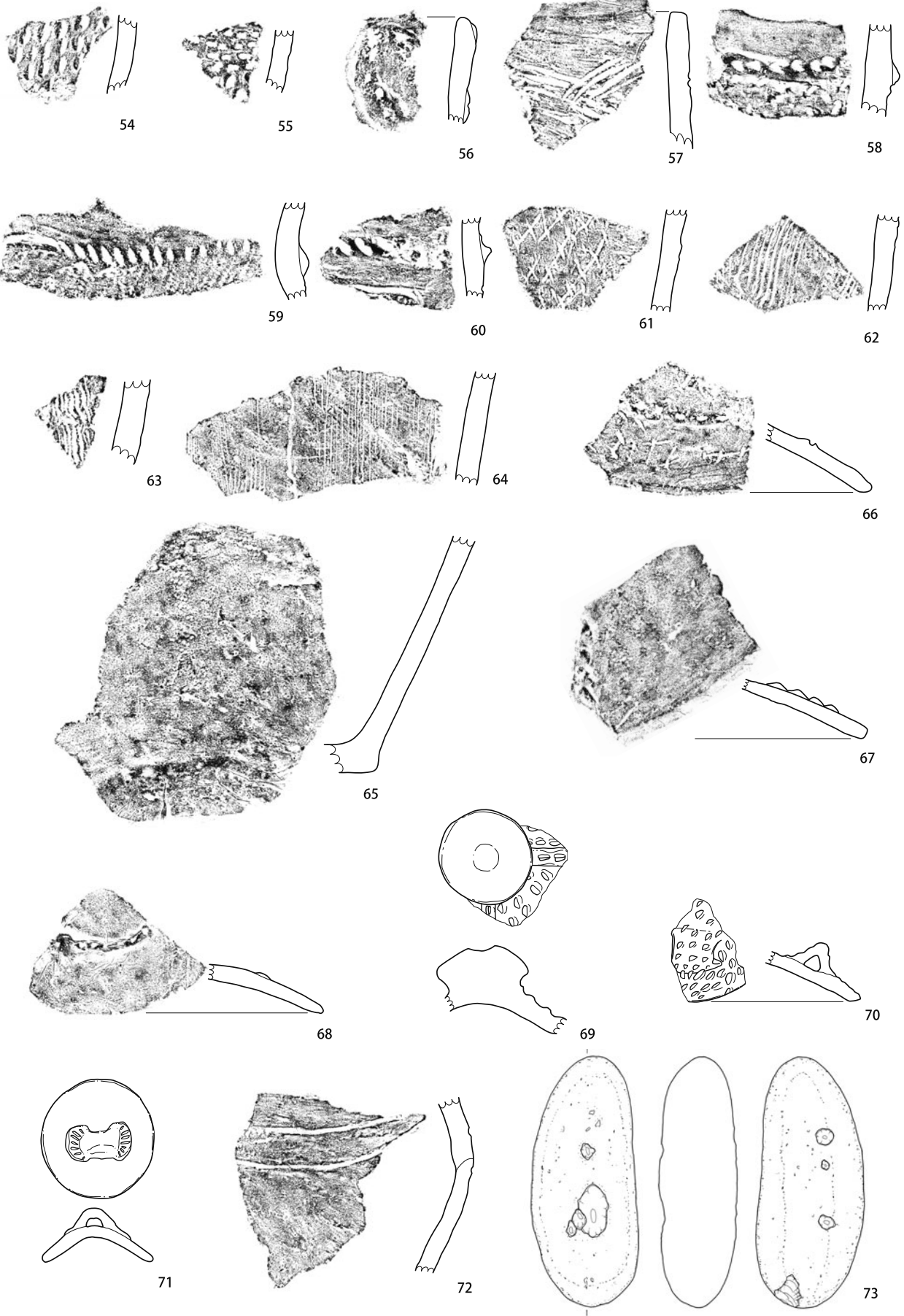
遺構 299



遺構 400

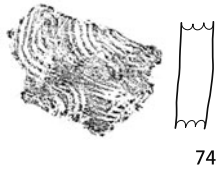


(31~53 1:3)

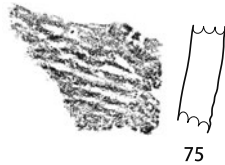


(54~73 1 : 3)

遺構 412

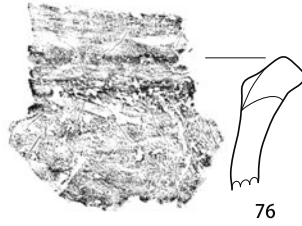


74



75

遺構 436

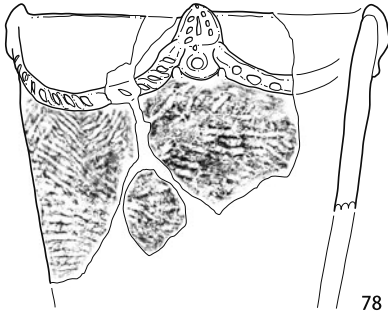


76

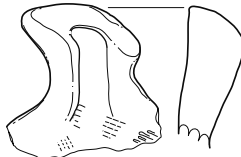


77

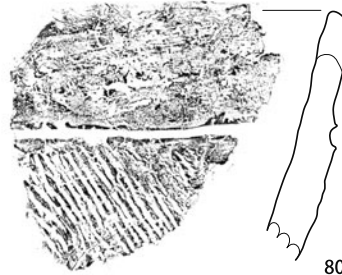
遺構 454



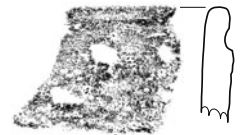
78



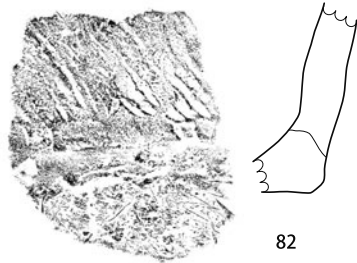
79



80



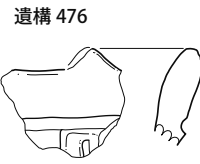
81



82



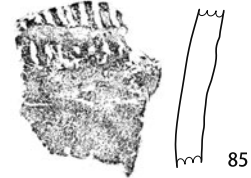
83



84

遺構 476

遺構 489



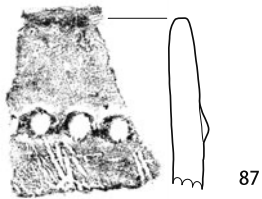
85

遺構 536



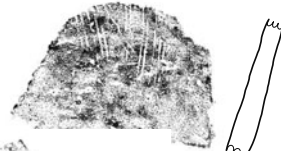
86

遺構 520

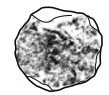


87

遺構 544

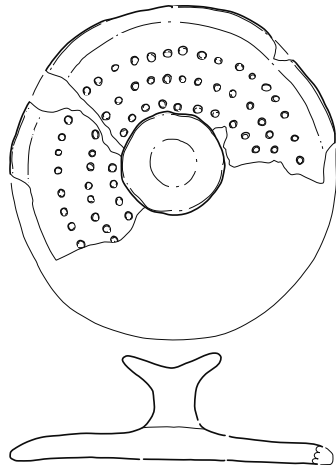


89

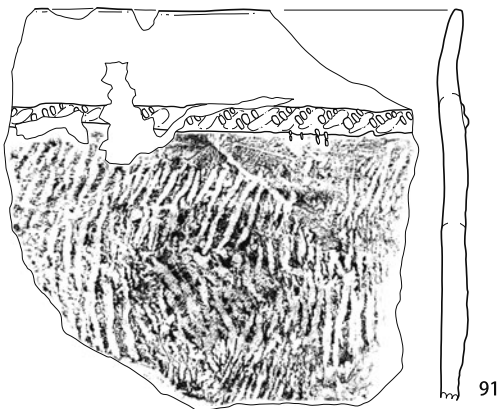


90

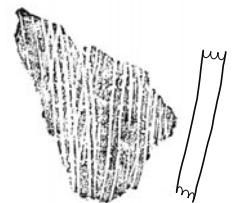
遺構 583



88



91

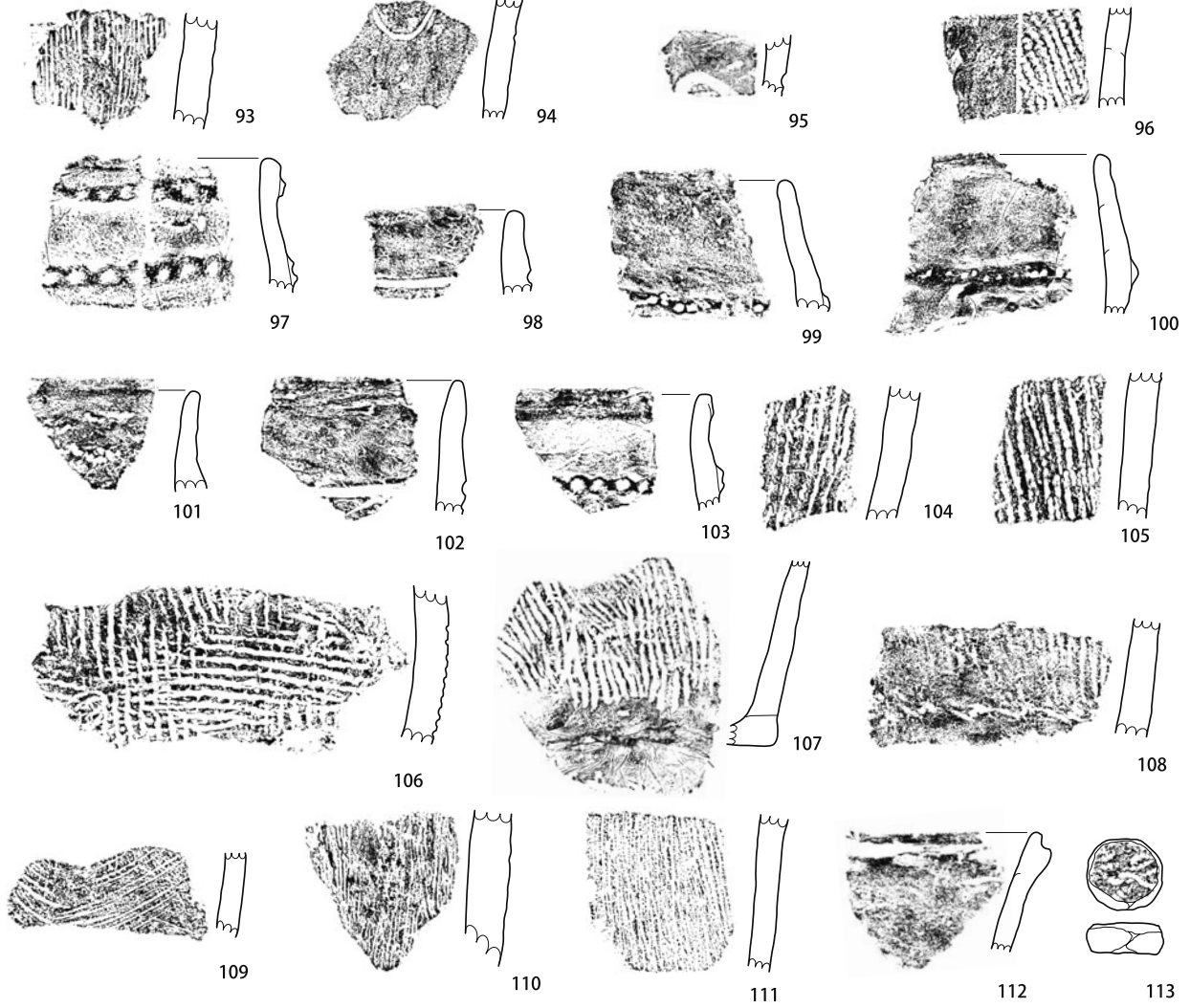


92

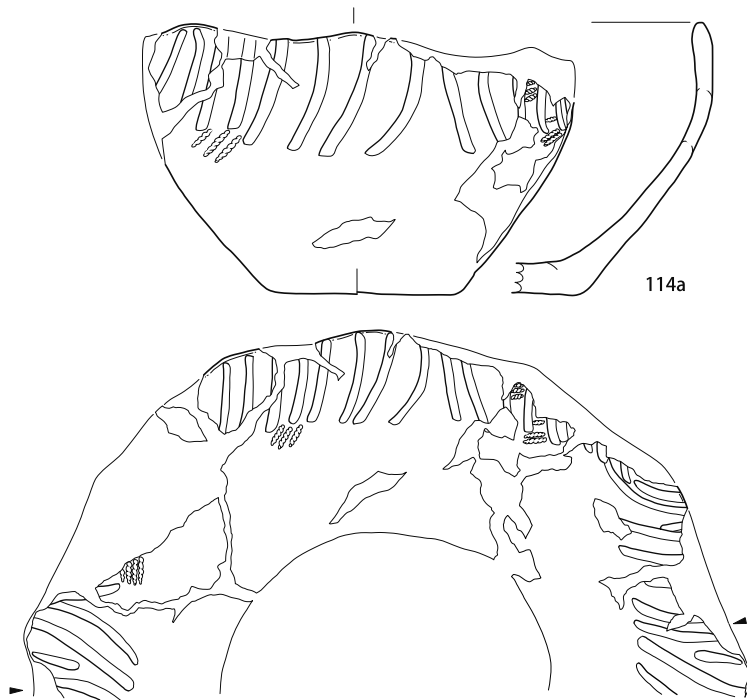
(78・88・89・91 1:4 ほか 1:3)

遺構 621

遺構 638



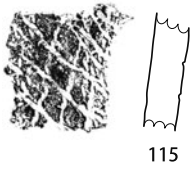
埋設土器
遺構 365



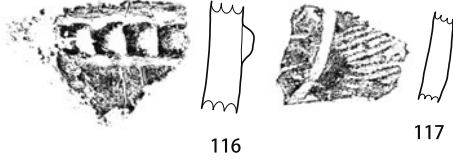
(114b 1:4 ほか 1:3)

その他のピット

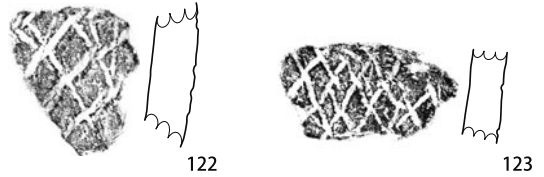
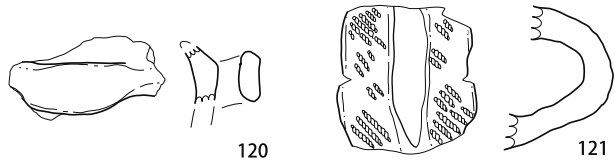
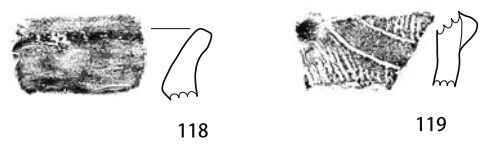
遺構 5



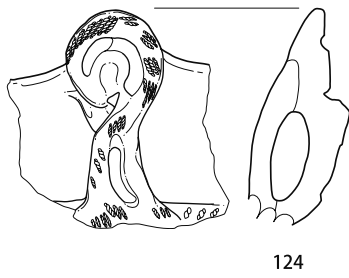
遺構 11



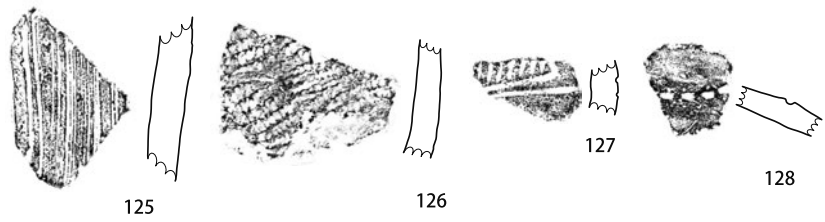
遺構 12



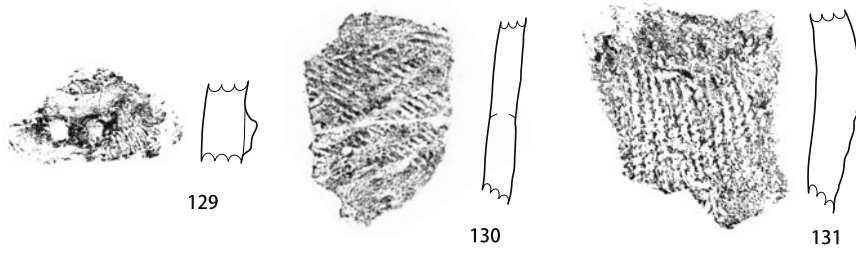
遺構 13



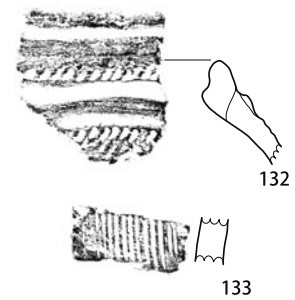
遺構 24



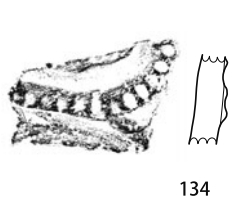
遺構 37



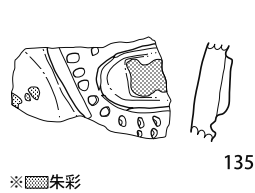
遺構 40



遺構 51

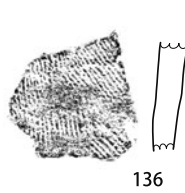


遺構 80

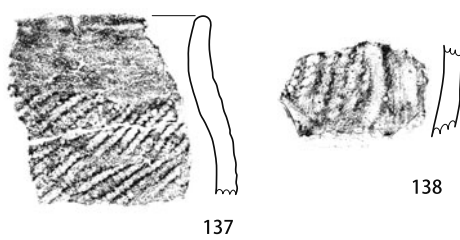


※朱彩

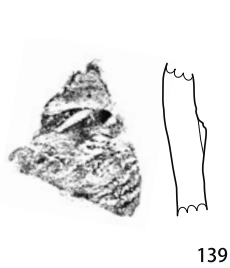
遺構 101



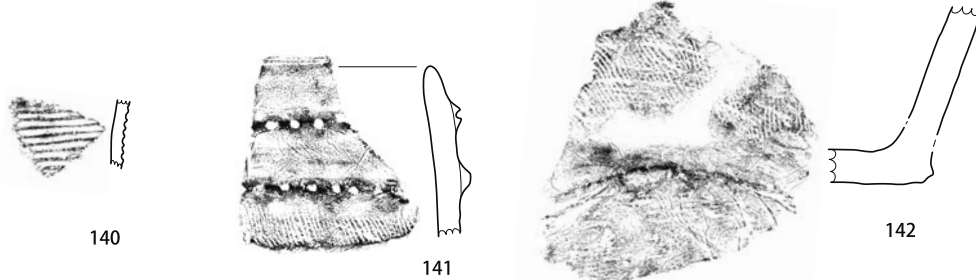
遺構 114



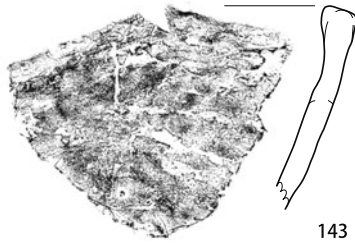
遺構 121



遺構 143



遺構 148



143

遺構 157



144

遺構 168



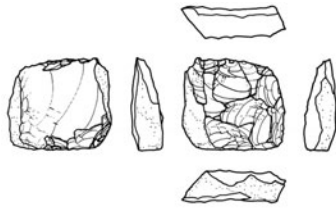
145

遺構 202



146

遺構 218



147

遺構 225



148

遺構 267

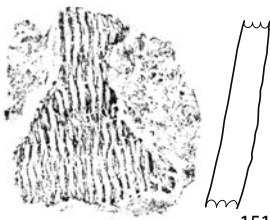


149



150

遺構 272



151

遺構 282

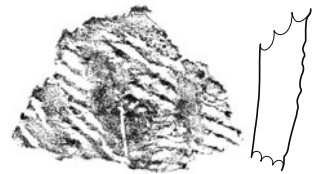


152



153

遺構 284



154



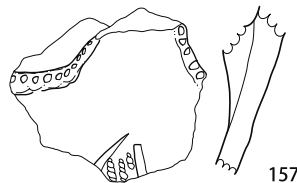
155

遺構 292

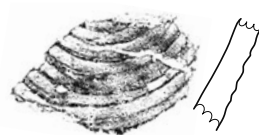


156

遺構 296



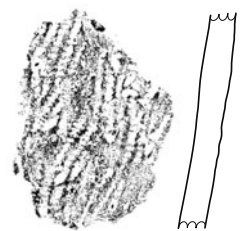
157



158

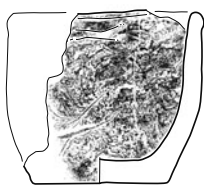


159



160

遺構 303



161

遺構 310



162

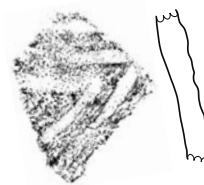


163

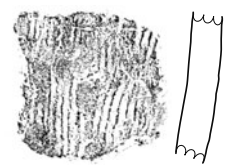


164

遺構 312



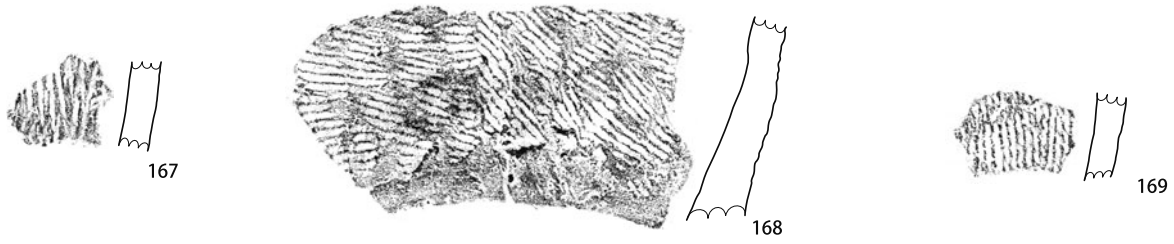
165



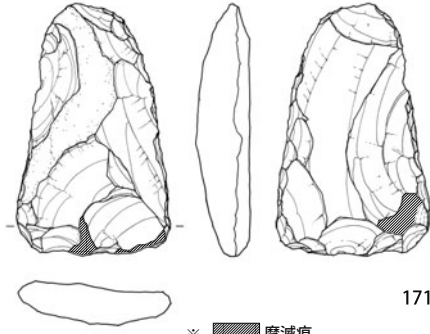
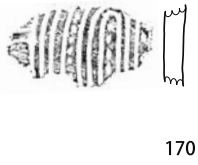
166

(147 1 : 2 ほか 1 : 3)

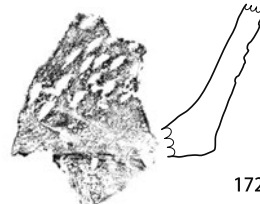
遺構 314



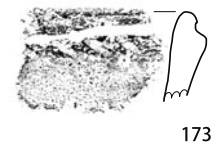
遺構 321



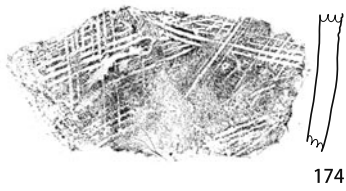
遺構 324



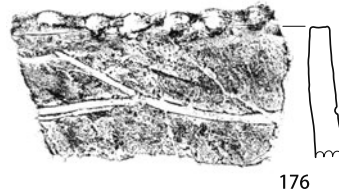
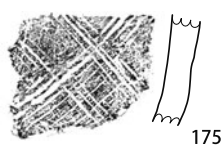
遺構 329



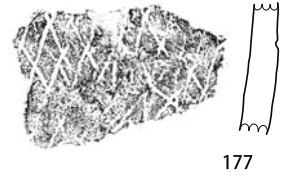
遺構 331



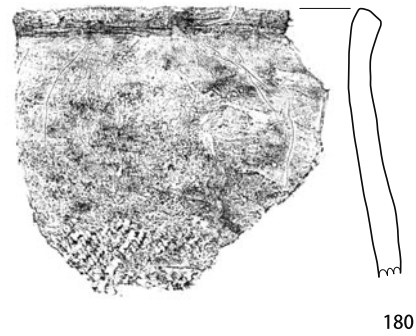
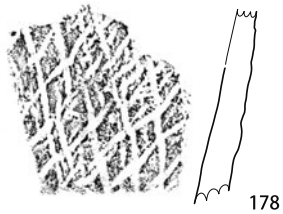
遺構 338



遺構 346



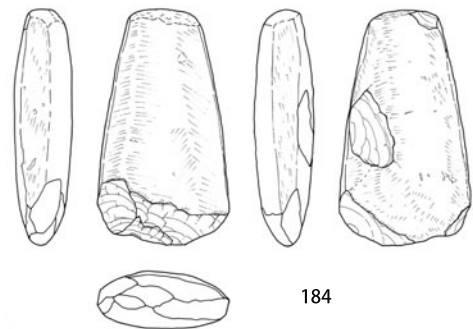
遺構 363



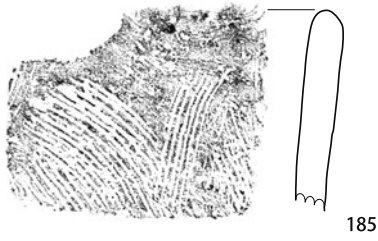
遺構 364



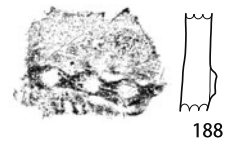
遺構 368



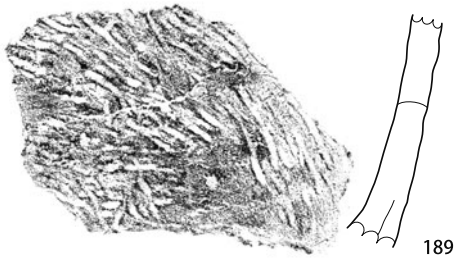
遺構 383



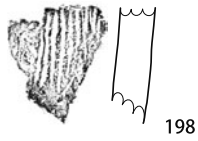
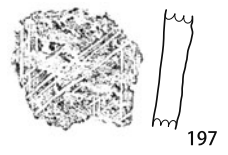
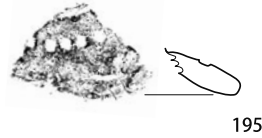
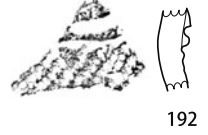
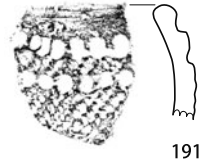
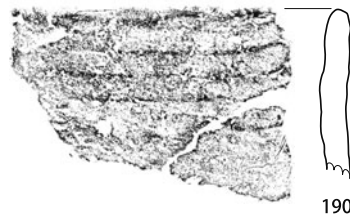
遺構 387



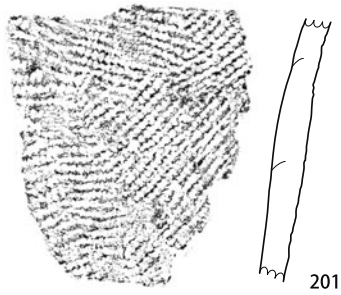
遺構 390



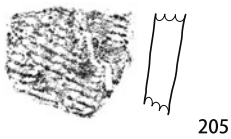
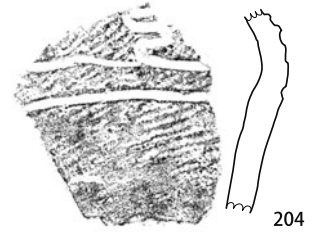
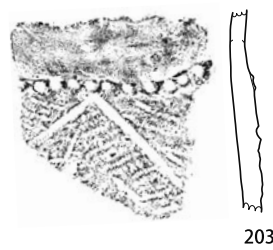
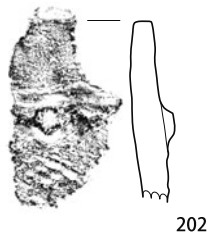
遺構 396



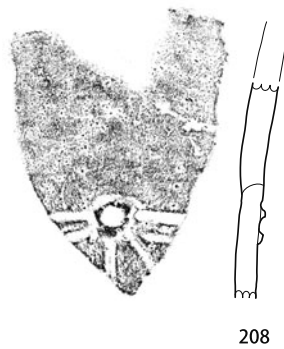
遺構 402



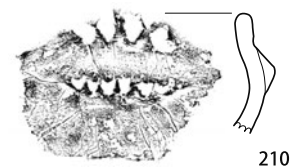
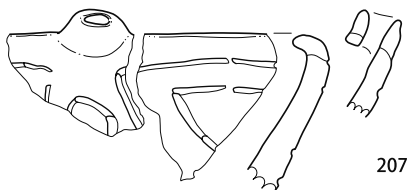
遺構 404



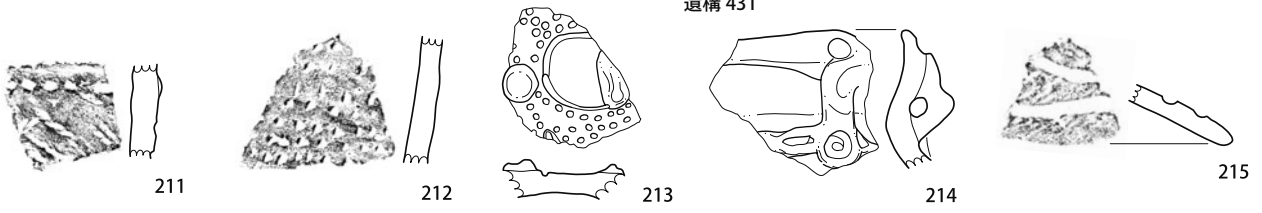
遺構 415



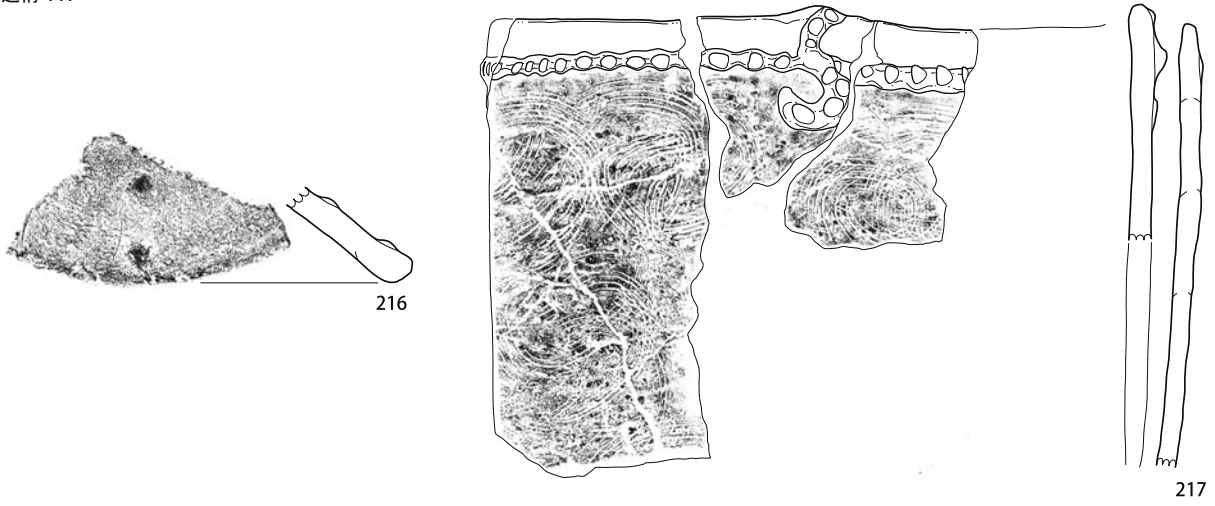
遺構 428



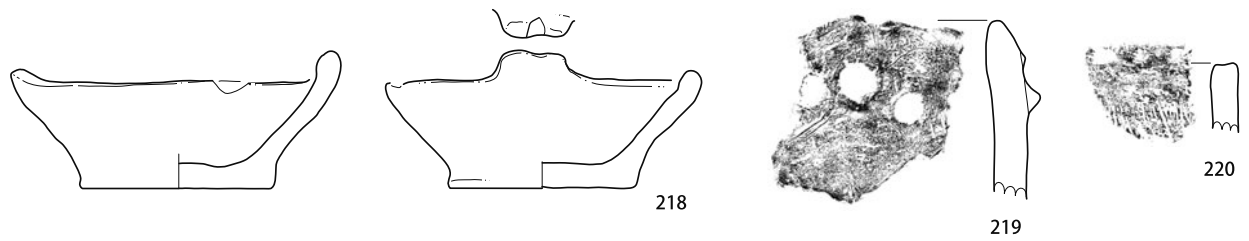
遺構 431



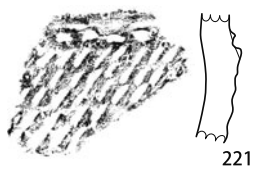
遺構 441



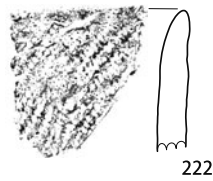
遺構 442



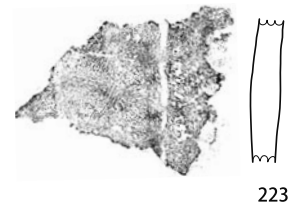
遺構 443



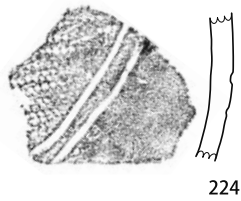
遺構 445



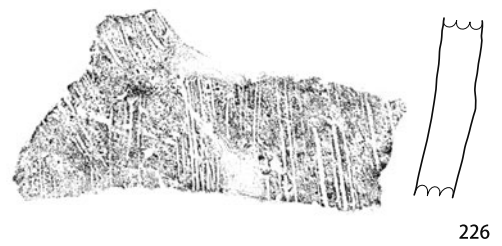
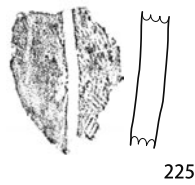
遺構 448



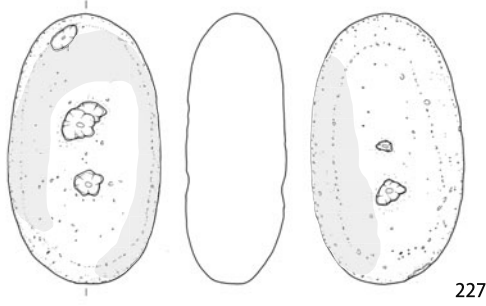
遺構 450



遺構 452

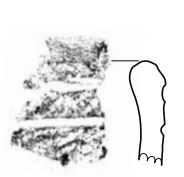


遺構 456

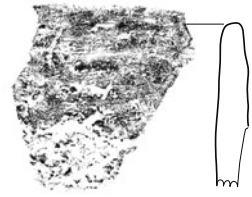


※ □ コゲ?

227

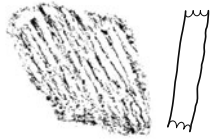


228

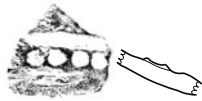


229

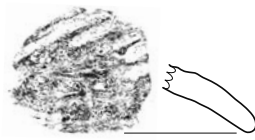
遺構 458



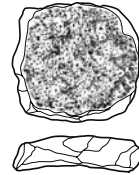
230



231

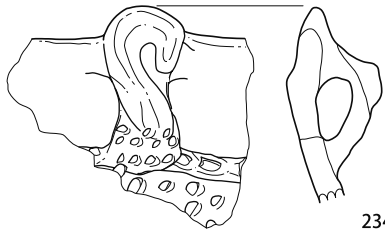


232



233

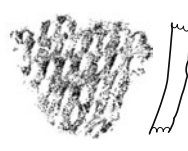
遺構 459



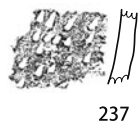
234



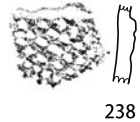
235



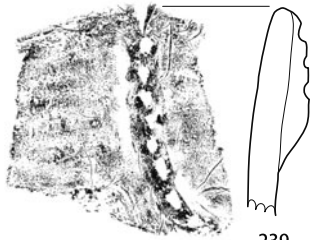
236



237



238



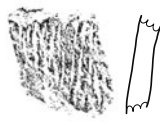
239



240



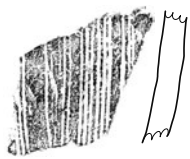
241



242



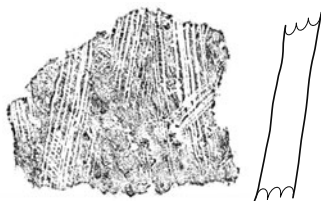
243



244



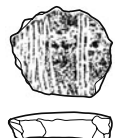
245



246



247

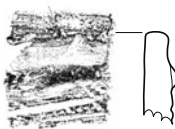


248

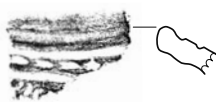
遺構 461

遺構 463

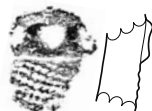
遺構 470



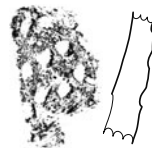
249



250



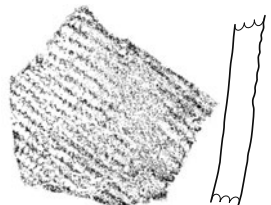
251



252



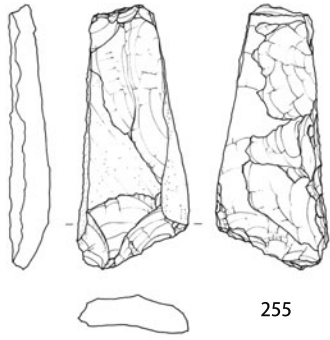
253



254

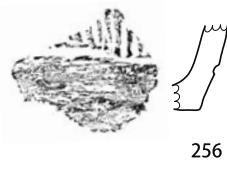
(227~254 1:3)

遺構 473



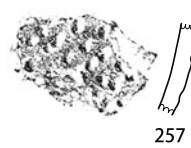
255

遺構 477

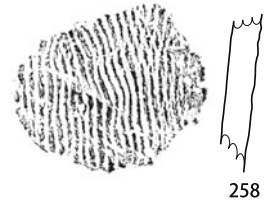


256

遺構 480

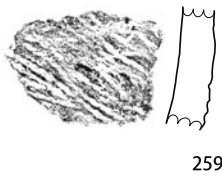


257

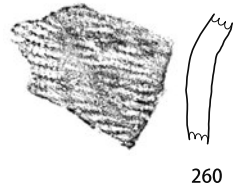


258

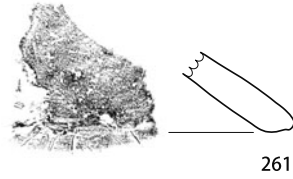
遺構 481



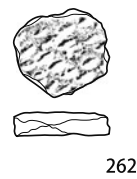
259



260

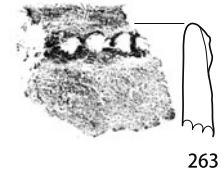


261



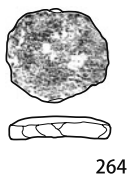
262

遺構 494



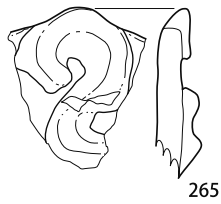
263

遺構 497



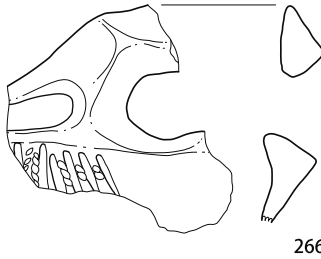
264

遺構 501



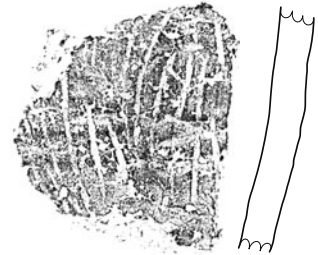
265

遺構 507



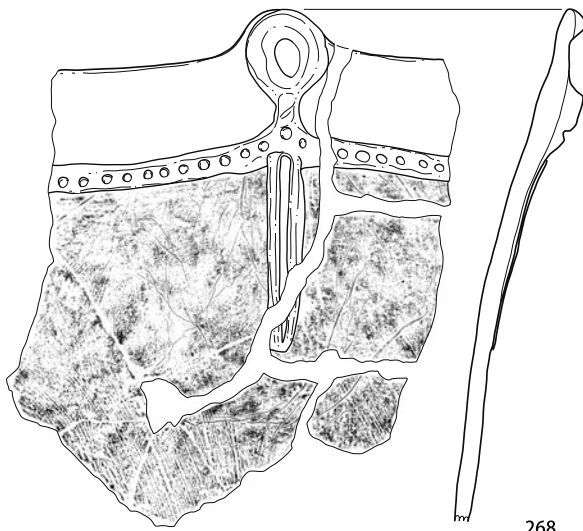
266

遺構 513

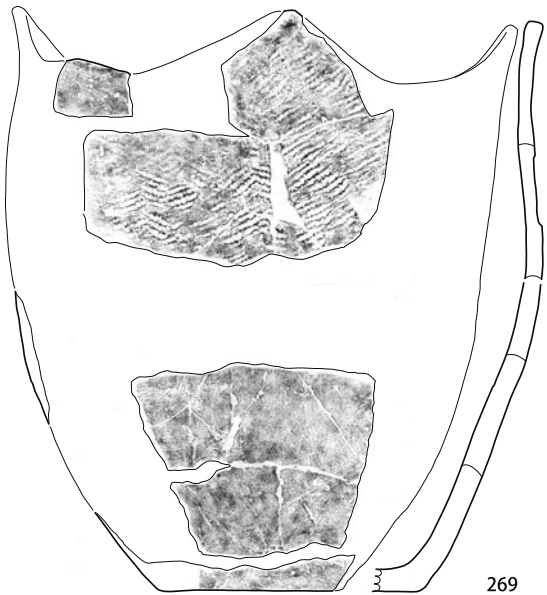


267

遺構 519

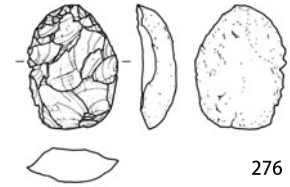
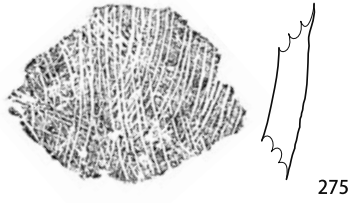
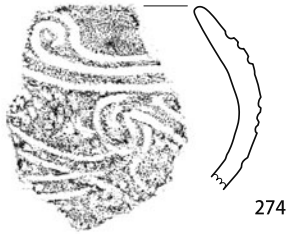
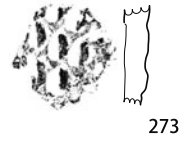
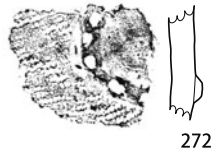
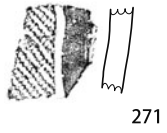
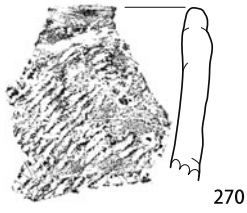


268



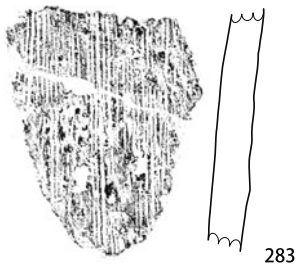
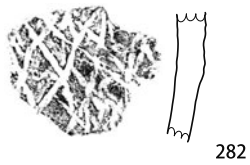
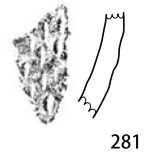
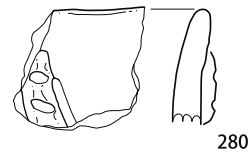
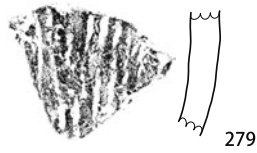
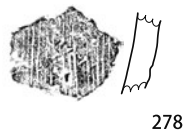
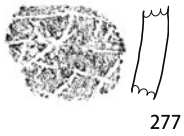
269

(268 1:4 269 1:5 ほか 1:3)

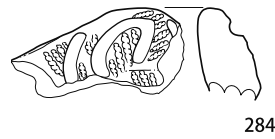


遺構 521

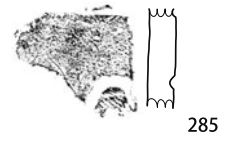
遺構 523



遺構 531



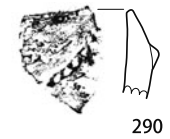
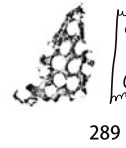
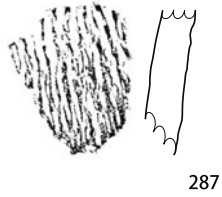
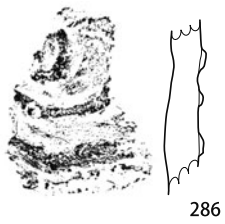
遺構 532



遺構 546

遺構 552

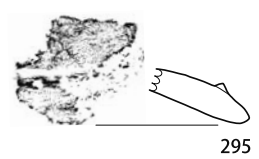
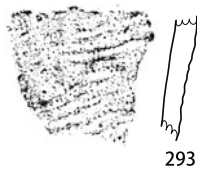
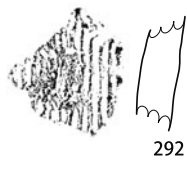
遺構 568



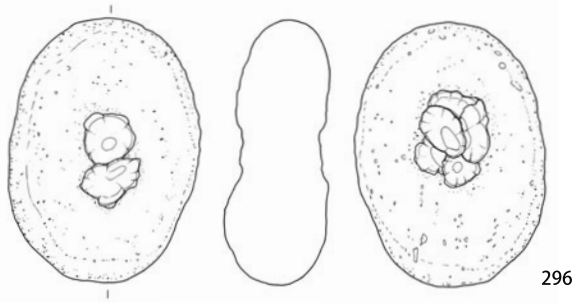
遺構 571

遺構 590

遺構 591



遺構 593



296

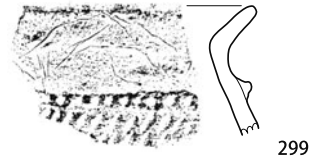
遺構 600



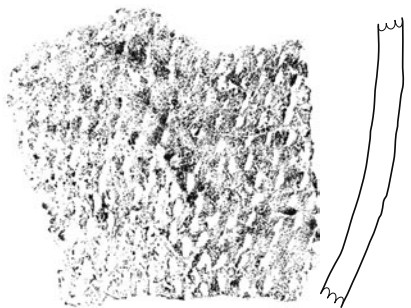
297



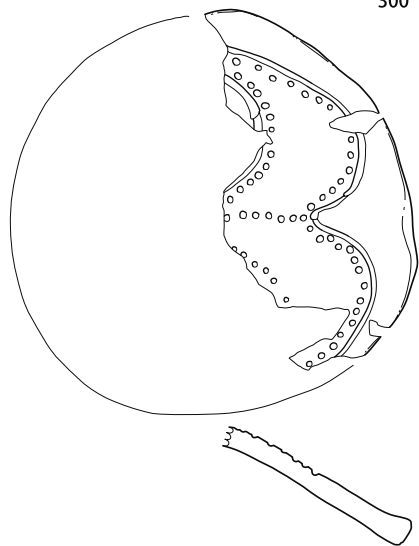
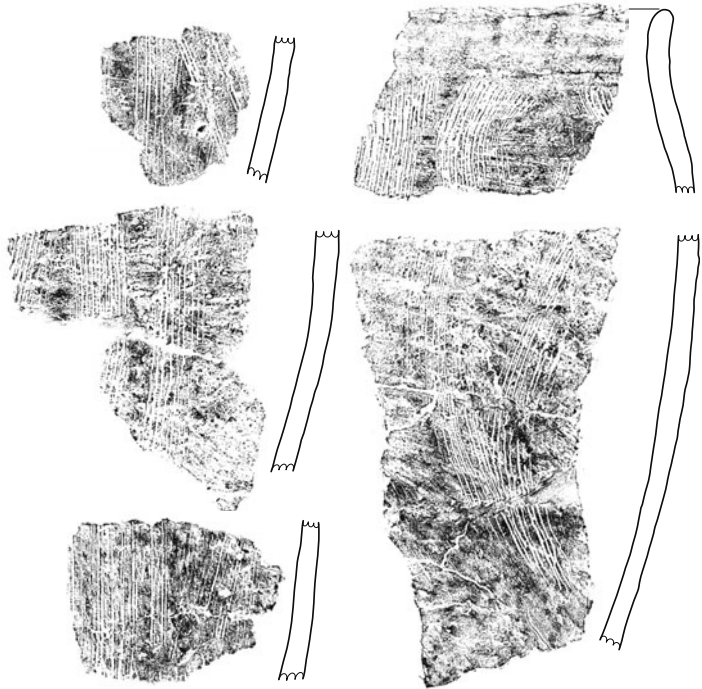
298



299



300



302



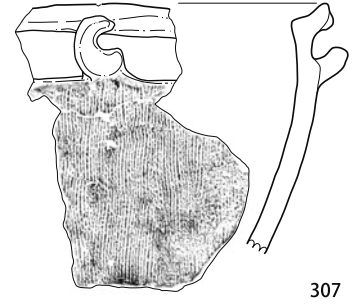
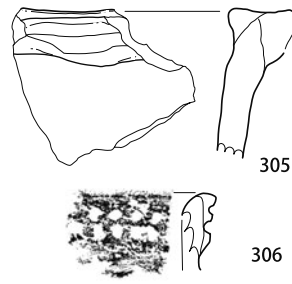
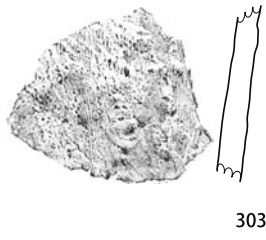
301

(297・301・302 1:4 ほか 1:3)

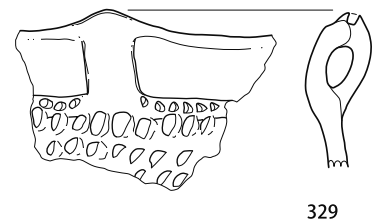
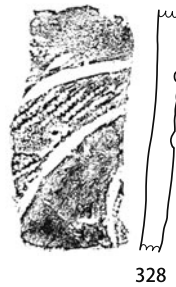
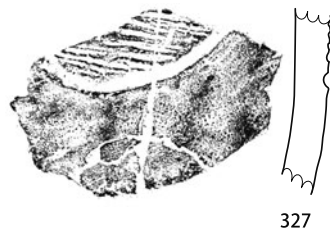
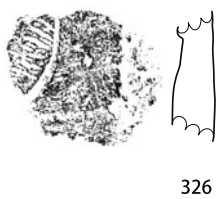
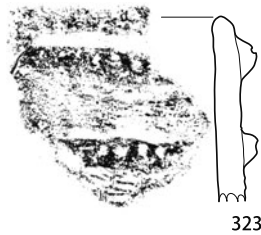
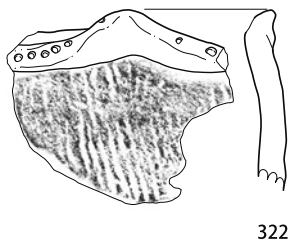
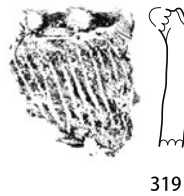
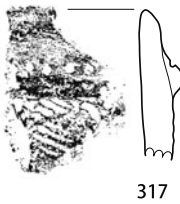
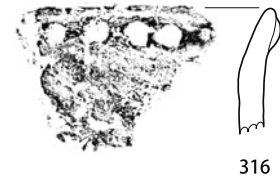
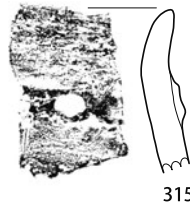
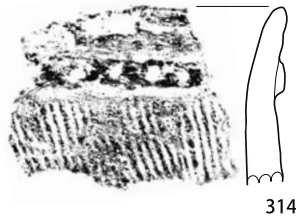
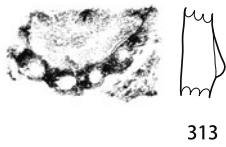
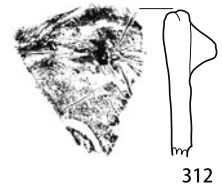
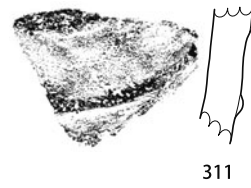
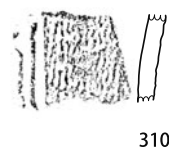
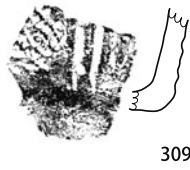
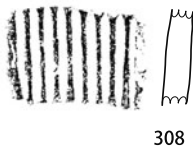
遺構 600 つづき

遺構 622

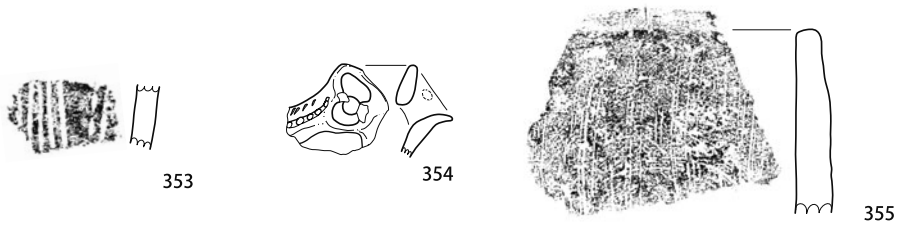
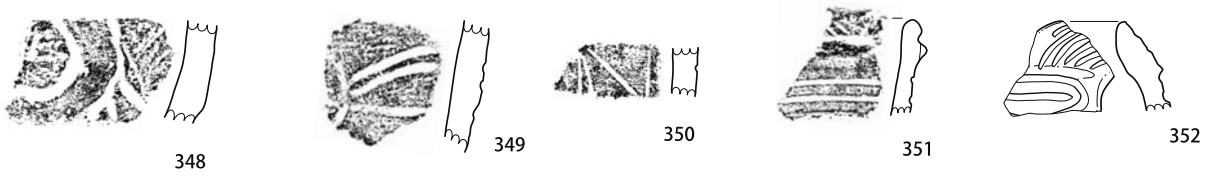
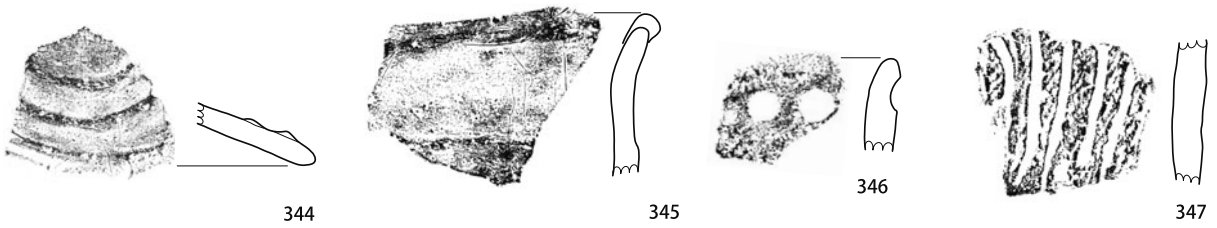
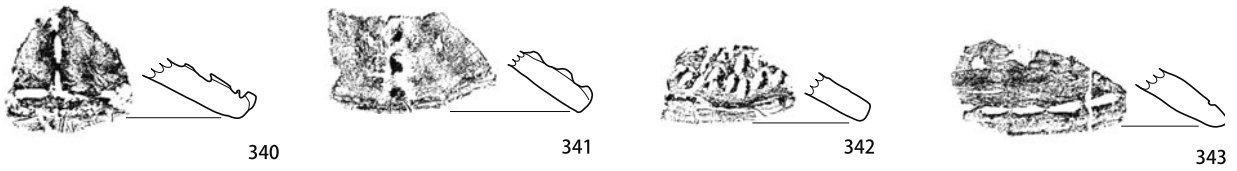
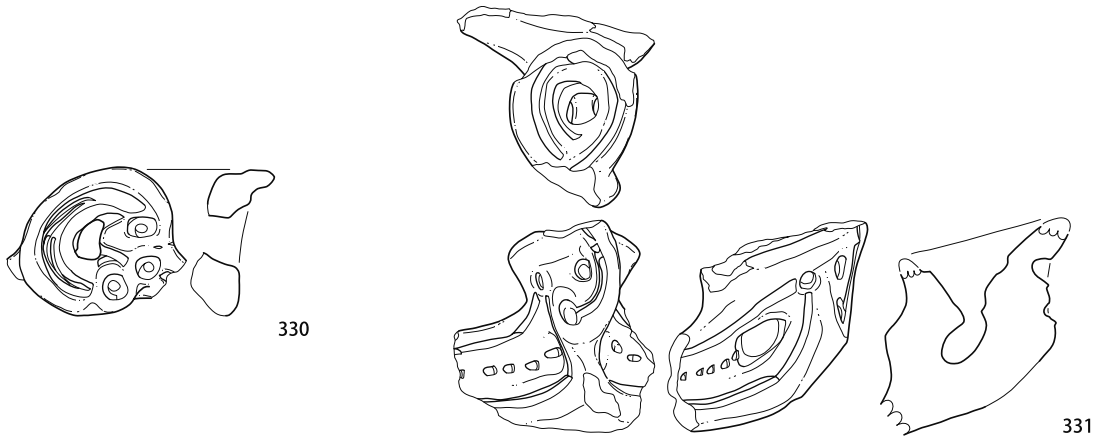
遺構 644

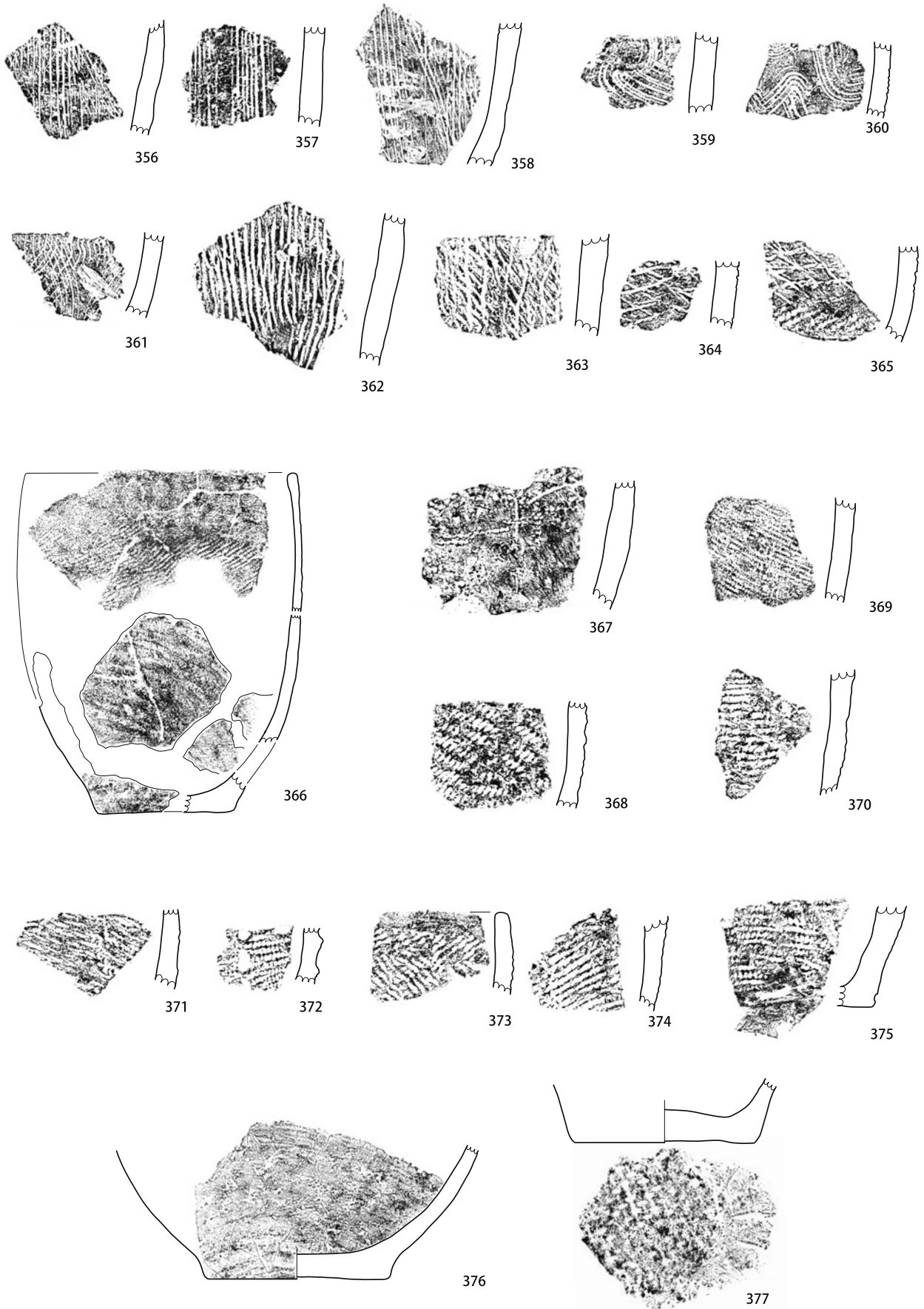


包含層



(307 1:4 ほか 1:3)





(366 1:4 ほか 1:3)



378



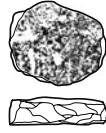
379



380



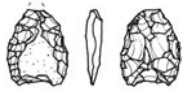
381



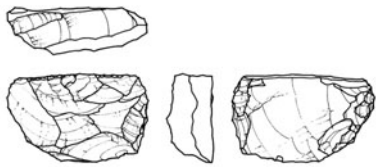
382



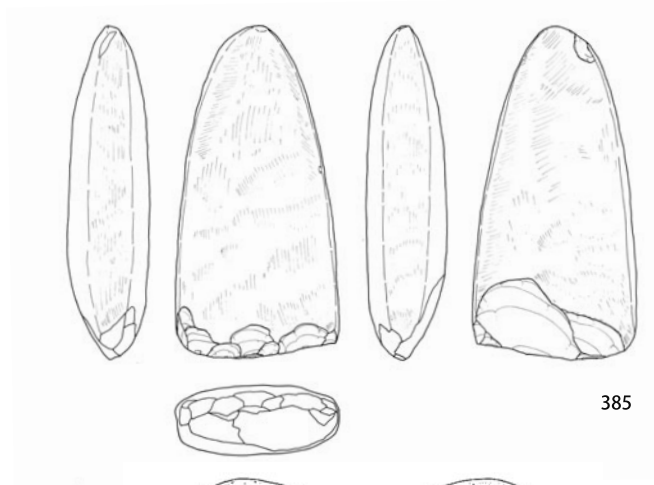
383



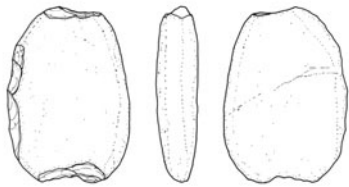
384



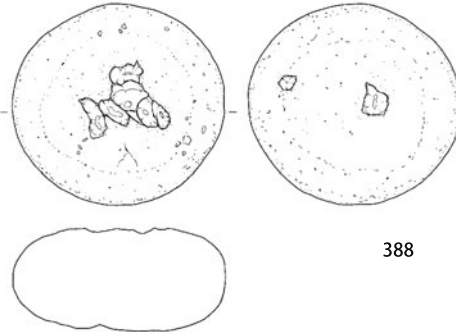
386



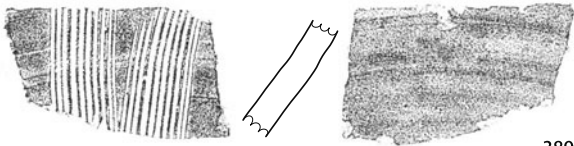
385



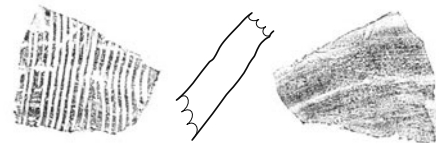
387



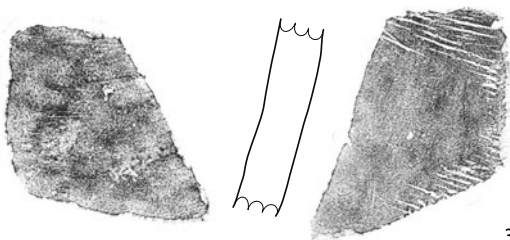
388



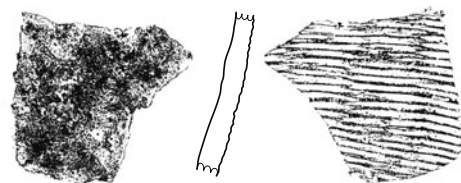
389



390



391



392

(384・386 1:2 ほか 1:3)



遺跡全景 南から



遺跡全景 西から



遺跡全景 東から



遺跡全景 真上から



表土剥ぎ作業 北から



ベルコン設置 北から



包含層の掘削 南から



包含層の掘削 南西から



包含層の掘削 南から



遺物上げ 南から



遺構の掘削 北から



遺構の掘削 南から



遺構の掘削 南から



遺構の掘削 西から



除雪作業 北から



水汲み作業 西から



遺構の掘削 南西から



遺物上げ作業 南から



実測作業 北から



全体精査 南西から



航空写真測量 南から



埋め戻し作業 南から



1号掘立柱建物跡完掘状態 北から



遺構 90 半截状態 南から



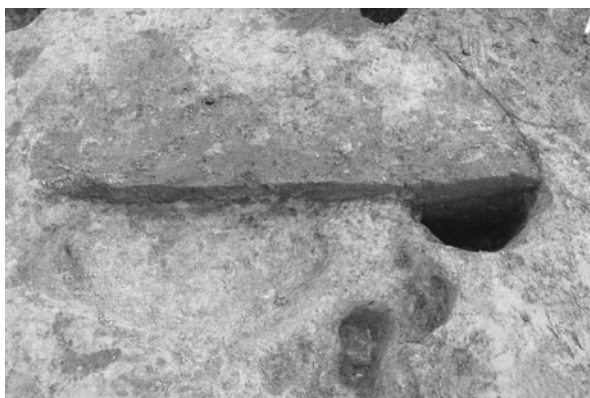
遺構 104 半截状態 北西から



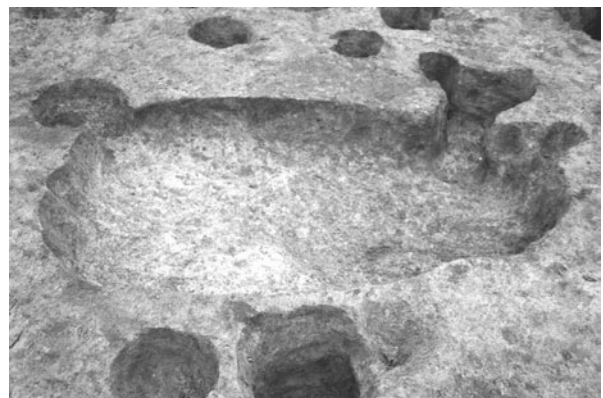
遺構 100 半截状態 西から



遺構 153・164 半截状態 西から



遺構 511 半截状態 北西から



遺構 610 半截状態 南から



遺構 175 半截状態 東から



遺構 195 半截状態 東から



遺構 233 半截状態 西から



遺構 299 完掘状態 西から



遺構 400 遺物出土状態 東から



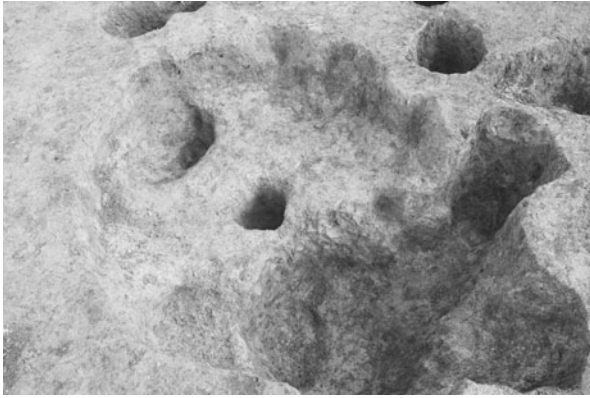
遺構 400 遺物出土状態 東から



遺構 400 遺物出土状態 東から



遺構 400 完掘状態 東から



遺構 412 完掘状態 西から



遺構 436 半截状態 南から



遺構 454 遺物出土状態 北から



遺構 476 完掘状態 東から



遺構 483 完掘状態 東から



遺構 489 半截状態 北西から



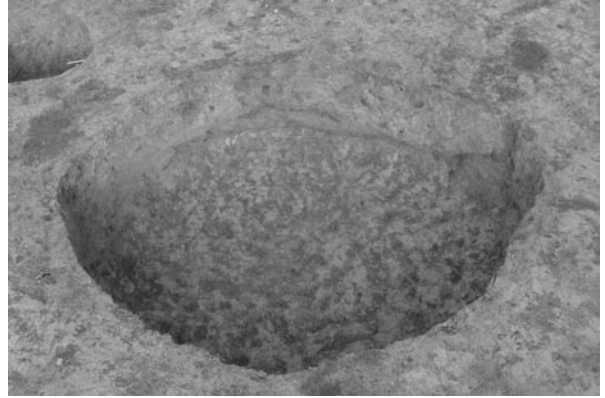
遺構 520 半截状態 南から



遺構 536 完掘状態 西から



遺構 621 完掘状態 東から



遺構 638 完掘状態 南から



遺構 364・365 半截状態 南から



遺構 13 遺物出土状態 北から



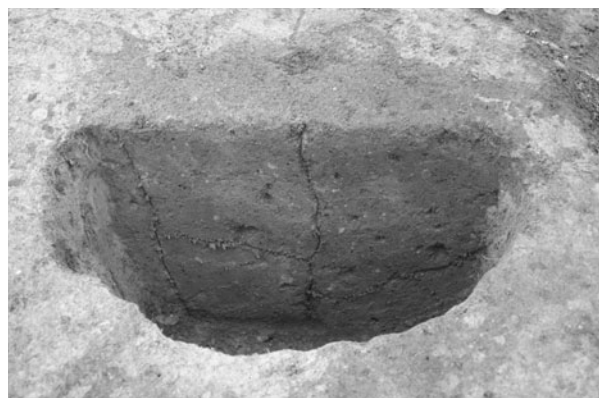
遺構 35 半截状態 北西から



遺構 42 半截状態 北西から



遺構 122 完掘状態 西から



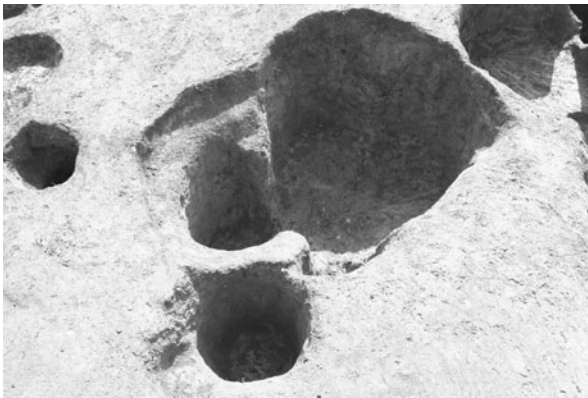
遺構 272 半截状態 西から



遺構 282 半截状態 北から



遺構 315 半截状態 東から



遺構 393・396 完掘状態 北西から



遺構 428 半截状態 西から



遺構 434 半截状態 南から



遺構 441 遺物出土状態 西から



遺構 433 半截状態 南から



遺構 448 半截状態 南から



遺構 459 半截状態 南西から



遺構 470 半截状態 北東から



遺構 507 完掘状態 西から



遺構 516 半截状態 南から



遺構 532 完掘状態 西から



遺構 519 半截状態 南から



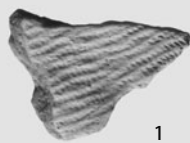
遺構 519 完掘状態 西から



遺構 600 完掘状態 西から

掘立柱建物(1号建物)

遺構 90



1

遺構 104



2

遺構 109

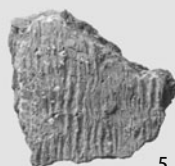


3

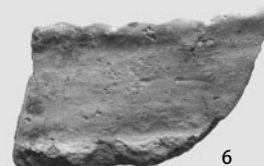


4

遺構 138



5



6

遺構 153



7



8



9

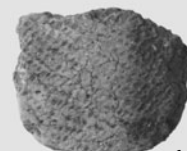
遺構 164



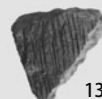
11



12



14

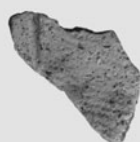


13

10

土坑

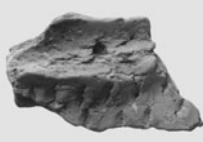
遺構 511



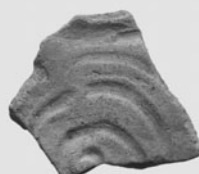
15



16



17



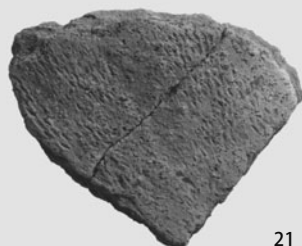
18



19

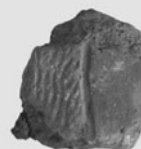


20



21

遺構 610



22

フラスコ状土坑

遺構 299



23



25



26



27



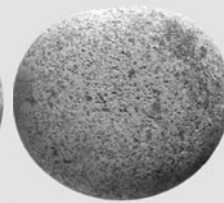
28



24

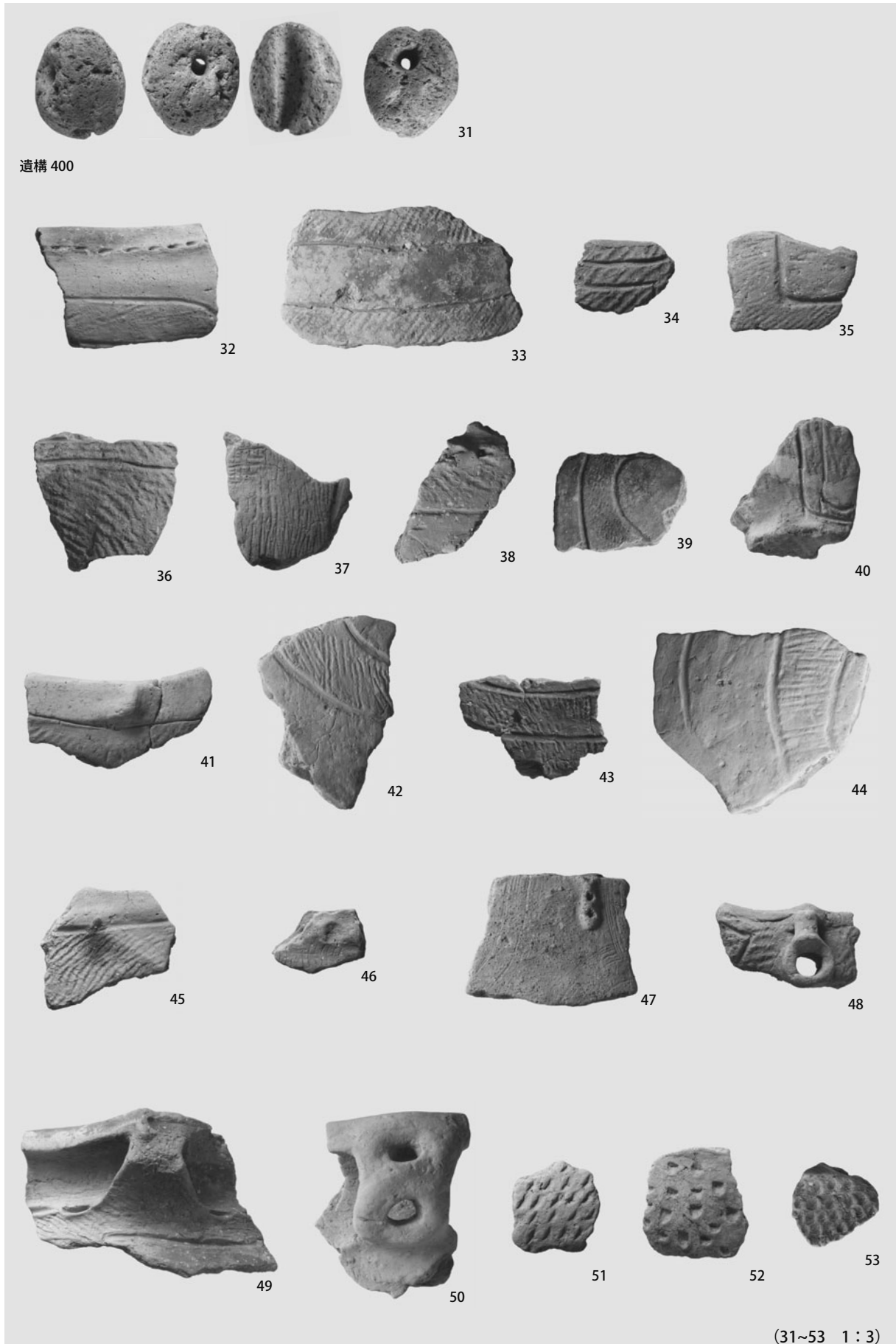


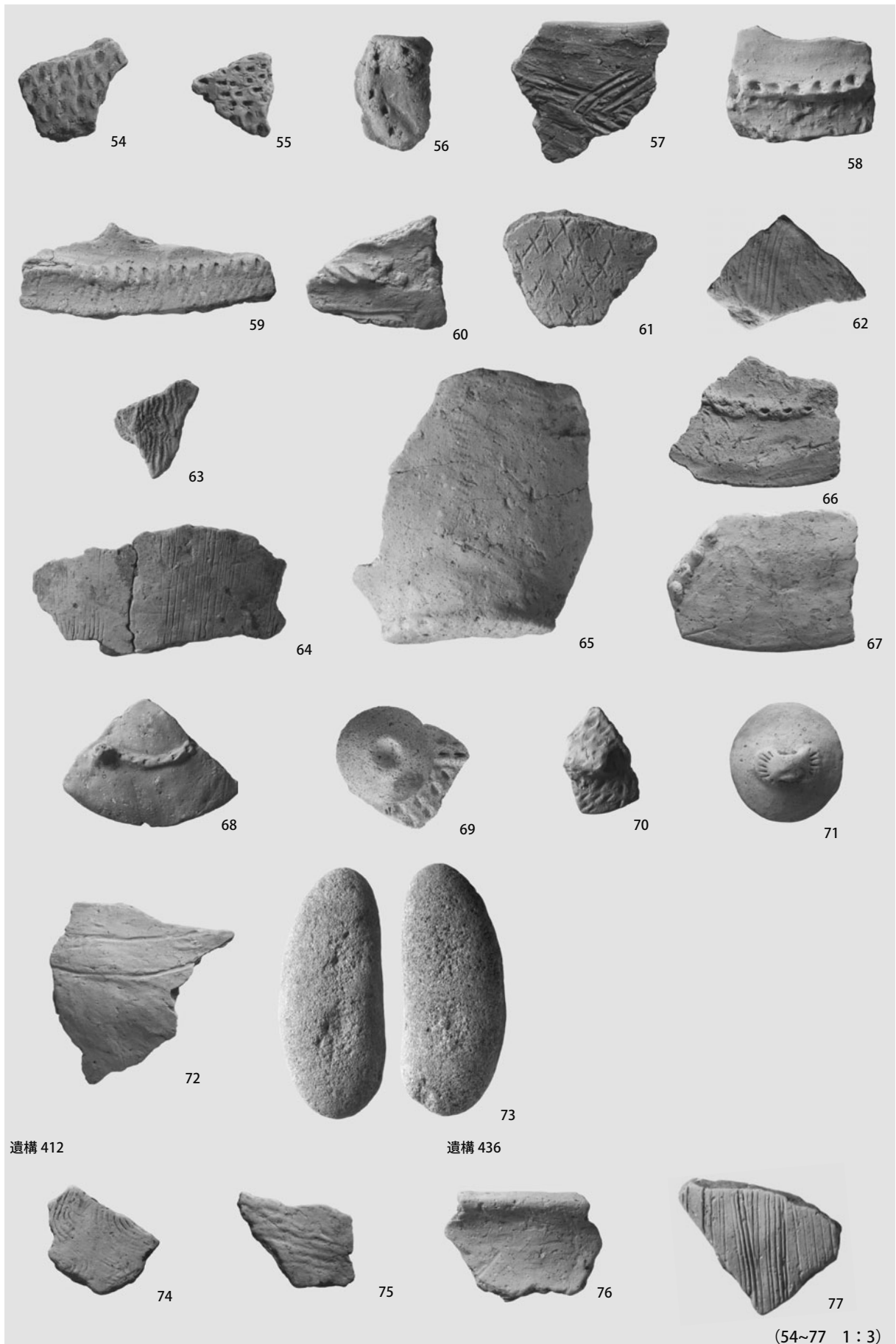
29



30

(1~30 1:3)





遺構 454



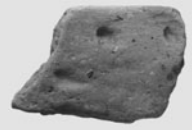
78



79



80



81

遺構 476



82

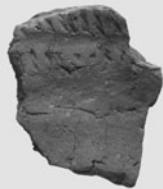


83



84

遺構 489



85

遺構 520



86

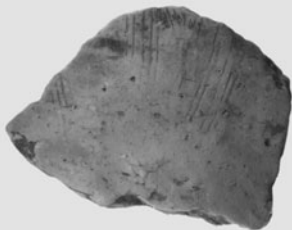


87



88

遺構 536



89

遺構 544



90

遺構 583



91



92

(78・88・89・91 1:4 ほか 1:3)

遺構 621

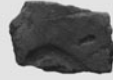
遺構 638



93



94



95



96



97



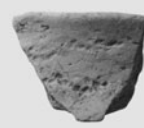
98



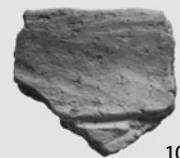
99



100



101



102



103



104



105



106



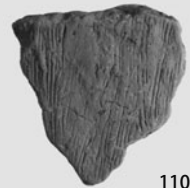
107



108



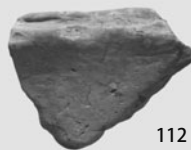
109



110



111



112



113

埋設土器

遺構 365



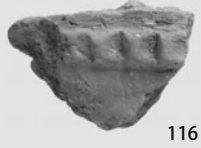
114

その他のピット

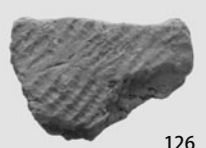
遺構 5



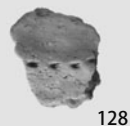
遺構 11



遺構 12



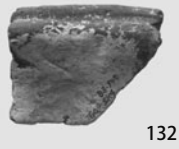
遺構 24



遺構 37



遺構 40



遺構 51



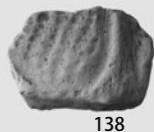
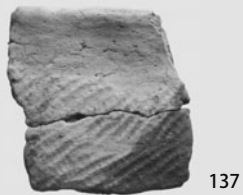
遺構 80



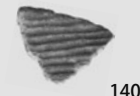
遺構 101



遺構 114



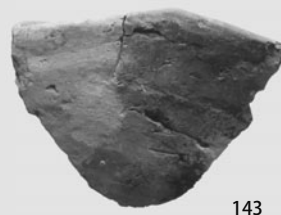
遺構 121



遺構 143

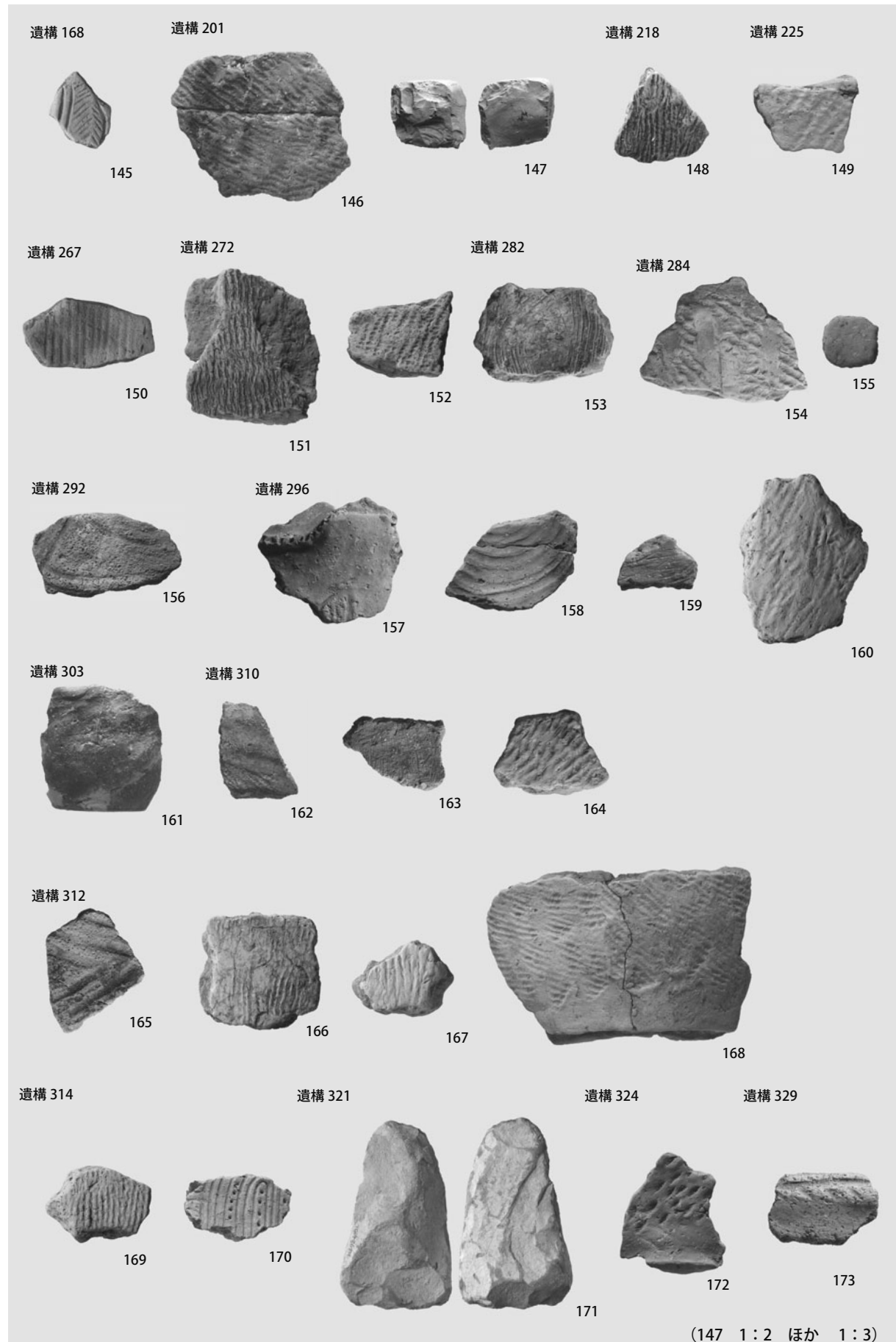


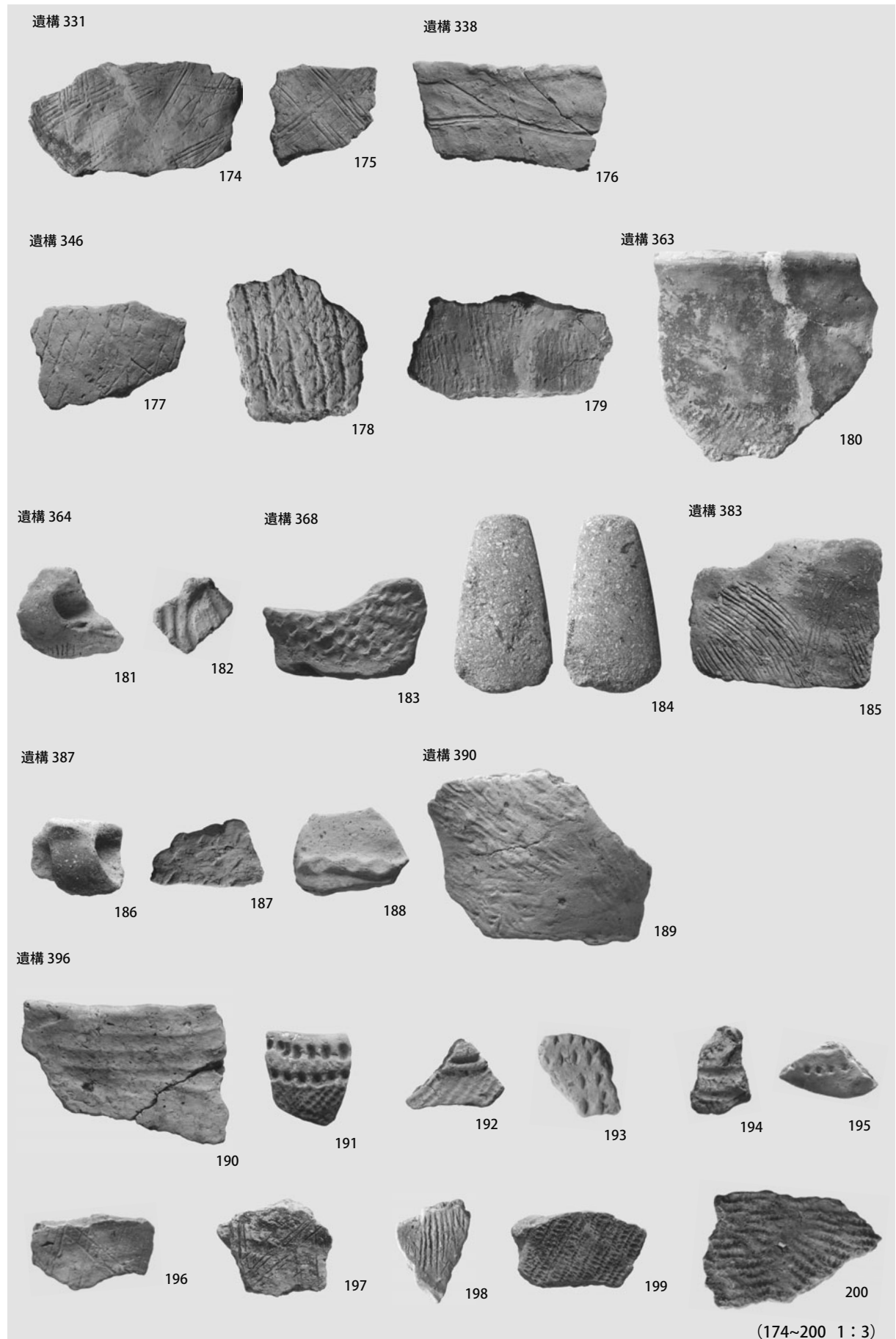
遺構 148



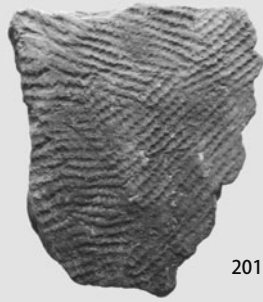
遺構 157







遺構 402



201

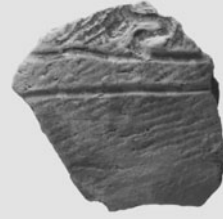
遺構 404



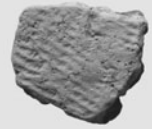
202



203



204



205

遺構 415



206

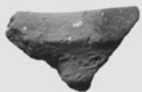


207



208

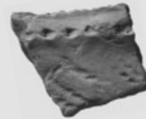
遺構 428



209



210



211



212



213

遺構 431



214



215

遺構 441



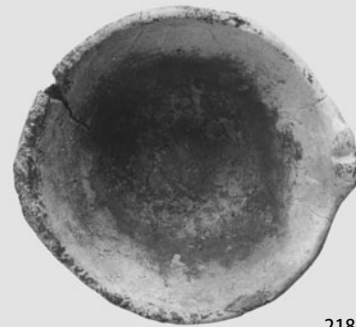
216



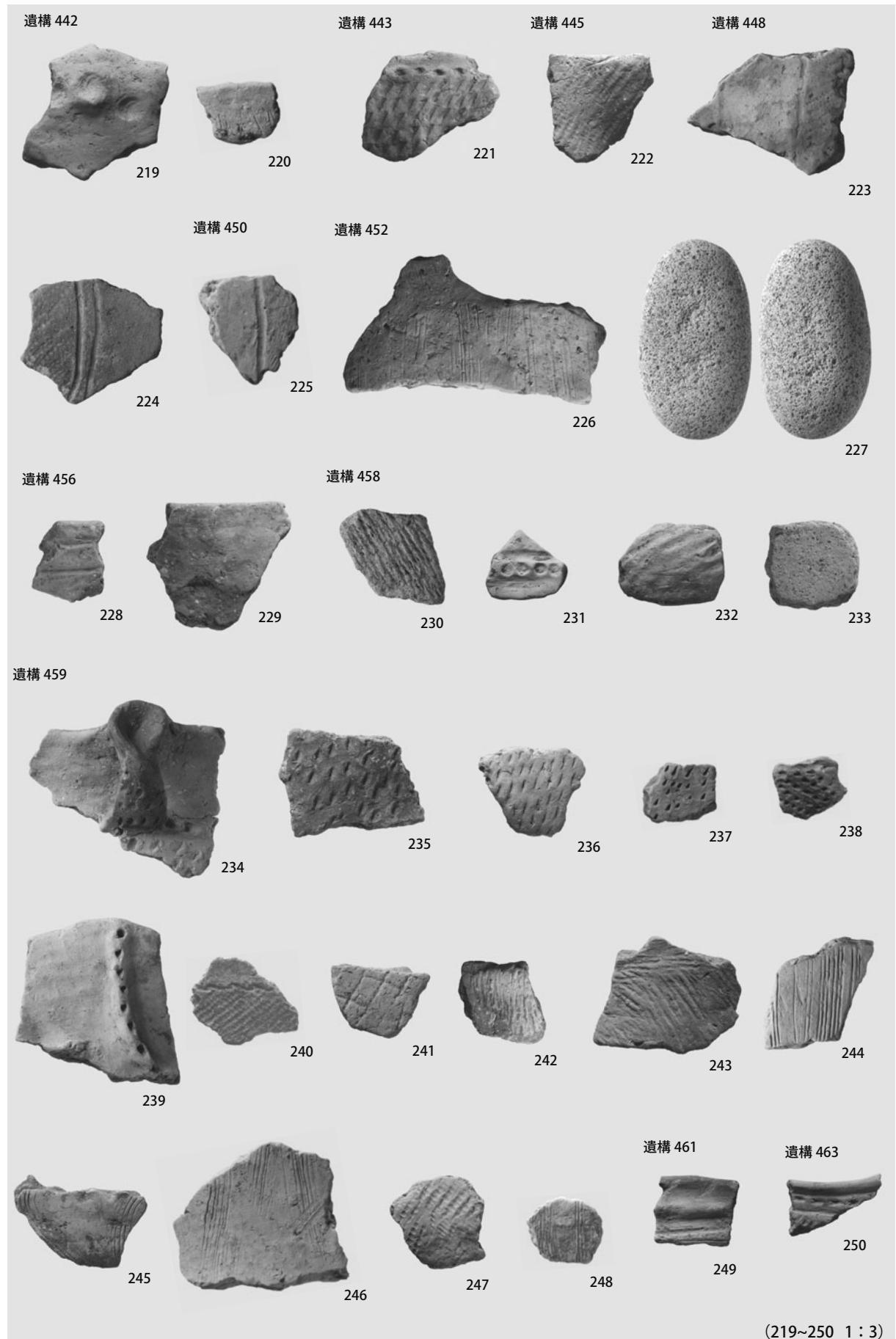
217

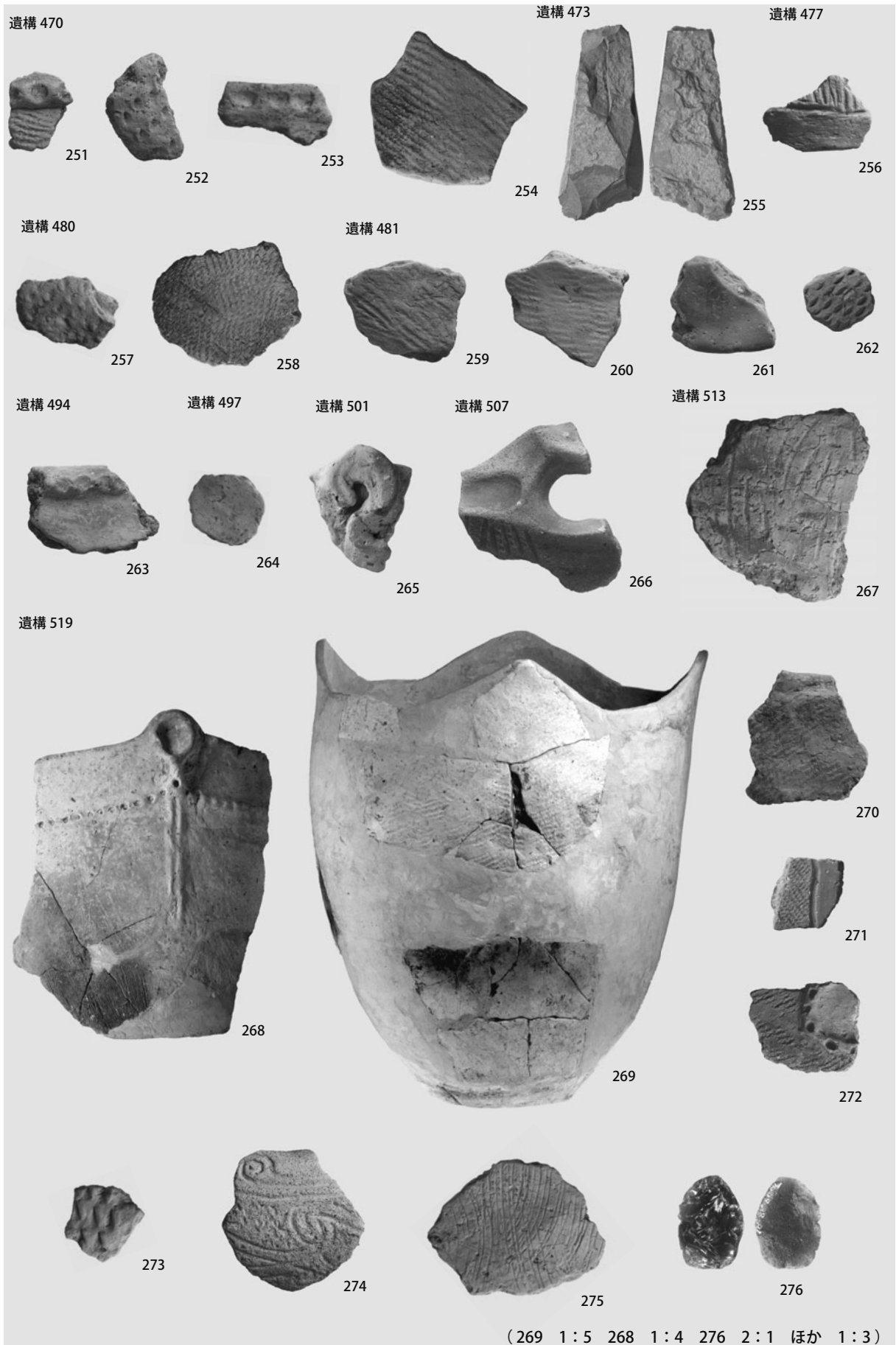


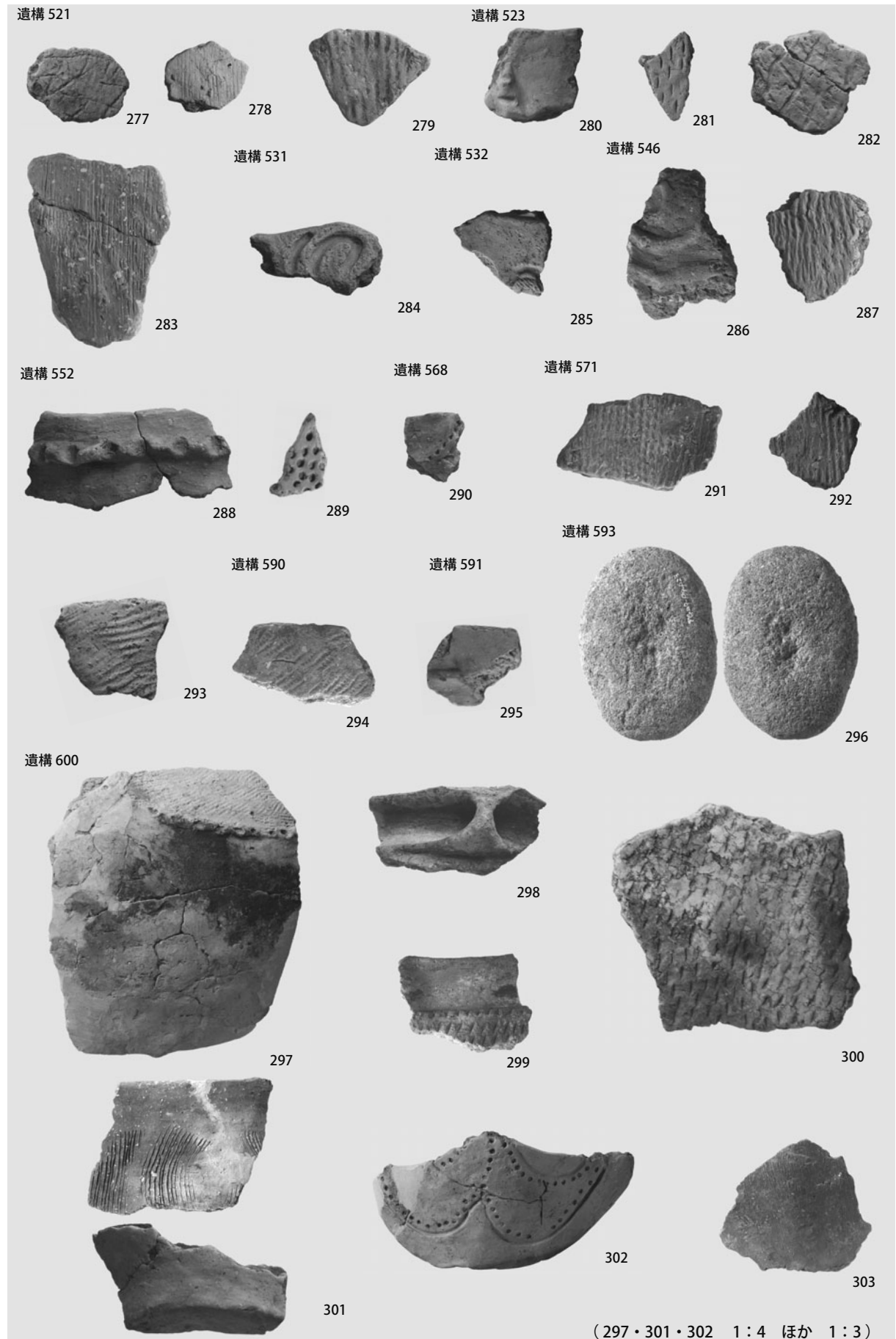
218

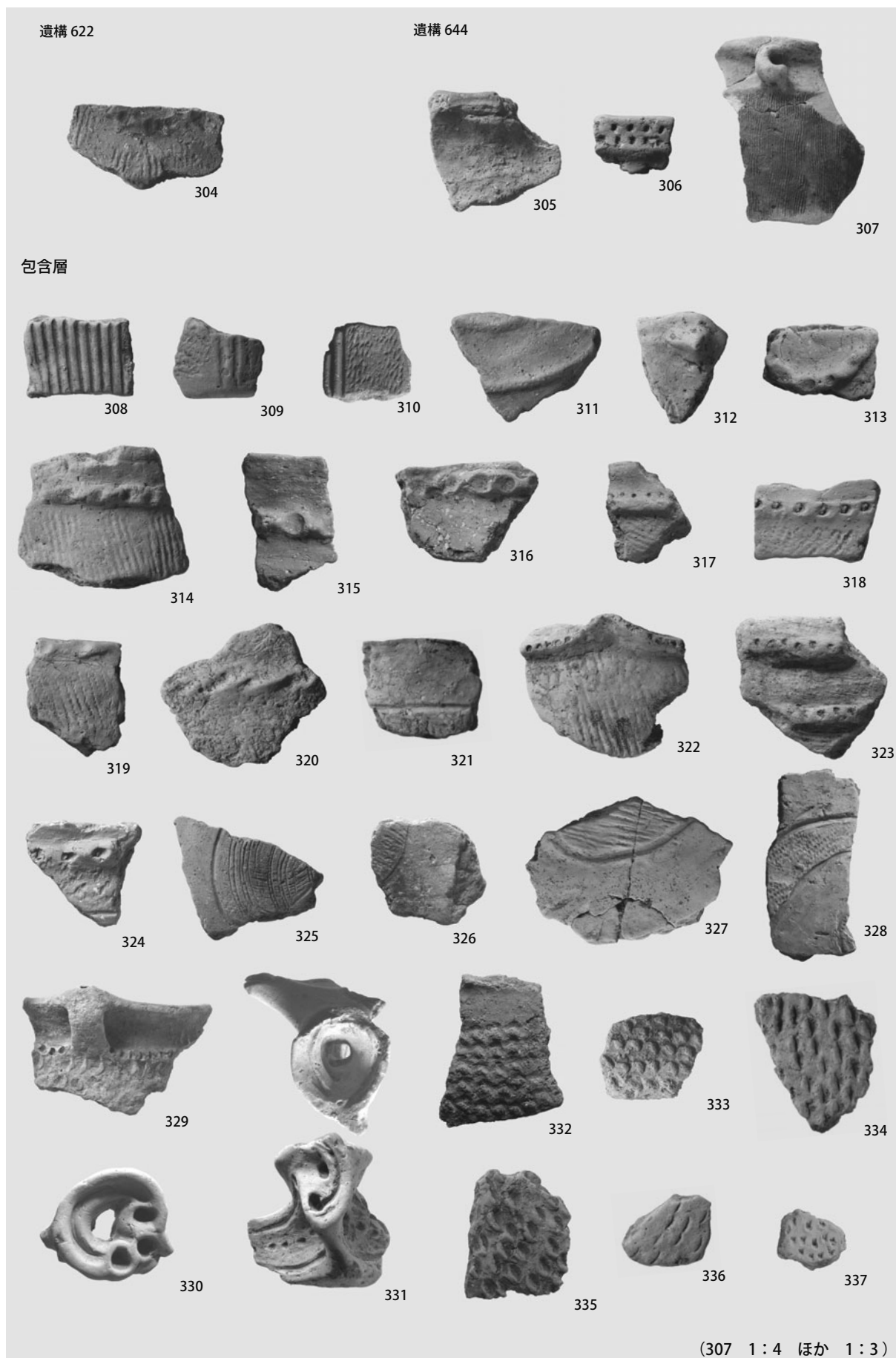


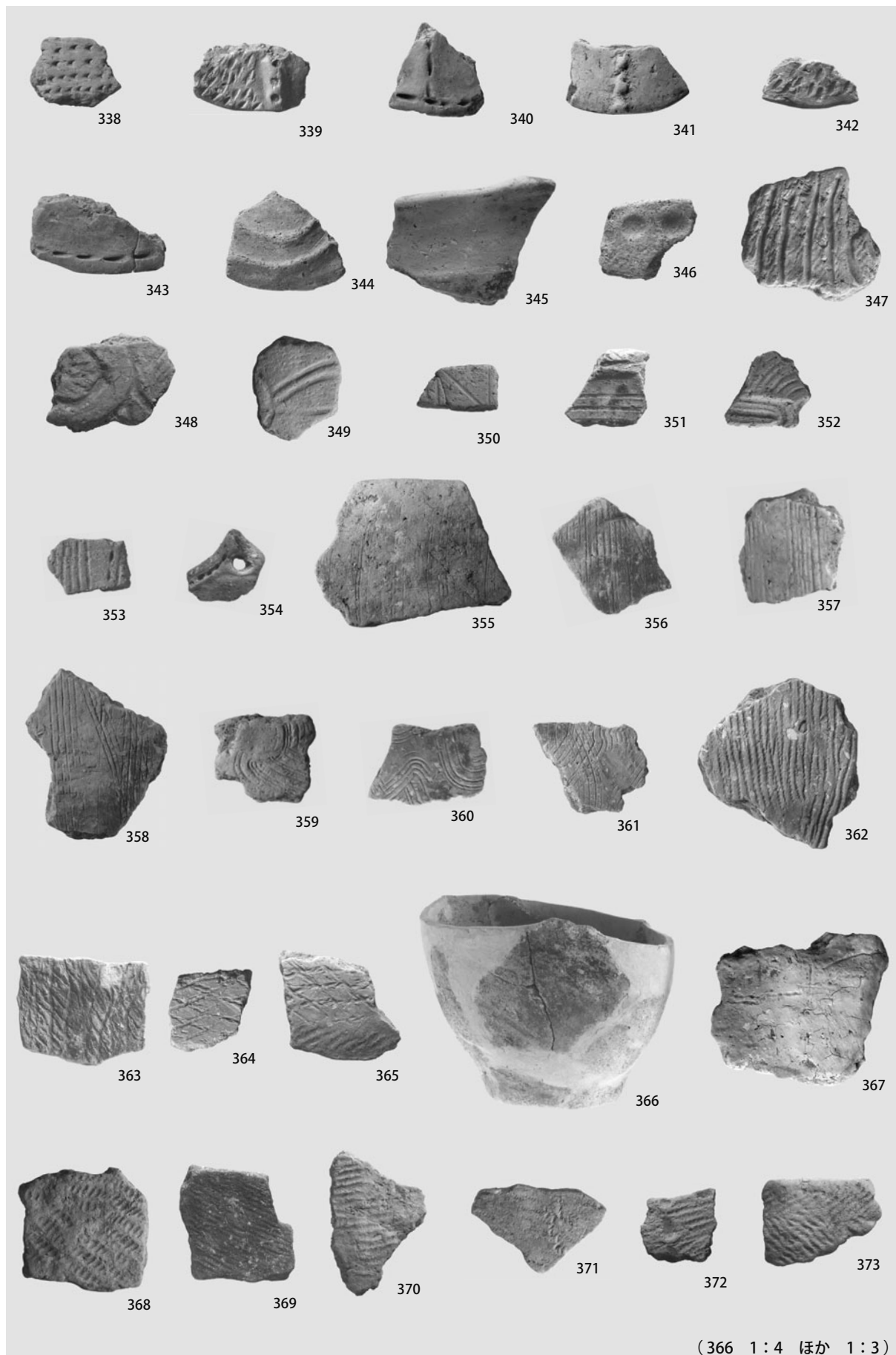
(217 1:4 ほか 1:3)



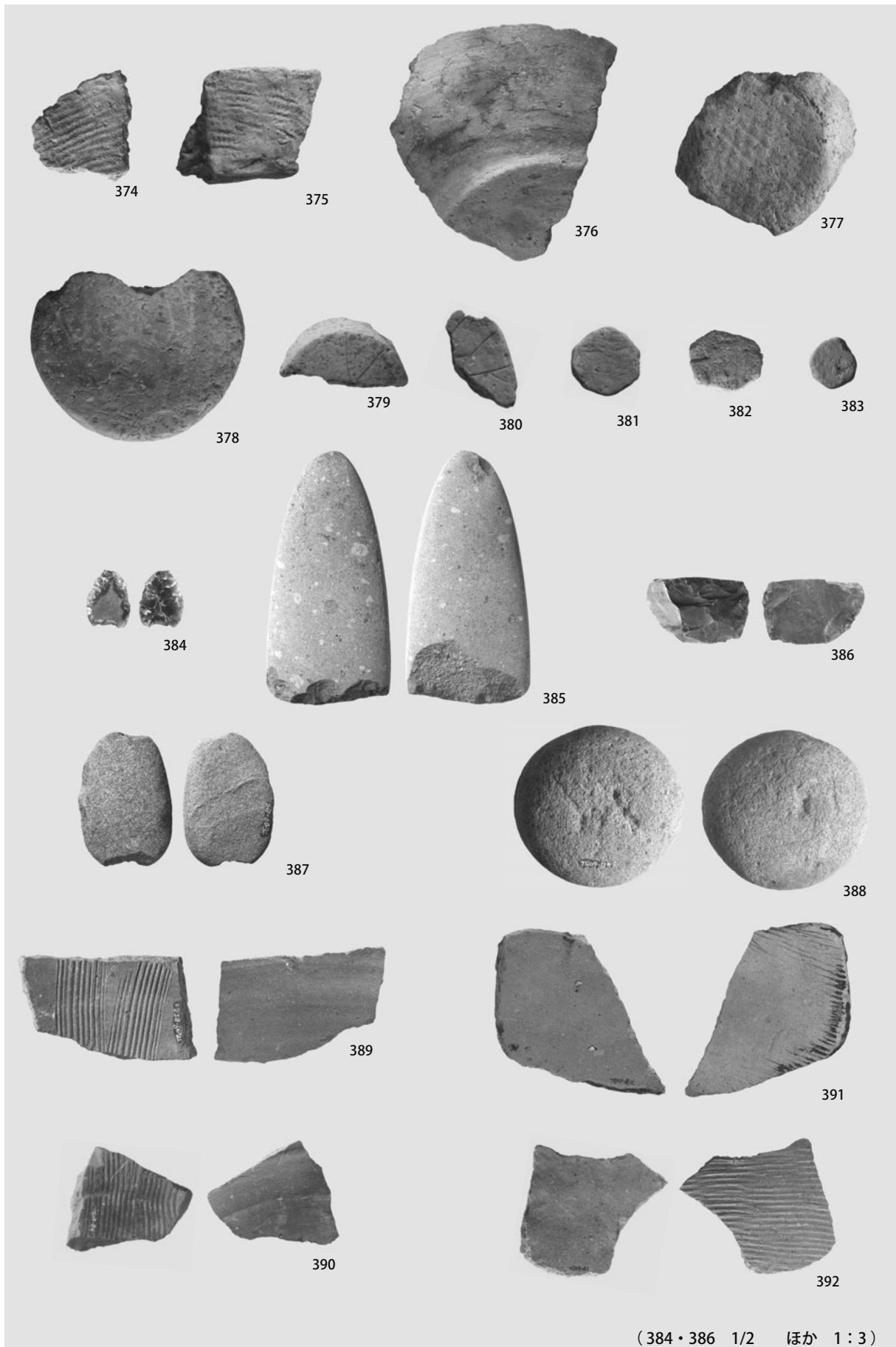








(366 1:4 ほか 1:3)



(384・386 1/2 ほか 1:3)

報告書抄録

ふりがな	たがやしきいせきよん							
書名	多賀屋敷遺跡Ⅳ							
副書名	市道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	新田康則（長岡市教育委員会）・石坂圭介（株式会社シン技術コンサル）							
編集機関	長岡市教育委員会							
所在地	〒940-0072 新潟県長岡市柳原町2番地1 TEL0258-32-0546							
発行年月日	2011年3月4日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
多賀屋敷遺跡	新潟県 長岡市 神谷字多賀屋敷 ばんち 2136番地2	15021	405	37° 23' 1"	138° 47' 37"	20091109 ～ 20100318	430 m ²	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時期		主な遺構		主な遺物		特記事項
多賀屋敷遺跡	集落跡	縄文時代中期中葉 ～後期前葉		掘立柱建物 跡・土坑・フラ スコ状土坑		縄文土器・石器・土製 品（土製円盤）・石製品		なし

多賀屋敷遺跡Ⅳ

市道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 23（2011）年 3 月 4 日 印刷

平成 23（2011）年 3 月 4 日 発行

発 行 新潟県長岡市教育委員会

印 刷 株式会社サンワプロセス